



e-Labe Designer

-PRO 形式-

操作マニュアル



2025年1月
第22版 (Ver.1.18用)

ご注意

- 1.本ソフトウェアの著作権は、株式会社サトーにあります。
- 2.本ソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 3.本ソフトウェアおよびマニュアルは、本製品のソフトウェア使用許諾のもとでのみ使用することができます。
- 4.本ソフトウェアおよびマニュアルを使用した結果の影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- 5.本ソフトウェアの仕様およびマニュアルに記載されている事柄は、将来予告なしに変更することがあります。

サトー、SATO ロゴ、FLEQV、e-Labe およびそのロゴは、サトーホールディングス株式会社の商標または登録商標です。

Microsoft、Windows は、米国 Microsoft Corporation の登録商標です。

その他、記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

例やサンプルで使用している名称は、すべて架空のものです。実在する商品名、団体名、個人名とは一切関係がありません。

Copyright© 2018-2025 株式会社サトー

目次

1.はじめに.....	8
1.e-Labe について.....	9
2.STD 形式と PRO 形式について.....	10
2.セットアップ.....	13
1.動作環境.....	14
2.e-Labe Designer セットアップ手順.....	15
1.インストール手順	15
2.アンインストール手順.....	19
3.e-Labe Print セットアップ手順.....	20
1.インストール手順	20
3.基本事項.....	24
1.用語.....	25
2.基本操作.....	26
1.各種ボタンの表示について	26
2.マウスカーソルについて	27
3.画面構成について	28
4.ツールバー	31
5.デザインウィンドウ	32
6.入力画面設定	34
7.オブジェクトバー	36
8.プロジェクトウィンドウ.....	37
9.座標単位.....	41
10.プリンタフォント単位.....	41
4.基本設定.....	42
1.管理者パスワードの確認.....	43
2.プロジェクト選択.....	44
3.プロジェクト種類.....	45

4.用紙設定.....	46
1.詳細設定.....	48
2.用紙設定用語解説.....	50
5.税率・値引率設定（レイアウトデフォルト設定）.....	51
6.共通税率設定（プロジェクト設定）.....	52
5.呼出しテーブル解説.....	53
1.呼出しテーブルとは.....	54
2.呼出しテーブル定義.....	55
3.呼出しテーブル登録.....	58
■呼出しテーブルデータ登録手順.....	62
■呼出しテーブルデータインポート手順（定義に従ってデータをインポートする手順）.....	65
■呼出しテーブルデータの検索/置換手順.....	68
6.データウィンドウ解説.....	72
1.ファイルプロパティ.....	73
1.プロジェクト.....	73
2.レイアウト.....	75
3.テーブル.....	78
4.外字.....	79
5.内部フォルダ.....	80
2.オブジェクトプロパティ.....	82
1.文字列オブジェクト.....	82
2.価格オブジェクト.....	92
3.バーコードオブジェクト.....	98
4.日時オブジェクト.....	108
5.連番オブジェクト.....	116
6.固定グラフィックオブジェクト.....	126
7.切替グラフィックオブジェクト.....	129
8.罫線オブジェクト.....	134
9.枠線オブジェクト.....	136
10.表オブジェクト.....	138
7.特別な操作.....	141

1.テーブル機能.....	142
■テーブルデータ登録手順.....	147
■テーブルインポート手順.....	150
■漢字/グラフィック/店名テーブル追加、削除手順.....	152
■店名テーブルの登録番号桁数定義.....	155
2.外字登録.....	156
■外字登録手順.....	156
3.ダンプ出力.....	157
■呼び出しテーブルの全てのレコードを出力する場合.....	157
■任意のレコードを複数出力する場合.....	159
■ダンプ出力時の注意点.....	160
4.データ出力.....	161
5.発行履歴データ設定.....	173
6.オブジェクト種変換.....	176
7.バーコードウィザード.....	177
8.グリッド設定.....	183
9.ツール設定.....	184
■税率設定タブ.....	184
■プリンタタブ.....	185
■オプションタブ.....	186
■FTP サーバータブ.....	189
■SATO App Storage タブ.....	190
■プロファイル設定タブ.....	193
10.オブジェクトのグルーピング機能.....	208
■グルーピング手順.....	208
11.フォント一括変更.....	211
■フォント一括変更手順.....	211
12.データ出力オプション.....	212
■データ出力オプション機能設定手順.....	212
13.機能オプション.....	214
■加算日1日を当日に含めるオプション設定手順.....	214
■グループ階層設定手順.....	216
■複数レイアウト設定手順.....	218

■ 複数レイアウトで最後に選択したレイアウト情報を保存する設定手順	221
■ バーコード検索モード設定手順	223
■ 複数キーワードで検索機能設定手順	228
14.リアルタイム発行一括変更	231
15.価格計算の設定方法	232
■ 本体価格から税込価格を求める	232
■ 本体価格から税込価格(小数点以下 2 桁表示)を求める	235
■ 税込価格から本体価格(税抜価格)を求める	239
■ 端数処理の計算方法	242
16.税率の設定/変更方法	244
■ [新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定]	245
■ [既存レイアウトの税率変更]	254
17.用紙回転機能	260
■ 用紙回転手順	260
■ 用紙回転時の表示	261
18.食品大目付そうけんくん連携機能	262
■ 食品大目付そうけんくん連携設定手順	262
19.テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能	264
■ 呼出しテーブルファイル	265
■ 漢字テーブル 1~10、111~199	268
■ 店名テーブル	269
■ グラフィックテーブル	270
■ グラフィックテーブル用ビットマップファイル	271
20.グループの設定方法	272
■ グループ設定手順	272
■ グループ情報の表示	274
■ グループ名の編集	275
■ グループの削除	276
■ グループの表示順変更	277
21.データ配信オプション機能	278
■ 配信開始日/終了日設定手順	278
■ 配信先指定手順	280
■ 配信可否指定手順	282

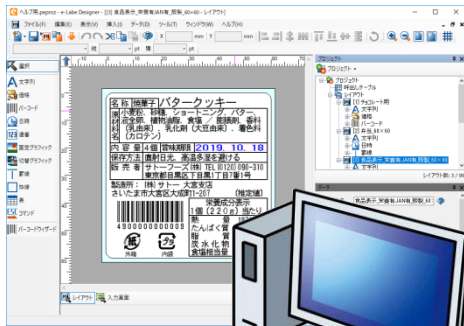
22.日時加算値の上限／下限チェック機能の設定方法.....	284
■日時オブジェクトに固定の上限値／下限値を設定する手順.....	284
■呼出しデータで上限値／下限値を設定する手順.....	286
23.基準日付の上限／下限チェック機能の設定方法.....	289
■固定の上限値／下限値を設定する手順.....	289
■呼出しデータで上限値／下限値を設定する手順.....	293
24.条件テーブルを使った条件印字の設定方法.....	296
■条件テーブル 画面項目説明.....	297
■条件テーブルを設定する手順.....	300
25.発行画面にメディア（画像、動画など）を表示する設定方法.....	304
■プロジェクトに登録したメディアファイル（画像）を発行画面に表示する手順.....	305
■FX3の所定フォルダにメディアファイル（画像）をセットし発行画面に表示する手順.....	309
26.サンプルデータ取込機能.....	312
■サンプルデータをデザインに取り込む手順.....	312
27.プリンタ機種の変更方法.....	314
■プリンタ機種の変更手順.....	314
28.最大値／最小値を参照する方法.....	317
■数値を比較し最大値／最小値を参照する手順.....	318
■日時を比較し最大値／最小値を参照する手順.....	321
■日時比較で指定可能な日時書式.....	324
29.複数枚貼りレイアウトを作成する方法.....	325
■複数枚貼りレイアウトについて.....	325
■複数枚貼りレイアウトの作成手順.....	325
30.ヘッダラベル、テールラベルを印字する方法.....	331
■ヘッダラベル、テールラベルについて.....	331
■ヘッダ／テールラベルの設定手順.....	331
31.発行枚数をプリセットする方法.....	337
■発行枚数のセットについて.....	337
■呼出しテーブルで商品ごとに発行枚数をセットする手順.....	337
■文字列の値を参照し、発行枚数にセットする手順.....	341
32.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法.....	343
■上限値／下限値を設定する手順.....	343
8.付録.....	345

1.練習マニュアル	346
1.基本的なレイアウトの作成	346
2.フォーマットファイルを USB ケーブル経由で FX3-LX にコピー	365
3.複雑なレイアウトの作成	367
4.呼出しテーブルの設定	377
5.日付入りのレイアウト作成手順	383
6.バーコード検索機能の設定手順	387
2.エラーメッセージ	391

1.はじめに

1.e-Labe について

e-Labe は、コンピュータでプリセットデータを作成するラベルデザイン作成ツール e-Labe Designer と、FX3-LX に登録されたプリセットデータを読み出すプリセット発行アプリケーション e-Labe Print の 2 つで構成されています。



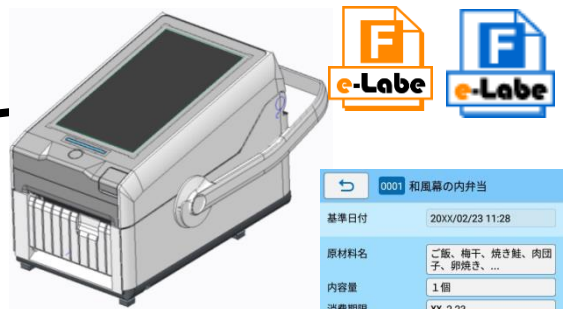
プロジェクトファイル（「P」マーク）
レイアウトデータを管理するためのファイルです。

e-Labe Designer

e-Labe Print

フォーマットファイル（「F」マーク）
レイアウト情報をアーカイブしたファイルです。

FX3-LX の「内部共有ストレージ」 >
「SATO」 > 「FormatFiles」フォルダに
コピーして読み込みます。

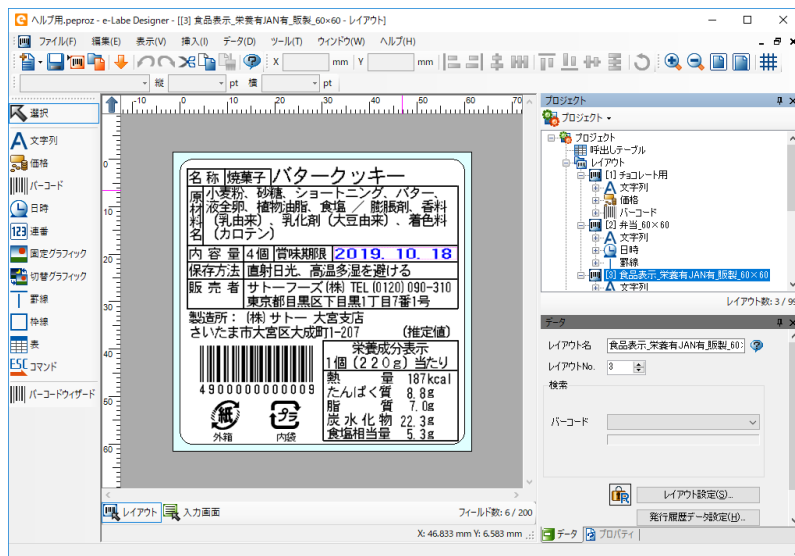


0001 和風福の内弁当	
基準日付	20XX/02/23 11:28
原材料名	ご飯、梅干、焼き鮭、肉団子、卵焼き、...
内容量	1個
消費期限	XX 2.23
保存方法	直射日光・高温多湿を避け保存
バーコード	0000000000000
※	サトーマーク/印

1	2	3	BS
4	5	6	C
7	8	9	0

1 発行

e-Labe Designer





Windows コンピュータにインストールして使用します。コンピュータで印字イメージを確認できるので、ラベルデザインを簡単に作成、編集することができます。作成したラベルデータを SATO App Storage などのサーバ経由や USB 経由で e-Labe Print に登録（プリセット）します。

2.STD 形式と PRO 形式について

e-Labe Designer(Ver.1.3.0.0 以上)では、2つの形式から選択して作成可能です。データの管理方法や利用可能な機能が異なります。

<主な機能の違い>

項目	PRO(プロ)形式	STD(スタンダード)形式
アイコン色	青 	オレンジ 
プリセットデータ最大件数	9,999 件	5,000 件
発行端末でのマスタ編集	○	×
上位システムとのマスタ連携	○	×
「食品大目付そうけんくん」連携	○	×
発行時のレイアウト切り替え	○	×
Windows フォントの使用※	△ (固定文字のみ)	○

※どちらの形式も発行時入力項目には使用できません

・PRO形式：呼出しテーブルプロジェクト

「呼出しテーブル」に商品マスタやレイアウトの組み合わせを登録します。

データサイズは比較的小さくなります。



呼出しテーブル

呼出しNo.	呼出し名	レイアウトNo.	名称	原材料	内容量	賞味期限
0001	バタークッキー	[1]焼菓子レイアウト	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニング	4枚	14
0002	アーモンドクッキー	[1]焼菓子レイアウト	焼菓子	小麦粉、砂糖、ローストアーモンド	4枚	14
0003	チョコクッキー	[1]焼菓子レイアウト	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニング	4枚	14
1001	生チョコレート	[2]生洋菓子レイアウト	洋生菓子	生クリーム、砂糖、全粉乳、ココアパウダー	50	
1002	生チョコ抹茶	[2]生洋菓子レイアウト	洋生菓子	ココアパウダー、砂糖、生クリーム	50	
1003	生チョコ苺	[2]生洋菓子レイアウト	洋生菓子	ココアパウダー、砂糖、生クリーム	50	

[1]焼菓子レイアウト

[2]生洋菓子レイアウト

・STD形式：基本レイアウト／発行レイアウト用プロジェクト

アイテム数分の「発行レイアウト」を作成します。「基本レイアウト」を使用すれば、発行レイアウトを一括生成できます。PRO形式と比べるとデータサイズは大きくなります

発行レイアウト

呼出し No.1

バタークッキー

呼出し No.2

アーモンドクッキー

呼出し No.3

チョコクッキー

基本レイアウト



一括生成



プリセットデータ

呼出しNo.	呼出し名	名称	原材料	内容量	賞味期限
0001	バタークッキー	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニング	4枚	14
0002	アーモンドクッキー	焼菓子	小麦粉、砂糖、ローストアーモンド	4枚	14
0003	チョコクッキー	焼菓子	小麦粉、砂糖、ショートニング	4枚	14

※基本/発行レイアウトプロジェクトの詳細な説明については、「e-Labe 操作マニュアル-STD 形式-」
をご覧ください

e-Labe Print

The screenshot shows the e-Labe Print application interface. At the top, there is a blue header with a back arrow and the text "0001 和風幕の内弁当". Below this, there are several input fields for product information: "基準日付" (20XX/02/23 11:28), "原材料名" (ご飯、梅干、焼き鮭、肉団子、卵焼き、...), "内容量" (1個), "消費期限" (XX.2.23), "保存方法" (直射日光・高温多湿を避け保存), "バーコード" (0000000000000), and "社名" (サトーフーズ(株)). Below the input fields are two buttons: an upward arrow (^) and a downward arrow (v). At the bottom, there is a numeric keypad with buttons for 1, 2, 3, BS, 4, 5, 6, C, 7, 8, 9, 0. In the bottom left corner, there is a small box containing the number "1" and the character "枚". In the bottom right corner, there is an orange button with a printer icon and the text "発行".

FX3-LX にインストールして使用します。e-Labe Designer で登録されたデータを e-Labe Print で呼び出し、必要に応じて編集して発行します。呼び出し方法は 5 種類の中からお選びください。

2.セツトアツプ

1.動作環境

e-Labe Designer は、以下の機器やソフトウェア環境で動作可能です。当条件でご利用ください。

項目	動作環境	備考
OS	Windows 11 (64 ビット版) Windows 10 (32 ビット版/64 ビット版)	64 ビット版の OS では、 WOW64 (Windows On Windows 64) の環境で動作 します。
CPU	2GHz 以上 (デュアルコア以上推奨)	
メモリ	1024MB 以上の RAM	
ハードディスク	1GB 以上の空きスペース	.NET Framework インストー ル済みの場合は 20MB
画面解像度	XGA (1024×768) 以上 SXGA (1280×1024) 以上推奨	
外部ストレージ	SATO App Storage	TLS1.2 対応
その他	Adobe Reader 10.1.4 以上	ヘルプファイル表示

2.e-Labe Designer セットアップ手順

1.インストール手順

インストール時は、Administrator 権限でログインしてください。

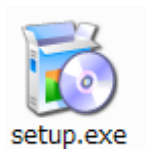
e-Labe Designer の入手については、弊社ホームページのダウンロードサイトからダウンロードいただくか、販売店、またはディーラーにお問い合わせください。

[弊社ホームページダウンロードサイト]

https://www.sato.co.jp/support/printer/fx3-lx/#anc_04

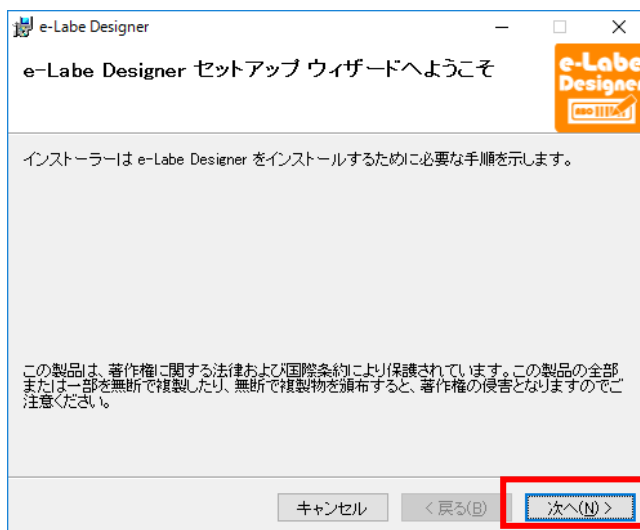
古いバージョンがインストールされている場合も、新しいバージョンを上書きインストールが可能です。

1.e-Labe Designer の setup.exe をダブルクリックして、インストーラを起動します。



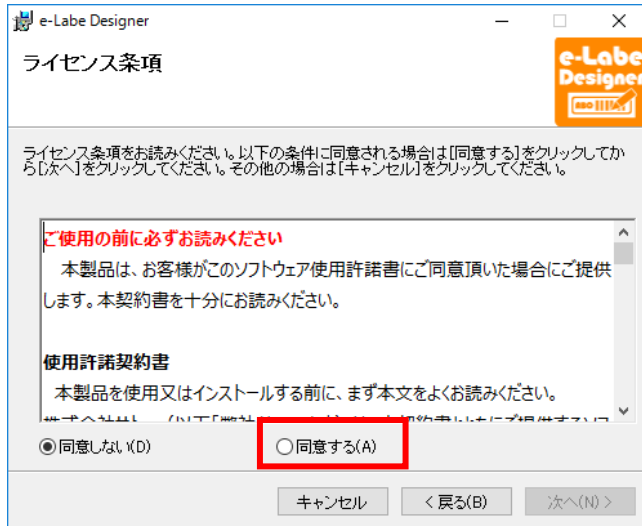
Microsoft .NET Framework 4.5 がインストールされていない場合、自動で Microsoft のインストーラが起動します。画面指示にしたがってインストールを行ってください

2.「次へ」をクリックします。



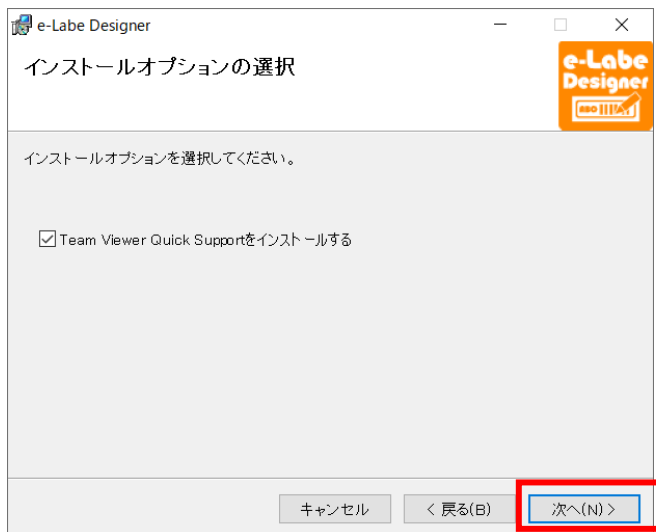
3.「使用許諾契約書」の内容を確認し、「同意する」を選び、「次へ」をクリックします。

使用許諾契約書はソフトウェアの利用について重要な情報を記載しています。必ずご確認ください。



4. インストールオプションの内容を確認し、「次へ」をクリックします。

リモート操作によるサポートが不要の場合は「Team Viewer Quick Support をインストールする」のチェックを外してください。

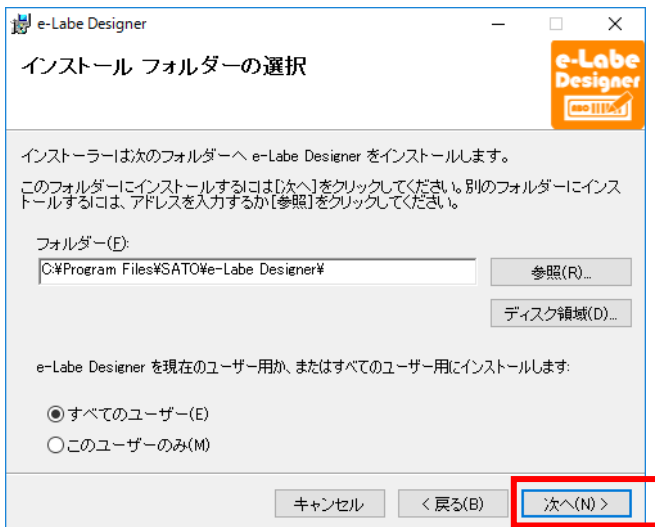


5. インストール先のフォルダを確認し、「次へ」をクリックします。

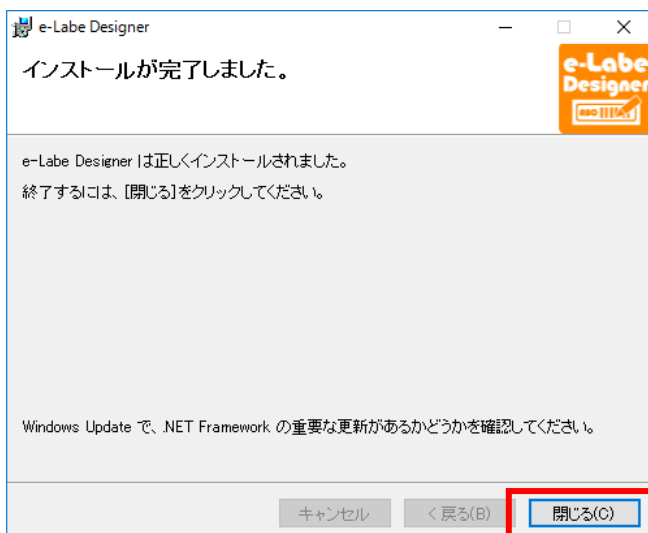
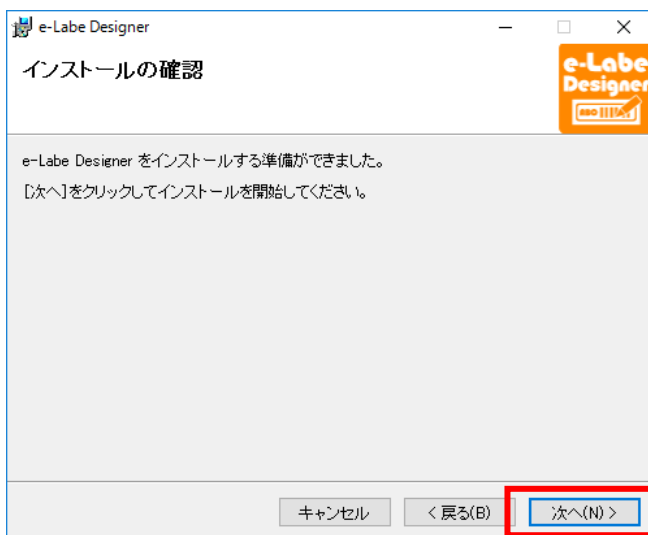
インストールフォルダを変更する場合は「参照」をクリックして、インストール先のフォルダを設定します。

適用するユーザを限定する場合は、「このユーザーのみ」を選択します。

「ユーザーアカウント制御」が表示されたら、「許可」または「はい」を選択してください。



6. ウィザードにしたがって操作を進めます。インストール完了の画面が表示されたら、「閉じる」をクリックして、インストールを終了してください。

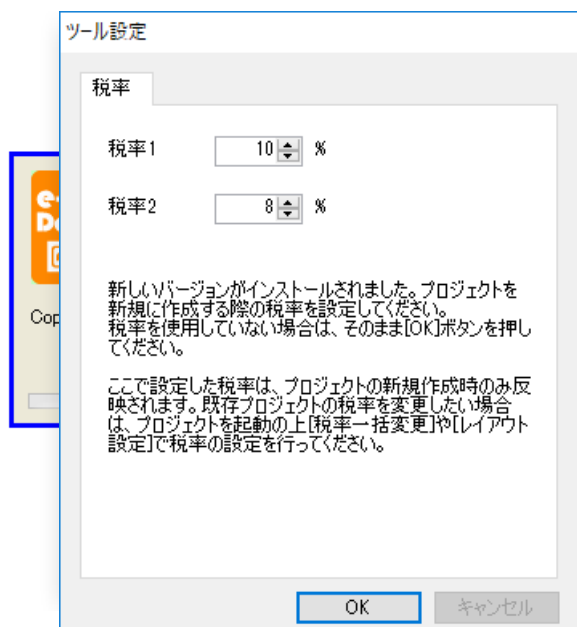


以上で e-Labe Designer のインストールは完了です。デスクトップにプログラムアイコンが表示されます。



インストール後初回起動時の税率設定

インストール後初めて e-Labe Designer または e-Labe Designer で作成したプロジェクトファイルを起動する際は、ツールの税率設定画面が表示されますので、税率を確認し、変更がある場合は値を入力し OK してください。



【注意】

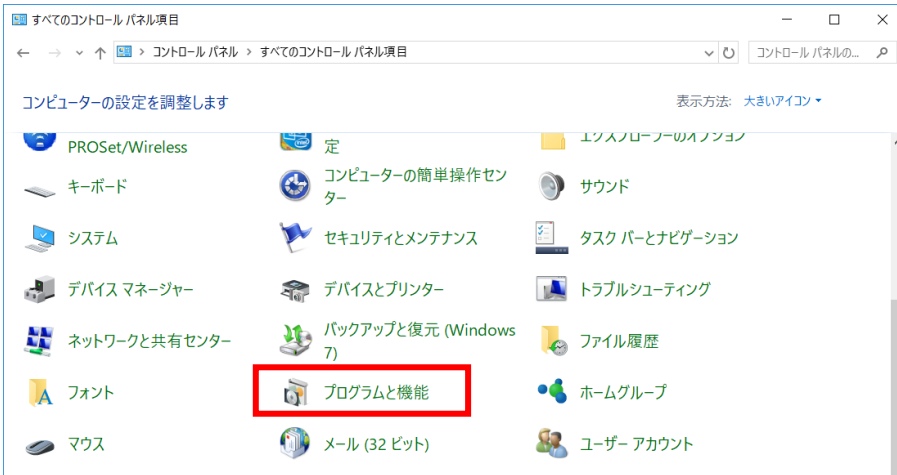
この画面で設定する税率は、**新規にプロジェクトを作成する際に適用される税率**です。

既存のプロジェクト内の税率を変更する為には、別途「税率一括変更」等を行ってください。

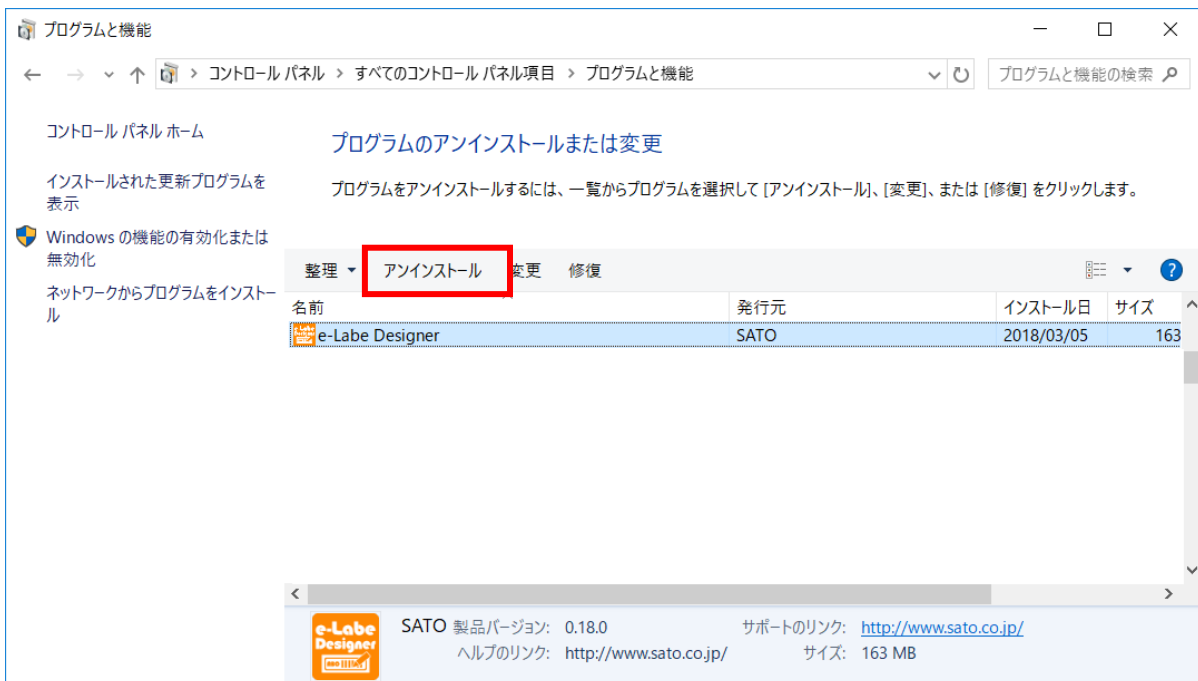
詳細は、本マニュアルの「7.特別な操作」>「16.税率の設定／変更方法」をご確認ください。

2. アンインストール手順

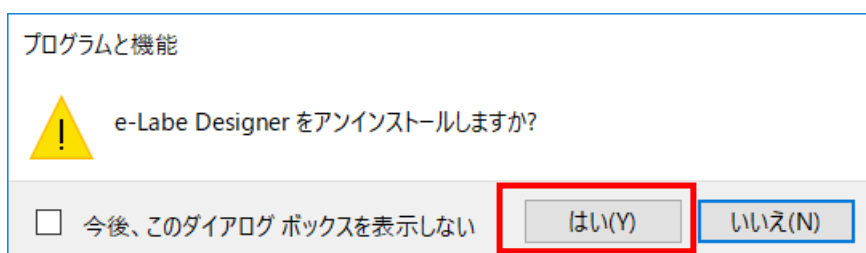
1. 「コントロールパネル」を開きます。
2. 「プログラムと機能」をクリックします。



3. インストールされているプログラム一覧から、e-Labe Designer を選択し、「アンインストール」をクリックします。



4. 確認メッセージが表示されますので、「はい」をクリックします。



3.e-Labe Print セットアップ手順

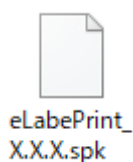
1.インストール手順

e-Labe Print インストールファイル (eLabePrint_X.X.X.spk) の入手については、弊社ホームページのダウンロードサイトからダウンロードいただくか、販売店、またはディーラーにお問い合わせください。

[弊社ホームページダウンロードサイト]

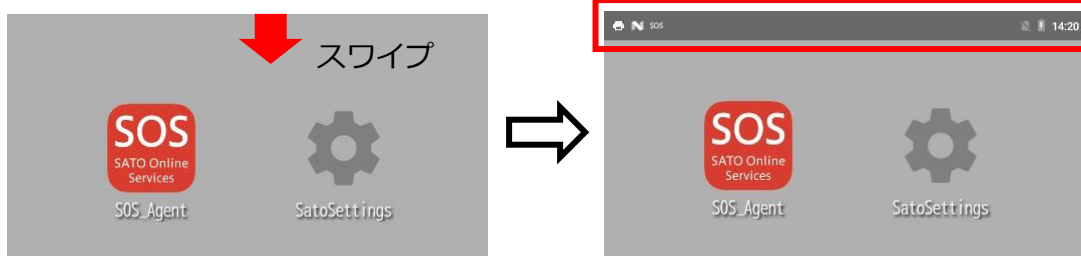
https://www.sato.co.jp/support/printer/fx3-lx/#anc_04

1. e-Labe Print の eLabePrint_X.X.X.spk をパソコンにダウンロードします。



2. コンピュータと FX3-LX を USB インタフェースで接続します。
3. FX3-LX のホーム画面上部を下にスワイプします。

ステータスバーが表示されます。



4. ホーム画面上部をもう一度スワイプします。

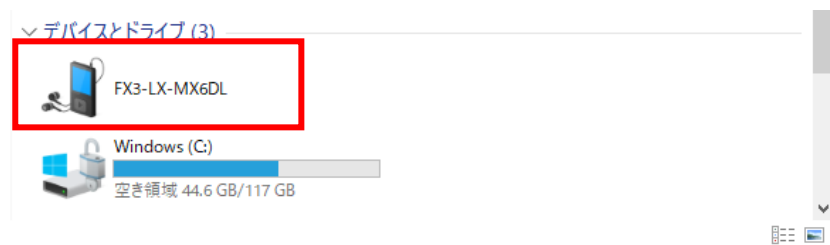
クイック設定パネルが表示されます。



5. 「USB をファイル転送に使用」が表示されていることを確認します。

6. コンピュータのエクスプローラから「PC」を開き、「デバイスとドライブ」>「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックします。

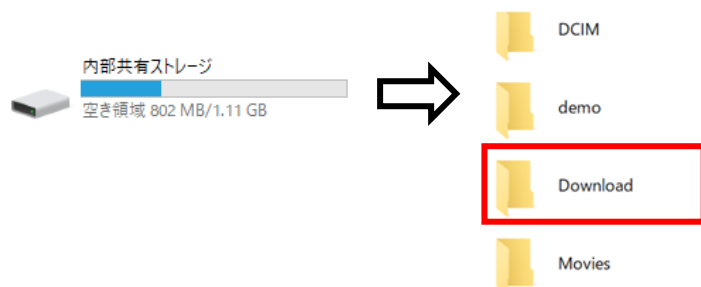
Windows 10 を例にしています。OS によってはメニュー名が異なる場合があります。



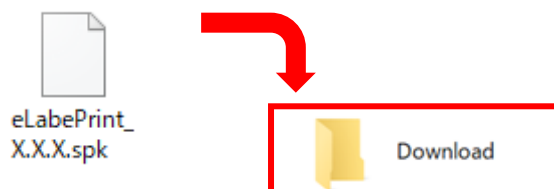
注意

- ・ 初めて FX3-LX をコンピュータと接続すると、自動的にドライバのインストールがおこなわれます。このため、アイコンが表示されるまで時間がかかる場合があります。
- ・ 「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックしても中身が表示されない場合は、手順 2 からやり直してください。

7. 「内部共有ストレージ」>「Download」フォルダを選びます。



8. インストールファイルを「Download」フォルダにコピーします。



9. FX3-LX のホーム画面の「アップデート」アイコンをタップします。




10. 「eLabePrint_X.X.X.spk」にチェックを付け、「インストール」をタップします。



11. インストール画面が表示されたら、「インストール」をタップします。



12. 完了画面が出たら、「完了」をタップし、FX3-LXの「」ボタンを押してホーム画面に戻ります。



以上で、e-Labe Print のインストールは完了です。
ホーム画面にプログラムアイコンが表示されます。



3.基本事項

1.用語

操作マニュアル内で使用される用語について説明します。

・プロジェクト

e-Labe Designer で作成したデータの管理単位を意味します。

作成したデータは、通常プロジェクトファイル（拡張子“.peproz”）として保存されます。また、オプションでファイルをアーカイブ（圧縮）せずに保存する方法があります。その場合は、プロジェクトファイル（拡張子“.peproj”）と同名のフォルダ（フォルダ拡張子“.files”）で構成されます。

この方法で保存した場合、ファイルの移動や、バックアップの際にはこの2つをセットで操作してください。アーカイブしていないプロジェクトファイル、フォルダの名称を変更すると、作成したデータが参照できなくなります。

・フォーマットファイル

e-Labe Designer から出力した e-Labe Print 用のファイル（拡張子“.pefmtz”）です。

・オブジェクト

ラベル上に貼り付けられる、文字、バーコード等の項目を意味します。

一つのレイアウト上に最大 200 個のオブジェクトを貼り付けることが可能です。

参照結合など複雑な操作を行った場合などには、200 個のオブジェクトを貼り付けられないこともあります。

・呼出しテーブルデータ

e-Labe Print でラベルを印刷するためのデータです。

この呼出しテーブルデータと作成したレイアウトを合わせて印刷データとなります。

CSV 形式のテキストデータのため、ツールでデータを編集する以外に上位システムなどから直接データを生成して運用することが可能です。

一つのプロジェクトで最大 9999 件の呼出しテーブルデータの登録が可能です。

・呼出し No.

e-Labe Print でラベルデータを呼出すための番号です。1 から 9999 までの番号を設定できます。

・レイアウト

呼出しテーブルデータと組み合わせて e-Labe Print で発行するためのデザインデータです。

2.基本操作

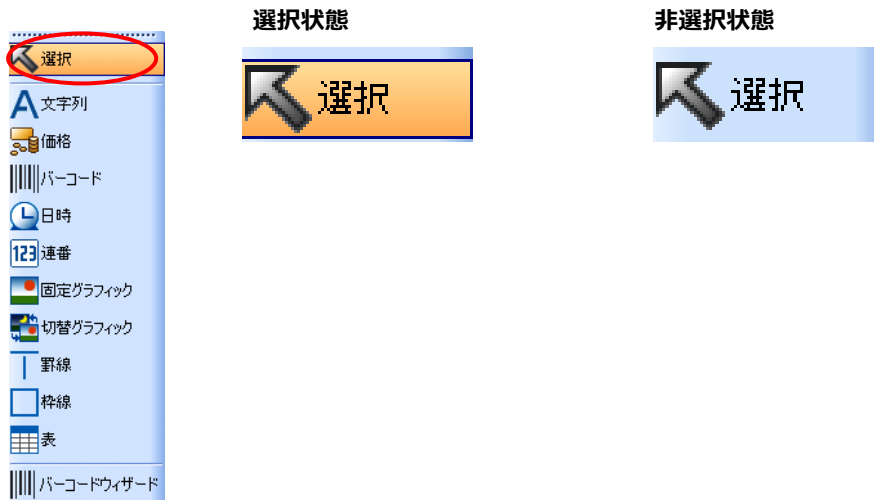
1.各種ボタンの表示について

Designer の画面内の各ボタンをクリックすることで、様々な動作を実行します。

各種ボタンの選択状態は以下のようになります。

※背景色及び選択色は、お使いのパソコンの OS や設定によって異なる場合があります。

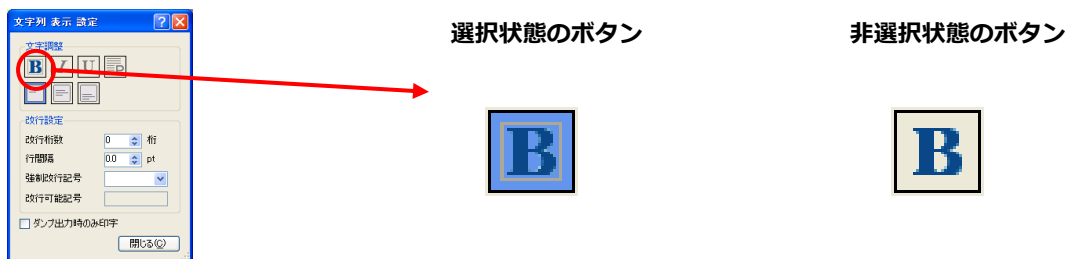
オブジェクトバーの選択状態／非選択状態



ツールバーの選択状態／非選択状態



データウィンドウの選択状態／非選択状態



2. マウスカースルについて

Designer 内で表示されるマウスカースルは、その時行える動作によって形状が異なります。

※マウスカースルの形状は、パソコンの設定によって異なる場合があります。



通常時のカーソル・・・通常状態のカーソルです。



オブジェクト貼り付け時カーソル・・・オブジェクトを貼付け準備ができた状態です。

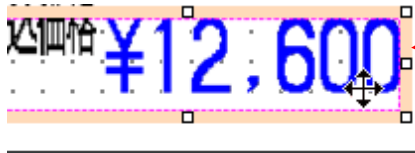


オブジェクト選択時カーソル・・・貼り付けたオブジェクトの位置を移動します。



オブジェクトサイズ変更時カーソル・・・オブジェクトのサイズを変更します。

選択状態のオブジェクトとオブジェクト選択時カーソル



オブジェクト選択時には左図の様な**薄ピンク色の枠線**が表示されます。

オブジェクト選択時のカーソルは、ドラッグでオブジェクトの位置が移動できます。

Ctrl キーを押しながらキーボードのカーソルキーを操作することでも、オブジェクトの移動ができます。
また、オブジェクトが重なっている際に Ctrl キーを押しながらクリックすることで順番に選択することが可能です。

選択状態のオブジェクトとサイズ変更時カーソル

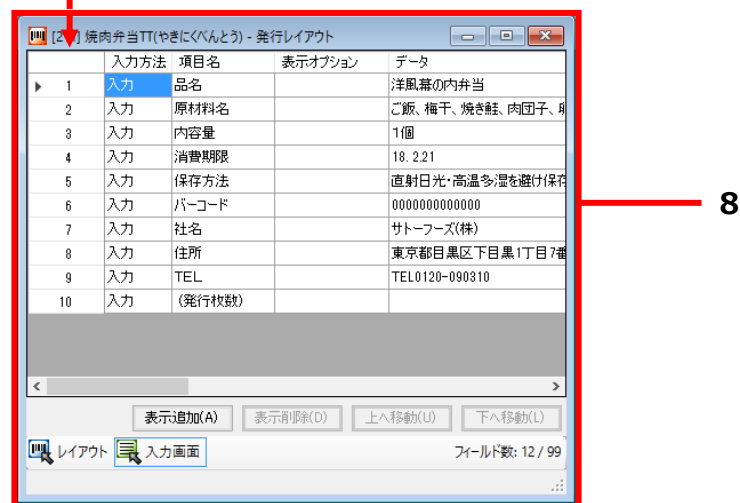
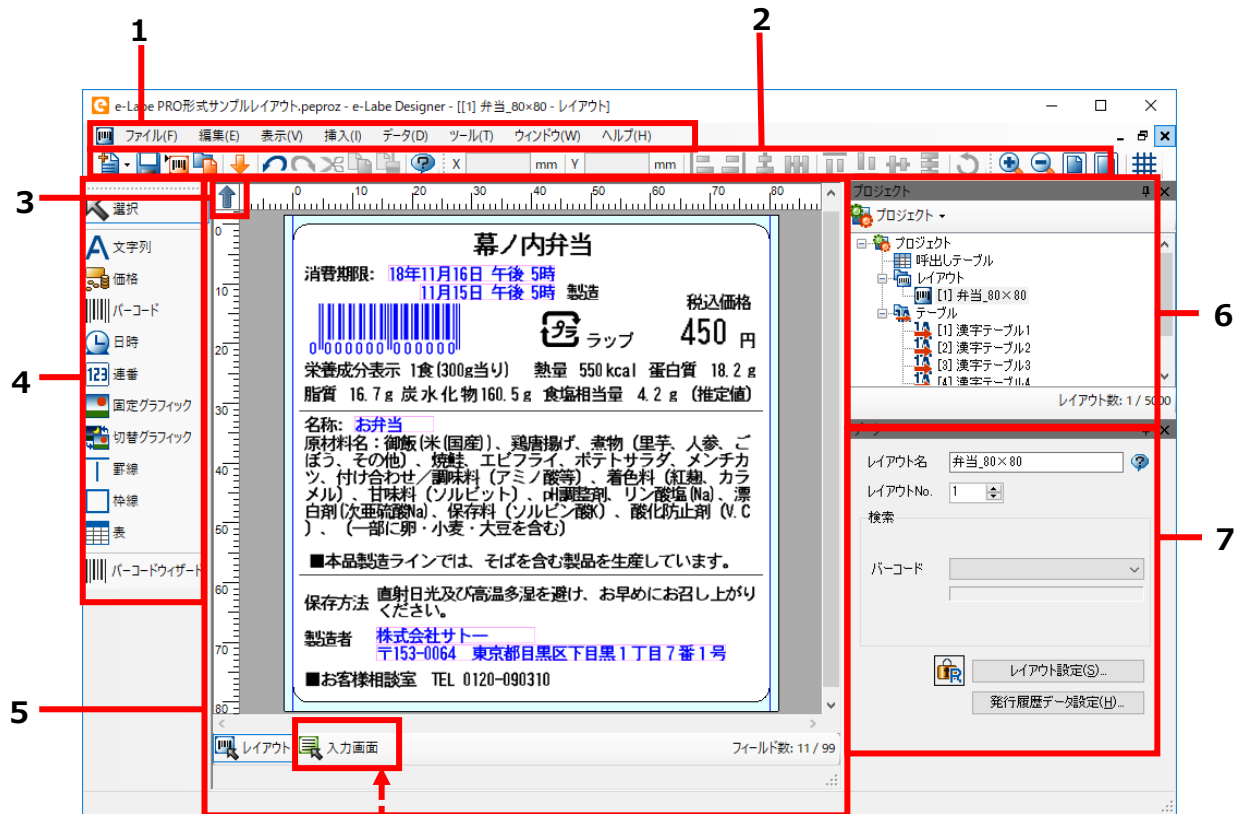


オブジェクトの端にカーソルを移動すると、**サイズ変更時のカーソル**に変わり、ドラッグで、改行設定した文字列、バーコード、グラフィックなどの一部のオブジェクトのサイズ変更が可能です。

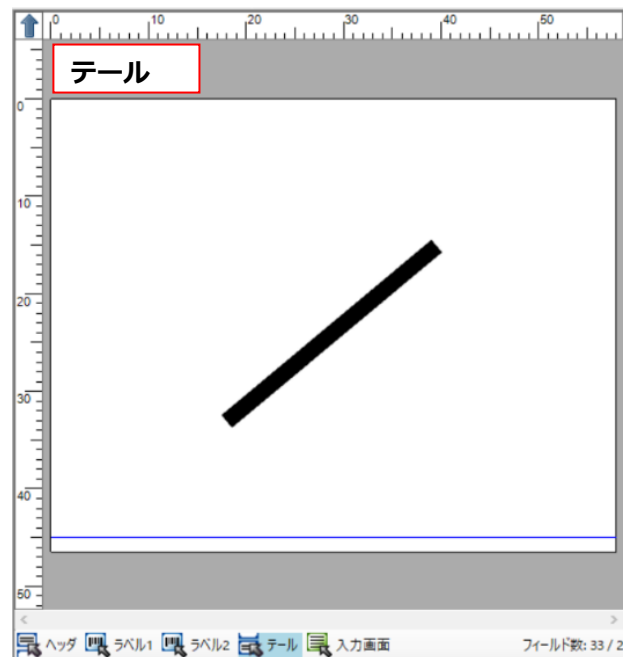
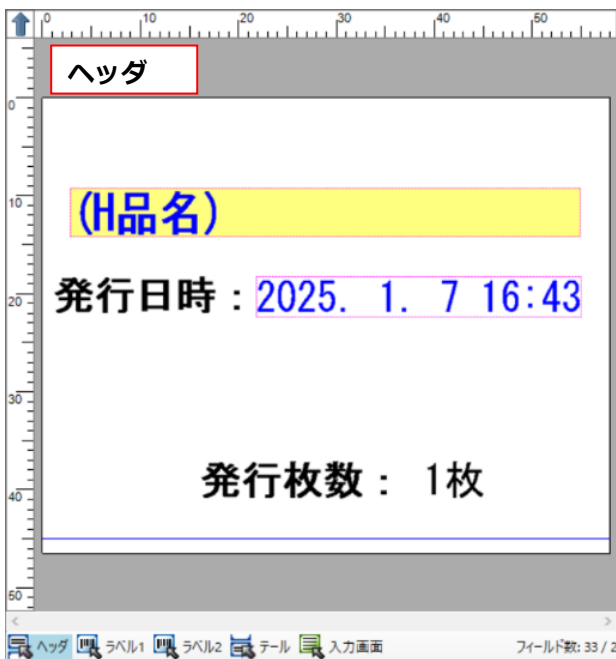
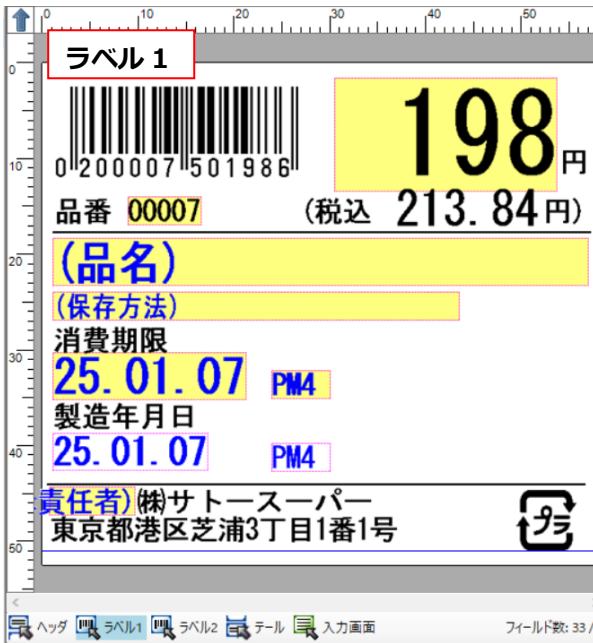
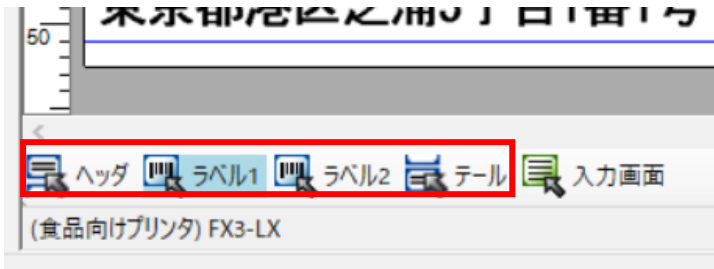
3.画面構成について

e-Labe Designer は、以下の画面構成になっています。

画面構成内容は、表示のON/OFF、ウィンドウの移動で変更できます。



【複数枚貼り、ヘッダラベル、テールラベル有効時の画面構成】
 シートを選択することでデザイン画面が切り替わります。



1. メニューバー

作業中のウィンドウで実行可能なメニューが表示されます。

2. ツールバー

よく使う機能をアイコン表示します。

3. 用紙回転ボタン

用紙を回転させます。

回転量は 0 度、90 度、180 度、270 度から選べます。

4. オブジェクトバー

デザインウィンドウに貼りつけるオブジェクトを選択し、レイアウトを作成します。

5. デザインウィンドウ

ラベルのレイアウトデザインをおこなうウィンドウです。一度に 30 までウィンドウを重ねて表示できます。

注意

同時に多数のウィンドウを開くと、コンピュータの動作が遅くなることがあります。

6. プロジェクトウィンドウ

プロジェクト内のファイルを表示します。右クリックで各データの操作ができます。

7. データウィンドウ

選択中のオブジェクトの詳細を設定します。

8. 入力画面設計ウィンドウ

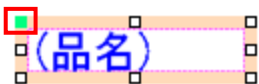
e-Labe Print の入力画面の設定を行います。[レイアウト] をクリックするとデザインウィンドウに戻ります。

オブジェクト基点位置について

選択状態のオブジェクトは、緑の■で基点位置を表示します。基点位置は、単一オブジェクトかグループ化したオブジェクトかによって以下のようになります。

単一オブジェクトの基点位置：オブジェクトを配置した時点での左上

グループ化したオブジェクトの基点位置：オブジェクト全体の縦位置、横位置ともに最小値となる位置



4. ツールバー

ツールバーのボタンはクリックすることで、以下の操作が可能です。

ボタン	機能名	機能
	新規作成	ファイルを新規に作成します
	上書き保存	ファイルを上書き保存します
	サンプル取り込み	サンプルフォルダにアクセスし、ファイルを取り込みます
	ファイル追加	ツールの関連ファイルを取り込みます
	ラベル印刷	印字プレビューの確認と、ラベルの印刷指示画面です
	SD カード出力	作成したデータを SD カードに書込みます
	元に戻す	操作を元に戻します (最大 10 回)
	やり直し	操作をやり直します (「元に戻す」を使用した場合、最大 10 回)
	切り取り	選択対象を切り取ります
	コピー	選択対象をコピーします
	貼り付け	選択対象を貼り付けます
	ヘルプ	ヘルプを表示します
	横位置	選択中のオブジェクトの横位置を指定します 数値を入力後、Enter キーで確定します
	縦位置	選択中のオブジェクトの縦位置を指定します 数値を入力後、Enter キーで確定します
	左揃え	選択された複数のオブジェクトを左に揃えます
	右揃え	選択された複数のオブジェクトを右に揃えます
	左右中央	選択された複数のオブジェクトを左右中央に揃えます
	左右均等揃え	選択された複数のオブジェクトの左右の位置を均等に揃えます
	上揃え	選択された複数のオブジェクトの上を揃えます
	下揃え	選択された複数のオブジェクトの下を揃えます
	上下中央揃え	選択された複数のオブジェクトを上下中央に揃えます
	上下均等揃え	選択された複数のオブジェクトの上下の位置を均等に揃えます
	回転	選択されたオブジェクトを回転します
	拡大	画面の表示を拡大します
	縮小	画面の表示を縮小します
	標準	表示サイズを標準に切り替えます
	画面にあわせる	表示サイズを画面にあわせませ

5.デザインウィンドウ

デザインウィンドウでは、オブジェクトの貼り付け、サイズ変更等の操作が可能です。
各項目がどのような状態にあるのかを色や表示方法で確認することが可能です。

The screenshot shows a design window for a product label. The label content includes:

- 品名: わらび餅
- 名称: 和生菓子
- 原材料名: 砂糖、黒糖蜜、でん粉、きな粉、わらび粉
- 内容量: (内容量)
- 賞味期限: 18.11.16
- 保存方法: (保存方法)
- 製造者: (株) サトー製菓
- 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
- TEL: 0120-09031
- 栄養成分表示 (1パックあたり)
- エネルギー175kcal、たんぱく質2.4g、脂質1.5g、炭水化物41.2g、食塩相当量0.1g (推定値)
- Barcode: 1234 0000000000000
- Error: エラー

Callouts and their descriptions:

- 黒文字 + 黄色背景:** プリセットデータがセットできる項目で、固定の初期データがダミーで登録された項目です。
- 黒文字:** 固定データ項目です。
- 青文字:** e-Labe Print での入力項目です。
- 青文字 + 黄色背景:** プリセットデータがセットできる項目で、固定の初期値がセットされていない項目です。
- グレー:** 印字しない項目です。
- 赤文字:** エラー状態の項目です。選択状態でカーソルを重ねると、エラーの詳細が表示されます。
- データ:** 固定データ、及び初期データがセットされた項目です。
- (項目名):** データセット、及び発行時入力で初期データがセットされていない項目です。また、枠のサイズは「桁」で設定した文字数分の領域です。

At the bottom, two examples of the '内容量' field are shown: one in black text and one in blue text, both within a red-bordered box.

【可変長用紙を選択時のデザインウィンドウ】

The diagram shows a design window with a vertical ruler on the left and a horizontal ruler at the top. A yellow rectangular area represents the paper layout. Inside this area, there are several text elements: a yellow box with '(品名)', a blue box with '(期限見出し)21. 5.14', a blue box with '本体 ¥500', a blue box with '税込 (¥540)', a blue box with '(原材料名)', a blue box with '製造者 (店舗名)', and a blue box with '(所在地)'. A blue horizontal line is drawn across the bottom of the yellow area. A red horizontal line is drawn below the yellow area. A blue double-headed arrow indicates the distance between the bottom of the yellow area and the blue line. A red double-headed arrow indicates the distance between the bottom of the yellow area and the red line. A blue double-headed arrow indicates the distance between the bottom of the yellow area and the bottom of the page. A red double-headed arrow indicates the distance between the bottom of the yellow area and the red line. A blue double-headed arrow indicates the distance between the bottom of the yellow area and the bottom of the page.

青矢印：
長さ／高さの相対設定をしている縦罫線または枠線から「基準とするオブジェクト」の下端までの間隔を表します

赤線：
「基準とするオブジェクト」の下端を表します

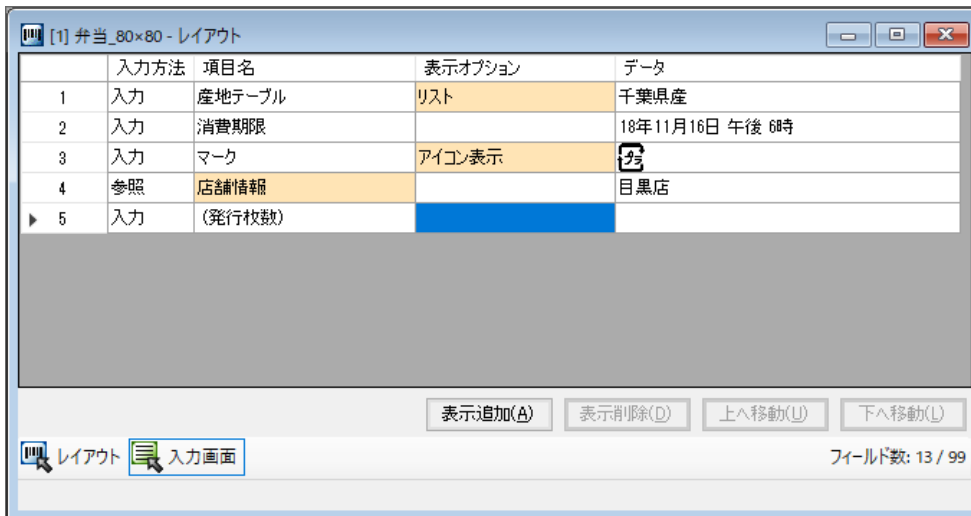
オレンジ矢印：
縦位置の相対設定をしているオブジェクトから「基準とするオブジェクト」の下端までの間隔を表します

青線：
用紙の縦サイズ（長さ）である印字の終了位置を表します
用紙の最下部にあるオブジェクトの下端が印字の終了位置になります
但し、最下部のオブジェクトが 45mm より小さい位置の場合は、45mm が印字の終了位置となります

青線から用紙の終端：
紙送り量を表します
用紙の縦サイズに紙送り量を足したサイズが、実際の用紙サイズ※となります
※「可変長（ノンセパレル）」で発行時、印字の先頭に 1.5mm の余白ができる場合があります（尻出し印字の場合は印字の末尾になります）。本動作はプリンタのノンセパクタモードの仕様です。

6.入力画面設定

e-Labe Print の入力順番の変更、編集結果項目の表示設定ができます。



・表示追加

e-Labe Print で表示する項目を追加します。
レイアウトで使用されている項目を項目名の列でリストから選択できます。

・表示削除

表示追加で追加した行を削除します。

・上へ移動

選択中の行をリストの一つ上の行に移動させます。

・下へ移動

選択中の行をリストの一つ下の行に移動させます。

詳細

・入力方法

項目の属性を表示します。

入力…e-Labe Print で編集可能な項目です。削除することはできません。

参照…「表示追加」の操作で追加した項目です。e-Labe Print で値を表示します。

・項目名

レイアウト画面で設定した項目名が表示されます。参照項目の場合は、クリックすることでリストから項目を選択することが可能です。

・表示オプション

[テーブル入力オプション]

e-Labe Print で漢字テーブル、店舗テーブル、グラフィックテーブルを入力する際の表示形式を選択します。未指定の場合は、e-Labe Print の設定に従います。

(Print 設定値に従う)	* 初期値 e-Labe Print 設定で設定したテーブル表示形式が有効となります
番号入力	テーブル番号を入力する表示形式です
リスト	テーブルリストから選択する表示形式です

【日付入力画面オプション】

e-Labe Print で日時オブジェクト（年加算、月加算、日加算）の編集をする際の入力方法を選択します。

テンキー	テンキー入力画面を表示します
ドラム選択	* 初期値 ドラム選択画面を表示します
カレンダー	カレンダー選択画面を表示します ※加算単位が「日」のみ選択可能です

【メディア表示オプション】

文字列オブジェクトに入力された値をパス情報として e-Labe Print の発行画面に画像や動画を表示する場合の形式を選択します。

※未選択※	* 初期値 文字列の値はそのまま文字列として表示します
メディア（画像）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に画像を表示します 【パス記述例】画像/apple.png
メディア（動画）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に動画を表示します 【パス記述例】Media/FX3 清掃方法.mp4
メディア（Web）	文字列にセットした値をパス情報として e-Labe Print 発行画面に Web 画面を表示します 【パス記述例】 http://www.sato.co.jp/products/printer/fx3/

・データ

項目にセットされている値をサンプルとして表示します。

7.オブジェクトバー

デザインウィンドウに下記のオブジェクトを貼り付け、レイアウトを作成していきます。



選択：デザイン画面上のオブジェクトを選択します。

文字列：文字オブジェクトを貼り付けます。

価格：価格オブジェクトを貼り付けます。税計算や割引計算設定などが可能です。

バーコード：バーコードオブジェクトを貼り付けます

日時：日時オブジェクトを貼り付けます

連番：連番オブジェクトを貼り付けます

固定グラフィック：固定グラフィックオブジェクトを貼り付けます

切替グラフィック：切替グラフィックオブジェクトを貼り付けます。

罫線：罫線オブジェクトを貼り付けます

枠線：枠線オブジェクトを貼り付けます

表：表オブジェクトを貼り付けます

バーコードウィザード：バーコード作成ウィザード画面を表示します。

ウィザードの手順に沿って、簡単な操作で複雑な構成のバーコードを作成することができます。

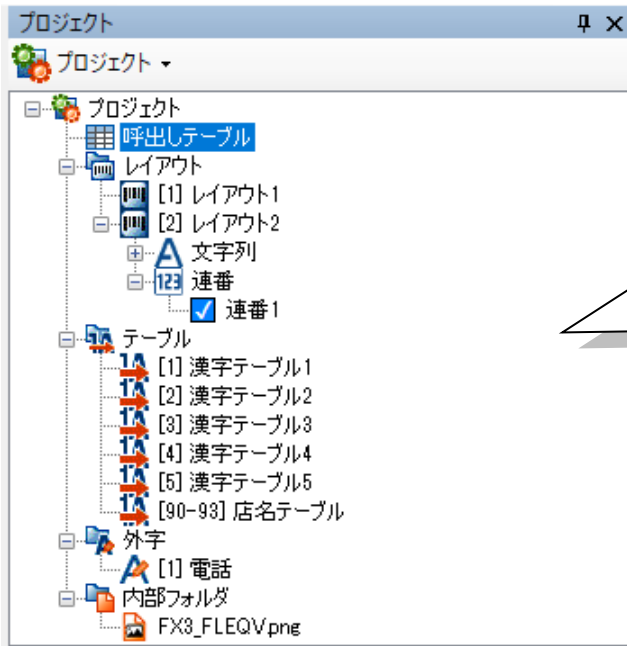
対象バーコード・・・JAN13、JAN13 価格 CD、JAN8

8.プロジェクトウィンドウ

プロジェクト内に存在するファイル一覧を表示、操作する部分です。

レイアウトをデザイン画面に表示すると、プロジェクトウィンドウ内のレイアウトアイコンに+マークが表示され、レイアウト上の各オブジェクトをツリー形式で確認できます。デザイン画面だけでなく、ツリー形式で表示されたオブジェクトも選択（✓が付いた状態）、グループ化などの操作が可能です。Shift

キーを押しながらクリックすることで、複数オブジェクトの選択も可能です。



各項目にフォーカスを当て
右クリックをすると、ファイル操作
メニューを表示できます。

以下の種類のファイルの表示と操作が可能です。

種類	メニュー	詳細
プロジェクト	レイアウト新規作成	レイアウトの新規作成
	外字新規作成	外字の新規作成
	設定	プロジェクトの動作
	レイアウトデフォルト設定	プロジェクト新規作成時の動作
呼出しテーブル	開く	呼出しテーブル登録画面を開く
	定義	呼出しテーブル定義画面を開く
レイアウトフォルダ	新規作成	レイアウトの新規作成
	貼り付け※1	切り取り、コピーしたレイアウトの貼り付け
レイアウト	開く	レイアウト編集画面を開く
	切り取り	レイアウトの切り取り
	コピー	レイアウトのコピー
	削除	レイアウトの削除
	設定	レイアウト設定画面を開く
オブジェクト	切り取り	オブジェクトの切り取り
	コピー	オブジェクトのコピー
	貼り付け	オブジェクトの貼り付け

種類	メニュー	詳細
オブジェクト	削除	オブジェクトの削除
	セルを結合	表のセルを結合 ※表オブジェクトのみ
	セルを分割	表の結合したセルを分割 ※表オブジェクトのみ
	行の高さを均等にする	表の行の高さを均等にする ※表オブジェクトのみ
	列の幅を均等にする	表の列の幅を均等にする ※表オブジェクトのみ
	グループ化	オブジェクト同士をグループ化
	最前面に移動	オブジェクトを最前面に移動
	最背面に移動	オブジェクトを最背面に移動
	前面に移動	オブジェクトを1つ前面に移動
	背面に移動	オブジェクトを1つ背面に移動
	オブジェクト種変更	オブジェクト種を別の種類に変更 ※文字列、価格、日時のみ
テーブルフォルダ	テーブル新規作成	テーブルの新規作成
	貼り付け※1	切り取り、コピーしたテーブルの貼り付け※2
テーブル (漢字・店名テーブル)	開く	テーブル編集画面を開く
	切り取り	テーブルの切り取り
	コピー	テーブルのコピー
	削除	テーブルの削除
グラフィックテーブル	開く	グラフィックテーブルを開く
	切り取り	グラフィックテーブルの切り取り
	コピー	グラフィックテーブルの他のプロジェクトファイルへのコピー
	削除	グラフィックテーブルの削除
外字フォルダ	外字の新規作成	外字ファイルの新規作成
	貼り付け※2	切り取り、コピーした外字ファイルの貼り付け
外字	開く	外字編集画面を開く
	切り取り	外字ファイルを切り取り
	コピー	外字ファイルをコピー
	削除	外字ファイルを削除
内部フォルダ群 ※3	フォルダ新規作成	フォルダの新規作成
	ファイル追加	インポートしてファイルを追加
	貼り付け	内部フォルダ内のフォルダまたはファイルを貼り付け
	削除	内部フォルダ群をすべて削除
内部フォルダ ※3	開く	該当のファイルを開く
	フォルダ新規作成	該当のフォルダ内にフォルダを新規作成
	ファイル追加	インポートしてファイルを追加
	パスコピー	フォルダ構成を含んだパス情報をコピー
	切り取り	フォルダまたはファイルを切り取り
	コピー	フォルダまたはファイルをコピー
	貼り付け	該当のフォルダ内にフォルダまたはファイルを貼り付け
	削除	該当のフォルダまたはファイルを削除

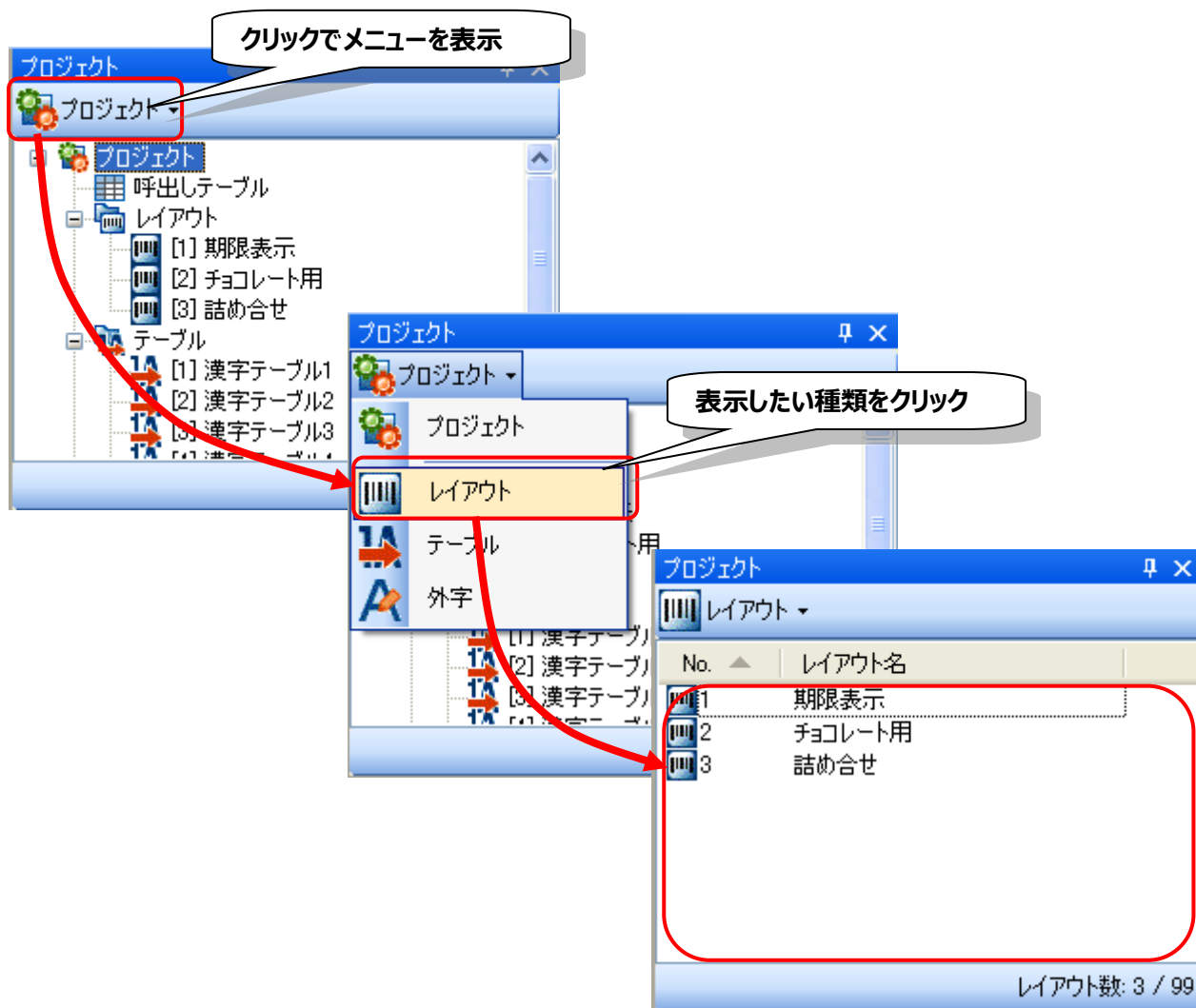
注意 1 : 貼り付け操作をおこなう場合は、一段上の階層、例えば、レイアウトファイルをコピー、貼り付けする場合は、レイアウトフォルダを選択した状態で貼り付けができます。

注意 2 : コピー対象のテーブルと同じテーブル No.が付与されているテーブルが、貼り付け先のプロジェクトファイルに存在する場合は、貼り付けが出来ません。

注意 3 : ツール設定「メディア表示機能を使用」が有効時、追加や表示がされます。

表示の切替

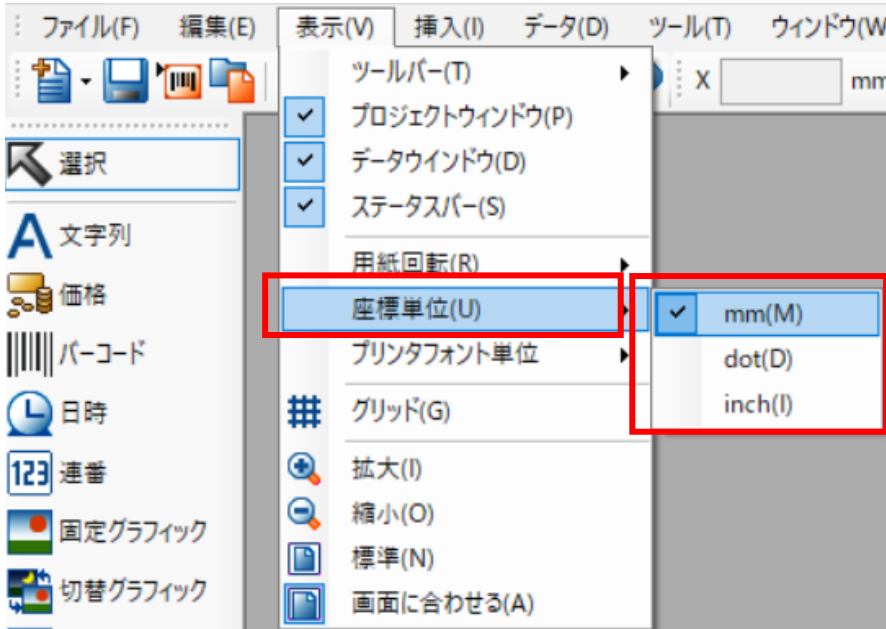
プロジェクトウィンドウではプロジェクトのツリー表示以外にも、レイアウトやテーブルなどの種類ごとに表示することも可能です。



9.座標単位

レイアウトの座標や長さの単位を「mm」、「dot」、「inch」から選択します。

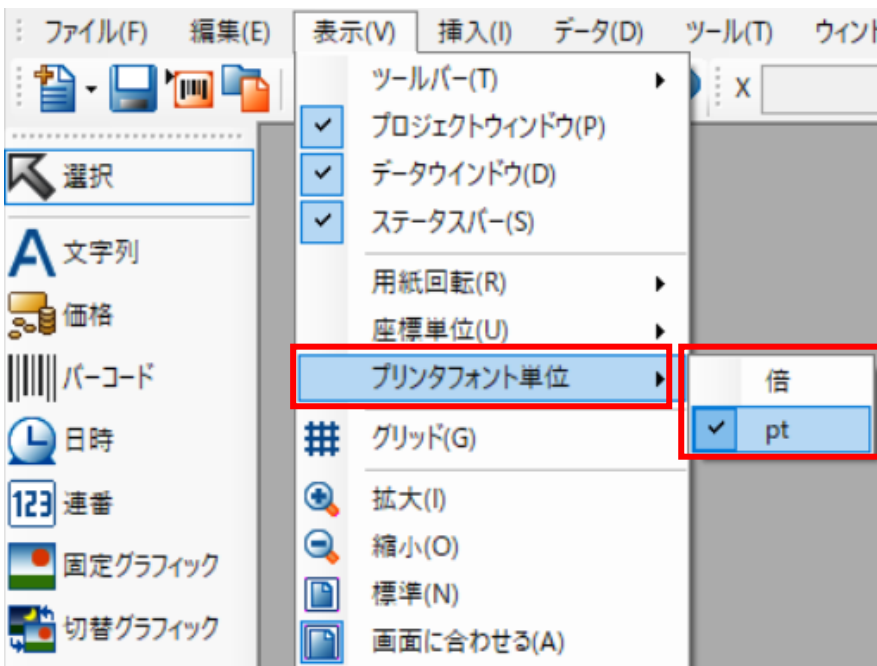
選択した単位はツールとして保持するため、すべてのプロジェクトファイルに適応されます。



10.プリンタフォント単位

プリンタフォントのサイズの単位を「倍」、「mm」から選択します。

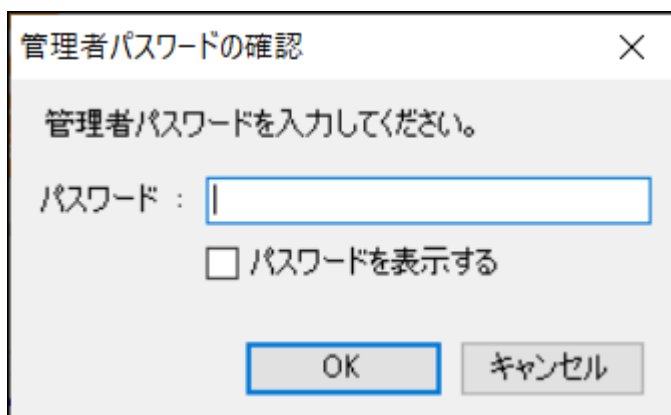
選択した単位はツールとして保持するため、すべてのプロジェクトファイルに適応されます。



4.基本設定

1.管理者パスワードの確認

e-Labe Designer 起動時に表示される管理者パスワードの確認画面です。
ツール設定で起動時にパスワードを入力する設定が有効な場合に表示します。



管理者パスワードの確認

管理者パスワードを入力してください。

パスワード :

パスワードを表示する

OK キャンセル

・パスワード

パスワードを入力します。

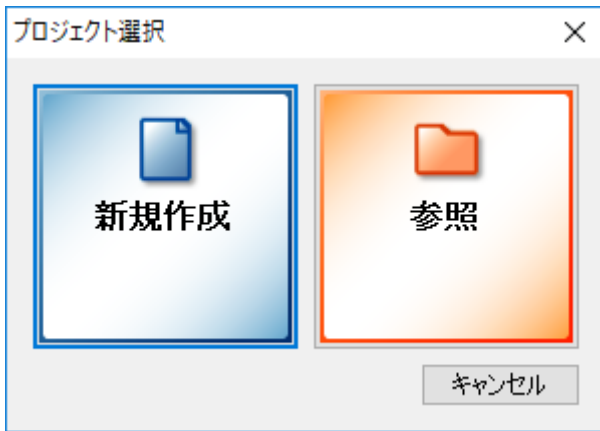
・パスワードを表示する

チェックを付けると、入力されたパスワードが表示されます。

2.プロジェクト選択

e-Labe Designer 起動時の画面です。

新規で作成するか、既存のプロジェクトファイルを指定するかを選択します。



- ・ **新規作成**

ファイルを新規に作成します。

- ・ **参照**

既存のファイルを参照します。

- ・ **キャンセル**

選択画面を終了します

3.プロジェクト種類

作成するプロジェクトの種類を選択します。

本画面は、ツール設定のオプションで「プロジェクト新規作成時に STD 形式 / PRO 形式の選択枝を表示する」を ON にしている場合に表示されます。

プロジェクト設定

プロジェクト種類

新規作成するプロジェクトの種類を選択してください。

STD形式：基本レイアウト / 発行レイアウト用プロジェクト

基本レイアウト

PRO形式：呼出しテーブル用プロジェクト

・STD形式

<発行レイアウト>
簡単に1アイテム(1枚)毎にラベルデザインすることが可能です。
アイテム数が多い場合に適しています。

<基本レイアウト>
多数の発行レイアウトを、一括して生成する事が可能です。
テンプレートとして作成した基本レイアウトとアイテムデータを組み合わせて
発行レイアウトを一括して生成します。

・PRO形式

STD形式と比較してデータ容量が小さくサーバー経由でフォーマットの
データダウンロードの運用に適しています。
また、PRO形式特有の上位機能も利用可能です。

次へ キャンセル

・プロジェクトの種類選択

「STD 形式」か「PRO 形式」のどちらかを選択します。

※ このマニュアルは、PRO 形式選択時に基づいたマニュアルです。

基本レイアウト / 発行レイアウト用プロジェクトのマニュアルは「**e-Labe 操作マニュアル-STD 形式-**」をご参照ください

4.用紙設定

使用する用紙の種類、センサタイプ、用紙サイズを設定します。
プロジェクト設定画面での設定は、以降の新規レイアウト作成時の初期値となります。

プロジェクト設定

用紙

使用する用紙を選択して下さい

フリーサイズ(ラベル)

センサタイプ

パララベフリーラベル

用紙サイズ

縦 50 mm 横 50 mm

詳細設定(D)...

パララベ固定ラベル パララベフリーラベル フチラパンラベル

OK キャンセル

・用紙の選択 ※1

・センサタイプ ※2

使用する用紙の種類とセンサタイプを選択します。

選択可能な組み合わせはページ下部の表を参照してください。

・用紙サイズ

使用する用紙サイズを入力します。

ラベルの種類で「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」を選択時、縦サイズは自動計算となり、入力できません。

※「可変長（ノンセパラベル）」で発行時、印字の先頭に 1.5mm の余白ができる場合があります（戻出し印字の場合は印字の末尾になります）。

本動作はプリンタのノンセパカッタモードの仕様です。

※1:用紙選択のリストには、設定されたプリンタで使用される一般的な用紙が予め登録されています。フリー以外の用紙を選択すると、センサタイプ、用紙サイズが自動的に反映されます。これらの用紙を選択後に、センサ種、用紙サイズを変更することは可能です。

用紙の種類	説明
フリーサイズ（ラベル）	台紙付きのラベルを利用時に選択します。
フリーサイズ（ノンセパラベル）	台紙が無いサトー製ノンセパラベルを利用時に選択します。
フリーサイズ（ジャーナル紙）	レシート用紙のように 1 枚の区切りが無い用紙を利用時に選択します。
可変長（ノンセパラベル）	[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効] ノンセパラベルを使って、印字の終了位置によって用紙の縦サイズを可変させたい場合に選択します。
可変長（ジャーナル紙）	[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効] ジャーナル紙を使って、印字の終了位置によって用紙の縦サイズを可変させたい場合に選択します。

※2 センサタイプは用紙の選択で選択したラベルの種類に応じたセンサが表示されます。

用紙の種類 センサタイプ	フリーサイズ (ラベル)	フリーサイズ (ノンセパ ラベル)	フリーサイズ (ジャーナル 紙)	可変長 (ノンセパ ラベル)	可変長 (ジャーナル 紙)	標準ラベル サイズ
バーラベ固定ラベル	○					○
バーラベフリーラベル	○	○				○
プチラパンラベル	○	○				○
ギャップラベル	○					
センサ無効 (用紙サイズ優先)		○	○	○	○	○
センサ無効 (印字位置優先)		○	○			○
プリンタ設定値を使用する	○	○	○			○

1.詳細設定

プリンタ動作の詳細を設定します。

プロジェクト設定画面での設定は、以降の新規レイアウト作成時の初期値となります。

印字速度指定

スライダーをマウสดラッグで動かして、プリンタの印字速度を指定します。

チェックボックスにチェックが入っていない場合は、プリンタ本体の設定が有効になります。

・印字濃度指定

スライダーをマウสดラッグで動かして、プリンタの印字濃度を指定します。

チェックボックスにチェックが入っていない場合は、プリンタ本体の設定が有効になります。

・ラベルギャップ

(ラベル選択時のみ設定可)

ラベルの縦、横のギャップサイズを指定します。ノンセパを選択した場合は、無効となります。

・紙送り量 (可変長レイアウト)

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

印字の終了位置からの紙送り量を指定します。

可変長 (ノンセパラベル) 、可変長 (ジャーナル紙) を選択時、設定が有効となります。

・印字補正

レイアウトの全体的な印字補正値を設定します。

・複数枚貼り[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

一回の発行で異なるデザインのラベルをまとめて印刷します (最大 4 枚まで) 。

・ヘッダラベル[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

ヘッダラベルの使用有無を設定します。

・テールラベル[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

テールラベルの使用有無を設定します。

・仕分マーク（設定不可）

・カッタ動作

カット方法を以下から指定します。

プリンタ本体をハクリ設定にした場合は、カッタ動作なし（連続発行）に設定を変更してください。

●複数枚貼り OFF

カッタ動作	カットコマンド
カッタ動作なし（連続発行）	出力する（0枚でカット）
1枚ごとにカット	出力する（1枚でカット）
指定枚数カット	出力する（N枚でカット）
未使用※	出力しない

●複数枚貼り ON

カッタ動作	カットコマンド
カッタ動作なし（連続発行）	出力する（0枚でカット）
1枚ごとにカット	出力する（1枚でカット）
1セットごとにカット	出力する（N枚でカット）
指定セット数ごとにカット	出力する（N枚でカット）
未使用※	出力しない

※通常は使用しません

・指定枚数

指定枚数カット、指定セット数ごとにカットを選択時に、何枚（セット）ごとにカットするかを設定します。

・カット位置（設定不可）

・排出カット

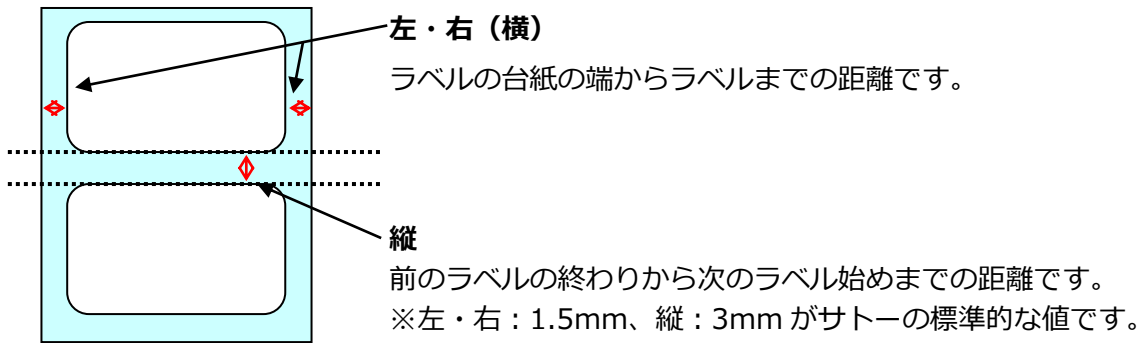
印字終了後に排出カットを行うかどうかを設定します。

・用紙方向

用紙の排出方向を指定します。

2.用紙設定用語解説

・ラベルギャップとは

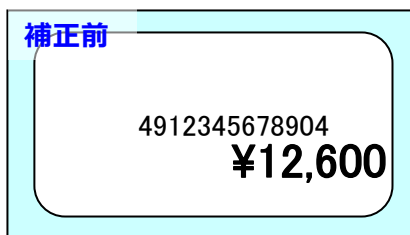


・紙送り量とは

3.基本事項> 2.基本操作> 5.デザインウィンドウの【可変長用紙を選択時のデザインウィンドウ】の説明をご参照ください。

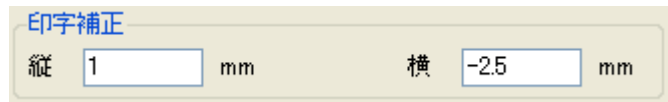
・印字補正とは

全体の印字位置を補正します。



用紙セットが正しく行われているにも関わらず、想定される位置よりずれて印字されてしまった場合、補正値を入力することで、印字位置を調整することができます。

左のような場合、縦は+ (プラス) 値で下へ、- (マイナス) 値で上へ、横は+ (プラス) 値で右へ、- (マイナス) 値で左へ移動します。



・排出カットとは

印字終了時にプリンタ内部にある「印字された用紙」を紙送りし、カットする機能です。

5.税率・値引率設定（レイアウトデフォルト設定）

レイアウトの価格項目の計算方法を税計算にするか、割引計算にするかを設定します。

1つのレイアウトで、税計算か割引計算かどちらかの計算設定をおこなうことができます。

本画面で設定した値は、新規レイアウト作成時の初期値に反映されるため、予め基設定しておくことで、レイアウト別に設定する手間が省けます。

レイアウトデフォルト設定

用紙 税率・値引率

税率 共通設定の税率を参照 複数税率を指定

税率1 %

税率2 %

値引率 %

OK キャンセル

・税率

レイアウト内の価格項目で、税率計算設定が可能になります。

この設定により、

①入力した値を本体価格として、

税込み価格、税価格値の算出

②入力した値を本体価格として小数点以下2桁まで税込み計算を行い、

税込み価格の整数部、税込み価格の小数部の算出

③入力した値を税込み価格として、

本体価格、税価格値の算出が行えます。

・共通設定の税率を参照（チェックボックス）

プロジェクト設定の共通設定で設定されている税率を使用する場合にオンにします。

・複数税率を指定

税率1、税率2を使用する場合にオンにします。

・税率1、税率2

「共通設定の税率を参照」がオフの場合にここで入力した税率で計算します。

「複数税率を指定」がオンの場合に税率2も有効になります。

・割引率

レイアウト内の価格項目で、割引率計算設定が可能になります。

この設定により、入力した値を値引き前価格として、値引き後価格、値引き額の算出が行えます。

6.共通税率設定（プロジェクト設定）

プロジェクト設定の共通設定タブでプロジェクト内の税率を設定します。

この税率を参照する場合は、レイアウト設定の税率・値引率設定で「共通設定の税率を参照」チェックボックスをオンにします。

The image shows a software dialog box titled "プロジェクト設定" (Project Settings). It has a standard window header with a question mark and a close button. Below the title bar are four tabs: "データ出力オプション" (Data Output Options), "機能オプション" (Function Options), "共通設定" (Common Settings), and "拡張機能" (Extension Functions). The "共通設定" tab is selected. Inside the dialog, there is a section titled "税率" (Tax Rate). Under this section, there are two rows of settings: "税率1" (Tax Rate 1) with a value of "10" and a percentage sign, and "税率2" (Tax Rate 2) with a value of "8" and a percentage sign. At the bottom of the dialog are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

5.呼出しテーブル解説

1.呼出しテーブルとは

呼出しテーブル用プロジェクトでは、「呼出しテーブル」という呼出しNo.をキーとした発行データと、ツールで作成したレイアウトデータ（デザインデータ）を紐付けて、発行データを生成します。

e-Labe Print では、呼出しテーブルで登録する呼出し No.をキーにしてデータを呼出します。

呼出しテーブルデータの項目と紐付けされた項目は、入力方法が「固定」の場合は、呼出しテーブルデータに登録したデータが印字され、入力方法が「発行時（データ）」の場合は、初期値としてプリンタの画面に表示されます。

「呼出しテーブル」

呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	品名
1	わらび餅	ワラビモチ	[1] 内容表示ラベ...	わらび餅
2	水羊羹	スイヨウカン	[1] 内容表示ラベ...	水羊羹
3	水まんじゅう	スイマンジュウ	[1] 内容表示ラベ...	水まんじゅう
4	かしわ餅	カシワモチ	[1] 内容表示ラベ...	かしわ餅
5	芋まんじゅう	イモマンジュウ	[1] 内容表示ラベ...	芋まんじゅう
100	消費期限	ショウヒキケン	[2] 期限ラベル	

レイアウトNo.1：内容表示ラベル

品名 (品名)
 名称 和生菓子
 内容量 (内容量)
 消費期限 19.12.5
 製造者 サトーフーズ(株)

レイアウトNo.2：期限ラベル

消費期限
 2019年12月5日 午後3時

生ものですのでお早めにお召上がり下さい

サトーフーズ

東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
 電話：0120-090310

レイアウト指定	品名	内容量	消費期限
[1] 内容表示ラベ...	わらび餅	180g	12
[1] 内容表示ラベ...	水羊羹	4個	24
[1] 内容表示ラベ...	水まんじゅう	4個	24
[1] 内容表示ラベ...	かしわ餅	2個	24
[1] 内容表示ラベ...	芋まんじゅう	3個	24
[2] 期限ラベル			12

品名 (品名)
 名称 和生菓子
 内容量 (内容量)
 消費期限 19.12.5
 製造者 サトーフーズ(株)
 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号

呼出しテーブルの項目とレイアウトの黄色い項目は紐づいています。複数のレイアウトで同じ項目に紐付ける事も可能です。

消費期限
 2019年12月5日 午後3時

生ものですのでお早めにお召上がり下さい

サトーフーズ

東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
 電話：0120-090310

「呼出しNo.「0001」の発行結果

品名 わらび餅
 名称 和生菓子
 内容量 180g
 消費期限 19.12.6
 製造者 サトーフーズ(株)
 東京都目黒区下目黒1丁目7番1号

「呼出しNo.「0100」の発行結果

消費期限
 2019年12月6日 午前3時

生ものですのでお早めにお召上がり下さい

サトーフーズ

東京都目黒区下目黒1丁目7番1号
 電話：0120-090310

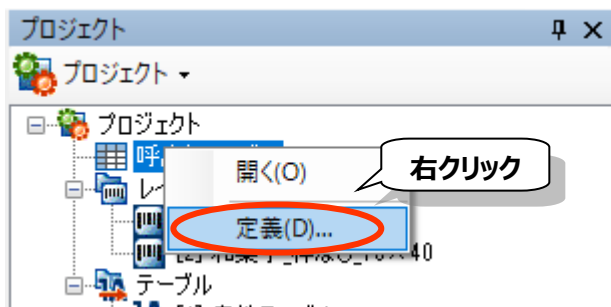
2.呼出しテーブル定義

呼出しテーブルで印字データを登録するためには、「呼出しテーブル定義」画面で、呼出しテーブルと紐付ける項目を予め定義する必要があります。

定義をしていない呼出しテーブルは、必須項目である「呼出しNo.」「呼出し名」「検索用呼出し名」「レイアウト指定」の4項目のみとなります。その他に、グループ設定が有効な場合、「グループ大」「グループ中」「グループ小」が表示されます。また「配信開始日/終了日指定」「配信先指定」「配信可否指定」が有効な場合も、呼出しテーブル項目として表示されます。任意で追加できる項目は最大 99 個です。

設定項目	説明
項目名	32 桁以内で名称をつけます。
桁数	最大桁数を指定します。
桁数チェック/ 文字種チェック	「呼出しテーブル登録」画面でデータ登録をする際にチェックをかけたい場合に設定します。
属性	バーコード検索キー項目を指定します
書き換え不可	「呼出しテーブル登録」画面で編集できないようする場合に設定します。 ※この項目はツール設定> オプションの「食品大目付そうけんくん連携ファイルを出力」が有効な場合に表示します
配信開始日/ 終了日	有効にすると呼出しテーブル項目に表示されます。開始日/終了日をセットしたアイテムは、指定した期間中のみ e-Labe Print で呼出し可能となります。
配信先指定	有効にすると呼出しテーブル項目に表示されます。配信先をセットしたアイテムは指定した端末 No. (e-Labe Print に付番する No.) でのみ呼出し可能となります。
配信可否指定	有効にすると呼出しテーブル項目に表示されます。☑が入っているアイテムのみ、データ出力対象となります。

1.プロジェクトウィンドウで呼出しテーブルを右クリックします。
メニューから「定義」を選択します。



メニューバーの「データ」>「呼出しテーブル定義」でも、操作可能です。

2.「項目名」「桁数」「桁数チェック」「文字種チェック」「書き換え不可」を入力します。

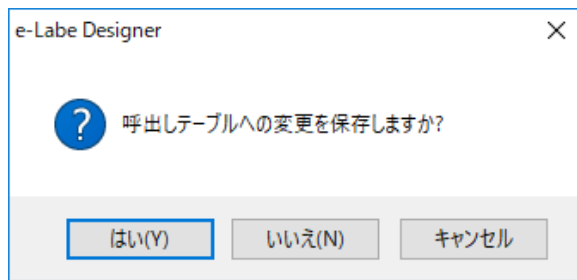
No.	項目名	桁数	桁数チェック	文字種チェック	属性	書き換え不可
1	品名	20	チェックなし	チェックなし		<input type="checkbox"/>
2	名称	10	チェックなし	チェックなし		<input type="checkbox"/>
3	原材料	512	チェックなし	チェックなし		<input checked="" type="checkbox"/>
4	賞味期限	3	入力必須(未...	数字のみ		<input type="checkbox"/>
5	内容量	10	チェックなし	チェックなし		<input type="checkbox"/>
6	保存方法	4	チェックなし	数字のみ		<input type="checkbox"/>
7						<input type="checkbox"/>
8						<input type="checkbox"/>
9						<input type="checkbox"/>
10						<input type="checkbox"/>
11						<input type="checkbox"/>
12						<input type="checkbox"/>
13						<input type="checkbox"/>
14						<input type="checkbox"/>
15						<input type="checkbox"/>
16						<input type="checkbox"/>

3.項目の順序を変更したい場合は、「上へ」、「下へ」のボタンをクリックし、順番を変更します。

4.既にある項目の間に追加したい場合や、削除したい場合は、「追加」、「削除」のボタンをクリックします。

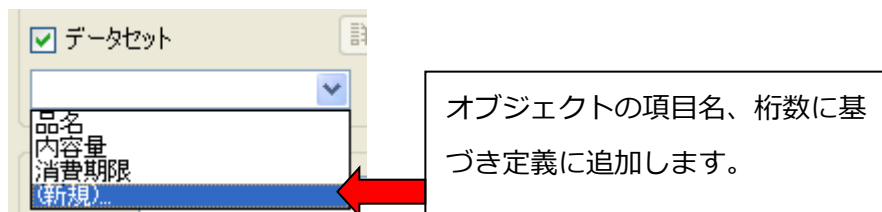
5.「配信開始日/終了日指定」、「配信先指定」、「配信可否指定」の設定をします。

6. 「閉じる」ボタンで画面を閉じます。



※尚、呼び出しテーブルの項目は、この定義画面以外でも追加することが可能です。

レイアウト作成時に、各オブジェクト項目と紐付け時に、呼び出しテーブル項目が未登録の場合、その場で新規追加することができます。



3.呼出しテーブル登録

呼出しテーブル定義で項目の登録をしたら、「呼出しテーブル登録」画面にて印字データの登録をします。呼出しテーブルデータは、e-Labe Designer で編集する以外に、ファイル仕様に基づいたカンマ区切りやタブ区切りのテキストデータを編集する「オーバーライド機能（※1）」や e-Labe Print（発行端末）で編集する「フォーマット別マスター編集（※2）」もご利用いただけます。

呼出しデータのオーバーライド運用については、「7. 特別な操作-テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能」を参照ください。

※1：ファイルサイズは最大 10MB です

※2：「呼出しテーブル」以外に「漢字テーブル」「店名テーブル」も編集可能です

No	配信可否	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	配信開始日	配信終了日
1	<input checked="" type="checkbox"/>	11	チョコチップクッキー	チョコチップ		
2	<input checked="" type="checkbox"/>	12	レモンクッキー	レモンクッキー	2019/07/01	
3	<input checked="" type="checkbox"/>	13	ストロベリークッキー	ストロベリーク	2019/03/01	2019/05/31
▶ 4	<input checked="" type="checkbox"/>	14	ココアクッキー	ココアクッキー		
5	<input checked="" type="checkbox"/>	15	セサミクッキー	セサミクッキー		
* 6	<input checked="" type="checkbox"/>					

●呼出しテーブルデータ登録画面

・表示抽出項目（レイアウト、配信先）

レイアウト、配信先（※配信先指定が ON の場合のみ表示）をキーに表示の抽出が可能です。初期値は「（すべて）」です。複数レイアウト指定設定※が ON の場合や配信先の場合は、抽出条件に指定したレイアウトや配信先が含まれるデータが表示されます。

※複数レイアウト指定機能については「呼出しテーブルデータ登録手順」の「複数レイアウト指定の場合」をご参照ください

・ヘッダー行

呼出しテーブル定義で設定した項目名が表示されます。

「呼出しNo.」「呼出し名」「検索用呼出し名」「レイアウト指定」は基本の項目です。「配信開始日/終了日」「配信先指定」「配信可否指定」が有効な場合はそれらも表示されます。

また、プロジェクト設定でグループ階層を設定した場合、「グループ大」「グループ中」「グループ小」も表示されます。

※ただし、複数レイアウト指定 OFF 設定で上記「表示抽出」でレイアウト別に表示している場合は「レイアウト指定」項目は非表示となります

・インポート

外部ファイルから、プリセットデータの取り込みを行います。

データはカンマ区切り (.csv) またはタブ区切り (.txt) テキスト形式です。インポート時、1レコード目に項目名がセットされていない場合や、1 つでも一致しない項目名がある場合は、項目名の確認を行わず、左側から順にデータをセットして取り込むか、取込定義を指定してインポートが可能です。

・エクスポート

外部ファイルへ、プリセットデータを出力します。

データはカンマ区切りの CSV ファイル (.csv)、タブ区切りのテキストファイル (.txt)、プリセットファイル (プロジェクト用ファイル) の 3 形式で出力可能です。

★インポート、エクスポートの留意点★

「表示抽出」機能で、レイアウト別に表示を行っている状態で「インポート/エクスポート」を行った場合、データは「すべて」に対して「インポート/エクスポート」されます。

指定したレイアウトの対象データだけをエクスポートしたり、指定したレイアウトの対象データだけを上書きインポートすることはできませんのでご注意ください。

・データチェック

登録したデータに、不備などが無いかチェックをし、警告を表示します。

エラーになった項目は赤で表示します。

・簡易プレビュー

選択された行のプレビューを表示します。

・プレビュー・テスト

選択された行のプレビュー表示またはテスト発行を行います。入力方法が「発行時 (データ)」の項目は実際の発行のように入力値を変更可能です。

No	名称	種別	入力値
1	賞味期限	日時	0
2	品名	文字列	別途記載-OFF
3	価格	価格	
4	(発行枚数)		

発行枚数入力後にプレビューボタンをクリックすると、プレビュー画面が表示されます。

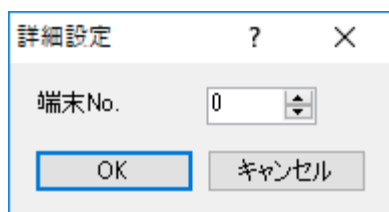
プレビュー画面では、最大 100 枚までのページを確認できます。

プリンタリストから該当するプリンタドライバを選択してテスト発行ボタンをクリックすると、テスト発行が行なわれます。

プリンタリストには、パソコンにインストールされているサトーのプリンタドライバが全て表示されます。FX3-LX を選択してください。

それ以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。

詳細設定画面で端末 No.を設定することが可能です。



※ここで設定された値はプレビュー・テストおよびダンプ出力時のみ適用されます。

・ダンプ出力

複数の発行レイアウトを指定してプレビュー・テスト印字を一括で実行することができます。

※ダンプ出力の詳細については、「7. 特別な操作-ダンプ出力」を参照ください。

・データ出力

e-Labe Print で呼出するためのコマンドを出力します。

※データ出力の詳細については、「7. 特別な操作-データ出力」を参照ください。

編集

・切り取り

選択された行のデータを切り取ります。

・コピー

選択された行のデータをコピーします。

・貼り付け

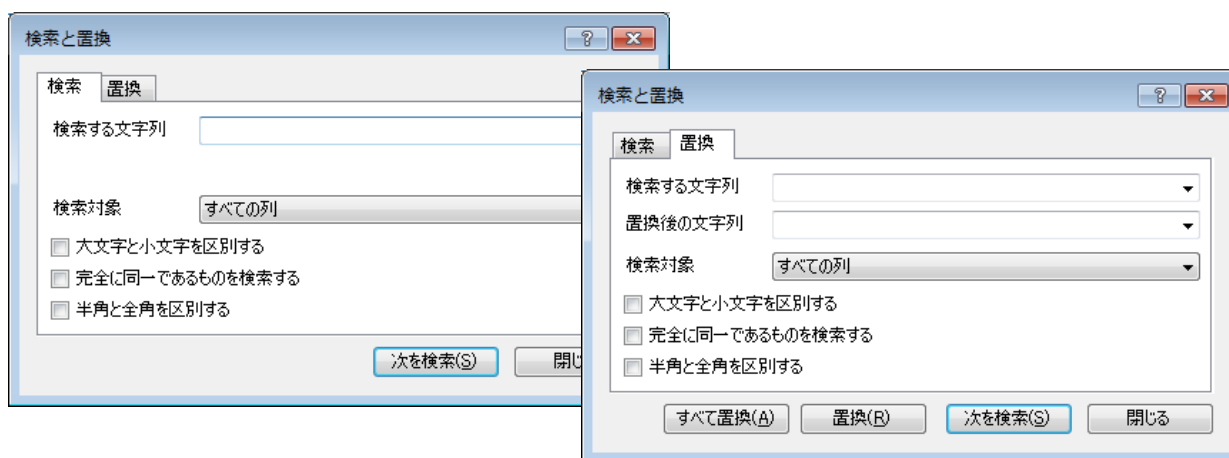
選択された行にデータを貼り付けます。

・削除

選択された行のデータを削除します。

・検索／置換

一覧表形式の呼び出しテーブルデータを検索、置換できます。



・検索対象

すべての列または特定の列を指定可能です。

・ **大文字小文字を区別する**

アルファベットの大文字小文字を区別します。

・ **完全に同一であるものを検索する**

検索する文字列と完全に一致する値を検索します。

・ **半角と全角を区別する**

アルファベット、数字、カナ、記号の半角と全角を区別します。

・ **すべて置換**

指定した条件に合致する文字列を一括で「置換後の文字列」の値に置き換えます。

・ **置換**

選択している単一のセルに置換対象の文字列があれば「置換後の文字列」の値に置き換え、次を検索します。

・ **次を検索**

指定した条件に合致する文字列を検索します。

● **e-Labe Print でのマスター編集可否設定** [e-Labe Print バージョン 1.11.0 以上で有効]



チェック有効：e-Labe Print の「フォーマット別マスター編集」機能でデータ編集が可能となります。

ラベル発行時は「LocalTables」フォルダ内のデータを優先的に参照します。

初期値はチェック有効です。

チェック無効：e-Labe Print の「フォーマット別マスター編集」機能でデータ編集はできません。

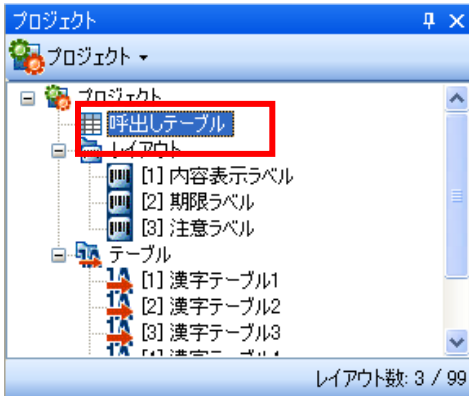
ラベル発行時は「FormatFiles」フォルダ内のデータを参照します。

(チェックが無効の場合は LocalTables フォルダ内のデータは参照しません)

■呼出しテーブルデータ登録手順

※「配信開始日／終了日」「配信先指定」「配信可否指定」オプションの詳細は「7. 特別な操作-データ配信オプション機能」を参照ください。

1.呼出しテーブルをダブルクリックします。



メニューバーの「データ」>「呼出しテーブルデータ登録」でも、操作可能です。

2.項目に呼出しテーブルデータを登録します。

すべての表示の場合

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	品名	名称
1		チキンカツサンド	チキンカツサンド	[1] 内容表示ラベル	チキンカツサンドイ...	調理パン
2		ツナサンド	ツナサンド	[1] 内容表示ラベル	ツナサンドイッチ	調理パン
3		ミックスサンド	ミックスサンド	[1] 内容表示ラベル	ミックスサンドイッチ	調理パン
4		卵サンド	卵サンド	[1] 内容表示ラベル	卵サンドイッチ	調理パン
100		消費期限	消費期限	[2] 期限表示ラベル		

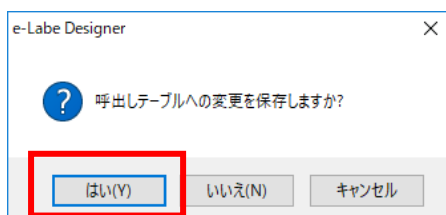
レイアウトを指定することで、指定したレイアウトでは使用しない項目はグレーになり入力省略できます。

レイアウトを指定した場合

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	品名	名称	原材料
1	1	チキンカツサンド	チキンカツサンド	チキンカツサンドイ...	調理パン	チキン
2	2	ツナサンド	ツナサンド	ツナサンドイッチ	調理パン	食パン
3	3	ミックスサンド	ミックスサンド	ミックスサンドイッチ	調理パン	チキン
4	4	卵サンド	卵サンド	卵サンドイッチ	調理パン	かぼち
5						

表示抽出でレイアウトを指定した場合は、該当のレイアウトで使われている項目のみが表示されます。

3.「閉じる」ボタンをクリックしてデータを保存します。



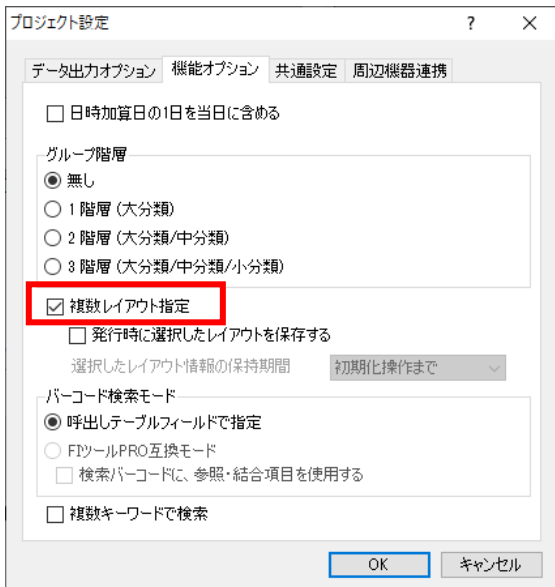
・複数レイアウト指定機能を利用する

複数レイアウト指定機能を有効にすると、e-Labe Print でラベル発行時にレイアウトを切り替えて発行可能となります。

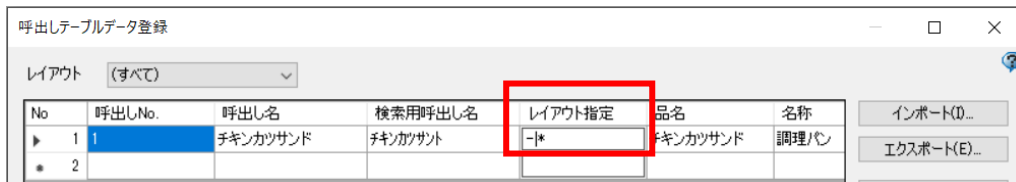
呼出しテーブルでレイアウトを指定する際も通常のレイアウト指定とは異なる登録方法となります。

1.メニューバーの「ファイル」>「プロジェクト設定」を開きます。

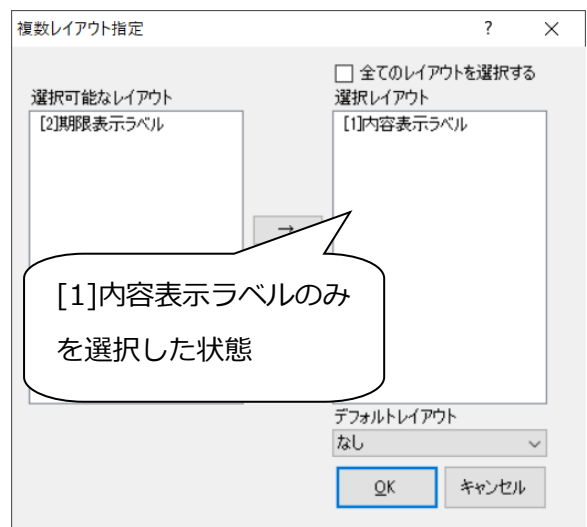
2.「機能オプションタブ」を開き「複数レイアウト指定」のチェックを有効にします。



3.呼出しテーブル登録画面を開き、「レイアウト指定」項目を選択します。



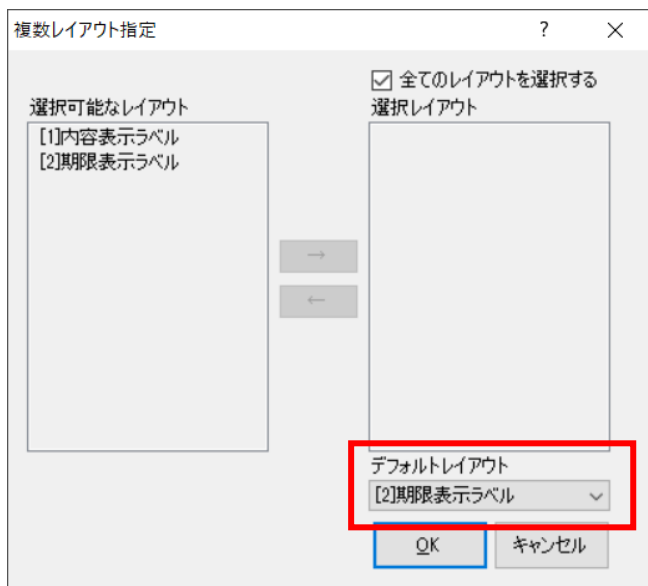
4.該当するレイアウトを選択します。初期値は「全てのレイアウトを選択する」が有効です。



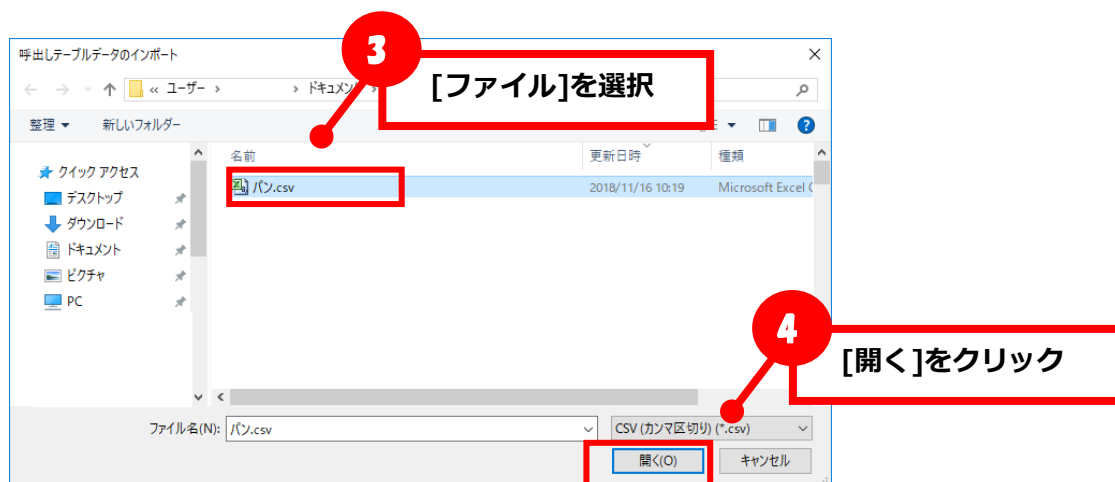
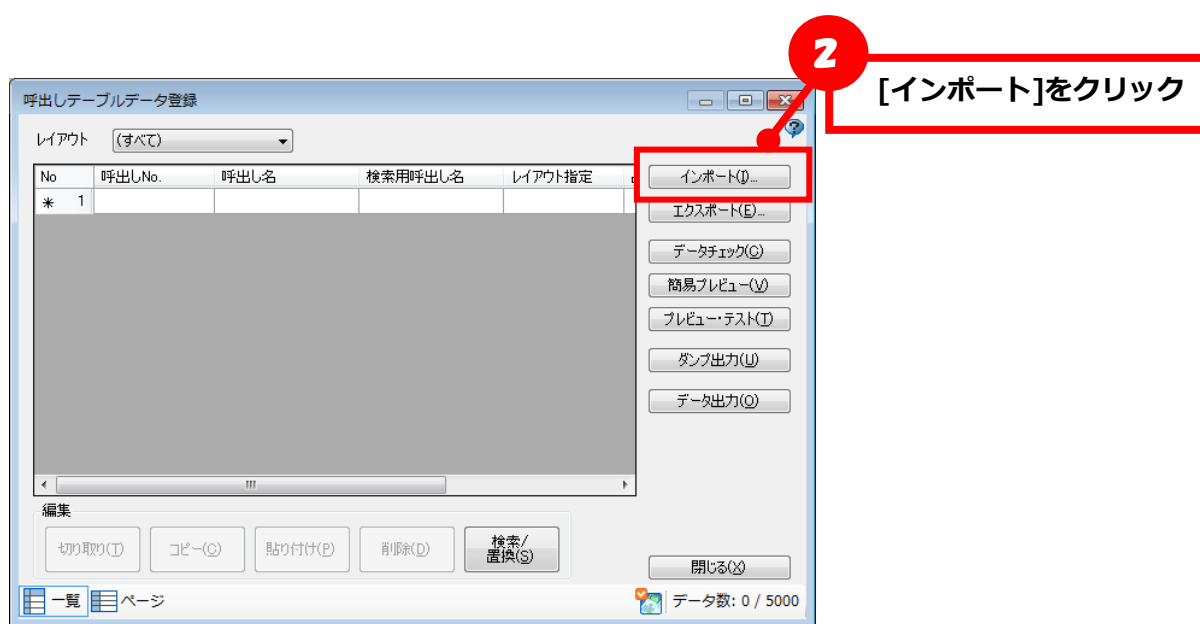
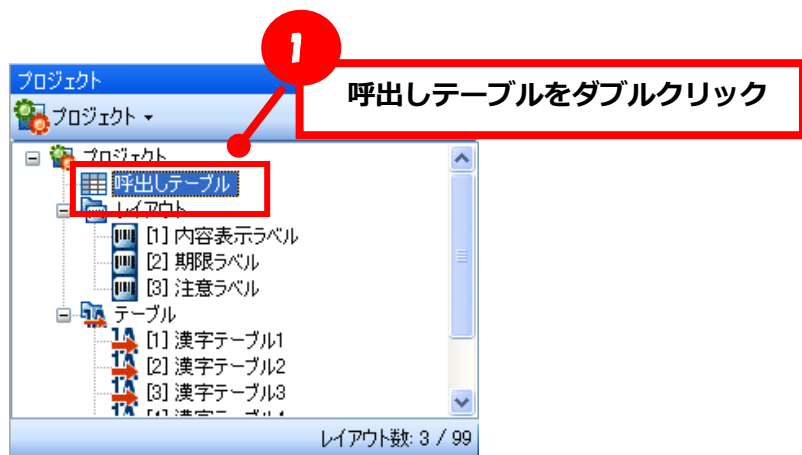
[デフォルトレイアウトについて]

発行時に初期値として選択したいレイアウトを指定します。

デフォルトレイアウトが未指定の場合、発行時にレイアウト選択画面に遷移し毎回レイアウトを選択する必要があります。



■ 呼出しテーブルデータインポート手順（定義に従ってデータをインポートする手順）



[呼出しテーブルデータのフィールドと、ファイルの項目が完全に一致した場合]⇒インポートが実行
[完全に一致しなかった場合]⇒インポートする方法を定義する「インポート設定」画面が起動



表示順インポート

指定したファイルの項目を左から順番にインポートします

定義に従ってインポート

指定したファイルの項目と、呼出しテーブルデータのフィールドの紐付け定義を行い、定義に沿ってインポートします。

先頭行を項目名として使用（チェックボックス）

「定義に従ってインポート」選択時にチェック機能が有効となります。

チェックを有効にすると、インポートするファイルの1行目は項目名として認識し、データには反映しません。

呼出し No 以外を検索キーにする（呼出し No 自動採番）（チェックボックス）

「定義に従ってインポート」選択時で目づ、レイアウト内にバーコード検索項目が設定されている場合に

チェック機能が有効となります。

チェックを有効にすると、インポート時、呼出し No が自動で採番されます。

既存データ（ラジオボタン）

既存データの処理を選択します。

[削除] 既存データを全て削除し、取り込みます

[追加・更新] 既存データは残し、No.が同一のデータがあれば更新、無ければ追加します

選択ボタン

呼出しテーブルデータのフィールドとインポートするファイル項目の紐付け画面を開きます。

インポートボタン

インポートを実行します。

5 [定義に従ってインポート]をクリック

6 既存データの処理を選択

7 [選択]をクリック

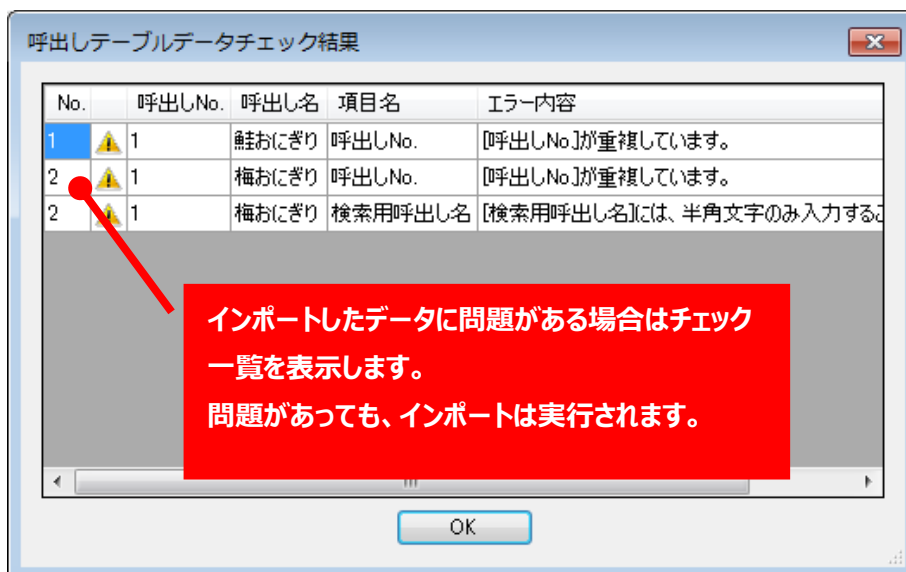
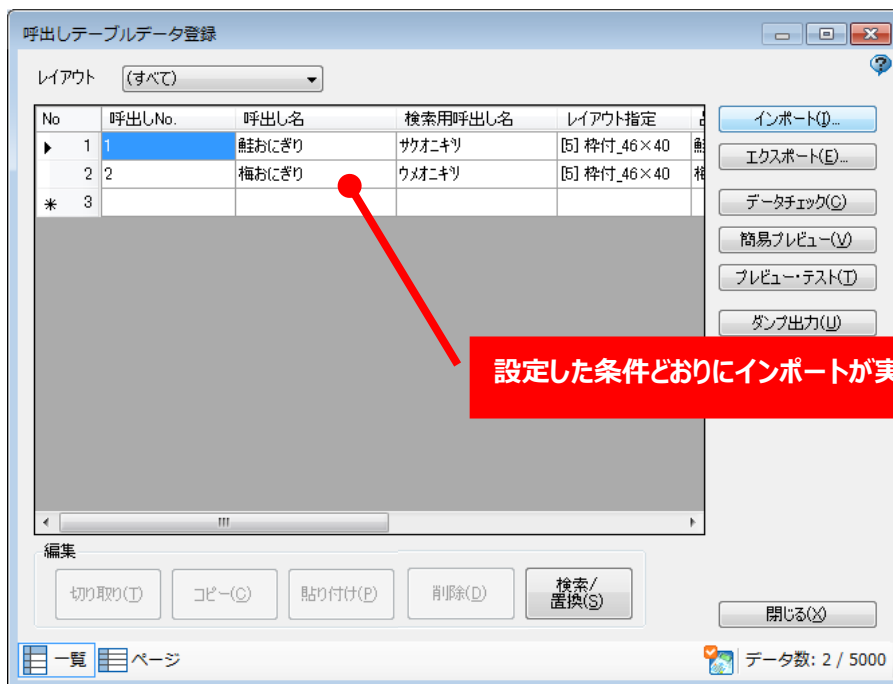
フィールド名とインポートしたいファイルの項目が一致した場合、自動で紐付きます。

No	フィールド名称	ファイル項目	
1	呼出しNo.	呼出しNo.	選択
2	呼出し名	呼出し名	選択
3	検索用呼出し名	検索用呼出し名	選択
4	レイアウト指定	レイアウト指定	選択
5	品名	品名	選択
6	名称	(空き項目)	選択
7	原材料名	原材料名	選択
8	消費期限	消費期限	選択

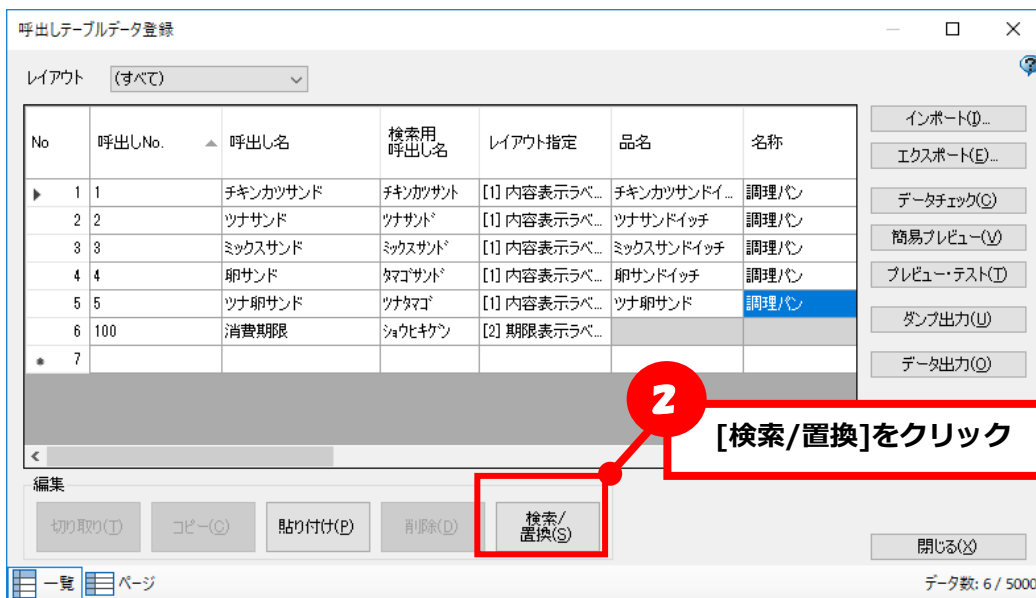
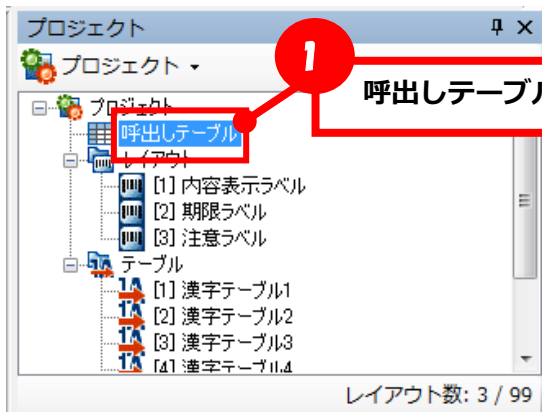
8 紐付ける項目を選択

9 [OK]をクリック

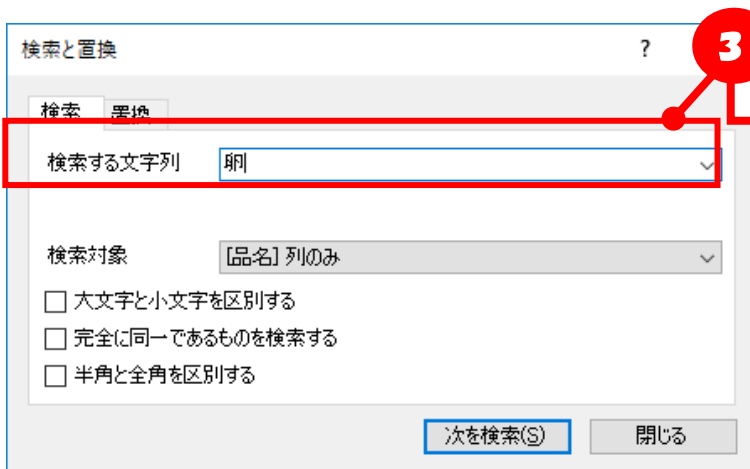
10 [インポート]をクリック

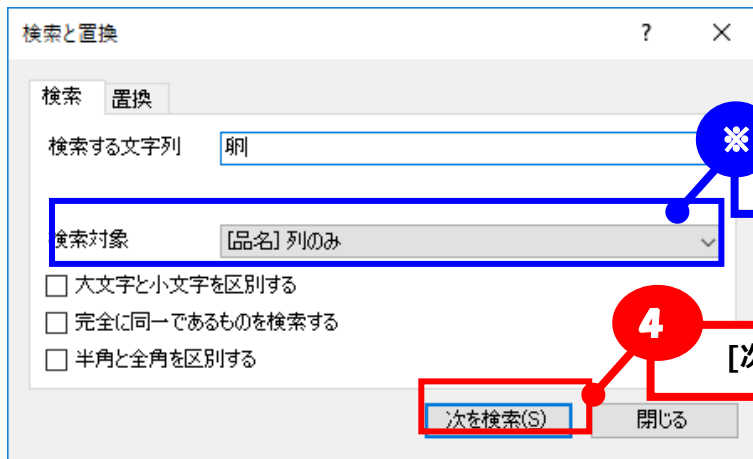


■ 呼出しテーブルデータの検索/置換手順



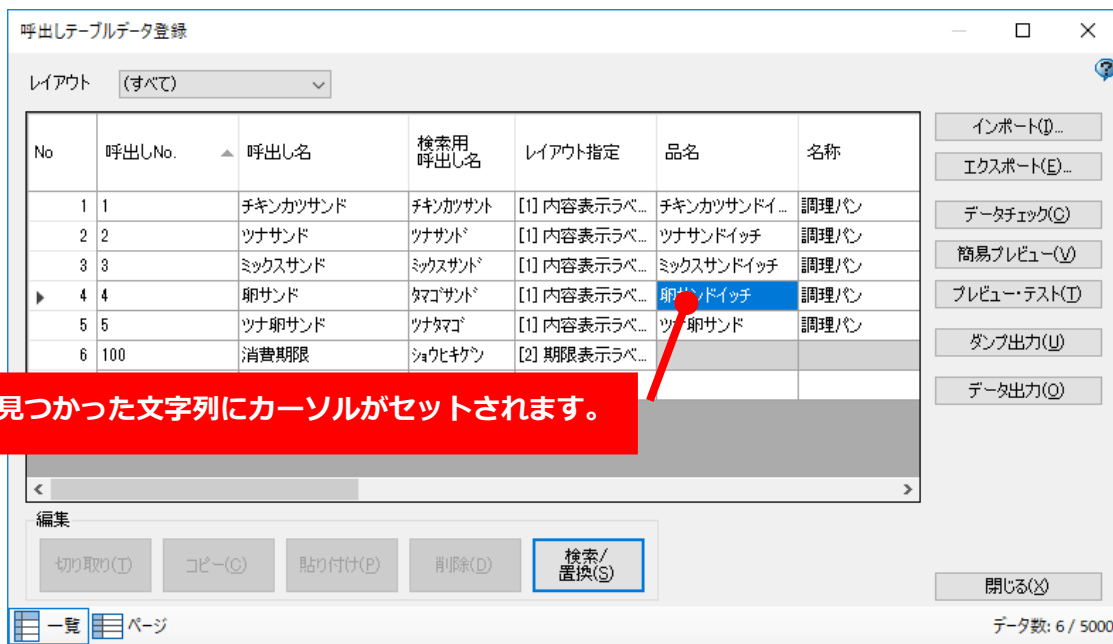
<検索>





※ [検索対象]で列を絞り込んで検索も可能

4 [次を検索]をクリック



検索で見つかった文字列にカーソルがセットされます。

呼出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	品名
1	1	チキンカツサンド	チキンカツサンド	[1] 内容表示ラベ...	チキンカツサンドイ...
2	2	ツナサンド	ツナサンド	[1] 内容表示ラベ...	ツナサンドイッチ
3	3	ミックスサンド	ミックスサンド	[1] 内容表示ラベ...	ミックスサンドイッチ
4	4	卵サンド	タマゴサンド	[1] 内容表示ラベ...	卵サンドイッチ
▶ 5	5	ツナ卵サンド	ツナタマゴ	[1] 内容表示ラベ...	ツナ卵サンド
6	100	消費期限	ショウヒキケン	[2] 期限表示ラベ...	

「次を検索」すると指定した列の中で対象の文字列を検索します。

<置換>

検索と置換

検索 置換

検索する文字列 卵

置換後の文字列 タマゴ

検索対象 [品名]列のみ

大文字と小文字を区別する

完全に同一であるものを検索する

半角と全角を区別する

すべて置換(A) 置換(B) 次を検索(S) 閉じる

3 [検索する文字列]に検索したい単語を入力
[置換後の文字列]に検索した単語を置き換える
単語を入力

※ [検索対象]で列を絞り込んで置換も可能

4 [すべて置換]をクリック

e-Labe Designer

? 2件のデータを置換しますか?
この操作は元に戻せません。

はい(Y) いいえ(N)

5 [はい]をクリック

呼び出しテーブルデータの置換は元に戻せません。
置換後に取り消したい場合は、呼び出しテーブルデータ登録画面を
保存せずに閉じて、再度やり直してください。

e-Labe Designer

i 2件のデータを置換しました。

OK

6 [OK]をクリック

呼び出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	品名
1	1	チキンカツサンド	チキンカツサ	[1] 内容表示ラベ...	チキンカツサンドイ...
2	2	ツナサンド	ツナサト	[1] 内容表示ラベ...	ツナサンドイッチ
3	3	ミックスサンド	ミックスサト	[1] 内容表示ラベ...	ミックスサンドイッチ
4	4	卵サンド	タマゴサト	[1] 内容表示ラベ...	タマゴサンドイッチ
5	5	ツナ卵サンド	ツナタマゴ	[1] 内容表示ラベ...	ツナタマゴサンド
6	100	消費期限	ショウヒキク	[2] 期限表示ラベ...	

6.データウィンドウ解説

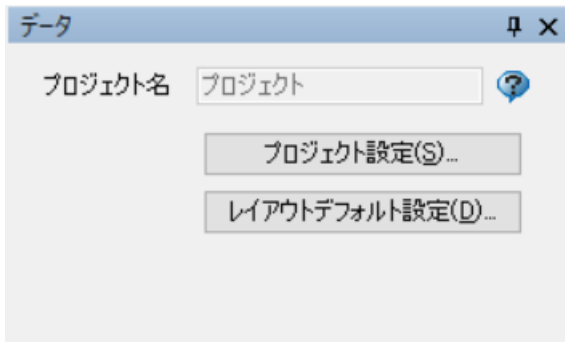


1.ファイルプロパティ

1.プロジェクト

プロジェクト情報の設定をおこなう画面です。

プロジェクト全体の設定や、新規レイアウト作成時の初期値を設定できます。



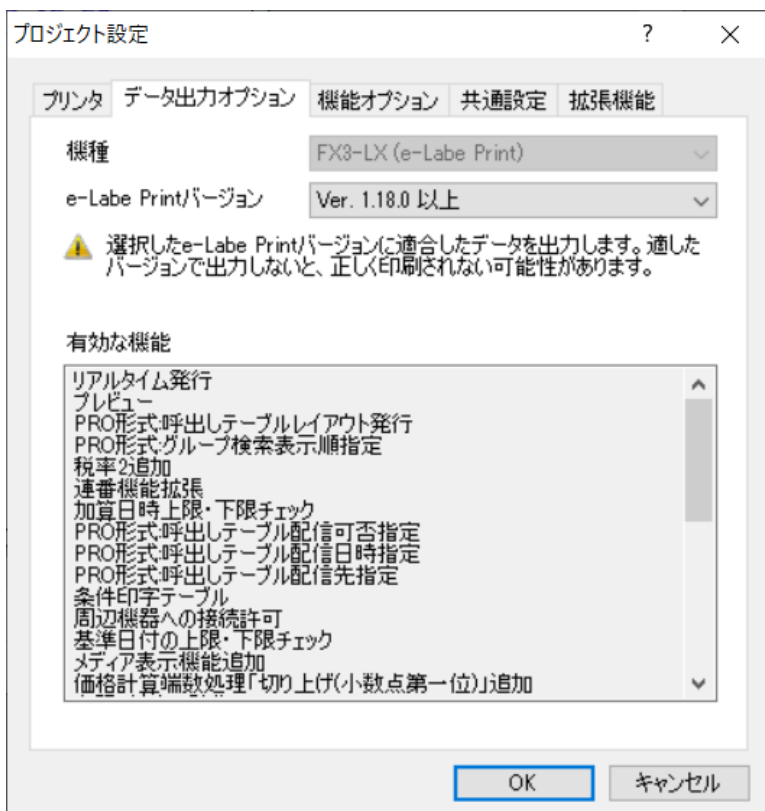
・プロジェクト名

保存したファイル名をプロジェクト名として表示します。

・プロジェクト設定 (ボタン)

プロジェクト設定画面を開きます。

プロジェクト全体の設定を変更する画面です。



・データ出力オプションタブ ※この機能は管理者用です

データ出力時のオプションを設定する画面を開きます。

e-Labe Print の過去のバージョンに適合したデータを出力するための機能です。

詳細説明は[こちら](#)をご参照ください。

・機能オプションタブ

プロジェクト全体のオプションを設定する画面を開きます。詳細説明は[こちら](#)をご参照ください。

・共通設定タブ

プロジェクト全体の共通設定画面を開きます。詳細説明は[こちら](#)をご参照ください。

・拡張機能タブ [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

拡張機能画面を開きます。

「周辺機器への接続を許可」

チェックを ON にしてデータ出力したフォーマットファイルは、e-Labe Print で周辺機器接続有効のフォーマットファイルとして認識されます。

「拡張パラメータを使用」 [e-Labe Print バージョン 1.16.0 以上で有効]

チェックを ON にすると、「編集」ボタンから拡張パラメータファイル (ExpandedParameter.xml) の編集が可能です。拡張パラメータ設定が ON の状態で出力されたフォーマットファイルを読み込むことで e-Labe Print で音声発話やダイアログ表示などの拡張機能を利用できます。

(本機能のご利用については、販売店、またはディーラーにご相談ください。)

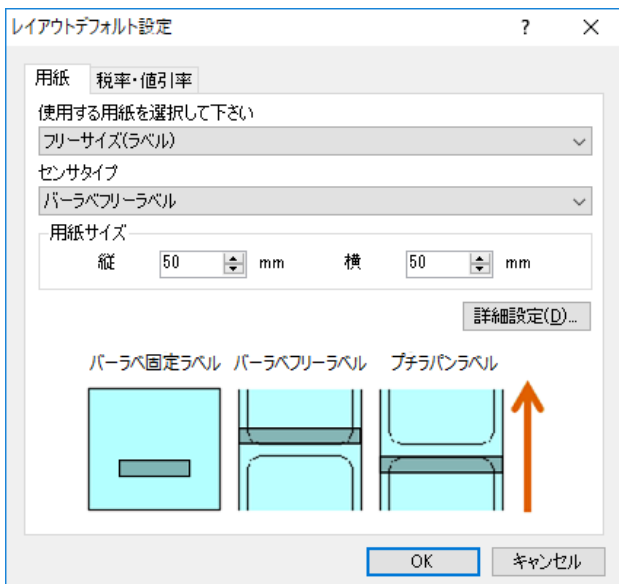
・レイアウトデフォルト設定 (ボタン)

レイアウトデフォルト設定画面を開きます。

この画面での設定内容は、新規にレイアウトをおこなう場合の初期値となります。

注意：既存のレイアウトの設定を変更する場合は、「レイアウト設定」から個別に設定を行ってください。

「レイアウトデフォルト設定」からの設定は既存のレイアウトには反映されません。



・用紙タブ

用紙設定画面を開きます。

・税率・値引率タブ

税率・値引率の設定画面を開きます。

2.レイアウト

レイアウト情報の設定をおこなう画面です。

ここで設定した値は、編集中のレイアウトに反映されます。

レイアウトは一つのプロジェクトで 500 件まで登録が可能です。

・レイアウト名

レイアウトの名称を設定します。

・レイアウト No.

レイアウトの番号を指定します。1～999 の番号が指定できます。

発行枚数指定

[e-Labe Print バージョン 1.18.0 以上で有効]

発行枚数を事前にセットしたり、発行枚数の入力範囲をセットします。

入力：設定した発行枚数を初期値として表示します。発行時に発行枚数を変更可能です。「詳細設定」で入力範囲（上限値・下限値）設定が可能です。

固定：設定した発行枚数で発行します（発行時変更不可）。

参照：文字列オブジェクトの値を発行枚数として参照します。

詳細は「7.特別な操作」の「[31.発行枚数をプリセットする方法](#)」ならびに「[32.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法](#)」をご参照ください。

検索

・バーコード

バーコード検索の際にキーとなるオブジェクトをレイアウトに登録されている「文字列オブジェクト」または「バーコードオブジェクト」の中から選択します。検索キーとして設定可能な条件は以下の通りです。

オブジェクト種：文字列 またはバーコード

最大桁数：26 桁

入力値：半角英数カナ ※全角文字がセットされている場合は、データ出力時エラーになります

入力方法：固定（ただし、初期値がセットされていること） もしくは

参照・結合（ただし、参照先が固定の文字列・バーコード・価格の場合）

※プロジェクト設定の「バーコード検索モード」が「FI ツール PRO 互換モード」の場合のみ、本画面でバーコード検索キーを設定することが可能です。

・読み取り専用（トグルボタン）

ボタンを ON にすることで、変更内容の上書きを禁止します。

・レイアウト設定（ボタン）

レイアウト設定画面（用紙情報、税率・値引率、基準日付設定）を開きます。

レイアウト設定

用紙 税率・値引率 基準日付

使用する用紙を選択して下さい

フリーサイズ(ラベル)

センサタイプ

バーラベフリーラベル

用紙サイズ

縦 50 mm 横 50 mm

詳細設定(D)...

バーラベ固定ラベル バーラベフリーラベル プチラバンラベル

OK キャンセル

・用紙タブ

用紙設定画面を開きます。

・税率・値引率タブ

税率・値引率の設定画面を開きます。

・基準日付タブ [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

基準日付の一時変更範囲指定画面を開きます。

・発行履歴データ設定（ボタン）

発行履歴データ設定画面を開きます。

発行履歴データ設定

No.	履歴項目	開始桁	桁数	サンプル
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

合計 0 桁

追加(A) 削除(D) 上へ(U) 下へ(W)

OK キャンセル

・条件テーブル（ボタン） [e-Labe Print バージョン 1.5.0 以上で有効]

条件テーブル登録画面を開きます。

No.	判定オブジェクト	判定形式	条件	判定値種別	判定値1	判定値2	アクション
▶ 1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							

3.テーブル

テーブル情報の設定をおこなう画面です。

テーブルは、一つのプロジェクトで漢字テーブル 99 件、グラフィックテーブル 1 件、店名テーブル 1 件の登録が可能です。

・テーブル名

テーブルの名称を設定します。

・テーブルNo.

テーブル番号を表示します。

漢字テーブルのテーブル番号は 1～10、111～199 です。

・e-Labe Print でのマスター編集を許可 [e-Labe Print バージョン 1.11.0 以上で有効]

対象：漢字テーブル、店名テーブル

チェック有効：e-Labe Print の「フォーマット別マスター編集」機能でデータ編集が可能となります。

ラベル発行時は「LocalTables」フォルダ内のデータを優先的に参照します。

初期値はチェック有効です。

チェック無効：e-Labe Print の「フォーマット別マスター編集」機能でデータ編集はできません。

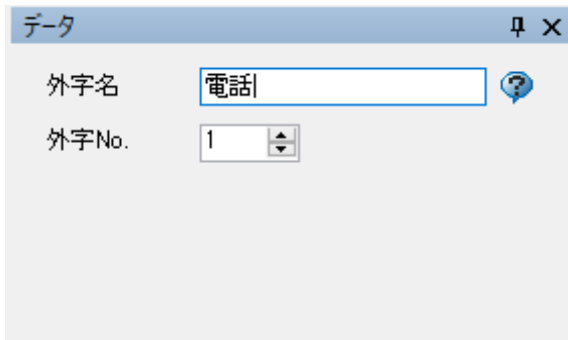
ラベル発行時は「FormatFiles」フォルダ内のデータを参照します。

(チェックが無効の場合は LocalTables フォルダ内のデータは参照しません)

4.外字

外字情報の設定をおこなう画面です。

外字は、**一つのプロジェクトで94個**まで登録が可能です。



The screenshot shows a dialog box titled "データ" (Data) with a close button (X) and a help icon (?). It contains two input fields: "外字名" (Alias Name) with the text "電話" (Telephone) and a help icon, and "外字No." (Alias No.) with the value "1" and a spinner control.

・外字名

外字の名称を設定します。

・外字 No.

外字No.を設定します。

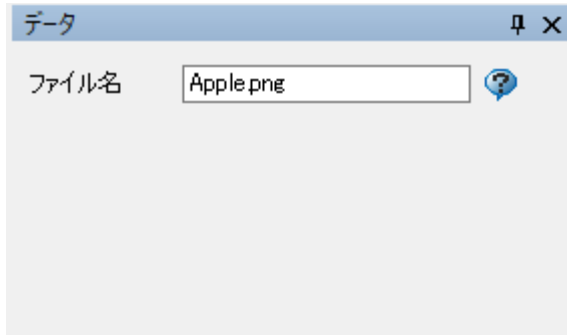
レイアウト作成時に登録外字を使用する際には、この番号で指定します。

5.内部フォルダ

画像や動画などのファイルを取り込んでプロジェクト内に登録する画面です。

ツール設定「メディア表示機能を使用」のチェックを ON にするとプロジェクトに新規追加が可能となります。サブフォルダを作成することもできます。

内部フォルダを使うとフォーマットファイルにメディアデータを含めて配信することができます。ただし、ファイルサイズが大きくなります。



・ファイル名

取り込んだファイルの名称が表示されます。変更も可能です。

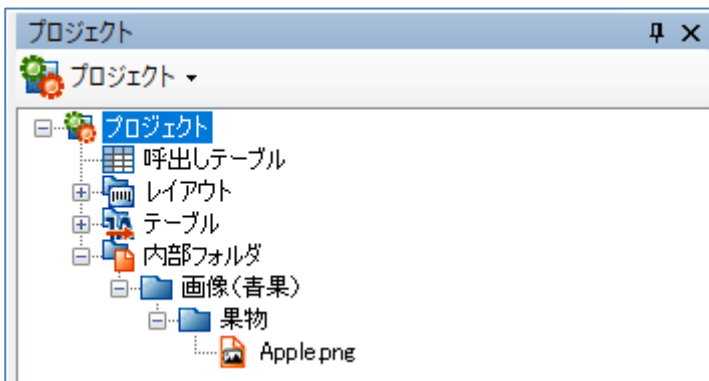
[最大桁数について]

フォルダ名およびファイル名を合わせたパス情報は最大半角 100 桁です。

例) 以下の内部フォルダの Apple.png のパス情報

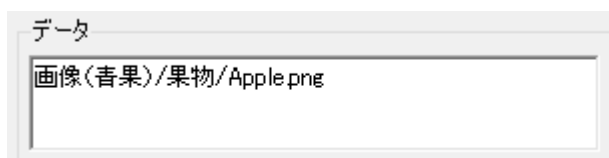
画像 (青果) / 果物 / Apple.png

<-----最大 100 桁----->



パス情報は、文字列に直接セット、プリセットデータでセット、テーブルに登録したパスを呼び出すなどが可能です。

- ・文字列オブジェクトの「データ」にパスをセット



- ・呼出しテーブルデータにセット

呼出しテーブルデータ登録					
レイアウト (すべて)					
No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	ラベル貼り付け位置画像
1	1	りんご		[1] レイアウト1	画像(青果)/果物/Apple.png
▶*	2				

- ・漢字テーブルにパス情報を登録し呼び出してセット

[1] 画像パステブル - テーブル編集		
No.	登録番号	漢字テーブル1
1	1	画像(青果)/果物/Apple.png
2	2	画像(青果)/果物/banana.png
3	3	画像(青果)/果物/Grape.png

機能

テーブル変換

[1] 画像パステブル

データ行数 28 桁

データ

1

2.オブジェクトプロパティ

1.文字列オブジェクト

文字列オブジェクトの各種設定をおこなう画面です。

データ

項目名

入力方法

固定

発行時(データ)

参照・結合

機能

テーブル変換

データ桁数 桁

データ

データセット

商品名

表示

フォント

縦サイズ 倍 横サイズ 倍

文字間隔 pt

文字の横幅を縮小して全体を表示

印字しない

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目を設定します。
入力方法が「発行時（データ）」の時は、e-Labe Print の入力画面に入力項目名として表示されます。
また、「データ」に値がセットされていない時は青色の文字で、“（項目名）”とデザイン画面上に表示されます。項目名は 32 桁まで設定可能です。

入力方法（ラジオボタン）

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時

e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。

「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

・詳細設定 (ボタン)・・・発行時 (データ) 選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。

データ加工 入力詳細

入力チェック

桁数

文字種

入力値を保存する

入力値の保持期間

変更時のパスワード入力

閉じる(O)

・桁数

チェックなし、桁数必須入力、入力必須 (未入力禁止)、0 入力禁止のいずれかを設定できます。

・文字種

チェックなし、数字のみ、英字・記号のみ、カナのみ、英数字・記号のみ、カナ・数字のみ、カナ・英字・記号のみのいずれかを設定できます。

「数字のみ」を選択時、e-Labe Print の入力画面はテンキーのみ表示します。

・入力値を保存する (チェックボックス) ※入力方法が「発行時 (データ)」の場合 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付 (システム日付) が変わるまで保持します (但し、発行中や文字列の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します)

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください

- ・フォーマットファイルが更新された場合
- ・オーバーライドファイルが更新された場合
- ・フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド (置き換え) 機能」をご参照ください

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

文字列の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定 (ボタン)・・・参照・結合 選択時

データの参照・結合設定の内容を設定します。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	固定	02		2	
2	参照	商品コード	1	6	右詰め0補填
3	参照	本体価格	1	4	右詰め0補填
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

・No

項目の順番です。

・種類

結合するデータの種類を選択します。

種類	編集タイプ	説明
固定	—	データに固定の値をセットします
外字	—	あらかじめ登録した外字を参照します
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照 (ユーザ定義)	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前0削除	半角数字の前後のスペース、前0を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。

種類が「参照 (ユーザ定義)」の場合、参照 (ユーザ定義) 詳細設定ダイアログが開きます。

参照 (ユーザ定義) 詳細設定 (カンマ区切りの値を参照/桁数を参照/数字の空白、前0削除)

編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前0削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照 選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「[7.特別な操作](#)>[28.最大値／最小値を参照する方法](#)」をご参照ください。

編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No./呼出しデータ名/端末 No./発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

※呼出し No.については 4 桁右詰め 0 補填固定となります。

・補填種別

参照したデータが桁数に満たなかった場合の補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
補填しない	補填しません	入力桁数：5 桁、入力：120 ⇒ 120
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の“半角スペース”を補填します	入力桁数：5 桁、入力：120 ⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の“半角スペース”を補填します	入力桁数 5 桁、入力：120 ⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め 0 補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の“0”を補填します	入力桁数 5 桁、入力 120 ⇒ 00120

機能

・テーブル変換（チェックボックス）

該当項目をテーブル変換します。

「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に反映されます。

プロジェクト内に登録されているテーブルをリストボックスから選択します。

・データ桁数

「固定」、「参照」以外のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、「発行時（データ）」：1000 桁、「発行時（テーブル）」：1000 桁までです。

※データセットで呼出しテーブル定義の項目と紐付けをおこなう場合は、呼出しテーブル定義で設定された桁数以上に設定する必要があります（桁数が不足していると、正しく印字されない場合があります）

データ

・データ

項目に、データをセットします。入力方法で「固定」を選択した場合は、セットされたデータがそのまま印字されます。「発行時（データ）」の場合は、e-Labe Print で初期値として使用されます。ただし、「固定」時も「発行時（データ）」選択時も、データセットで「呼出しテーブル定義」項目に紐付けを行った場合は、呼出しテーブルに登録したデータが印字または初期値となります。

・データセット（チェックボックス）

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。チェックした項目は、リストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・データセット用リストボックス

データセット（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「（新規）..」を選択することでオブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されず。

表示

・フォント名

フォントの種類を選択します。名称が「プリンタ_x x x x」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ

フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ

フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

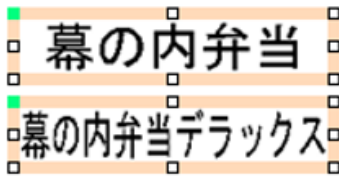
・文字間隔

文字間隔をポイントで指定します。

・文字の横幅を縮小して全体を表示（チェックボックス）

[e-Labe Print バージョン 1.14.0 以上で有効]

入力した文字列が領域内に収まらないときに、自動的に文字の横サイズを縮めて全体を表示します。本項目が ON のとき、オブジェクトの横幅を任意のサイズに拡大、縮小できるようになります。

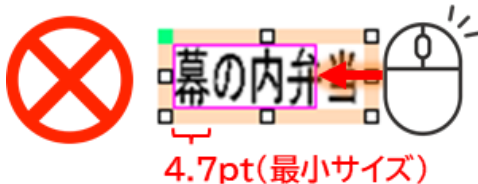


※横サイズを自動で縮小

※本機能が利用できるのは「プリンタ_漢字(UD ゴシック)」選択時です。

※「文字領域補正」で拡張した領域は文字幅縮小時の計算に含みません。

※オブジェクトの横幅はフォントの横サイズの最小値×最大桁数分より縮めることはできません。



・左寄せ (トグルボタン)

指定された桁数に満たない場合に、文字を左寄せします。

・センタリング (トグルボタン)

指定された桁数に満たない場合に、文字を中央寄せします。

・右寄せ (トグルボタン)

指定された桁数に満たない場合に、文字を右寄せします。

・均等 (トグルボタン)

印字指定領域内に文字の横幅を合わせます。

・0 補填 (トグルボタン)

指定された桁数に満たない場合に、文字に 0 補填します。0 補填を有効時、データは右寄せとなりデータの前に 0 が付加されます。

・横書き/縦書き (トグルボタン)

横書きと縦書きを切り替えます。フォントによって縦書き指定はできません。



※縦書き時、ツール上の半角の数字、英字、記号は実際の印字とは異なり横に倒した表示となります。

・改行 (トグルボタン)

指定された領域内で、改行するかどうかを設定します。

・高さ自動調整 (トグルボタン) [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

オブジェクトの高さがデータに応じて可変するかどうかを設定します。

用紙種が「可変長 (ノンセパラベル)」「可変長 (ジャーナル紙)」の場合に設定可能です。

表示

・白黒反転ボタン (トグルボタン)

白黒反転印字をします。

・印字しない (チェックボックス)

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定 (ボタン) . . . 文字列表示設定

文字調整

注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。

また、文字種によって操作できる内容が異なります。



・ボールド (トグルボタン)

文字を太文字にします。

・イタリック (トグルボタン)

文字を斜体にします。

・下線 (トグルボタン)

文字の下に下線を引きます。

・プロポーショナル (トグルボタン)

文字間隔を文字ごとの横サイズで詰めます。

・上寄せ (トグルボタン)

印字指定領域の上方に寄せます。

・上下中央寄せ (トグルボタン)

印字指定領域の上下中央に寄せます。

・下寄せ (トグルボタン)

印字指定領域の下方に寄せます。

改行設定 ※入力方法「固定」で「データセット」でない場合のみ有効

※「改行設定」で設定できる改行は、桁数改行を選択時の強制改行記号を除いて Designer 上で編集します。そのため、「発行時(データ)」項目や「固定」でも「データセット」機能を使っていて、印字データが e-Labe Print で編集される項目には使用できません。

・改行方法

「領域改行」か「桁数改行」を選択します。改行方法により使用できる機能に差があります。

機能	領域改行	桁数改行
センタリング	○	×
文字均等	○	×
自動改行時の右寄せ	○	×
強制改行記号 (発行時データ項目、データセット項目 ※左寄せ時のみ)	×	○

※Ver.1.12 以前のレイアウトと互換が必要な場合は「領域改行」を選択してください

・改行桁数

改行桁数を指定します。

・行間隔

改行した際の前行との文字間隔を指定します。

・強制改行記号

項目内のデータにここで指定した記号があった場合は、桁数、領域関係無しに強制的に改行されます。強制改行記号は 2 文字以上の組み合わせの指定も可能です。また、指定した文字は印字データには反映されません。

・改行可能記号

ここでセットされた値を改行タイミングの目安とします。

桁数、領域の範囲でも、値と値に挟まれた単語が次の行にまたがる場合は、前の単語の終了時に事前に改行を行います。

改行設定詳細 ※入力方法「固定」で「データセット」でない場合のみ有効

改行設定の方法によって、以下の様に動作します。

ご飯、にんじん、さといも、こんにゃく、たまねぎ、れんこん、キャベツ、トマト、シャケ、牛肉、醤油、からし

改行桁数で「32 文字（全角 16 文字）」を指定すると……

原材料	ご飯、にんじん、さといも、こんにゃく、たまねぎ、れんこん、キャベツ、トマト、たまご、しゃけ、牛肉、醤油、からし
-----	---

改行可能文字で「、」を指定すると……

原材料	ご飯、にんじん、 <u>さといも、</u> こんにゃく、たまねぎ、 <u>れんこん、</u> キャベツ、トマト、 <u>たまご、</u> しゃけ、牛肉、醤油、からし
-----	---

たまご ×¥n 乳 ×¥n 小麦 ×¥n そば ×¥n 落花生 ×¥n

強制改行記号を「¥n」に指定すると・・・

【5大アレルギー表示】	
た ま ご	×
乳	×
小 麦	×
そ ば	×
落 花 生	×

文字領域補正

文字領域を補正する

補正值 mm

高さ調節

最小行数 行

縦位置の相対設定

基準とするオブジェクト

mm

Key-Bo互換文字編集

ダンプ出力時のみ印字

閉じる(C)

文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する（チェックボックス）

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正值

オブジェクトの横幅を拡張します。

ただし拡張した領域は「文字の横幅を縮小して全体を表示」の文字幅の計算には含みません。

高さ調節 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

・最小行数

高さ自動調整時の最小値を文字列の行数単位で設定します。

印字データが短い場合でも、最小行数分のオブジェクトの高さを確保します。

「0」：高さを確保しません（印字データに合わせてオブジェクトの高さが変わります）

「1」 以上の値：指定された行数分の高さを確保します

縦位置の相対設定 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・ **オブジェクトからの間隔**

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

ダンプ出力時のみ印字 ※入力方法「固定」および「参照・結合」の場合のみ有効

ダンプ出力時のみ印字したい場合にチェックします。チェックを入れ呼出し No.などを参照することにより、印字結果が識別し易くなります。

※「印字しない」設定と「ダンプ出力時のみ印字」を同時に有効にすることはできません（「印字しない」が優先されます）。

2.価格オブジェクト

価格オブジェクトの各種設定をおこなう画面です。

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法 (ラジオボタン)

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時 (データ)

e-Labe Print で発行時に入力 (変更) 可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照

別項目の値を税、割引計算結果として参照します
参照可能な項目は、価格計算機能が ON になっている項目です。

参照元の価格計算の設定により、参照できる値が切り替わります。

○税計算

[税込み] : 「税込価格」、「消費税額」

[税込み (小数)] : 「税込み価格整数部」、「税込み価格小数部」

[税抜き] : 「税抜価格」、「消費税額」

○値引き計算 : 「値引き後価格」、「値引き額」

また、複数税率を使用しているレイアウトの場合、税率毎に上記の参照できる値が表示されます。

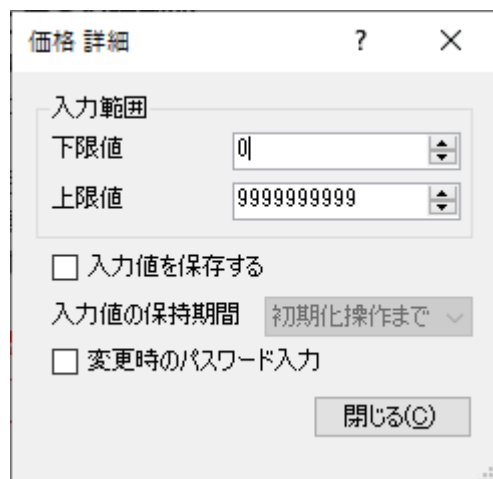
・データ桁数

「発行時 (データ)」のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、最大 10 桁です。
ここで設定する値は、入力する桁数です。(¥, 補填する場合の桁数を考慮する必要はありません)

データセットで呼出しテーブル定義の項目と紐付けをおこなう場合は、呼出しテーブル定義で設定された桁数以上に設定する必要があります (桁数が不足していると、正しく印字されない場合があります)

詳細設定 (ボタン) . . . 発行時 (データ) 選択時

入力範囲を設定します。



・ **下限値**
入力の最小値を設定します。

・ **上限値**
入力の最大値を設定します。

・ 入力値を保存する (チェックボックス) ※入力方法が「発行時 (データ)」の場合 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・ 入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付 (システム日付) が変わるまで保持します (但し、発行中や価格の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します)

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください

- ・ フォーマットファイルが更新された場合
- ・ オーバーライドファイルが更新された場合
- ・ フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド (置き換え) 機能」をご参照ください

・ 変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

価格の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

データ

・ データ

項目に対する、データをセットします。入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータがそのまま印字されます。「発行時 (データ)」の場合は、e-Labe Print で入力項目の初期値として表示されます。ただし、「固定」時も「発行時 (データ)」選択時も、データセットで「呼出しテーブル定義」項目に紐付けを行った場合は、呼出しテーブルに登録したデータが印字または初期値となります。

・ データセット (チェックボックス)

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。
チェックした項目は、リストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・データセット用リストボックス

データセット（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。

リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「（新規）..」を選択することで、オブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されます。

表示

・フォント名

フォントの種類を選択します。

名称が「プリンタ_x x x x」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。
使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・縦サイズ

フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・横サイズ

フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・文字間隔

文字間隔をポイントで指定します。

・通貨書式

価格の通貨書式を設定します。

・左寄せ（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字を左寄せします。

・センタリング（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字を中央寄せします。

・右寄せ（トグルボタン）

指定された桁数に満たない場合に、文字を右寄せします。

・均等（トグルボタン）

印字指定領域内に文字の横幅を合わせます。

・0 補填（トグルボタン）・・・設定不可

・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定 (ボタン) . . . 価格表示詳細

価格項目の詳細設定を行います。



文字調整

注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。

・ボールド (トグルボタン)

文字を太文字にします。

・イタリック (トグルボタン)

文字を斜体にします。

・下線 (トグルボタン)

文字の下に下線を引きます。

・プロポーショナル (トグルボタン)

文字間隔を文字ごとの横サイズで詰めめます。

・上寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可

・上下中央寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可

・下寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可

通貨書式 (ユーザ定義)

ここで通貨書式を変更した場合は、通貨書式リストの選択内容が (ユーザ定義) に変更されます。

・通貨記号補填

通貨記号を補填する位置を設定します。

・桁区切り

カンマの補填あり、無しを設定します。

・小数点位置 . . . 設定不可

文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する (チェックボックス)

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正值

オブジェクトの横幅を拡張します。

縦位置の相対設定 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

その他

・価格計算機能を使用（チェックボックス）

項目で価格計算機能を使用する場合にチェックします。

・詳細設定（ボタン）・・・価格計算機能選択時

価格計算機能を設定します。

価格計算

価格計算

計算処理 税込み

端数処理 四捨五入

端数処理桁数 小数点以下1桁

税率1 10 %

税率2 8 %

説明

本体価格を入力し、税込価格、消費税額を求めます。
【レイアウト作成方法】
価格1：本体価格入力用(この項目)
価格2：価格1で求めた税込価格を参照
価格3：価格1で求めた消費税額を参照
【端数処理計算について】

閉じる(C)

・計算処理

計算処理方法を設定します。

「レイアウト設定」で「税率」を設定している場合は、「なし」、「税込み」、「税込み(小数)」、「税抜き」のいずれかを選択でき、「割引率」を設定している場合は、「なし」、「パーセント引き」のどちらかを選択できます。それぞれの計算結果が反映された項目は、「参照」で設定できます。

・端数処理

税率・割引率計算時の端数処理方法を設定します。

「切り捨て」「切り上げ」「切り上げ(小数点第一位)※」「四捨五入」のいずれかを選択できます。

※[e-Labe Print バージョン 1.6.2 以上で有効]

・端数処理桁数

端数処理丸めをおこなう時の桁数を設定します。

・税率／割引率

レイアウトで設定中の税率、割引率を表示します。

レイアウト設定で「複数税率を指定」チェックがオンの場合は税率1以外に税率2も表示されます。

端数処理	切り捨て	切り上げ	切り上げ (小数点第一位)	四捨五入
計算処理				
税込み	○	○	○	○
税込み(小数)	○	○		○
税抜き	○	○	○	○

価格の計算処理、端数処理についての詳細は「7.特別な操作>15.価格計算の設定方法」をご参照ください

3.バーコードオブジェクト

バーコードオブジェクトの設定をおこなう画面です。

データ

項目名 JAN13

入力方法

固定

発行時(データ)

参照・結合

詳細設定(N)...

機能

テーブル変換

データ桁数 12 桁

データ

000000000000

データセット

JAN13

表示

バーコード種 JAN13

高さ 10.250 mm

細バー幅 4 倍

バー比率 任意比率(R)...

解説文字付加 C/D自動付加

スタートコード

ストップコード

印字しない

詳細設定(P)...

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法 (ラジオボタン)

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時 (データ)

e-Labe Print で発行時に入力 (変更) 可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。

「参照 (ユーザ定義)」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

機能

・テーブル変換 (チェックボックス)

該当項目をテーブル変換します。

「データ」にセットされた値は初期値として、e-Labe Print に反映されます。

プロジェクト内に登録されているテーブルをリストボックスから選択します。

・データ桁数

「固定」、「参照」以外のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、発行時 (データ) : 1000 桁、発行時 (テーブル) : 1000 桁までです。

ここで設定する値は、入力する桁数です。

(START/STOP コード、C/D 自動付加の桁数は含みません)

データセットで呼出しテーブル定義の項目と紐付けをおこなう場合は、呼出しテーブル定義で設定された桁数以上に設定する必要があります (桁数が不足していると、正しく印字されない場合があります)

・詳細設定 (ボタン) . . . 発行時 (データ) 選択時

入力時のチェック設定を行います。

データ加工 入力詳細

入力チェック

桁数 全桁必須入力

文字種 数字のみ

C/D チェック 自動生成

入力値を保存する

入力値の保持期間 初期化操作まで

変更時のパスワード入力

閉じる(C)

・桁数

桁数必須入力、入力必須 (未入力禁止) のいずれかを設定できます。

・文字種

チェックなし、数字のみ、英字・記号のみ、英数字・記号のみのいずれかを設定できます。

・C/D チェック

なし、自動生成、入力データと照合のいずれかを設定できます。※C/D 設定ができないバーコード種もあります。

・入力値を保存する (チェックボックス) ※入力方法が「発行時 (データ)」の場合 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・入力値の保持期間

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付 (システム日付) が変わるまで保持します (但し、発行中やバーコードの入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します)

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください

- ・フォーマットファイルが更新された場合
- ・オーバーライドファイルが更新された場合
- ・フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド (置き換え) 機能」をご参照ください

・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

バーコードの変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定 (ボタン) . . . 参照・結合 選択時

データの参照・結合設定を行います。



・No

項目の順番です。

・種類

結合するデータの種類を選択します。

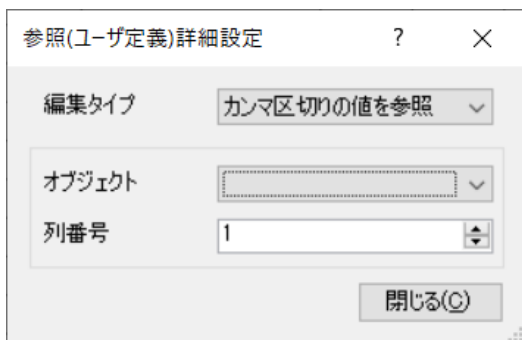
種類	編集タイプ	説明
固定	—	データに固定の値をセットします
バイナリ	—	データに制御コードをセットします ※QR コードのみ
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照 (ユーザ定義)	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前0削除	半角数字の前後のスペース、前0を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。

種類が「参照（ユーザ定義）」の場合、参照（ユーザ定義）詳細設定ダイアログが開きます。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前0削除）



編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前0削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照 選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「[7.特別な操作](#)>[28.最大値／最小値を参照する方法](#)」をご参照ください。

No.	オブジェクト
1	
2	
3	
4	
5	

編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No./呼出しデータ名/端末 No./発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

・補填種別

補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
補填しない	補填しません	入力桁数：5 桁、入力：120 ⇒ 120
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の“半角スペース”を補填します	入力桁数：5 桁、入力：120 ⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の“半角スペース”を補填します	入力桁数 5 桁、入力：120 ⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め 0 補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の“0”を補填します	入力桁数 5 桁、入力 120 ⇒ 00120

データ

・データ

項目に、データをセットします。入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータがそのまま印字されます。「発行時（データ）」の場合は、e-Labe Print で入力項目の初期値として表示されます。

ただし、「固定」時も「発行時（データ）」選択時も、データセットで「呼出しテーブル定義」項目に紐付けを行った場合は、呼出しテーブルに登録したデータが印字または初期値となります。

・データセット（チェックボックス）

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。

チェックした項目は、リストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・データセット用リストボックス

データセット（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。

リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「（新規）..」を選択することでオブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されます。

表示

・バーコード種

バーコードの種類を選択します。

※選択可能なバーコード種、注意点については「バーコード、2次元コードの種類について」をご確認ください。

・高さ

バーコードの高さを指定します。

・細バー幅

ナローバーの幅を指定します。ナローバー幅は3倍以上が推奨です。

・バー比率

バーコードの比率を設定します。

比率を設定できるバーコードは、CODE39、CODABAR、ITFの3種類です。

・任意比率（ボタン）・・・バー任意設定

バー比率が設定可能なバーコードで任意比率を選択した場合に、任意比率の構成を設定できます。

・細スペース線幅

バーコードを構成するナロースペースの幅を指定します。

・太スペース線幅

バーコードを構成するワイドスペースの幅を指定します。

・細バー線幅

バーコードを構成するナローバーの線幅を指定します。

・太バー線幅

バーコードを構成するワイドバーの線幅を指定します。

・解説文字付加（チェックボックス）

バーコードに解説文字を付加します。

バーコード種で解説文字付のバーコードを選択した場合は、チェックができません。

・C/D自動付加（チェックボックス）

チェックデジットの自動付加を有効にします。

・スタートコード/ストップコード

START コード、STOP コードの設定を行います。

・印字しない (チェックボックス)

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定 (ボタン) . . . バーコード表示詳細



・フォント名

解説文字で使用する文字フォントの種類を選択します。

・縦サイズ

解説文字の縦サイズを倍率またはポイントで設定します。

・横サイズ

解説文字の横サイズを倍率またはポイントで設定します。

・文字間隔

解説文字の文字間隔を設定します。

・行間隔

バーコードから解説文字までの距離を設定します。

縦位置の相対設定 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長 (ノンセパラベル)」「可変長 (ジャーナル紙)」の場合に設定可能です。ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない (0 度)
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

■バーコード、2次元コードの種類について

当アプリケーションで設定できる、バーコード、2次元コードの種類は以下の通りになります。
 チェックデジット付加時の算出方法、付加できる START/STOP コードは以下の通りになります。
 CODABAR (NW-7)、CODE39 の START/STOP コード付加は必須です。
 CODABAR (NW-7) にチェックデジットを指定した場合は、入力可能な文字は数字のみとなります。
 QR コードで入力が桁数に満たなかった場合は、左詰スペース補填されます。

名称	チェックデジット算出方法	START/STOP コード
CODABAR (NW-7)	7 チェック (7DR)	A,B,C,D,E,N,T a,b,c,d,e,n,t
CODE39	モジュラス 43	*
ITF	モジュラス 10/ウェイト 3	-
JAN13/EAN13	モジュラス 10/ウェイト 3	-
JAN13/EAN13 価格 C/D 付き	モジュラス 10/ウェイト 3	-
JAN8/EAN8	モジュラス 10/ウェイト 3	-
UPC-A	モジュラス 10/ウェイト 3	-
UPC-E	専用モジュラス 10	-
UPC アドオン	-	-
CODE128 A コード	- (モジュラス 103) ※1	-
CODE128 B コード	- (モジュラス 103) ※1	-
CODE128 C コード	- (モジュラス 103) ※1	-
GS1-128 (UCC/EAN128)	- (モジュラス 103) ※1	-
GS1 DataBar Omni-Directional	モジュラス 10/ウェイト 3 ※2	-
GS1 DataBar Stacked Omni-Directional	モジュラス 10/ウェイト 3 ※2	-
QR コード (モデル 2)	-	-

※1：チェックデジットはプリンタが自動付加するため、当アプリケーションで付加する必要はありません

また、解説文字にチェックデジットは表示されません

※2：GS1 DataBar Omni-Directional、GS1 DataBar Stacked Omni-Directional のツール画面で設定できるチェックデジットは GTIN (商品識別コード) のチェックデジットになります。シンボル構成の確認のためのチェックデジットはプリンタが自動付加します。

- セットされるデータである GTIN (商品識別コード) のチェックデジット (モジュラス 10/ウェイト 3)
- バーコードシンボルの構成が正しいかを確認するためのチェックデジット (モジュラス 79)

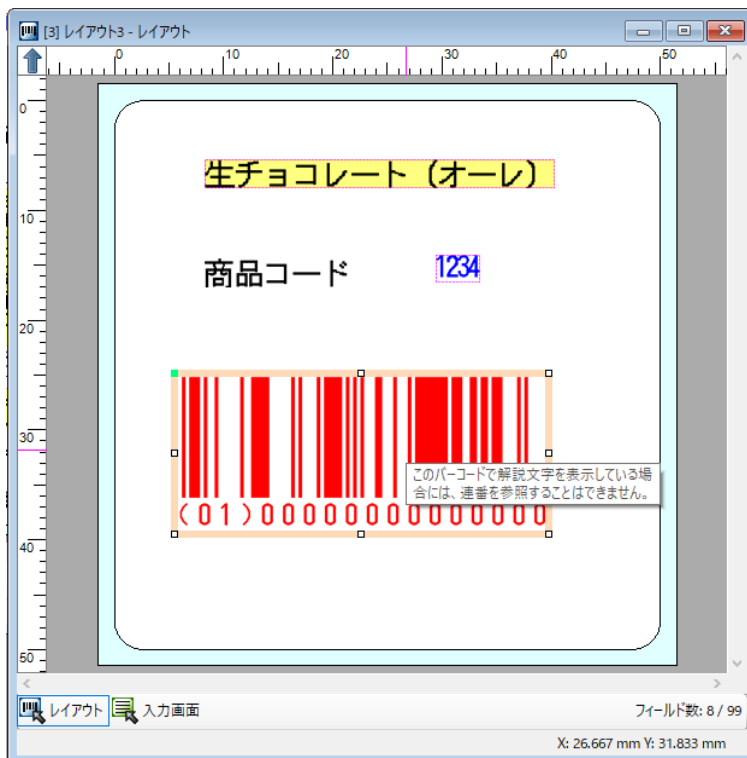
ツールで作成できる UPC-A、UPC-E、標準カートン ID 専用 GS1-128 については、以下の仕様になります。
該当するバーコードを利用する際には、ご注意ください。

バーコード種	入力桁数	C/D 自動付加	データ加工・ 入力詳細設定	バーコードデータと解説文字
UPC-A	11 桁	常に ON	設定不可	バーコード：0 補填+入力 11 桁+C/D 解説文字：入力 11 桁+C/D
UPC-E	6 桁	常に ON	設定不可	バーコード：入力 6 桁+C/D 解説文字：0 補填+入力 6 桁+C/D
GS1-128	17 桁	常に ON	設定不可	バーコード 00 補填+入力 17 桁+C/D 解説文字 (00) +入力 17 桁+C/D

■ GS1 DataBar での連番オブジェクト参照の制限について

連番オブジェクトは基本的に、バーコードオブジェクトで参照することが可能ですが、GS1 DataBar Omni-Directional 及び GS1 DataBar Stacked Omni-Directional の 2 種では、「解説文字付加」オプション使用時は連番オブジェクトを参照することができない仕様です。

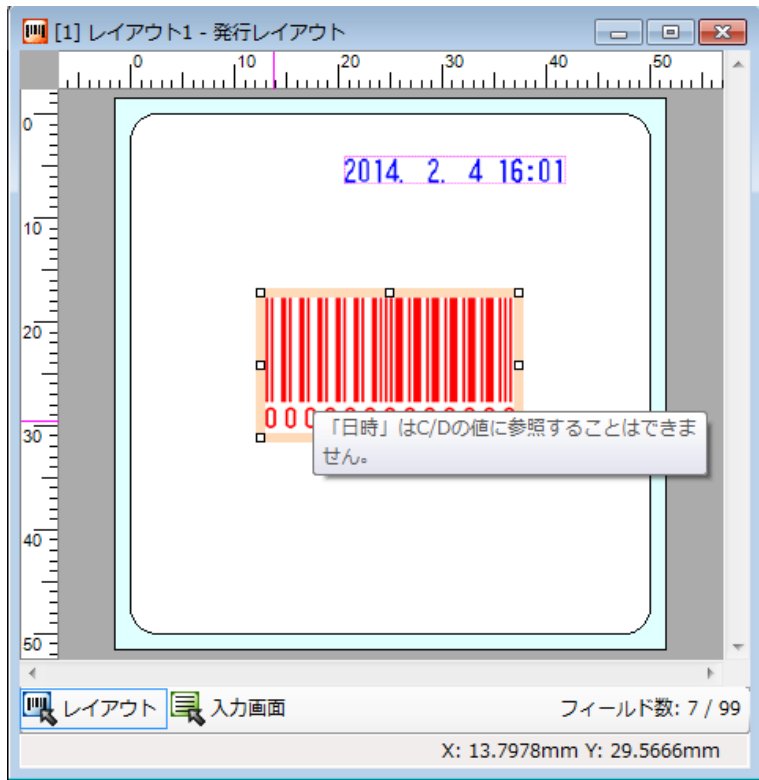
《エラー表示画面》



■ JAN13、JAN8 のチェックデジット部への参照制限について

連番オブジェクト、及び日時オブジェクトを JAN13、JAN 8 のチェックデジット部に参照させることはできない仕様です。

《エラー表示画面》



- QRコードの制御コードセット方法について

選択したバーコード種がQRコードの場合のみ、データに制御コードをセットすることが可能です。例えば、1行ごとに改行したデータをセットしたいなどの場合、データとデータの上に改行コードをセットできます。

【こんな値をセットしたい場合は・・・】



株式会社サトー[改行]
東京都〇〇区〇〇番[改行]
0120-XXXXXX

参照・結合 詳細

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	社名	1	14	補填しない
2	バイナリ	0D0A		2	
3	参照	住所	1	34	補填しない
4	バイナリ	0D0A		2	
5	参照	電話番号	1	12	補填しない
6					

- 可変長バーコードについて

桁数に指定が無いバーコードの場合、参照・結合画面の「補填種別：補填しない」を選択することで、セットする値によって長さが変わる可変長のバーコードを発行することが可能です。

参照・結合 詳細

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	社名	1	14	補填しない
2	バイナリ	0D0A		2	
3	参照	住所	1	34	補填しない
4	バイナリ	0D0A		2	
5	参照	電話番号	1	12	補填しない
6					

4.日時オブジェクト

日時オブジェクトの各種設定をおこなう画面です。

データ

項目名

入力方法

加算なし

加算あり

加算値参照

データセット フィールド

発行時変更あり

データ桁数 桁

表示

フォント

縦サイズ 倍 横サイズ 倍

文字間隔 pt

日付書式

日付・時間区切り文字

時間書式

印字しない

設定

リアルタイム発行

発行時表示する

参照を許可する

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法 (ラジオボタン)

・加算なし

発行時に e-Labe Print の基準日付をそのまま印字します。

・加算あり

発行時に e-Labe Print の基準日付に設定した値を加算して発行します。

消費期限、賞味期限の印字などに利用します。

・加算値

日時オブジェクトの日付に加算する値を指定します。設定可能最大値は年単位の場合が 9、月単位の場合は 99、日および時単位では 999 となります。

・加算単位

年・月・日・時を選択します。

※「加算日 1日を当日に含める」設定について

通常加算単位「日」を選択し、加算値「1」とセットすると翌日の日時が表示されますが、加算値「1」とセットした場合当日の日時を表示することもオプション設定で可能です。

その場合、加算単位の「日」は以下の表示になります。

データ

項目名

入力方法

加算なし

加算あり

加算値参照

データセット

参照を許可する

機能オプション

日時加算日の1日を当日に含める

グループ階層

無し

1階層 (大分類)

2階層 (大分類/中分類)

3階層 (大分類/中分類/小分類)

複数レイアウト指定

バーコード検索モード

呼出しテーブルフィールドで指定

FツールPRO互換モード

検索バーコードに、参照・結合項目を使用する

・加算値参照 (チェックボックス)

呼出しテーブルに設定した値や、他フィールドに入力された情報を参照した値を加算して発行します。

・データセット (ラジオボタン)

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。

チェックした項目は、直下のリストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・フィールド（ラジオボタン）

他のフィールドに入力された値を加算値として参照する場合にチェックします。参照対象とするフィールド項目名は、直下のリストボックスから選択します。

・リストボックス

加算値参照（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。

リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「（新規）..」を選択することで、オブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されます。

・発行時変更あり（チェックボックス）

発行時に加算値の変更が必要な場合に設定します。

・データ桁数

変更はできません。

表示の日付書式、日付・時間区切り文字、時間書式で設定した文字列の桁数から自動で算出されます。

また、詳細設定で設定できる別途記載の記載内容の桁数が上記の書式の桁数よりも多い場合は、そちらの桁数が反映されます。

詳細設定（ボタン）・・・加算値参照チェック フィールド選択時

加算値参照対象フィールドの参照桁数、別途記載の設定の有無、及び別途記載内容を設定します。

詳細設定

加算値参照

全桁

桁指定

開始桁 1 桁数 1

日付加算値入力範囲チェック

上限チェック

固定 0

参照

下限チェック

固定 0

参照

特殊処理

別途記載あり

別途記載内容

入力値を保存する

入力値の保持期間 初期化操作まで

変更時のパスワード入力

閉じる(C)

・全桁（ラジオボタン）

加算値参照対象フィールドの値全桁を指定できます。

・桁指定（ラジオボタン）

加算値参照対象フィールドの任意の桁を指定できます。

日付加算値入力範囲チェック

・上限チェック（チェックボックス）

加算値の上限チェックが可能です。e-Labe Print で加算

を入力時範囲外の値を入力するとチェックが掛かります。

・固定（ラジオボタン）

入力欄に入力した固定値で加算値のチェックを行います。

・参照（ラジオボタン）

コンボボックスで選択したオブジェクトの値で加算値チェックを行います。

・下限チェック（チェックボックス）

加算値の下限チェックが可能です。e-Labe Print で加算値を入力時範囲外の値を入力するとチェックが掛かります。

・ **固定 (ラジオボタン)**

入力欄に入力した固定値で加算値のチェックを行います。

・ **参照 (ラジオボタン)**

コンボボックスで選択したオブジェクトの値で加算値チェックを行います。

・ **特殊処理**

参照する下限チェックオブジェクトの値に対し、特殊な計算処理が行えます。加算値が「日」加算の場合

のみ有効です

なし：計算処理を行いません

3分の1ルール：以下のルールで計算します。

日時加算日の1日を当日に含める ON：参照したオブジェクトの値÷3

日時加算日の1日を当日に含める OFF：(参照したオブジェクトの値+1)÷3-1

※割り切れない場合は切り上げ

例) 参照したオブジェクトの値が28日の場合

日時加算日の1日を当日に含める ON：28÷3(切り上げ)=10

日時加算日の1日を当日に含める OFF：((28+1)÷3(切り上げ))-1=9

・ **別途記載あり (チェックボックス)**

発行時に「別途記載」表示を選択できます。

・ **別途記載内容**

別途記載をおこなう場合の記載内容を設定します。

(半角16文字、全角8文字まで設定が可)

・ **入力値を保存する (チェックボックス) ※入力方法が「発行時変更あり」が有効な場合 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]**

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・ **入力値の保持期間**

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LXの電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付(システム日付)が変わるまで保持します(但し、発行中や日時の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します)

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください

- ・ フォーマットファイルが更新された場合
- ・ オーバーライドファイルが更新された場合
- ・ フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能」
をご参照ください

・ **変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]**

日時の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

表示

・ **フォント名**

フォントの種類を選択します。

名称が「プリンタ_x x x x」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。
使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・ **縦サイズ**

フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・ **横サイズ**

フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・ **文字間隔**

文字間隔をポイントで指定します。

・ **日付書式**

日付の書式を選択します。

リストからユーザ定義を選択した場合は、「ユーザ定義」ボタンが有効になります。

・ **日付・時間区切り文字**

日付表示、時間表示をくぎるための文字を設定します。

半角スペースが初期値に設定されています。

・ **時間表示**

時間の書式を選択します。

リストからユーザ定義を選択した場合は、「ユーザ定義」ボタンが有効になります。

・ **左寄せ（トグルボタン）**

指定された桁数に満たない場合に文字を左寄せします。

・ **センタリング（トグルボタン）**

指定された桁数に満たない場合に文字を中央寄せします。

・ **右寄せ（トグルボタン）**

指定された桁数に満たない場合に文字を右寄せします。

・ **均等（トグルボタン）**

印字指定領域内に文字の横幅をあわせます。

・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・日時表示設定



文字調整

注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。

・ボールド（トグルボタン）

文字を太文字にします。

・イタリック（トグルボタン）

文字を斜体文字にします。

・下線（トグルボタン）・・・設定不可

・プロポーショナル（トグルボタン）・・・設定不可

・上寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・上下中央寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

・下寄せ（トグルボタン）・・・設定不可

文字領域補正

センタリングや右寄せ時、オブジェクトの横幅に文字が収まらない場合の領域補正に使用します。

・文字領域を補正する（チェックボックス）

オブジェクトの横幅の領域を補正するときにチェックします。

・補正值

オブジェクトの横幅を拡張します。

縦位置の相対設定 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列

- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

Key-Bo 互換文字編集（チェックボックス）

右寄せ時の印字を Key-Bo と同じ印字結果にしたい場合にチェックします。（通常は使用しません。右寄せをスペース補填で処理します。）

ユーザ定義（ボタン）

日付書式、時間書式のユーザ定義を行います。

日付書式、時間書式で「ユーザ定義」を選択した場合のみ設定が可能になります。

設定可能な桁数は、日付、時、分、区切り文字あわせて 32 文字（全角 16 文字）以下です。

・日付書式

日付の書式を設定します。

日付書式は、以下の半角アルファベットと「/」や「年」などの単位と組み合わせて指定することが可能です。

※ただし、カンマは設定できません。

YY: 年(2桁)

WW: 和暦(西暦+暦変換値の下2桁)

gggg: 元号(4桁、ユーザー設定から取得)

MM: 月

MMM: 月(英字表記)

DD: 日

・「月日」補填

1桁時の月、日の補填方法を選択します。

年はYYの場合は0補填、WWの場合は補填なしのスペースで表示されます。

任意の指定はできません。

・時間書式

以下の半角アルファベットと「:」や「時」などの単位と組み合わせて指定することが可能です。

※ただし、カンマは設定できません。

hh: 時(24時間制)

HH: 時(12時間制)

mm: 分

TT: AM/PM

tt: am/pm

TTTT: 午前/午後

・「時」補填

1 桁時の時の補填方法を選択します。

・「分」補填

1 桁時の分の補填方法を選択します。

設定

・リアルタイム発行（チェックボックス）

1 枚発行ごとに e-Labe Print の基準日付を参照し印字を行います。
ハクリ発行時などに使用します。

・発行時表示する（チェックボックス）

e-Labe Print の発行画面に項目を表示します。

「発行時変更あり」、「別途記載あり」の場合は、自動的にチェックがはいります。

・参照を許可する（チェックボックス）

別の項目からの参照を許可します。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補填種別
1	参照	日時1(曜日-数値)			
2		日時1			
3		日時1(年-4桁)			
4		日時1(年-2桁)			
5		日時1(和暦)			
6		日時1(元号)			
7		日時1(月)			
8		日時1(月-英字表記)			
9		日時1(日)			
10		日時1(時間-24時間制)			
11		日時1(時間-12時間制)			
12		日時1(分)			
13		日時1(AM/PM)			
14		日時1(am/pm)			
15		日時1(午前/午後)			
16		日時1(曜日-数値)			
		(呼出しNo.)			
		(呼出しデータ名)			
		(端末No.)			
		(発行枚数)			

参照・結合で参照を選択した場合に、書式を選択しながら参照が可能になります。
バーコードなどに日時を表示させる場合は、この機能を利用します。

※参照を許可した場合のみ、元の日時オブジェクトの「曜日」情報を数字で取得可能です。

0 : 日曜、1 : 月曜、2 : 火曜、
3 : 水曜、4 : 木曜、5 : 金曜、6 : 土曜

■加算値を他オブジェクトから参照する

加算値が「加算あり」、「別途記載なし」、「参照を許可する」の場合、他オブジェクトから加算値を参照することが可能です。

【参照できる他オブジェクト】

- ・ 文字列オブジェクト
- ・ バーコードオブジェクト
- ・ 日時オブジェクト（自分自身は不可）
- ・ 切替グラフィック ※加算値をグラフィック登録番号として参照可能

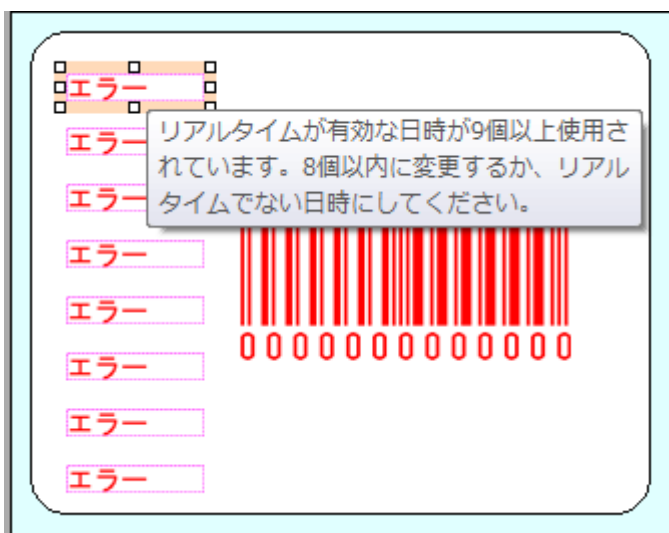
■リアルタイム発行が有効な日時オブジェクトの個数について

リアルタイム発行を有効にした日時オブジェクトは、1 レイアウトに **8 個** まで使える仕様です。日時オブジェクト自体だけでなく、値を参照した文字列なども 1 個としてカウントします。

《カウント条件》

- ・リアルタイム発行が有効な日時オブジェクト
- ・上記日時オブジェクトを参照した文字列やバーコード
- ・上記日時オブジェクトを参照したバーコードの解説文字
(解説文字付きバーコードはバーコード部分と、解説文字部分で2個としてカウントされます)
- ・「印字しない」設定の場合、上記に該当してもカウントされません

《9個以上のエラー画面》



5.連番オブジェクト

連番オブジェクトの各種設定をおこなう画面です。
連番は一つのレイアウトに 8 項目まで設定が可能です。

データ

項目名 シリアル番号

入力方法

固定

発行時(データ)

参照・結合

詳細設定(N)...

機能

加減値 1

連番値を保存する

連番値の保持期間 初期化操作まで

変更時のパスワード入力

詳細設定(D)...

データ桁数 8 桁

連番範囲 0 ~ 99999999

データ

1

データセット

シリアル番号

表示

フォント プリント_X2(12x30)

縦サイズ 1 倍 横サイズ 1 倍

文字間隔 0.0 pt

印字しない

詳細設定(P)...

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法 (ラジオボタン)

・固定

「データ」にセットされた値が反映、連番の初期値となります。

・発行時 (データ)

e-Labe Print で発行時に入力 (変更) 可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は連番開始値として、e-Labe Print に表示されます。

・参照・結合

文字列オブジェクトの値を連番の開始値として参照します。

「参照 (ユーザ定義)」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

・詳細設定 (ボタン) ... 発行時 (データ) 選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。

データ加工 入力詳細

入力チェック

桁数 入力必須(未入力禁止)

文字種 数字のみ

閉じる(C)

・桁数

全桁必須入力、入力必須 (未入力禁止)、0 入力禁止のいずれかを設定できます。

・文字種

「数字のみ」※固定

・詳細設定 (ボタン) . . . 参照・結合 選択時

データの参照・結合設定の内容を設定します。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
▶ 1	参照	コード	1	4	右詰め0補填

合計 4 桁

上へ(U) 下へ(W) 追加(A) 削除(D) 閉じる(C)

・No

項目の順番です。

・種類

結合するデータの種類を選択します。

種類	編集タイプ	説明
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照 (ユーザ定義)	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前0削除	半角数字の前後のスペース、前0を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択します。

固定または入力詳細画面で「数字のみ」と設定されている発行時 (データ) の文字列オブジェクトのみ参照可能です。

参照 (ユーザ定義) 詳細設定 (カンマ区切りの値を参照/桁数を参照/数字の空白、前0削除)

参照(ユーザ定義)詳細設定

編集タイプ: カンマ区切りの値を参照

オブジェクト: []

列番号: 1

閉じる(C)

編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前0削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号 . . . カンマ区切りの値を参照 選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「[7.特別な操作](#)>[28.最大値／最小値を参照する方法](#)」をご参照ください。

No.	オブジェクト
1	
2	
3	
4	
5	

編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

・補填種別

参照したデータが桁数に満たなかった場合の、桁の補填方法を指定します。

「右詰め 0 補填」※固定

機能

・加減値

-9999~-1、1~9999 から値を設定します。

・**連番値を保存する（チェックボックス）**※入力方法が「固定」「発行時（データ）」の場合
連番値を保存する場合にオンにします。

・連番値の保持期間

「連番値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した連番をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：連番オブジェクトの入力画面で初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中や連番値の入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は連番値がクリアされますのでご注意ください

- ・フォーマットファイルが更新された場合
- ・オーバーライドファイルが更新された場合
- ・フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能」
をご参照ください

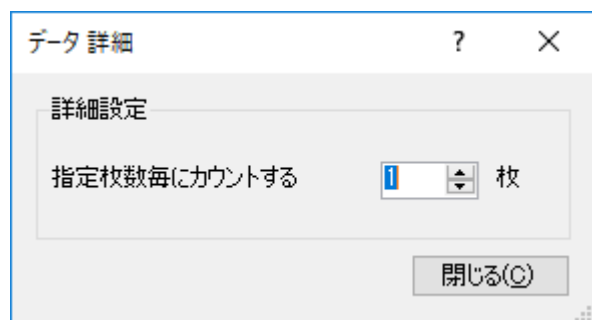
・変更時のパスワード入力 [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

連番の変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

・詳細設定（ボタン）

・指定枚数毎にカウントする

何枚毎にカウントするかを指定します。1～999 枚の間で設定可能です。初期値は 1 です。



・データ桁数

「固定」、「発行時（データ）」のデータの最大桁数を指定します。設定可能なデータ桁数は、最大 8 桁です。

・連番範囲

指定したデータ桁数内の 0 以上の値を指定可能です。

データ

・データ

項目に対するデータをセットします。

入力方法で「固定」を選択した場合は、ここでセットされたデータが連番開始値となります。「発行時（データ）」の場合は、画面上に連番の開始値として画面に表示されます。

ただし、「固定」時も「発行時（データ）」選択時も、データセットで「呼出しテーブル定義」項目に紐付けを行った場合は、呼出しテーブルに登録したデータが印字または初期値となります。

・データセット（チェックボックス）

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。

チェックした項目は、リストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・データセット用リストボックス

データセット（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。

リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「（新規）..」を選択することで、オブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されます。

表示

・フォント名

フォントの種類を選択します。

名称が「プリンタ_x x x x」となっているものは、サトーのプリンタフォントとなります。

使用できる文字がフォント種によって異なりますのでご注意ください。

・**縦サイズ**

フォントの縦サイズを倍率またはポイントで指定します。

・**横サイズ**

フォントの横サイズを倍率またはポイントで指定します。

・**文字間隔**

文字間隔をポイントで指定します。

・**左寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**センタリング (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**右寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**均等 (トグルボタン) . . . 設定不可**

※連番オブジェクトは、常に右寄せ 0 補填設定になります。

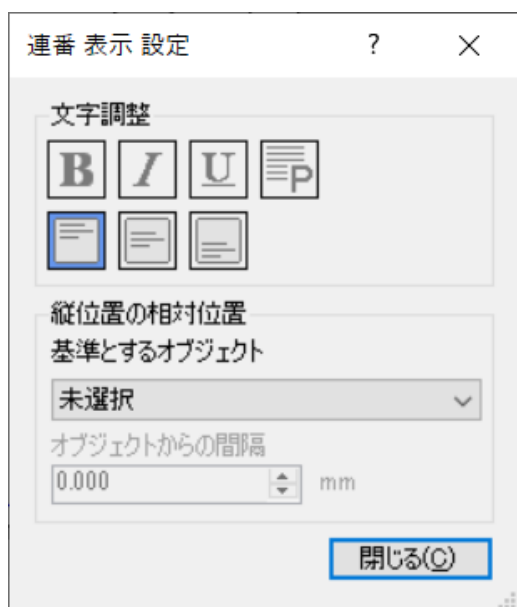
・**白黒反転ボタン (トグルボタン) . . . 無効**

白黒反転印字をします。

・**印字しない (チェックボックス)**

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定 (ボタン) . . . 連番表示設定



文字調整

注意：一文字ごとではなく項目単位での指定になります。
また、文字種によって操作できる内容が異なります。

・**ボールド (トグルボタン)**

文字を太文字にします。

・**イタリック (トグルボタン)**

文字を斜体にします。

・**下線 (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**プロポーショナル (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**上寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**上下中央寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可**

・**下寄せ (トグルボタン) . . . 設定不可**

縦位置の相対設定 [e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。
ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

■他オブジェクトからの連番オブジェクト参照について

連番オブジェクトの値は、文字列オブジェクトおよびバーコードオブジェクトで参照可能です。

ただし、以下の参照はできません。

- ・連番を複数参照する
- ・連番を参照している項目を参照する（2次参照）
- ・連番を含む結合項目数が4個以上になる

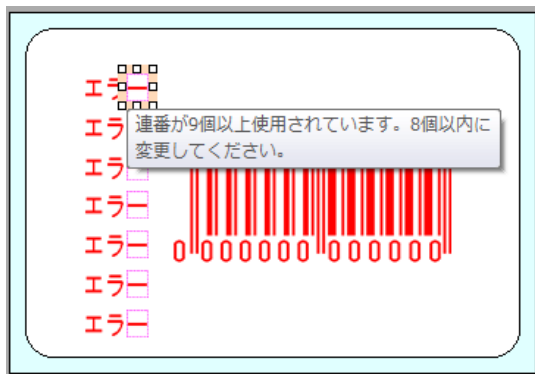
■連番オブジェクトの個数について

連番オブジェクトは、1レイアウトに**8個**まで使用できます。連番オブジェクト自体だけでなく、値を参照した文字列なども1個としてカウントします。

《カウント条件》

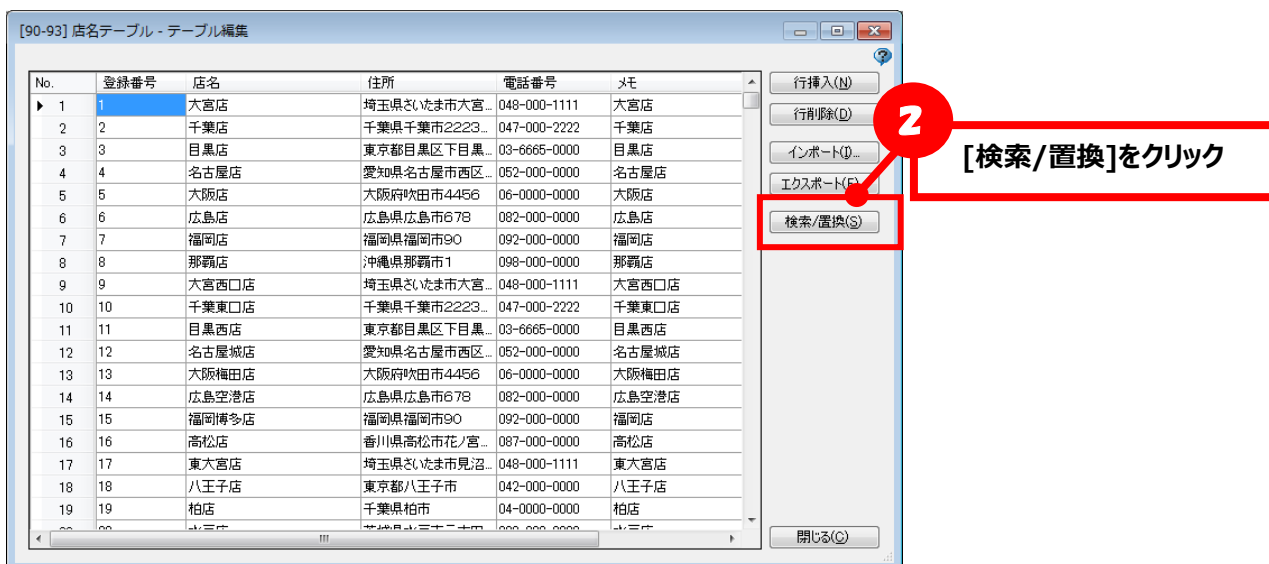
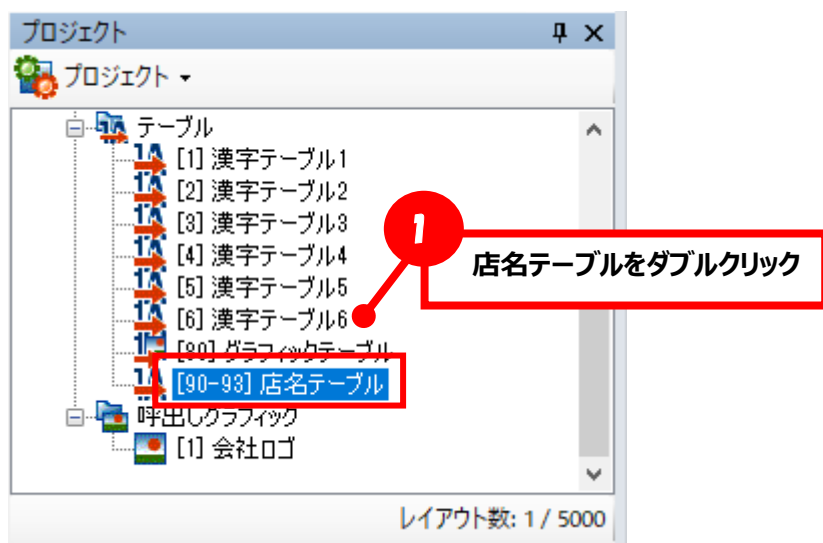
- ・連番オブジェクト
- ・上記連番オブジェクトを参照した文字列やバーコード
- ・上記連番オブジェクトを参照したバーコードの解説文字
(解説文字付きバーコードはバーコード部分と、解説文字部分で2個としてカウントされます)
- ・「印字しない」設定の場合、上記に該当してもカウントされません

《9個以上のエラー画面》

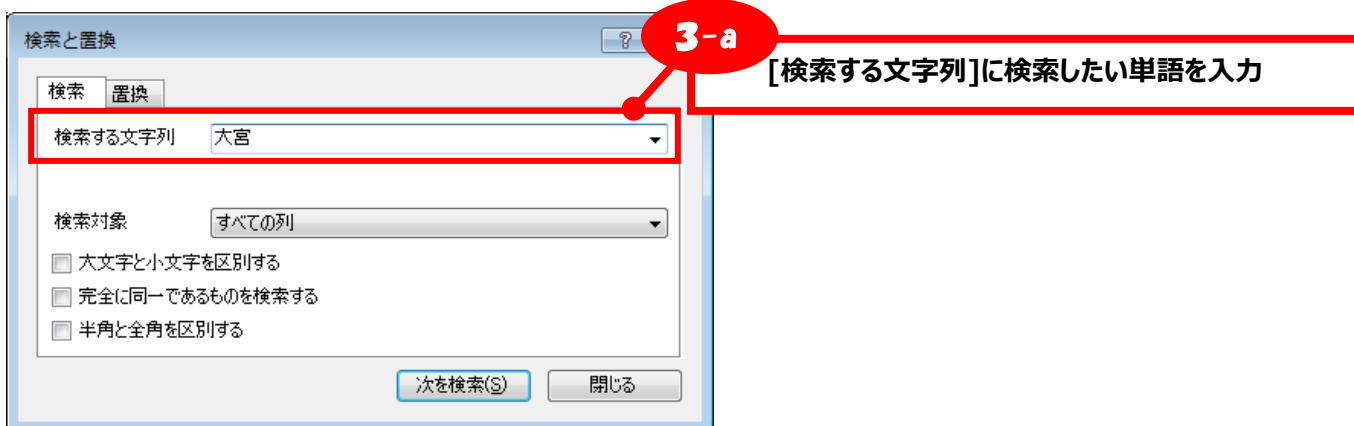


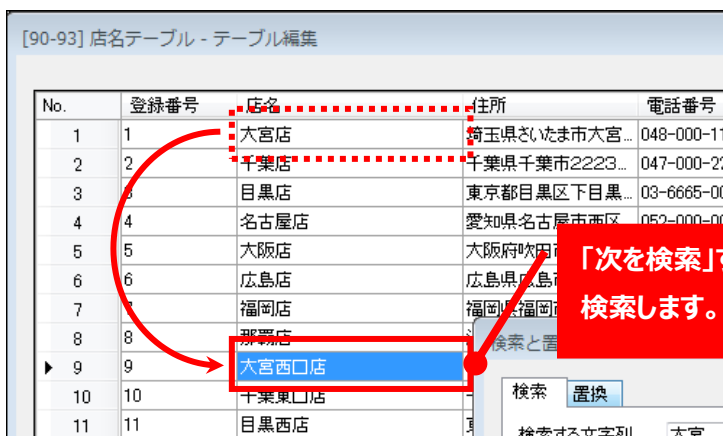
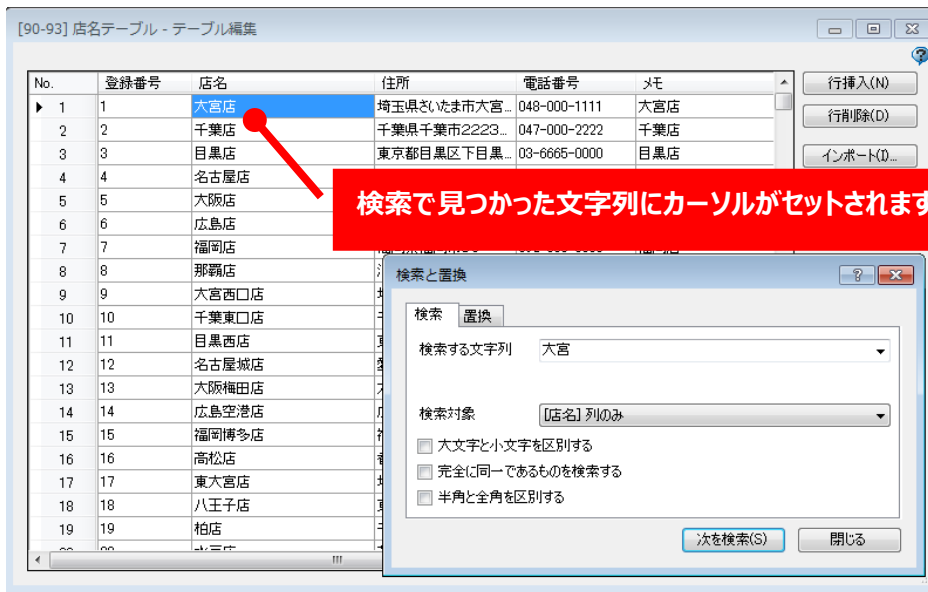
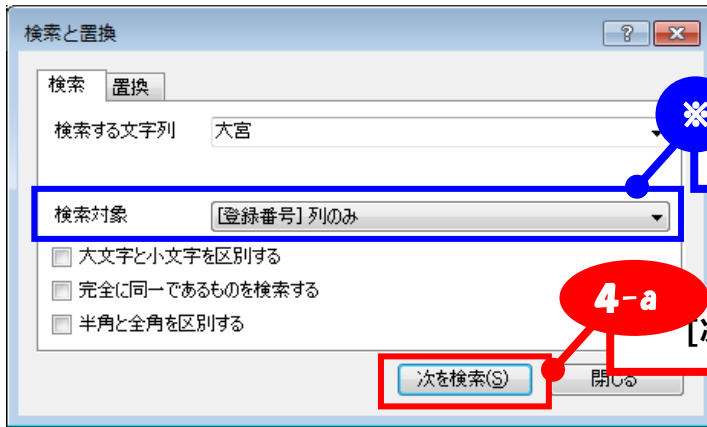
■ テーブルデータの検索/置換手順

※説明は[店名テーブル]ですが、漢字テーブル、グラフィックテーブルも同様の操作となります



<検索>





<置換>

3-b [検索する文字列]に検索したい単語を入力
[置換後の文字列]に検索した単語を置き換える単語を入力

※ [検索対象]で列を絞り込んで置換も可能

4-b [すべて置換]をクリック

5-b [OK]をクリック

No.	登録番号	店名	住所	電話番号	メモ
▶ 1	1	OMIYA店	埼玉県さいたま市大宮...	048-000-1111	大宮店
2	2	千葉店	千葉県千葉市2223...	047-000-2222	千葉店
3	3	目黒店	東京都目黒区下目黒...	03-6665-0000	目黒店
4	4	名古屋店	愛知県名古屋市区...	052-000-0000	名古屋店
5	5	大阪店	大阪府吹田市4456	06-0000-0000	大阪店
6	6	広島店	広島県広島市678	082-000-0000	広島店
7	7	福岡店	福岡県福岡市90	092-000-0000	福岡店
8	8	那覇店	沖縄県那覇市1	098-000-0000	那覇店
9	9	OMIYA西口店	埼玉県さいたま市大宮...	048-000-1111	大宮西口
10	10	千葉東口店	千葉県千葉市2223...	047-000-2222	千葉東口
11	11	目黒西店	東京都目黒区下目黒...	03-6665-0000	目黒西店
12	12	名古屋城店	愛知県名古屋市区...	052-000-0000	名古屋城店

「大宮」を含む店名が「OMIYA」に一括置換されています。

※置換を元に戻す場合

右クリックメニューの「元に戻す」をクリック

6.固定グラフィックオブジェクト

固定グラフィックオブジェクトの各種設定をおこなう画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

グラフィック指定方法 (ラジオボタン)



・埋め込みグラフィック

「選択」ボタンからレイアウトに埋め込むファイルを指定して、デザイン画面に貼り付けます。

選択したグラフィックがカラーの場合はディザリング方法を指定の上取りこみます。

埋め込まれたグラフィックはツールに取り込まれますので、元のファイルを削除しても、グラフィックは消えません。

・呼出しグラフィック (固定) ※選択不可

・呼出しグラフィック (データセット) ※選択不可

サイズ (ラジオボタン)

・領域指定

グラフィックデータの領域を、高さ、幅で設定された値 (mm) で指定します。

・倍率指定

グラフィックデータのサイズの高さ、幅を%で指定します。元サイズを 100%とします。グラフィックのサイズ変更は、デザイン画面上でオブジェクトのドラッグでも可能です。

・縦横比を固定する (チェックボックス)

グラフィックデータの縦横比を変えずに拡大/縮小します。

表示

・左寄せ (トグルボタン)

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に左寄せします。

・センタリング (トグルボタン) ※横幅に対するセンタリング

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に中央寄せします。

・右寄せ (トグルボタン)

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に右寄せします。

・上寄せ（トグルボタン）

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に上寄せします。

・センタリング（トグルボタン） ※高さに対するセンタリング

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に中央寄せします。

・下寄せ（トグルボタン）

指定された領域に画像のサイズが満たない場合に下寄せします。

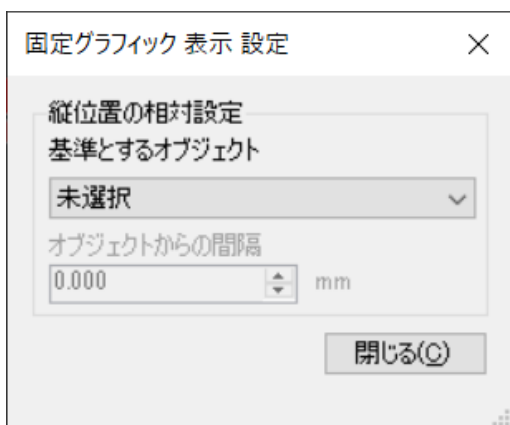
・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・固定グラフィック表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

領域指定で縦横比固定設定の場合の画像データの表示の仕方

埋め込んだグラフィックデータの元サイズの縦横比を維持しながら、指定された領域内で表示できる最大サイズに拡大／縮小して表示します。

【例】

元グラフィック
(縦 6mm 横 6mm)



縦のみ 10mm に拡大 (縦 10mm 横 6mm)	横のみ 10mm に拡大 (縦 6mm 横 10mm)	縦横 10mm に拡大 (縦 10mm 横 10mm)

グラフィック領域の縦横比率と取り込んだ画像データの縦横比率が異なる場合、垂直方向または水平方向に余白が発生します。本余白は「表示」中のトグルボタンによって調整可能です。

《余白が発生した際の表示の調整例》



7.切替グラフィックオブジェクト

切替グラフィックオブジェクトの各種設定をおこなう画面です。

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

入力方法 (ラジオボタン)

・固定

「データ」にセットされた値が反映、印字されます。

・発行時(データ)

グラフィックテーブルに登録したグラフィックについて、e-Labe Print で発行時に入力（変更）可能なデータに設定されます。「データ」にセットされた値は初期値として e-Labe Print 画面上に表示されます。

・参照・結合

デザイン画面の既存項目の内容を参照し、複数のデータ項目の結合をする機能です。

「参照（ユーザ定義）」機能を使うことで、参照先の値をそのままコピーするだけでなく、桁数取得等も可能です。

詳細設定 (ボタン) …発行時 (データ) 選択時

入力時の入力データのチェック方法を設定します。

・桁数

チェックなし、入力必須(未入力禁止)のいずれかを設定できます。

・文字種

「数字のみ」固定です。

・ **入力値を保存する（チェックボックス）** ※入力方法が「発行時変更あり」が有効な場合
[e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

発行時に入力した値を保存する場合にオンにします。

・ **入力値の保持期間**

「入力値を保存する」チェックボックスがオンの時のみ選択可能です。保存した入力値をいつまで保持するかを選択します。

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します（但し、発行中やグラフィックの入力画面を開いている間は日付をまたいでも元の値を保持し、処理終了後に初期化します）

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合は入力値がクリアされますのでご注意ください

- ・ フォーマットファイルが更新された場合
- ・ オーバーライドファイルが更新された場合
- ・ フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

オーバーライドについては「7.特別な操作-19.テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能」をご参照ください

・ **変更時のパスワード入力** [e-Labe Print バージョン 1.15.0 以上で有効]

グラフィックの変更時にパスワード入力画面を表示する場合にオンにします。

詳細設定（ボタン）・・・参照・結合 選択時

データの参照・結合設定の内容を設定します。



No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	商品コード	1	4	右詰め0補填
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

合計 4 桁

・ **No**

項目の順番です。

・ **種類**

結合するデータの種類を選択します。

種類	編集タイプ	説明
固定	—	データに固定の値をセットします
参照	—	レイアウト内の他オブジェクトの値を参照します
参照 (ユーザ定義)	カンマ区切りの値を参照	カンマ区切りのデータから列番号を指定して値を参照します
	桁数を参照	レイアウト内の他オブジェクトの桁数を参照します
	数字の空白、前0削除	半角数字の前後のスペース、前0を削除した値を参照します
	最大値を参照	比較対象のオブジェクトの最大値を参照します
	最小値を参照	比較対象のオブジェクトの最小値を参照します

・データ

セットするデータを選択及び入力します。

種類が「参照（ユーザ定義）」の場合、参照（ユーザ定義）詳細設定ダイアログが開きます。

参照（ユーザ定義）詳細設定（カンマ区切りの値を参照／桁数を参照／数字の空白、前0削除）

編集タイプ

「カンマ区切りの値を参照」「桁数を参照」「数字の空白、前0削除」から選択します。

オブジェクト

レイアウト中のオブジェクトを一覧から選択します。

列番号・・・カンマ区切りの値を参照 選択時

カンマ区切りのデータの項目番号を指定します。

参照（ユーザ定義）詳細設定（最大値を参照／最小値を参照）

利用手順は「[7.特別な操作](#)>[28.最大値/最小値を参照する方法](#)」をご参照ください。

編集タイプ

「最大値を参照」「最小値を参照」から選択します。

比較データ

「数値」または「日時」を選択します。

日時書式

比較データで「日時」を選択時、比較する日時書式を入力します。

オブジェクト（最大 30 項目）

レイアウト中の「文字列」、「価格」、「バーコード」、「日時」、システム項目（呼出し No./呼出しデータ名/端末 No./発行枚数）を一覧から選択します。

・開始桁

データ参照の際に、参照元データの何桁目から参照するかを指定します。

・桁数

データ参照の際に、データの開始桁から何桁目までを参照するかを指定します。

注意：参照の対象となるデータは、常に左詰めスペース補填状態からの参照になります。

・補填種別

補填方法を指定します。

補填種別	補填方法	例
左詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの後ろに桁数分の「半角スペース」を補填します。	入力桁数：5桁、入力：120 ⇒ 120△△（△は半角スペース）
右詰めスペース補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の「半角スペース」を補填します。	入力桁数5桁、入力：120 ⇒ △△120（△は半角スペース）
右詰め0補填	入力桁数に満たない場合は、実データの前に桁数分の「0」を補填します。	入力桁数5桁、入力120 ⇒ 00120

データ

・データ選択リストボックス

グラフィックテーブルのデータを選択します。「(未選択)」の場合は、レイアウト上の切替グラフィックが **SATO** マークになります（印字はされません）。

・データセット（チェックボックス）

呼出しテーブル定義で設定した項目と紐付けてデータをセットする場合にチェックします。チェックした項目は、直下のリストボックスに表示される「呼出しテーブル定義」の項目と紐付けることで、発行時に呼出しテーブルデータに登録されているデータをセットして発行します。

・データセット用リストボックス

データセット（チェックボックス）にチェックが入った場合のみ、有効になります。リストには、既に登録されている「呼出しテーブル定義」の項目が表示されますので、紐付けたい項目を選択します。「呼出しテーブル定義」に紐付けたい項目が未登録の場合は、一番下の「(新規) ..」を選択することでオブジェクトの項目名や桁数に基づいて、自動的に呼出しテーブル定義に項目が追加されます。

表示

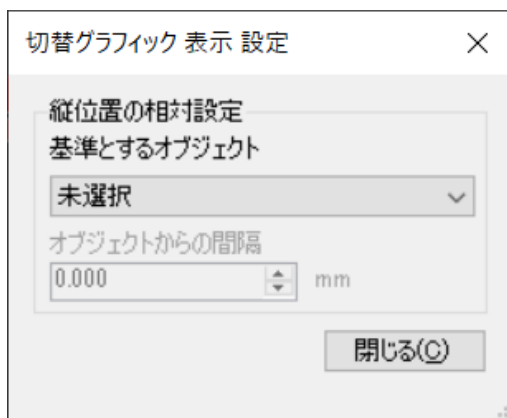
・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・切替グラフィック表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・**オブジェクトからの間隔**

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

8. 罫線オブジェクト

罫線オブジェクトの設定をおこなう画面です。



・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

罫線

・線の長さ

罫線の長さを mm で指定します。

・線の太さ

罫線の太さを mm で指定します。

・方向

罫線の縦・横方向を指定します。

長さの相対設定 (ボタン)・・・縦方向指定時

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長 (ノンセパラベル)」「可変長 (ジャーナル紙)」の場合に設定可能です。



・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない (0 度)
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

表示

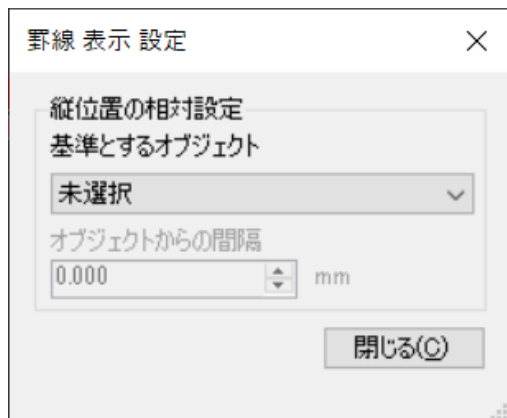
白黒反転ボタン (トグルボタン)

白黒反転印字をします。

印字しない (チェックボックス)

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・罫線表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

9. 枠線オブジェクト

罫線オブジェクトの設定をおこなう画面です。

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

サイズ

・高さ

枠の高さを mm で指定します。

・幅

枠の幅を mm で指定します。

高さの相対設定 (ボタン)

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長 (ノンセパラベル)」「可変長 (ジャーナル紙)」の場合に設定可能です。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない (0 度)
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

枠線

・枠線の太さ

枠線の太さを mm で指定します。

・カド丸半径

枠線のカドの丸みの半径を指定します。

表示

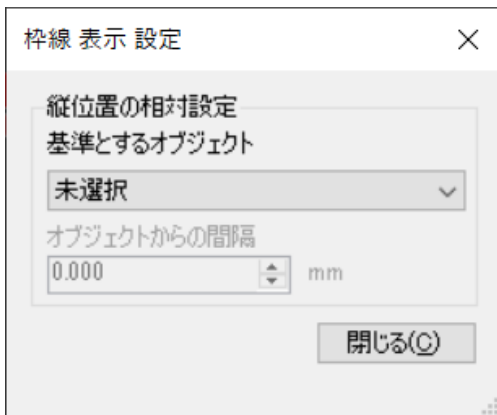
・白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

・印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・枠線表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

10.表オブジェクト

表オブジェクトの設定をおこなう画面です。

・項目名

レイアウトデザイン内で使用される項目の名称です。

サイズ

・高さ

表の高さを mm で指定します。

・幅

表の幅を mm で指定します。

表

・行数

表内の行数を指定します。

・列数

表内の列数を指定します。

・横線

上辺からの位置を指定する横線を指定します。

・縦線

左辺からの位置を指定する縦線を指定します。

・縦位置

横線で指定した線の上辺からの位置を指定します。

・横位置

縦線で指定した線の左辺からの位置を指定します。

・横線の太さ

表の横線の太さを指定します。

・縦線の太さ

表の縦線の太さを指定します。

・枠線の太さ

表の枠線の太さを指定します。

・カド丸半径

表枠のカドの丸みの半径を指定します。

表示

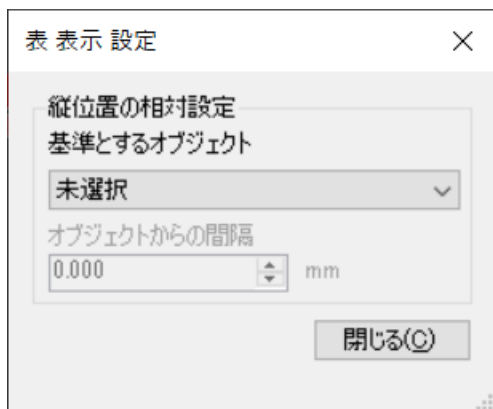
白黒反転ボタン（トグルボタン）

白黒反転印字をします。

印字しない（チェックボックス）

項目を印字しない場合にチェックします。

詳細設定（ボタン）・・・表 表示設定



縦位置の相対設定

[e-Labe Print バージョン 1.8.0 以上で有効]

用紙種が「可変長（ノンセパラベル）」「可変長（ジャーナル紙）」の場合に設定可能です。

ただし、オブジェクトがグループ化されている場合は設定できません。

・基準とするオブジェクト

相対位置の基準とするオブジェクトを選択します。

<基準とするオブジェクトに選択可能な条件>

- ・横書きの文字列
- ・高さ自動調整が有効
- ・回転していない（0度）
- ・白黒反転していない

・オブジェクトからの間隔

「基準とするオブジェクト」の下端から調整する間隔を入力します。

「基準とするオブジェクト」の下端の縦位置に「オブジェクトからの間隔」の加算した値が縦位置になります。

☑参照・結合について

参照結合では、以下の様な設定が可能です。

複数オブジェクトの結合

既存の複数のオブジェクトを組み合わせ一つのオブジェクトとして表示することができます。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	大分類	1	3	補填しない
2	固定	-		1	
3	参照	中分類	1	3	補填しない
4	固定	-		1	
5	参照	小分類	1	3	補填しない
6					
7					
8					
9					

参照と固定の組み合わせで
01-512-001 などの表示ができます。
また、種類を“外字”に設定することで、外字も
組み合わせることができます。

テーブルの入力値を参照することができます。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	保存温度(テーブル入...	1	4	右詰め0補填
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

変換後の値のみではなく、入力値を参照する
ことができます。
これにより、1 回の入力を複数のテーブル変換
項目に反映させることができます。
店舗テーブルにもこの機能を利用します。

レイアウトが予め持っている変数を利用することができます。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	(呼出しNo.)			
2		(呼出しデータ名)			
3		(端末No.)			
4		(発行枚数)			
5					
6					
7					
8					
9					

各レイアウトが予め持っている変数を
参照することができます。
これにより、呼出しデータ名をそのま
まレイアウト上に反映させることなど
ができます。
また、日時オブジェクトの「参照を許
可する」にチェックが入っている場合
は、書式を選択しながら日時オブジ
ェクトの値が参照できます。
※端末 No.を参照するにはメニューバ
ーの「ツール」 - 「設定」のオプシ
ョンタブで「端末 No.の参照を許可」
を有効にする必要があります。

7. 特別な操作

1. テーブル機能

e-Labe には、入力された数値を登録された文字データに変換するテーブル機能があります。

このテーブル機能を利用すると、数値を入力することで、定型の文章に変換して印字したり、バーコードの数値に変換させたりすることができます。

複数のレイアウトでテーブルデータを共通で使用することが可能です。

テーブルは、一つのプロジェクトで漢字テーブルを 99 テーブル×1000 データ、グラフィックテーブルを 1 テーブル×99 データ、店名テーブルを 1 テーブル×5000 データまで登録が可能です。

ただし、初期に表示されているのは、「漢字テーブル 1~5」と「店名テーブル」のみです。グラフィックテーブルについては、レイアウト上に切替グラフィックフィールドを作成した場合および新規作成機能で追加することが可能です。

漢字テーブルおよび店名テーブルデータは、Designer で登録する以外に、e-Labe Print の「フォーマット別マスター編集」機能を使って編集することも可能です。

The image displays three overlapping screenshots of the e-Labe Designer software interface, illustrating the table editing functionality. Each screenshot shows a table with columns for registration number, name, and data, and a right-hand panel with various action buttons.

- Top Screenshot: [1] 漢字テーブル1 - テーブル編集**
 - Columns: 登録番号 (Registration No.), 漢字テーブル1 (Kanji Table 1)
 - Row 1: 1, 冷蔵庫(10度以下)で保存してください。
 - Row 2: 2, 常温で保存してください。
 - Callouts: "入力する値" (Input value) points to the registration number column; "変換される値" (Converted value) points to the text in the table cells.
 - Right panel buttons: 行挿入(N), 行削除(D), インポート(I), エクスポート(E), 検索/置換(S).
 - Label: "← 漢字テーブル" (← Kanji Table)
- Middle Screenshot: [80] グラフィックテーブル - テーブル編集**
 - Columns: 登録番号 (Registration No.), グラフィック名 (Graphic Name), グラフィック (Graphic)
 - Row 1: 1, ブラ6mm, [Barcode]
 - Row 2: 2, 紙6mm, [Barcode]
 - Callouts: "入力する値" (Input value) points to the registration number column; "変換される値" (Converted value) points to the barcode in the table cells.
 - Right panel buttons: 参照(R), 行挿入(N), 行削除(D), インポート(I), エクスポート(E), 検索/置換(S).
 - Label: "グラフィックテーブル→" (Graphic Table →)
- Bottom Screenshot: [90-93] 店名テーブル - テーブル編集**
 - Columns: 登録番号 (Registration No.), 店名 (Store Name), 住所 (Address), 電話番号 (Phone No.), メモ (Memo)
 - Row 1: 1, 目黒店, 東京都目黒区下目黒, 0120-567-310
 - Callouts: "入力する値" (Input value) points to the registration number column; "変換される値" (Converted value) points to the store name in the table cells.
 - Right panel buttons: 行挿入(N), 行削除(D), インポート(I), エクスポート(E), 検索/置換(S), 閉じる(C).
 - Label: "店名テーブル→" (Store Name Table →)

●テーブル仕様

テーブル種	登録番号	登録内容
漢字テーブル	最大 4 桁の数字	最大 1000 桁
グラフィックテーブル	最大 4 桁の数字	(グラフィック名) 32 桁 (グラフィック) モノクロビットマップ
店名テーブル	最大 6 桁の数字 ※最大桁数は 4~6 桁 で指定可能	(店名) 最大 60 桁 (住所) 最大 100 桁 (電話) 最大 80 桁 (メモ) 最大 80 桁

●テーブル編集画面 (各テーブル共通)

・行挿入

新規登録する行を、選択した行の上に挿入できます。

・行削除

選択した行を削除できます。

・インポート

外部ファイルをテーブルデータとして取り込むことができます。

ファイル形式は、CSV ファイル、TAB 区切りのテキストファイル、テーブルファイル (プロジェクト用ファイル) です。(詳細なファイル仕様は次ページ以降をご参照ください)

インポート時に、既存データの処理について削除して取り込むか、残して追加・更新するかを選択することが可能です。

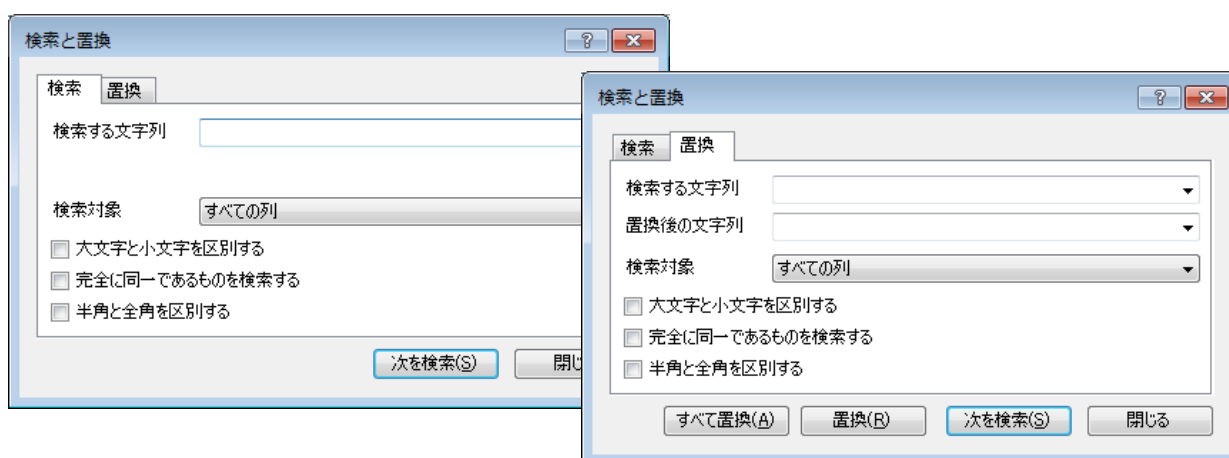
・エクスポート

テーブルデータを外部ファイルとして保存することができます。

ファイル形式は、CSV ファイル、TAB 区切りのテキストファイル、テーブルファイル (プロジェクト用ファイル) です。(詳細なファイル仕様は次ページ以降をご参照ください)

・検索/置換

テーブルデータを検索や置換することができます。



・検索対象

すべての列または特定の列を指定可能です。

・ **大文字小文字を区別する**

アルファベットの大小文字を区別します。

・ **完全に同一であるものを検索する**

検索する文字列と完全に一致する値を検索します。

・ **半角と全角を区別する**

アルファベット、数字、カナ、記号の半角と全角を区別します。

・ **すべて置換**

指定した条件に合致する文字列を一括で「置換後の文字列」の値に置き換えます。

・ **置換**

選択している単一のセルに置換対象の文字列があれば「置換後の文字列」の値に置き換え、次を検索します。

・ **次を検索**

指定した条件に合致する文字列を検索します。

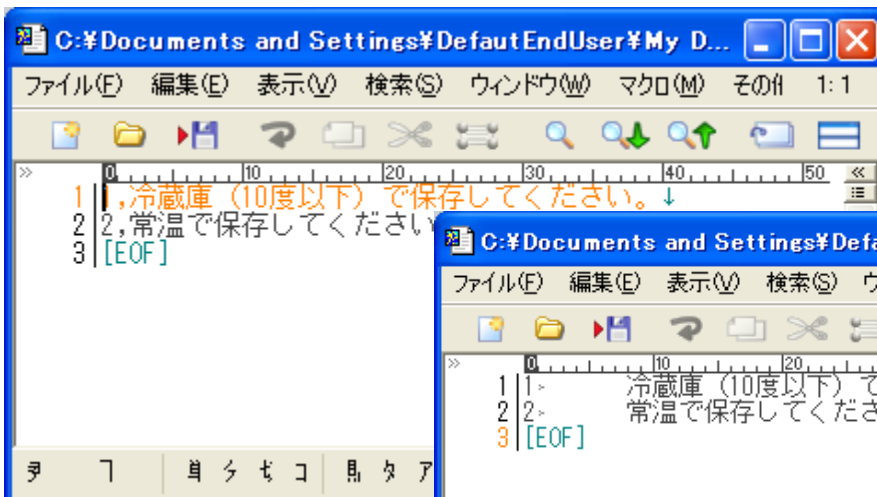
● **インポート/エクスポートファイル仕様**

■ **漢字テーブル**

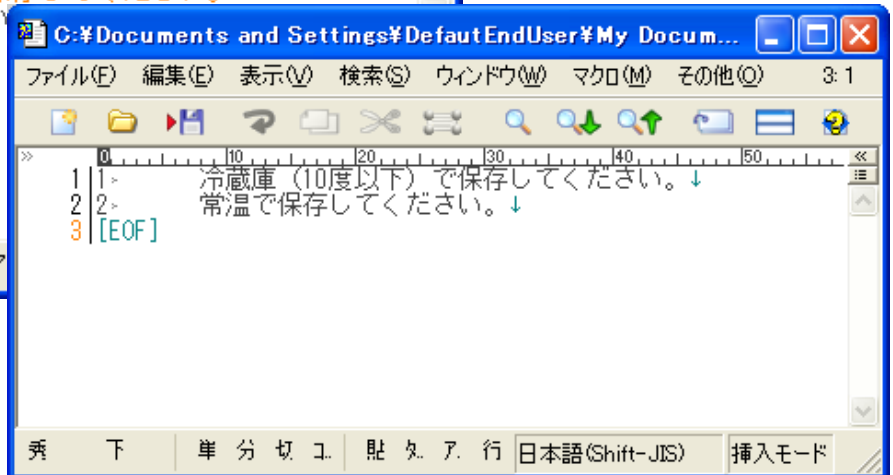
【ファイル仕様】

登録番号	(カンマまたはTAB)	登録内容	CR+LF
0~9999	区切り	桁数で指定した桁 (最大 1000)	改行コード

«カンマ区切りデータ例»



«タブ区切りデータ例»



■グラフィックテーブル

グラフィックテーブルでは2種類の形式をサポートしています。グラフィック形式は「インポート」および「エクスポート」ボタンをクリックして表示されるダイアログのファイル形式選択リストで変更が可能です。

1) XML 形式

「[ファイル名].pegtbl」の形式で生成され、このファイル1つで登録番号・グラフィック名・グラフィックデータをサポートします。

2) CSV または TAB 区切りテキスト+ビットマップファイル形式

登録番号・グラフィック名を格納した CSV または TAB 区切りテキストファイルと、ビットマップファイルを格納したフォルダの2つでインポートおよびエクスポートをサポートします。

① CSV または TAB 区切りテキストファイル

【ファイル仕様】

登録番号	(カンマまたは TAB)	グラフィック名	CR+LF
0001~9999	区切り	桁数で指定した桁 (最大 32)	改行コード

②ビットマップファイル格納フォルダ

#XXXX_「グラフィック名」.bmp の形式で、「[ファイル名].files」フォルダにグラフィックデータが格納されます。[ファイル名]は CSV 形式でのエクスポート時に指定したファイル名が自動的に付与されます。

※XXXX : グラフィックの登録番号

注意 : CSV+ビットマップファイル形式でインポートする場合には、以下の条件が必要です。

- ・ CSV ファイルとビットマップファイルが、同じパスに存在している。
- ・ CSV ファイルとビットマップファイルの格納フォルダ名が同一であること。

■店名テーブル

登録番号の範囲は、定義画面で選択した「登録番号桁数」の設定に応じて変わります。

登録番号桁数	登録番号の範囲
4 桁	0001~9999
5 桁	00001~99999

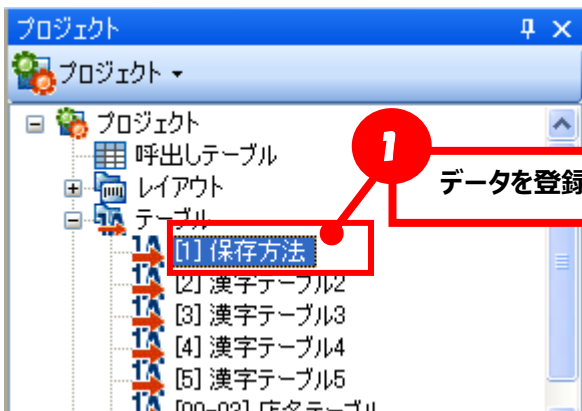
6桁	000001~999999
----	---------------

【ファイル仕様】※「登録番号桁数」が4桁の場合

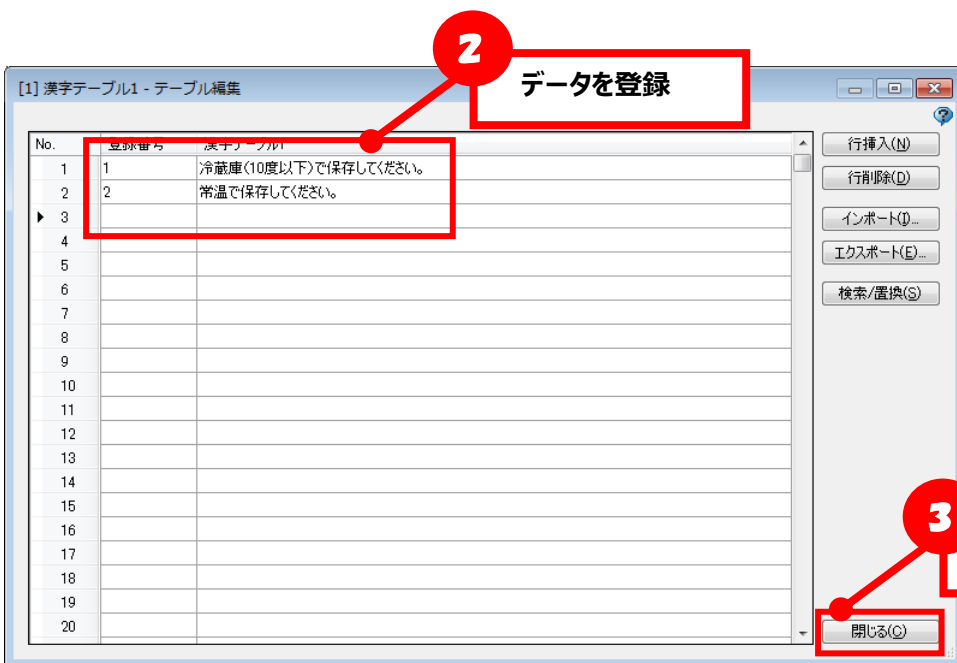
登録番号	(カンマまたはTAB)	店名	(カンマまたはTAB)
0001~9999	区切り	桁数で指定した桁 (最大 60)	区切り
		住所	(カンマまたはTAB)
		桁数で指定した桁 (最大 100)	区切り
		電話	(カンマまたはTAB)
		桁数で指定した桁 (最大 80)	区切り
		メモ	CR+LF
		桁数で指定した桁 (最大 80)	改行コード

■ テーブルデータ登録手順

■ 漢字テーブルの場合



1 データを登録したい漢字テーブルをダブルクリック



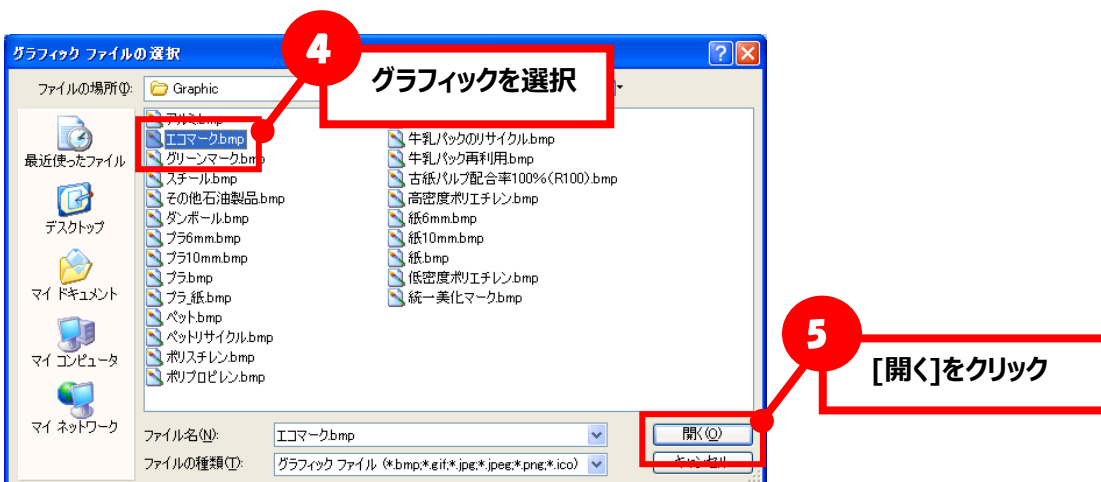
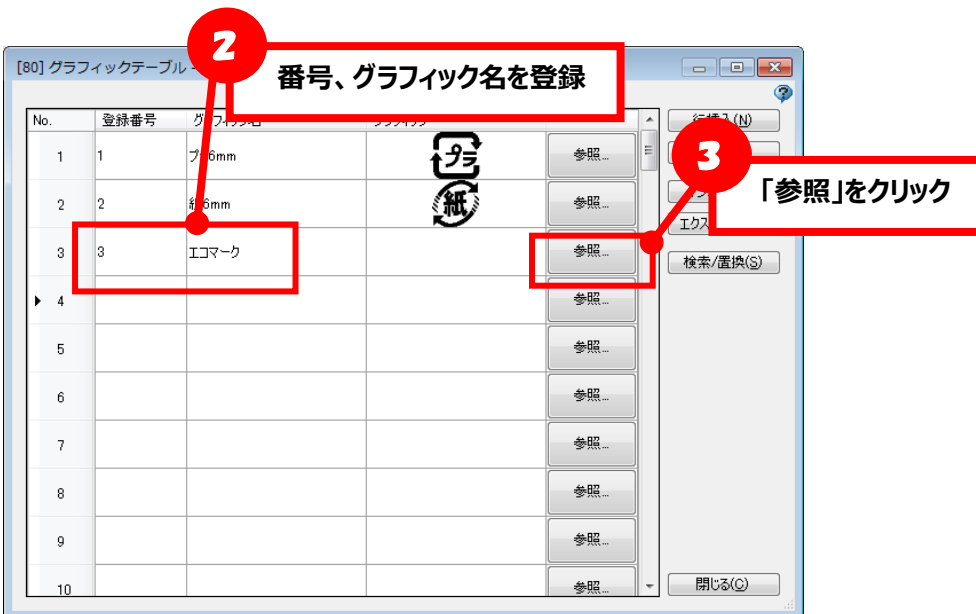
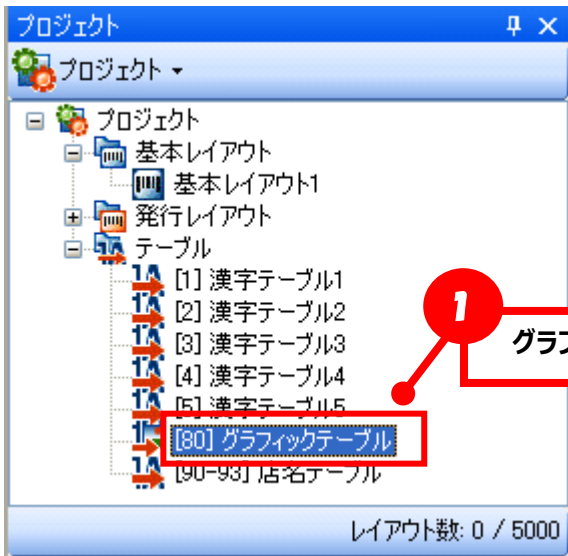
2 データを登録

3 [閉じる]をクリック



4 [はい]をクリック

■グラフィックテーブルの場合



[80] グラフィックテーブル - テーブル編集

No.	登録番号	グラフィック名	グラフィック	
1	1	ブラ6mm		参照...
2	2	紙6mm		参照...
▶ 3	3	エコマーク		参照...
4				参照...
5				参照...
6				参照...
7				参照...
8				参照...
9				参照...
10				参照...

行挿入(N)
行削除(D)
インポート(I)...
エクスポート(E)...
検索/置換(S)

6 [閉じる]をクリック

閉じる(C)

e-Labe Designer

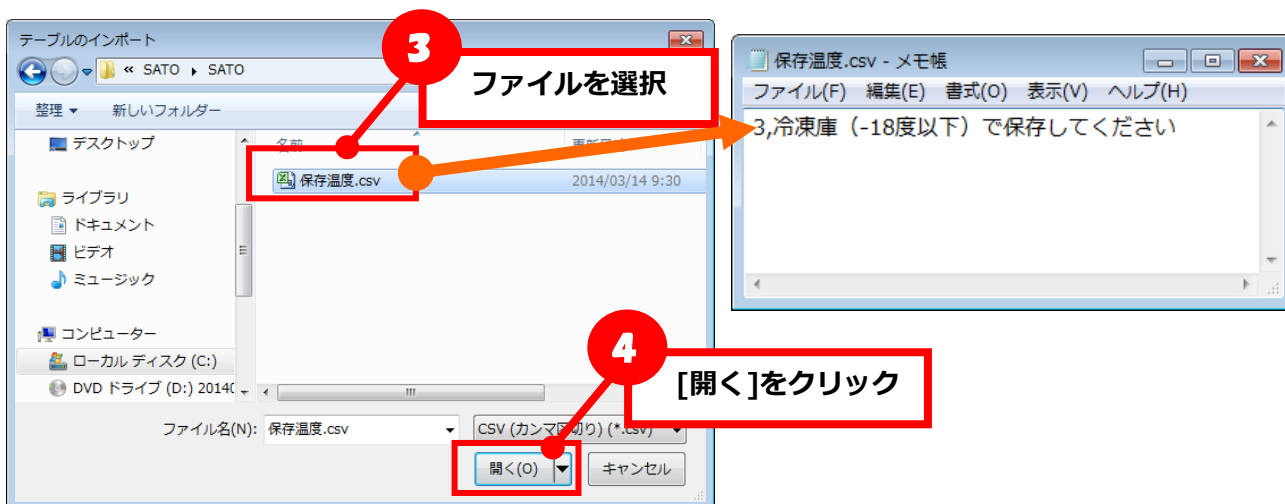
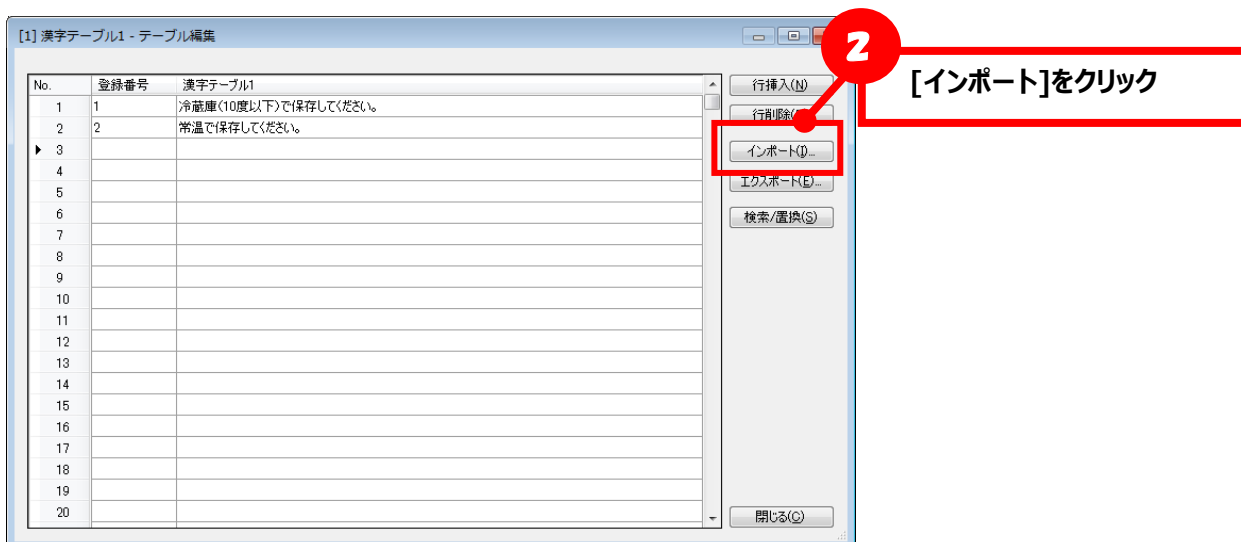
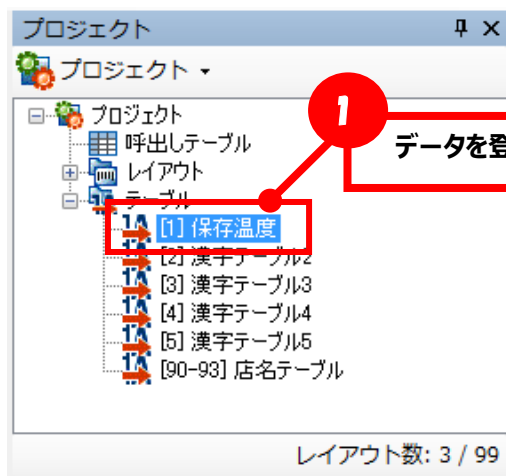
? グラフィックテーブルへの変更を保存しますか?

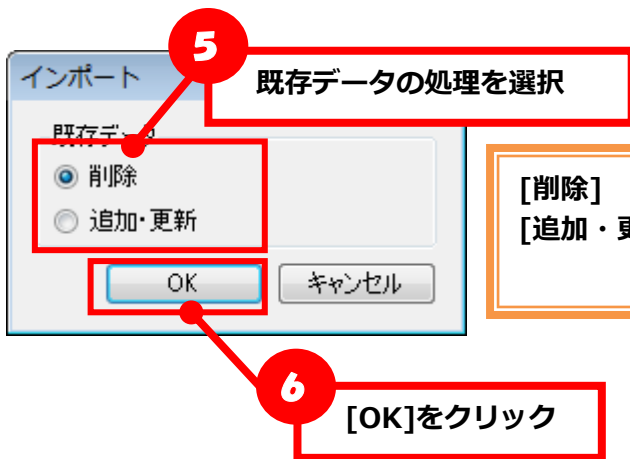
はい(Y) いいえ(N) キャンセル

7 [はい]をクリック

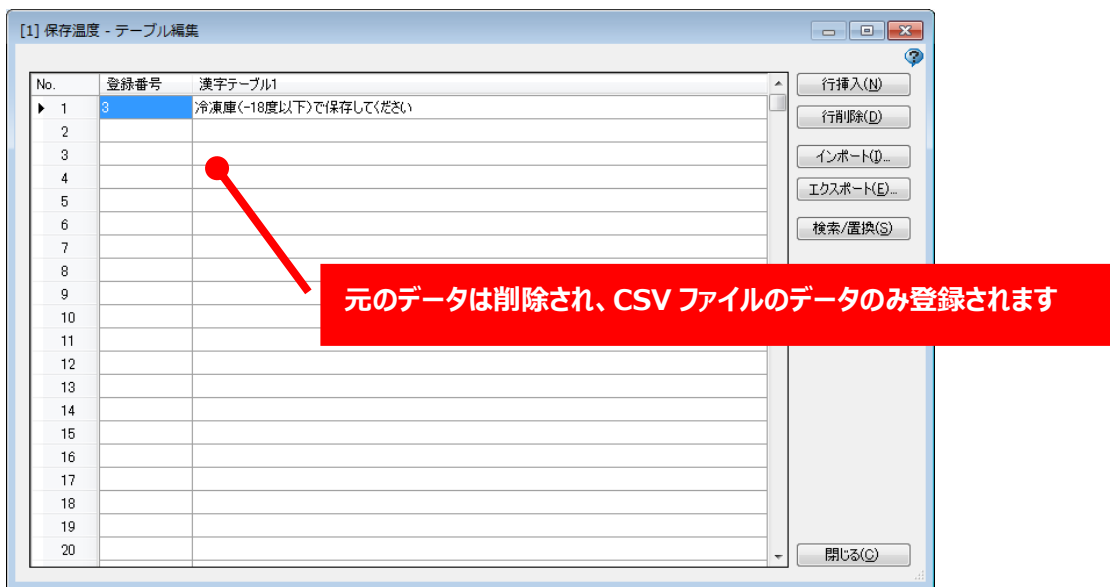
■テーブルインポート手順

※説明は[漢字テーブル]ですが、店名テーブル、グラフィックテーブルも同様の操作となります

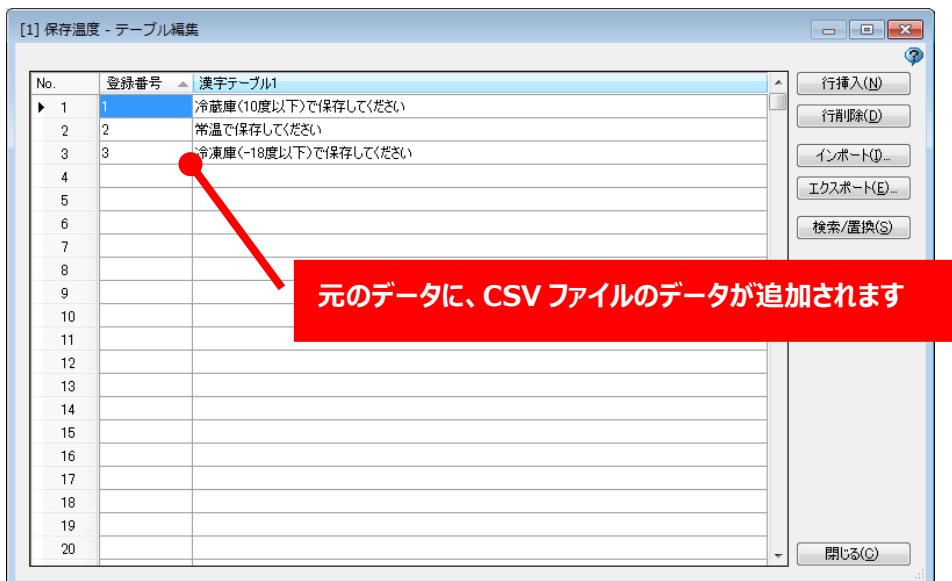




【削除を選択した場合】



【追加・更新を選択した場合】

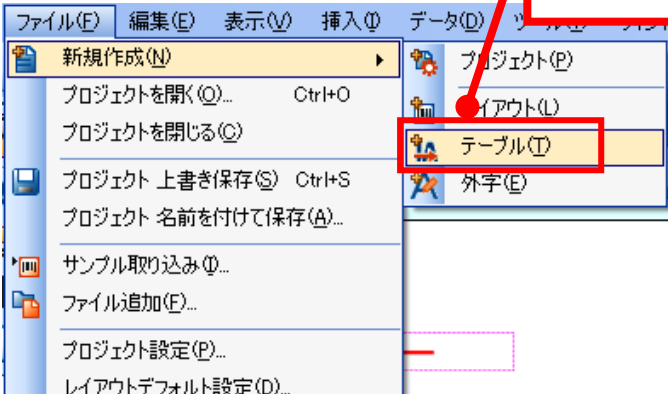


■ 漢字/グラフィック/店名テーブル追加、削除手順

テーブルは初期状態では「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 5」および「店名テーブル」のみ表示されていますが、「漢字テーブル 6」以降や「グラフィックテーブル」を追加したり、表示されているテーブルを削除したりすることが可能です。

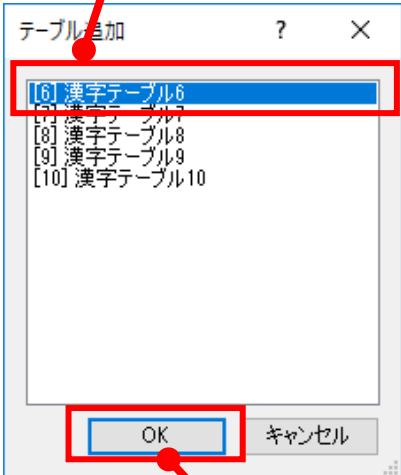
《漢字/グラフィック/店名テーブルを追加する場合》

1 ファイル> 新規作成> テーブルをクリック



プロジェクトウィンドウの「プロジェクトフォルダ」>「新規作成」>「テーブル」
テーブルフォルダの「新規作成」からも、テーブル追加が可能です。
また、ツールバーの「新規作成」ボタンからも、テーブルの追加が可能です。

2 追加したいテーブルを一覧から選択



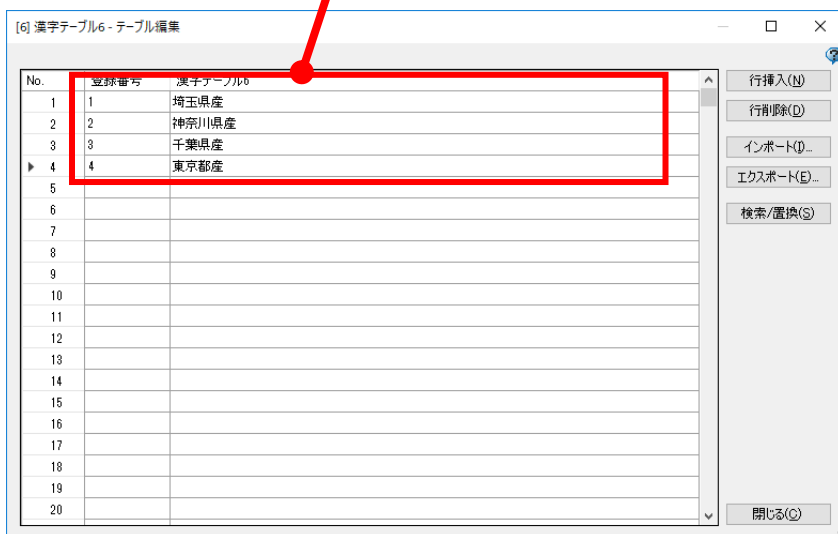
※ テーブル追加画面に表示されるテーブルは、「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 10」の現状追加できるテーブルです。「漢字テーブル 1」～「漢字テーブル 5」や「グラフィックテーブル」、「店名テーブル」は削除した上であれば、表示されるようになります。
「漢字テーブル 111」～「漢字テーブル 199」に関してはテーブル追加画面は表示されず、新規作成で直接 1 テーブルずつ追加されます。

3 [OK]をクリック

漢字テーブルの場合

4

テーブルデータを登録



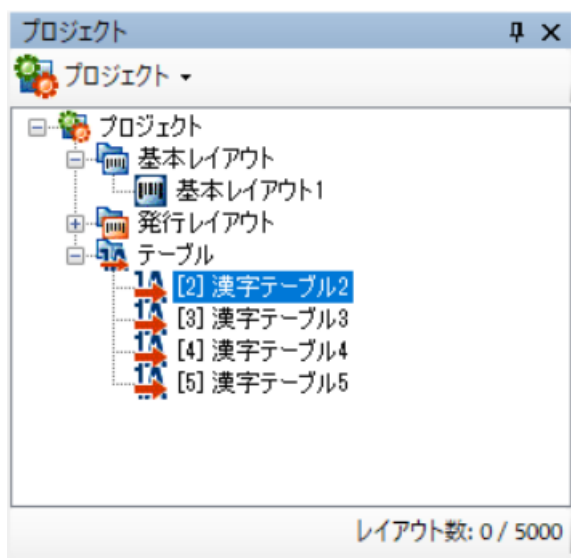
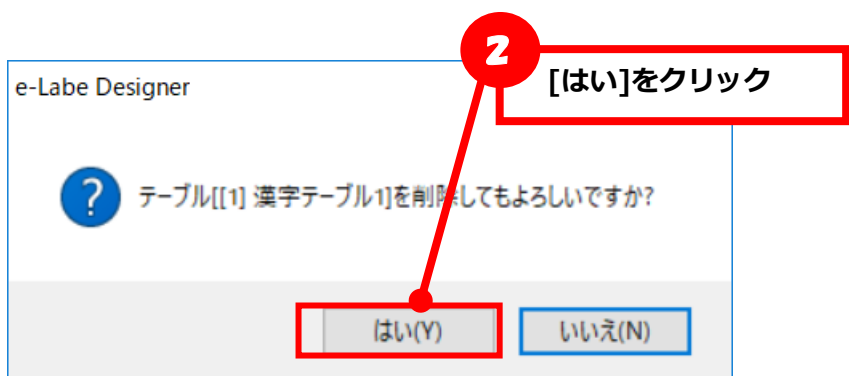
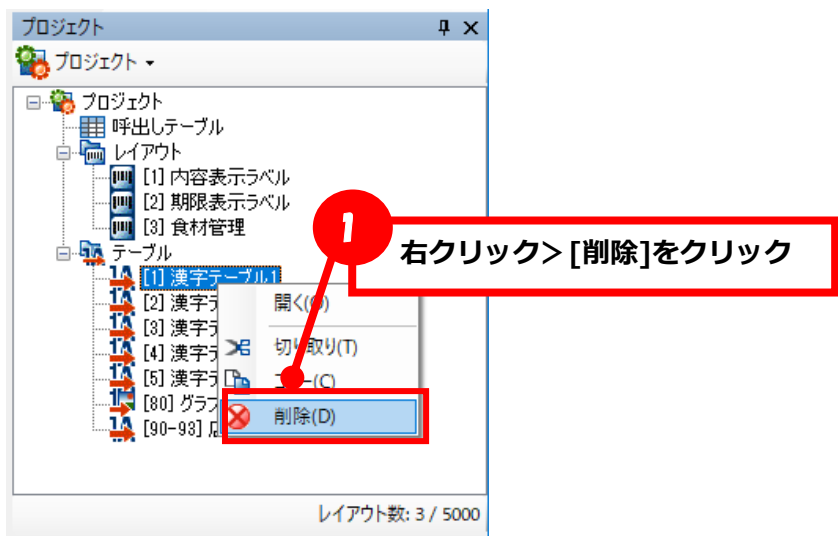
※データを登録せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、そのテーブル自体追加されません。

グラフィックテーブルの場合



※初期状態では一般的に利用頻度の高いプラ/紙 6mm サイズがそれぞれ登録されています（削除可能）。
データを登録せずに「閉じる」ボタンをクリックすると、そのテーブル自体追加されません。

「漢字/グラフィック/店名テーブルを削除する場合」



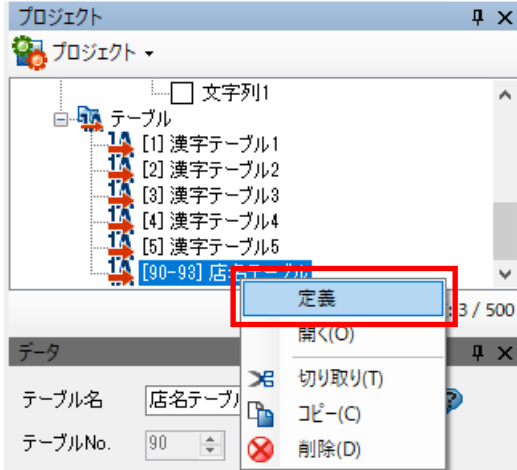
プロジェクト一覧から削除されていることを確認してください。

■店名テーブルの登録番号桁数定義

店名テーブルの登録番号桁数を 4~6 桁の範囲で設定できます。

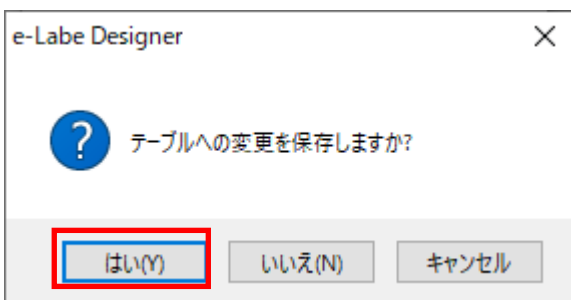
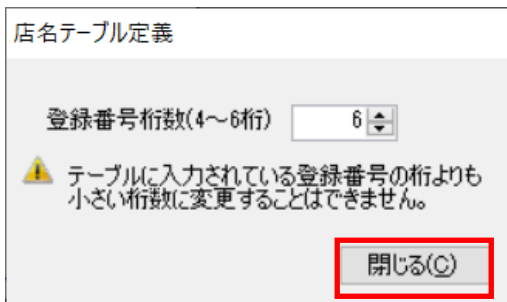
ここでは、4 桁から 6 桁に変更する手順を説明します。

1. プロジェクトツリー画面の店名テーブルの上で右クリック> 定義を選択します。



2. 登録番号桁数に桁数を入力し、閉じます。テーブルへの変更保存ダイアログが表示されるので「はい」を選択します。

※既に登録されている登録番号の桁より小さい桁数に変更はできません。



[店名テーブル編集画面]

The screenshot shows the '店名テーブル編集' (Store Name Table Edit) screen. A table with columns 'No.', '登録番号' (Registration Number), '店名' (Store Name), and '住所' (Address) is displayed. The first row has the registration number '123456' and the store name '東京店' (Tokyo Store). A red box highlights the registration number, and a red callout box points to it with the text '登録番号が 6 桁まで登録可能' (Registration number can be up to 6 digits).

No.	登録番号	店名	住所
1	123456	東京店	東京都港区
2			
3			

2.外字登録

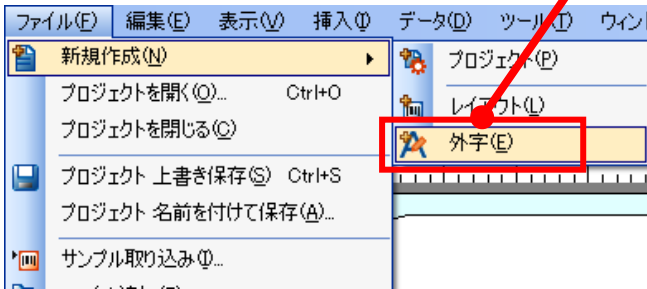
プリンタフォントの外字を登録する機能です。

外字を使用することで、JIS 第一、第二水準に含まれていない文字を印字することができます。

1つの外字には16ドット×16ドット、24ドット×24ドット、32ドット×32ドットの3種類のサイズが登録できます。登録した外字は、各フォント種を選択した際に利用可能です。

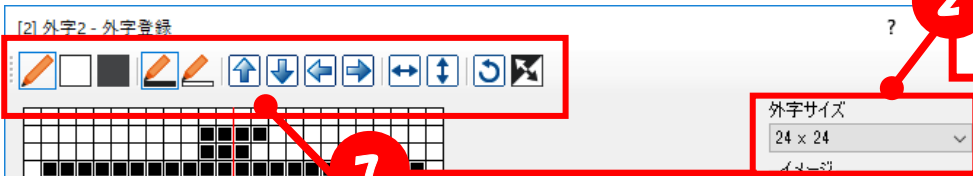
■ 外字登録手順

1 外字をクリック

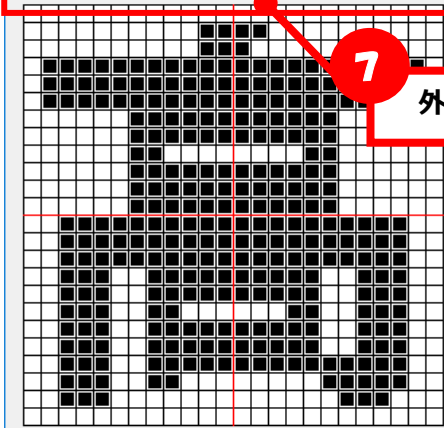


プロジェクトウィンドウの「プロジェクトフォルダ」>「新規作成」>「外字」
外字フォルダの「新規作成」からも、外字登録が可能です。
また、ツールバーの「新規作成」ボタンからも、外字の登録が可能です。

2 外字サイズを選択



7 外字をメンテナンス



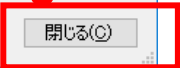
3 参照をクリック



4 文字を入力



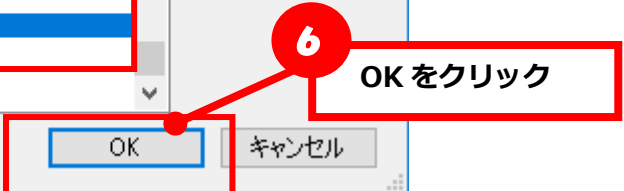
8 閉じるをクリック



5 参照するフォントを選択



6 OK をクリック



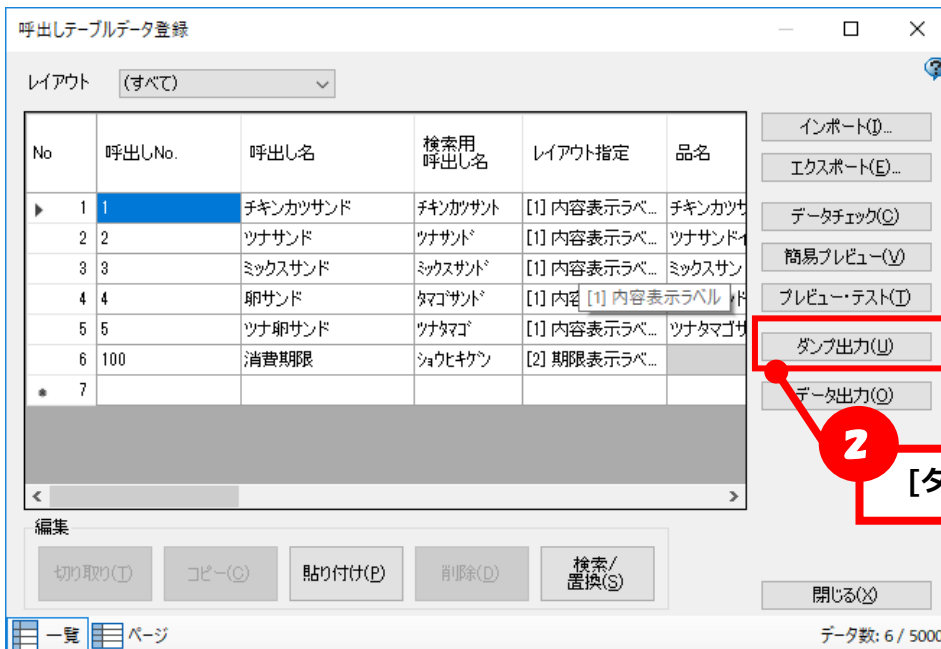
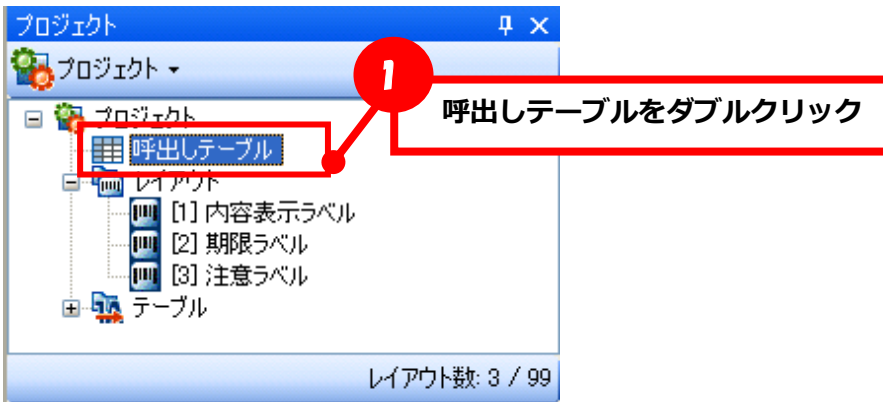
3. ダンプ出力

複数のアイテムを指定してプレビュー・テスト印字を一括で実行することができます。

一括でプレビュー・テスト印字をおこなう場合、発行時入力データと発行枚数の入力は省略され、初期値が設定されます。

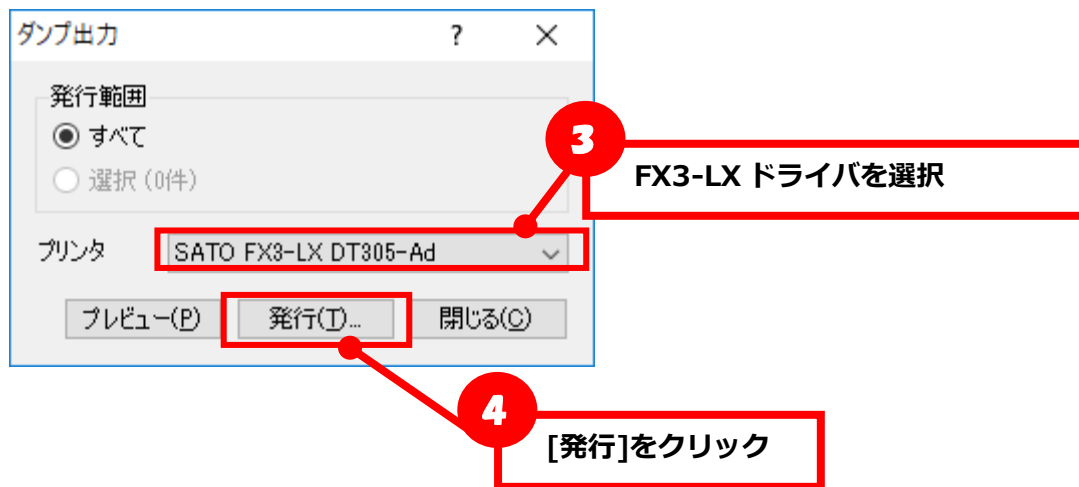
入力方法が発行時（データ）で、データ欄が未入力の場合は、オブジェクト種や入力文字チェック、フォントに応じて「?」や「9」のいずれかを設定します。ただし、連番については「0」が初期値となります。

■ 呼出しテーブルの全てのレコードを出力する場合

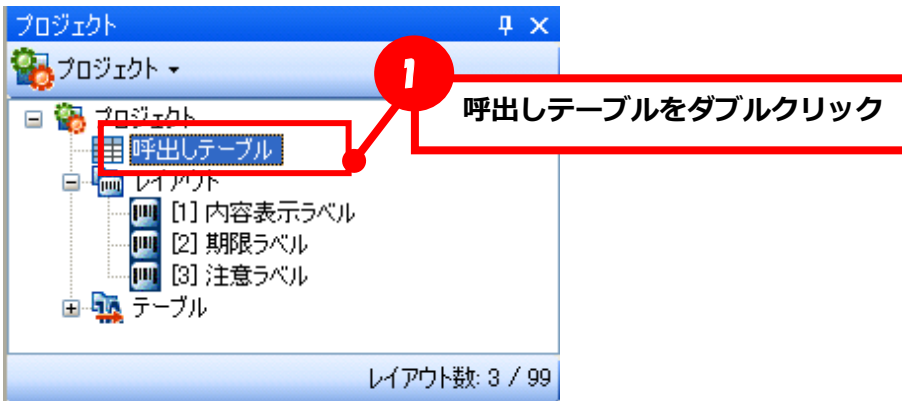


プリンタリストには、パソコンにインストールされているサトーのプリンタドライバが全て表示されます。
FX3-LX を選択してください。

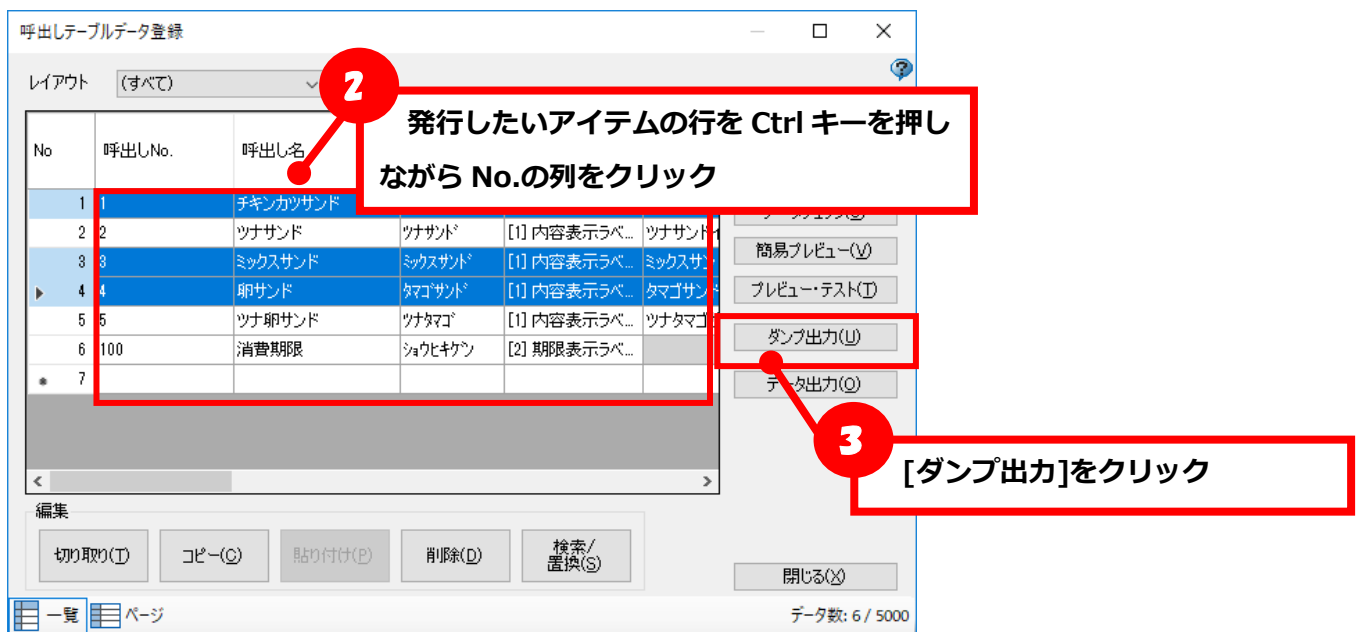
それ以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。



■任意のレコードを複数出力する場合

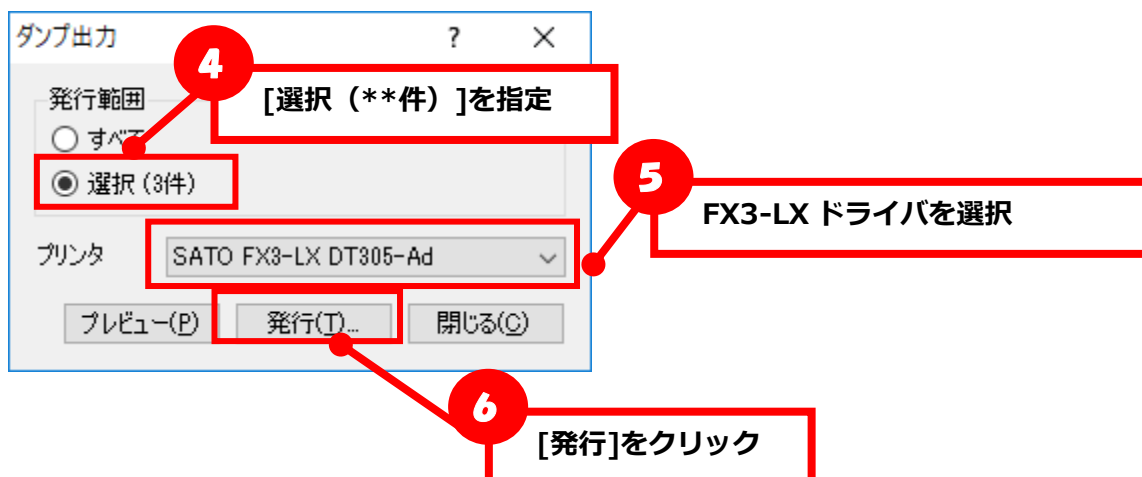


※ウィンドウ内の項目名をクリックすることで、呼出し No.を昇順／降順に変更して出力したり、グループごとにソートして出力することも可能です



プリンタリストには、パソコンにインストールされているサトーのプリンタドライバが全て表示されます。FX3-LX を選択してください。

それ以外のプリンタを選択した場合、正しく印字されない可能性があります。



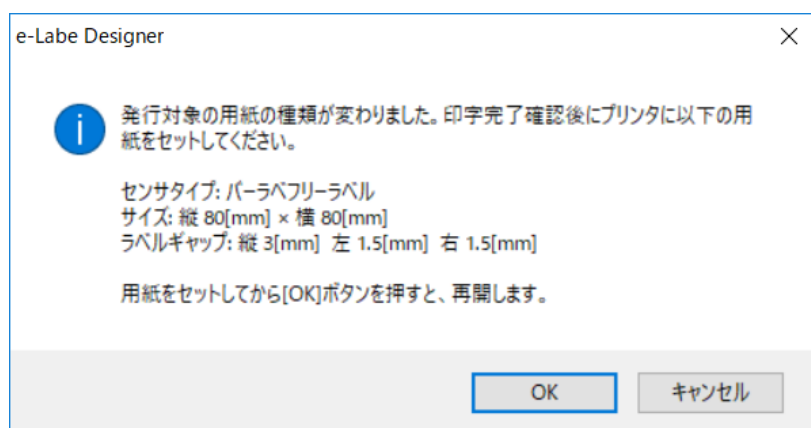
■ ダンプ出力時の注意点

ダンプ出力機能で発行したラベルには、以下の様な制限がありますのでご注意ください。

- ・ 日時の印字はプリンタ本体のカレンダーの日時ではなく、ダンプ出力の「発行」ボタンを押したときのパソコンの日時で印字されます。
- ・ 発行中にプリンタの電源を落としてしまった場合などに、プリンタドライバにデータが残ったままになることがあります。

このデータでそのまま印字を行うと、エラーが起こる前の日時がそのまま印字されてしまいます。

- ・ ダンプ出力中にレイアウト種が変わる場合、レイアウト設定の用紙タブで設定したセンサタイプ、サイズ、ラベルギャップの設定値差異をチェックして下記のダイアログを表示しますが、これ以外のカット位置や印字補正等の設定値についてはチェック対象外となります。



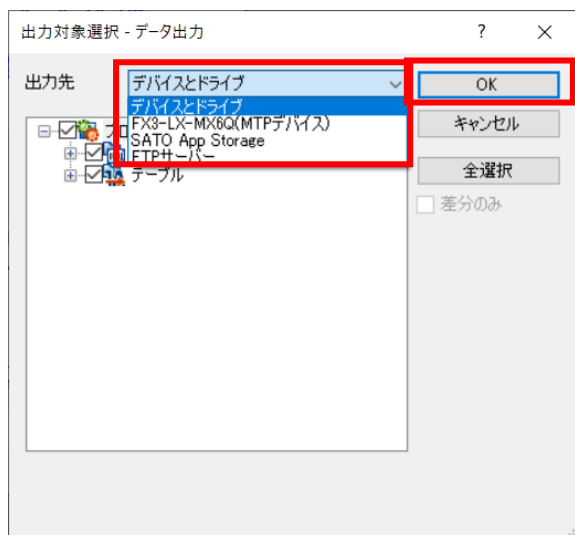
4.データ出力

Designer 作成したレイアウトデータ、呼出しテーブルデータ、テーブルデータを e-Labe Print 用ファイルに出力する機能です。

1. データ出力ボタンをクリックします。



2. 出力先を選択し、OK をクリックします。



■ 出力先：「デバイスとドライブ」、「機種名 (MTP デバイス)」、「SATO App Storage」、「FTP サーバー」から選択します。

- ・「デバイスとドライブ」

パソコン内の指定したフォルダにファイルを保存します。

- ・「機種名 (MTP デバイス) 」

USB ケーブルでパソコンと MTP デバイス (FX3-LX や Android タブレット) が接続されている場合にリストに表示されます。MTP デバイスの SATO> FormatFiles フォルダにファイルを書き込みます。
※MTP デバイスを「ファイル転送」モードで接続してください。
※複数接続されている場合はエラーとなります。複数の端末に出力したい場合も一台ずつ接続してください。

- ・「SATO App Storage」「FTP サーバー」

各種サーバーに直接ファイルをアップロードします。

【出力先プロファイルの表示について】

ツール設定のプロファイル設定であらかじめ出力先情報を登録している場合は、リストに表示されます。



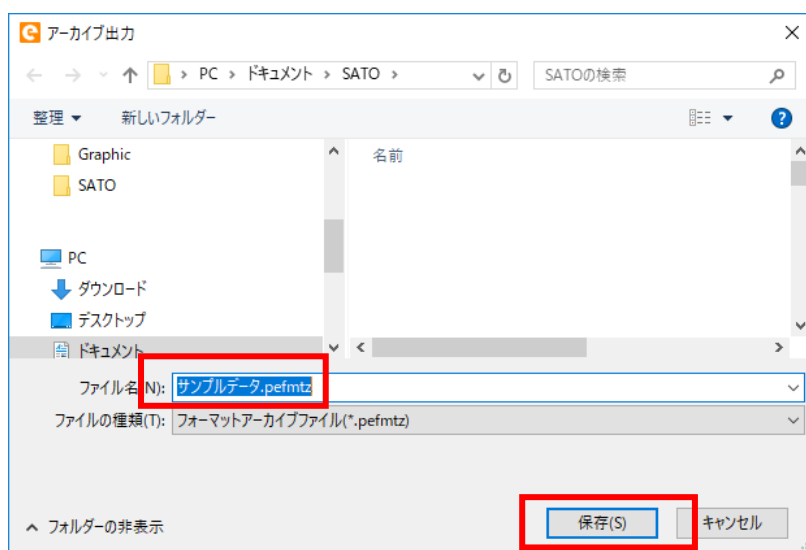
- 差分のみ：前回データ出力時から変更があったデータのみ出力データを再作成します。チェックを外すと全データを再作成するため差分のみと比較して時間がかかります。

注意：外字データはデータ出力選択の対象となりません。外字データは、レイアウトの一オブジェクトとして、出力データに含まれます。データ出力すると、出力先のデータは書き換えられます。

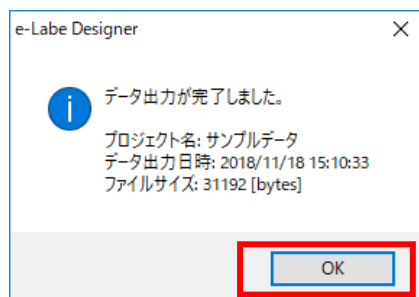
●デバイスとドライブの場合

出力先選択画面が開きます。

1. 出力先ドライブを選択します。
2. ファイル名を入力し、保存します。



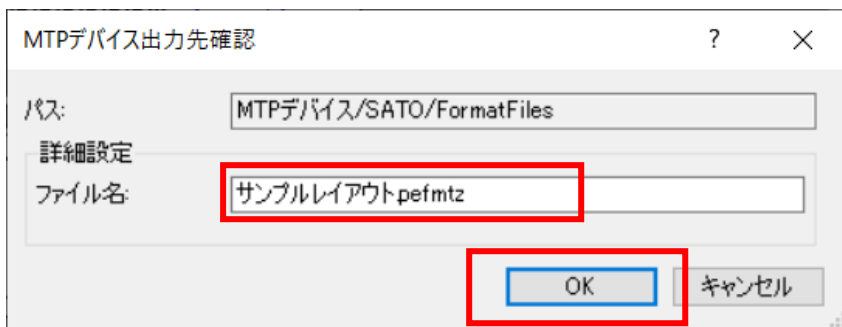
3. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



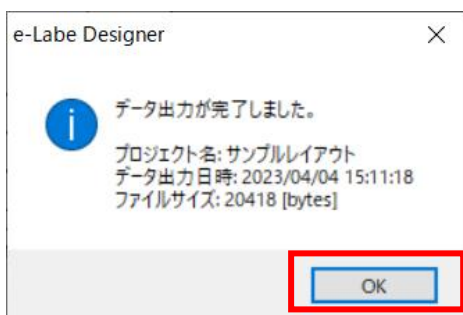
●MTP デバイスの場合

MTP デバイス出力先確認が開きます。

1. ファイル名を入力し、OK をクリックします。



2. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



●SATO App Storage の場合

SATO App Storage 接続先確認が開きます

1. 編集ボタンをクリックします。

SATO App Storage接続先確認

プロフィール名: SATO App Storage(システム)

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID:

ログインID:

詳細設定

グループ: /

フォルダー:

ファイル名: サンプルデータpefmtz

プッシュ配信設定

プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約 2022年11月21日 00:00

編集 OK キャンセル

2. 各種項目を入力します。

SATO App Storage接続設定

SATO App Storage プロキシ

プロフィール名: SATO App Storage(システム)

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID:

ログインID:

パスワード:

詳細設定

グループ: /

フォルダー:

プッシュ配信設定

プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約(デフォルト値)

時刻 00:00

曜日 日 月 火 水 木 金 土

接続テスト(T) OK キャンセル

【グループについて】

SATO App Storage で設定したグループ情報を取得し、ログイン ID 配下のグループを指定してデータ出力が可能です。

初期値「/」の場合、ログイン ID と同じ階層にデータが出力されます。

【フォルダーについて】

ログイン ID、グループで指定した階層にフォルダーを作成し出力します。

「フォルダー」の設定は任意です。

3. プッシュ配信の各種設定（初期値）を入力します

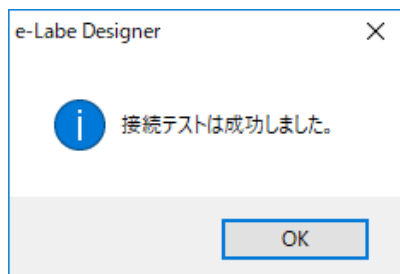
※SAS 接続設定画面で設定した値は、次回以降も反映されます。
毎回プッシュ配信を行わない場合は、この画面の設定は省略可能です。

各項目の詳細は、「7. 特別な操作-9. ツール設定-■SATO App Storage タブ」をご参照ください

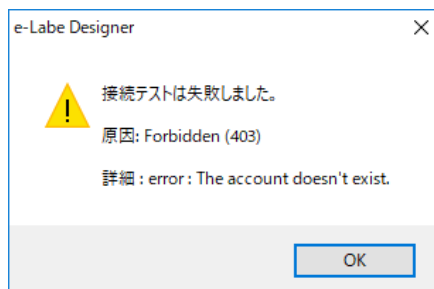
4. プロキシタブをクリックします。必要に応じてプロキシ情報を入力し「接続テスト」をおこないます。



【接続テスト成功時】



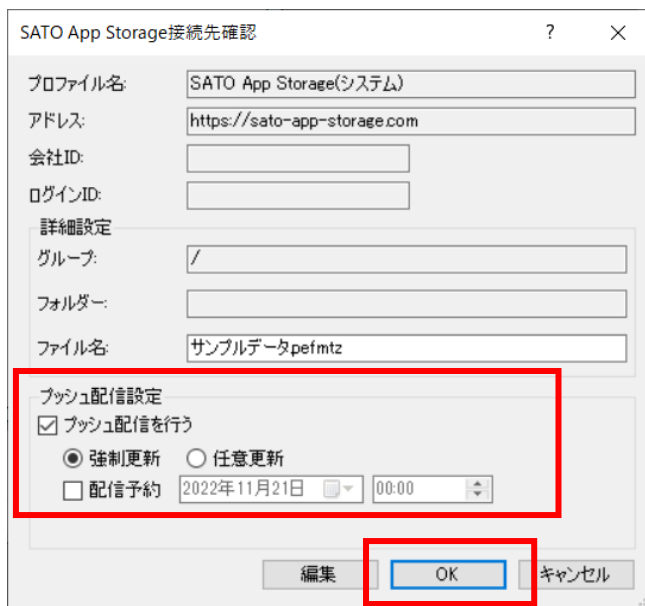
【接続テスト失敗時の一例】



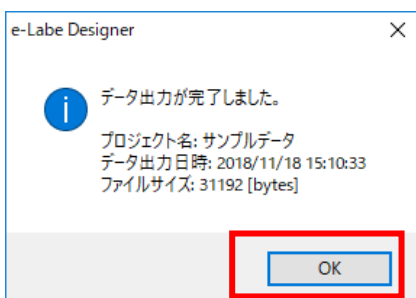
5. 「OK」をクリックします。



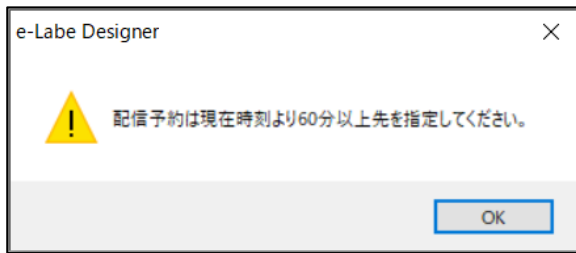
6. プッシュ配信設定に変更が必要な場合は入力し「OK」をクリックします。



7. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



※以下のダイアログが表示された場合、配信予約日時を 60 分以上先に指定して再度データ出力を行ってください。



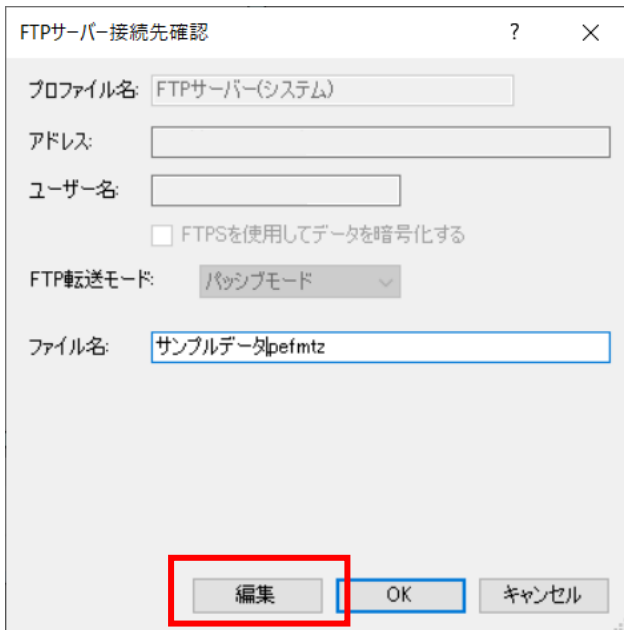
SATO App Storage の接続設定は、「データ出力」画面からだけでなく、メニューバーの「ツール」>「設定」の「ツール設定」画面の「SATO App Storage」タブでも可能です。



●FTP サーバーの場合

FTP サーバーの接続先確認が開きます

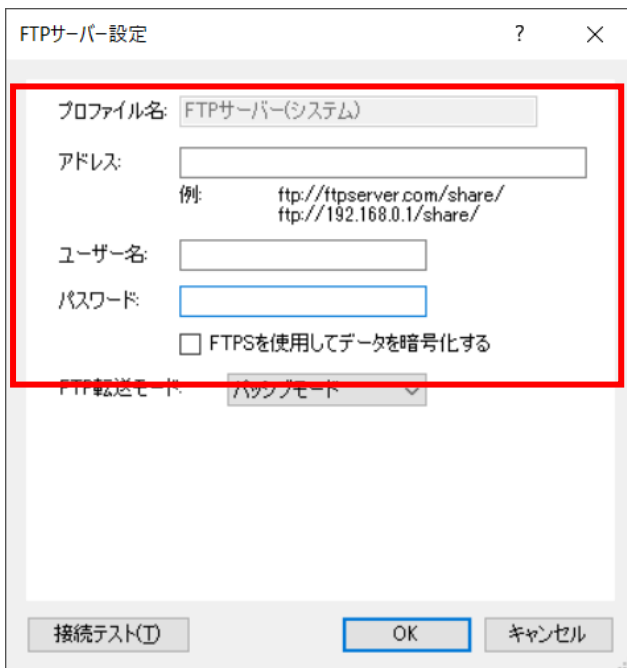
1. 編集ボタンをクリックします。



The screenshot shows a dialog box titled "FTPサーバー接続先確認". It contains the following fields and controls:

- プロフィール名: FTPサーバー(システム)
- アドレス: [Empty text box]
- ユーザー名: [Empty text box]
- FTPSを使用してデータを暗号化する
- FTP転送モード: パッシブモード (dropdown menu)
- ファイル名: サンプルデータpefmtz
- Buttons: 編集 (highlighted with a red rectangle), OK, キャンセル

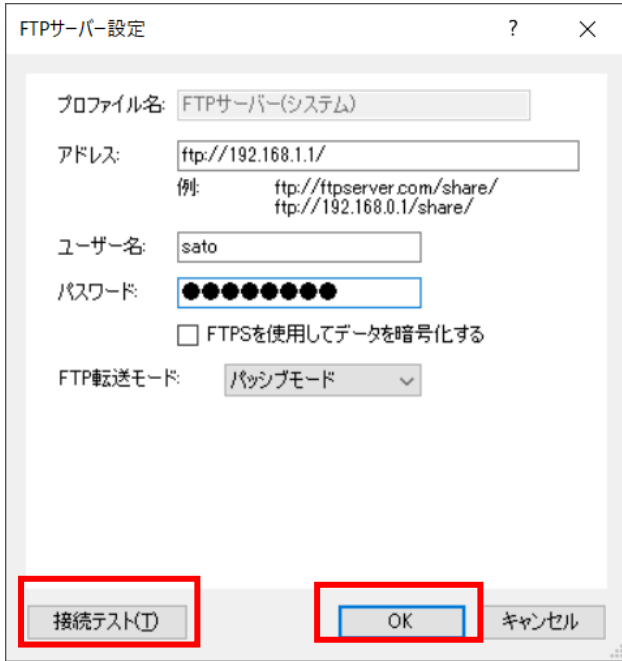
2. 各種項目を入力します。



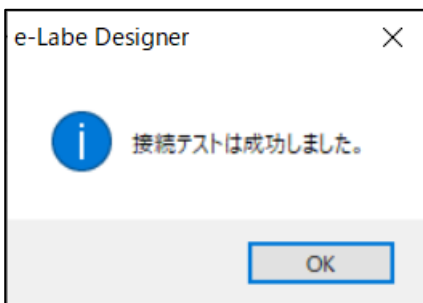
The screenshot shows a dialog box titled "FTPサーバー設定". It contains the following fields and controls:

- プロフィール名: FTPサーバー(システム)
- アドレス: [Empty text box]
例: ftp://ftpserver.com/share/
ftp://192.168.0.1/share/
- ユーザー名: [Empty text box]
- パスワード: [Empty text box]
- FTPSを使用してデータを暗号化する
- FTP転送モード: パッシブモード (dropdown menu)
- Buttons: 接続テスト(D), OK, キャンセル

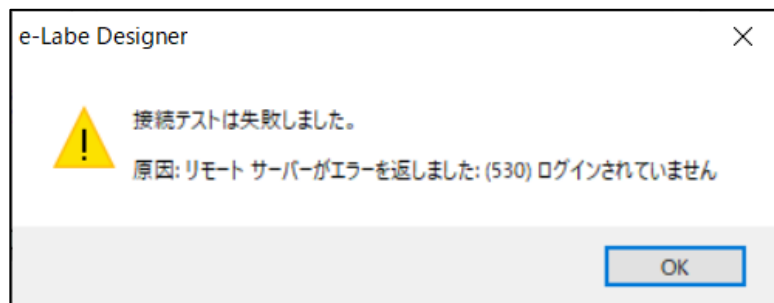
3. 必要に応じて「接続テスト」をおこないます。



【接続テスト成功時】

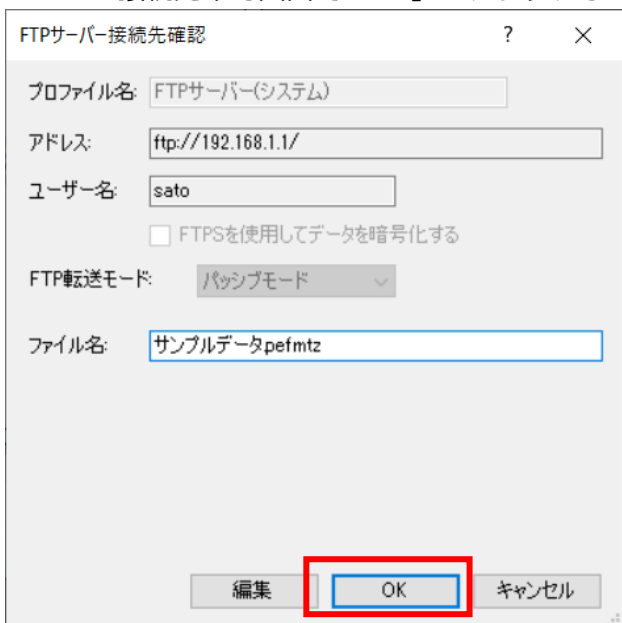


【接続テスト失敗時の一例】

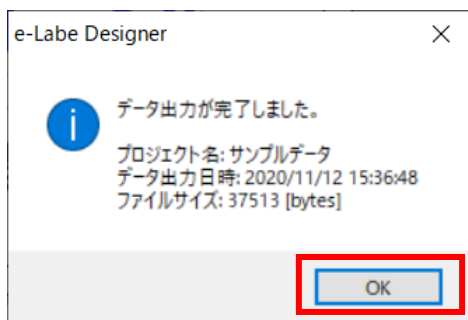


4. 「OK」をクリックします。

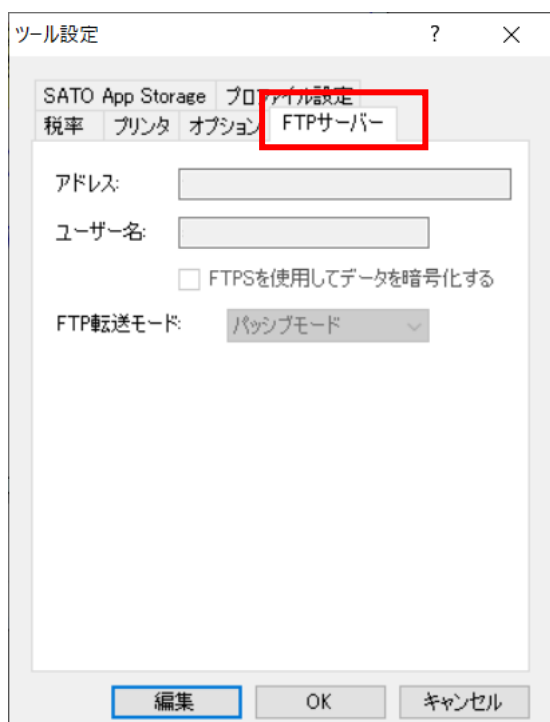
5. FTP 接続先確認画面で「OK」をクリックします。



6. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



FTPの接続設定は、「データ出力」画面からだけでなく、メニューバーの「ツール」>「設定」の「ツール設定」画面の「FTPサーバー」タブでも可能です。



●プロファイル設定の場合

各種プロファイルの出力先に応じた画面が開きます。

1. 出力先情報を確認し「OK」をクリックします。

※プロファイルの場合、データ出力時に編集はできません。ツール設定の「プロファイル設定」から編集をしてください。

[デバイスとドライブのプロファイル選択時]

出力先プロファイル確認 (デバイスとドライブ)

プロファイル名: USBメモリ

パス: D:\SATO\FormatFiles

詳細設定

ファイル名: サンプルデータpefmtz

編集 OK キャンセル

[FTP サーバーのプロファイル選択時]

FTPサーバー接続先確認

プロファイル名: FTP

アドレス: ftp://192.168.1.1/

ユーザー名: sato

FTPSを使用してデータを暗号化する

FTP転送モード: パッシブモード

ファイル名: サンプルデータpefmtz

OK キャンセル

[SATO App Storage のプロファイル選択時]

SATO App Storage接続先確認

プロファイル名: 関東エリア

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID: SATO

ログインID: sato

詳細設定

グループ: /

フォルダー:

ファイル名: サンプルデータpefmtz

プッシュ配信設定

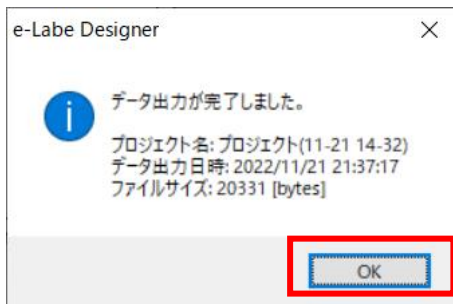
プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約 2022年11月27日 00:00

編集 OK キャンセル

2. 出力完了ダイアログが表示されたら「OK」をクリックします。



5.発行履歴データ設定

プリンタ発行時に出力する発行履歴の出力項目を任意に設定することができます。設定はレイアウトごとに可能です。

実際に出力される履歴データにはこの画面で設定した項目の先頭に、発行日時等の固定の履歴項目が付加されます。先頭に付加される項目は「固定出力項目について」を参照してください。

※発行履歴を出力するためには、e-Labe Print 設定で「発行履歴」を「ON」にする必要があります

設定できるデータは**最大 99 項目、1 項目の最大桁数 1000 桁、各項目を合計した桁数が 5000 桁以内**となります。

No.	履歴項目	開始桁	桁数	サンプル
1	商品名	1	20	生チョコレート
2	JAN13	1	13	0000000000000000
3	入力価格	1	6	(入力価格)
4	保存方法	1	16	常温で保存
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

合計 55 桁

・追加

登録したデータとデータの間新しく行を追加します。

・削除

指定した行を削除します。

・上へ

指定した行を上へ移動できます。

・下へ

指定した行を下へ移動できます。

・合計桁数

設定した項目の合計桁数を表示します。最大合計桁数は 5000 桁です。

サンプルの表示内容は、レイアウト上のオブジェクトの状態や、初期値（入力値）の入力有無によって変わります。

以下に、サンプル表示内容の詳細条件を記載します。

■ サンプルの表示条件

表示条件		サンプルの表示
レイアウトのオブジェクトが正常	初期値（入力値）あり	黒字：初期値（入力値）が表示
	初期値（入力値）なし	青字：オブジェクト名が（）付で表示
レイアウトのオブジェクトがエラー	範囲外エラー	正常の場合と同じ条件で表示
	それ以外のデータ出力が不可能なエラー	赤字：エラー表示
レイアウトのオブジェクトが削除		赤字：エラー表示

発行履歴データ設定

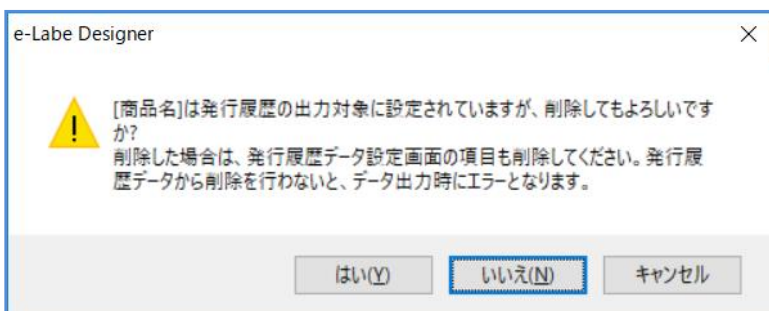
No.	履歴項目	桁数	サンプル
▶ 1	商品名	16	生チョコレート
2	JAN13	13	0000000000000
3	入力価格	6	(入力価格)
4		16	エラー

オブジェクト削除により空欄

※履歴出力に設定されているオブジェクトの削除について

履歴出力項目に設定されているオブジェクトを削除するときは、以下のような警告メッセージが表示されます。

レイアウト上のオブジェクトを削除しても、発行履歴データの設定は削除されず、エラーの状態のまま残りますので、メッセージのとおり発行履歴データからも削除が必要です。



■固定出力項目について

ラベル発行時に固定で出力される履歴項目は以下です。

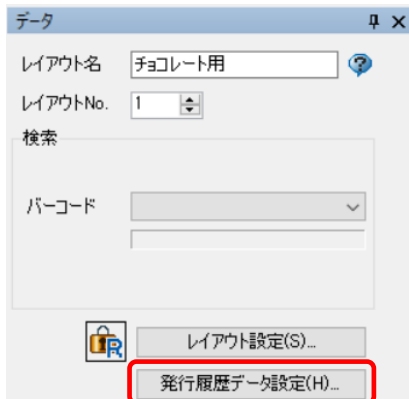
発行指示日	発行指示時間	発行完了日※	発行完了時間※	呼出し No.	発行指示枚数	発行完了枚数※
YYYY-MM-DD	hh:mm:ss	YYYY-MM-DD	hh:mm:ss	0001	000001	000001

※の付いた項目は、以下のいずれかの条件に合致する場合に値がセットされます
(条件に合致しない場合は値が空の状態です)

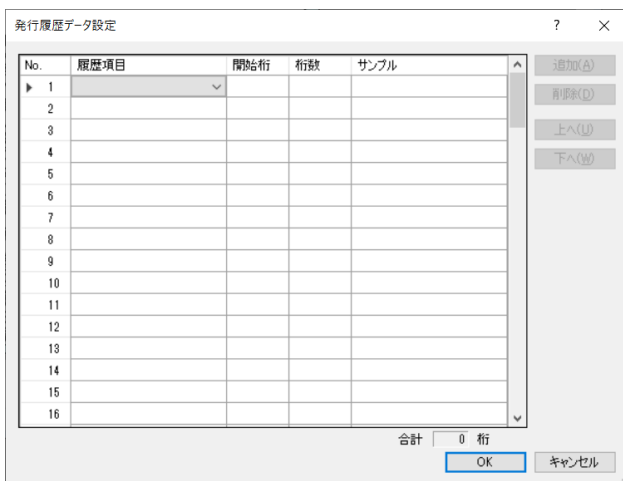
- ・リアルタイム発行が有効な日時を含むレイアウトを発行した場合
- ・e-Labe Print の設定で「枚数カウント表示」が有効な場合

発行履歴データ設定手順

1.レイアウトのプロパティ画面（データウィンドウ）を表示し「発行履歴データ設定」ボタンをクリックしてください。



2.発行履歴データ設定画面が開きます。



3.履歴項目に出力したいオブジェクトを一覧から選択し、開始桁、桁数を入力します。

サンプル欄に選択したオブジェクトのプレビュー表示がされます。

赤字で「エラー」と表示された場合は、元のオブジェクトがエラーとなっているか、既に削除されている可能性があります。

※サンプルの表示条件は、本章の「■サンプルの表示条件」を参照ください。



各項目の最大桁数：1000 桁

合計最大桁数：5000 桁

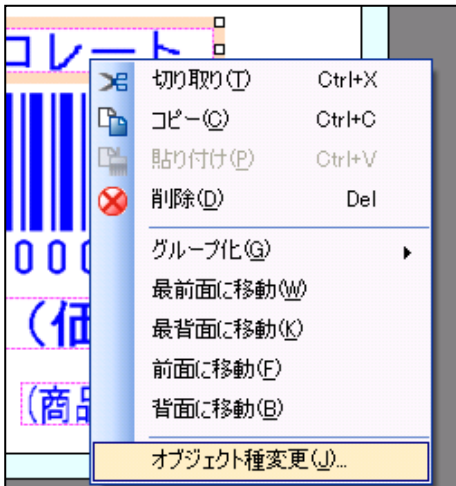
6.オブジェクト種変換

デザイン上に貼り付けられたオブジェクトの種類を変更することが可能です。

変更可能なオブジェクトの種類は、“文字列”⇔“価格” および“文字列”⇔“日時”の4種類になります。

1.変更したいオブジェクトを選択して、右クリックでメニューを表示します。

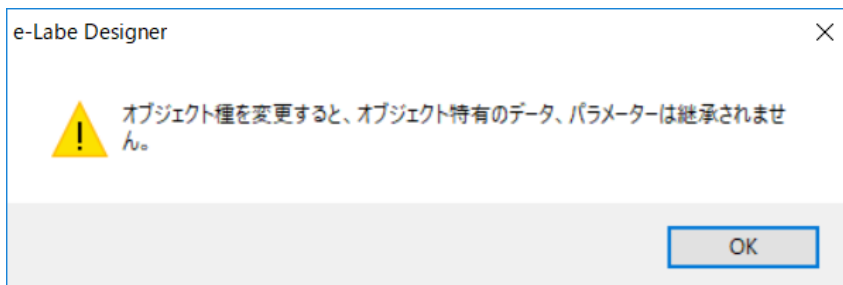
2.メニューから、「オブジェクト種変更」を選択してください。



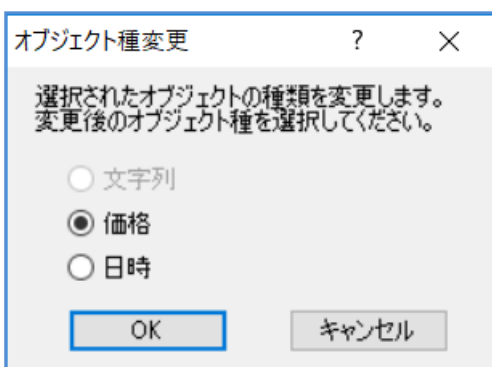
3.オブジェクト種変更時の注意メッセージが表示されます。

OK ボタンを押してください。

オブジェクトを変更した場合には、価格オブジェクトの持つ“¥”、“,” (カンマ) “”の補填機能や自動計算などの一部機能は無効になります。



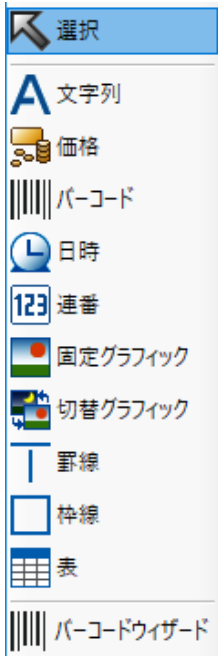
4.変換後のオブジェクトの種類を確認して、「OK」ボタンを押してください。



7.バーコードウィザード

複雑な組み合わせのバーコードをウィザード形式で作成するための機能です。
作成可能なバーコードの種類は、JAN13（JAN13 価格 CD）、JAN8 の2種類になります。
基本的な操作方法は以下の通りです。

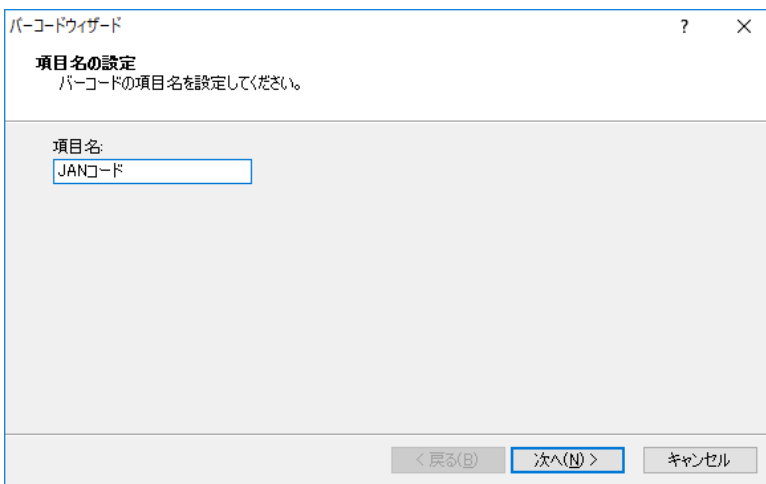
1.オブジェクトバーの「バーコードウィザード」ボタンをクリックしてください。



2.カーソルが「オブジェクト貼り付け時カーソル」に変わりますので、デザインウィンドウ上の任意の場所をクリックしてください。

3.バーコードウィザード画面が表示されますので、項目名にオブジェクトの名称を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

名称として入力できる文字は 32 桁（全角 16 文字）までです。

A dialog box titled 'バーコードウィザード' (Barcode Wizard) with a question mark and close button in the title bar. The main content area is titled '項目名の設定' (Item Name Setting) and contains the instruction 'バーコードの項目名を設定してください。' (Please set the item name for the barcode.). Below this is a text input field labeled '項目名:' (Item Name:) containing the text 'JANコード'. At the bottom of the dialog are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ(N) >' button is highlighted with a blue border.

4.リストボックスからバーコード種を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a dialog box titled 'バーコードウィザード' (Barcode Wizard) with a subtitle 'バーコード種の選択' (Barcode Type Selection). The instruction reads: '作成するバーコードの種類を選択してください。' (Please select the type of barcode to create). A dropdown menu labeled 'バーコード種' (Barcode Type) has 'JAN13' selected. At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

5.作成するバーコードの構成を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
作成したいバーコード構成が登録されていない場合は、新規登録ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the 'バーコードウィザード' (Barcode Wizard) dialog box at the 'バーコード構成選択' (Barcode Composition Selection) step. The instruction reads: 'バーコードの構成を選択してください。' (Please select the barcode composition). A list of compositions is shown, with the first one selected: 'フラグ(2) + メーカー(6) + 商品コード(5) + CD'. Other options include 'フラグ(2) + メーカー(7) + 商品コード(3) + CD', 'フラグ(2) + 入力(6) + 面格(4) + CD', 'フラグ(2) + 入力(6) + 面格(5) + CD', 'フラグ(2) + 入力(4) + 面格(6) + CD', and 'フラグ(2) + 入力(6) + 面格CD(1) + 面格(4) + CD'. To the right of the list are buttons for '新規登録(E)...' (New Registration) and '削除(D)...' (Delete). At the bottom, there are three buttons: '< 戻る(B)' (Back), '次へ(N) >' (Next), and 'キャンセル' (Cancel).

※新規登録

新規に登録する構成の項目名と桁数を入力し、「登録」ボタンをクリックしてください。

ここで登録した内容は、「項目名 (桁数)」で構成選択画面に表示されます。

各項目の桁数の合計が、4.で選択したバーコード種ごとの必要桁数までに達したときに、最終行に自動で CD 項目が追加されます。

桁数の欄には、各項目の桁数の合計値が表示されます。

新規登録する構成の項目名と桁数を設定してください。

項目名	桁数	
1	フラグ	2
2	大分類	2
3	中分類	3
4	商品コード	5
5		
6		
7		
8	CD	1

桁数: 13 桁

JAN13 の場合は 12 桁、JAN8 の場合は 7 桁まで登録すると、CD 項目が追加されます。

JAN13 の場合は 13 桁、JAN8 の場合は 8 桁になる様に設定してください。

新規に登録した構成は、構成一覧に青文字で表示されます。

バーコード構成選択
バーコードの構成を選択してください。

[]項目名 ()桁数で表示しています。項目名は任意に変更可能です。
リストに表示したい構成が見つからない場合は、新規登録から新たに作成してください。

- [フラグ(2)] + [大分類(2)] + [中分類(3)] + [商品コード(5)] + CD
- [フラグ(2)] + [大分類(2)] + [商品コード(3)] + CD
- [フラグ(2)] + [入力(6)] + [価格(4)] + CD
- [フラグ(2)] + [入力(5)] + [価格(5)] + CD
- [フラグ(2)] + [入力(4)] + [価格(6)] + CD
- [フラグ(2)] + [入力(5)] + [価格CD(1)] + [価格(4)] + CD

[フラグ(2)] + [大分類(2)] + [中分類(3)] + [商品コード(5)] + CD

バーコード種で JAN13 を選択した場合には、価格 CD にチェックが可能になります。

価格 CD にチェックすると、各項目の桁数の合計が必要桁数までに達したときに、価格 CD、価格、CD が自動で追加されます。

新規登録する構成の項目名と桁数を設定してください。

項目名	桁数	
1	フラグ	2
2	商品コード	6
3		
4		
5		
6	価格CD	1
7	価格	4
8	CD	1

桁数: 14 桁

JAN13 の場合は 12 桁、JAN8 の場合は 7 桁まで登録すると、価格 CD、価格、CD 項目が追加されます。

6.構成内の項目の詳細を設定し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

バーコードウィザード

項目詳細設定
項目ごとの詳細を設定します。

既存の項目のデータを参照する場合は、種類列の“参照”を選択して、参照するオブジェクトを一覧から選択します。

No.	種類	項目名	データ	開始桁	桁数
1	固定	フラグ	02		2
2	発行時入力	大分類			2
3	発行時入力	中分類			3
▶ 4	参照	商品コード	商品コード	1	5
5	CD	CD			1

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

設定内容は次のようになります。

・種類

データの種類になります。

発行時入力：発行時に入力する項目になります。

テキスト：固定項目になります

参照：別の項目の値を参照する項目になります。

・項目名

項目の名称です。32 桁（全角 16 文字）以内で設定します。

・データ

発行時入力の初期値、固定印字の“値”を設定します。

・開始桁

参照先の何桁目からを参照するかを設定します。※種類で参照を設定している場合のみ

・桁数

項目の桁数です。

7.バーコードの詳細を設定し「完了」ボタンをクリックしてください。



設定内容は次のようになります。

・高さ

バーコードの高さになります。

・細バー幅

バーコードのナローバーの幅になります。

・解説文字

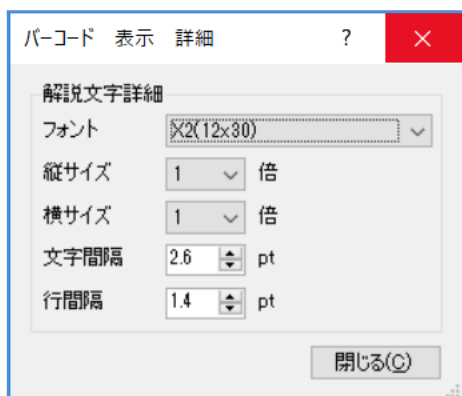
解説文字の有無、ガードバーを設定します。

・プレビュー

縦横比を維持した状態で、バーコードのイメージを表示します。貼り付け時のサイズとは異なります。

・詳細設定

詳細を設定します。



設定内容は次のようになります。

・フォント名

解説文字のフォント種を選択します。

・縦サイズ

解説文字の縦サイズを設定します。

・横サイズ

解説文字の横サイズを設定します。

・文字間隔

解説文字の文字間ピッチを設定します。

・行間隔

バーコードから解説文字までの間隔を設定します。

ウィザードで作成したバーコードは、下記の様に表示されます。



また、ウィザードで作成されたバーコードは、データウィンドウで設定できる内容に制限があります。ウィザードで作成したバーコードは、入力方法の変更、構成の桁数変更、バーコード種の変更ができません。

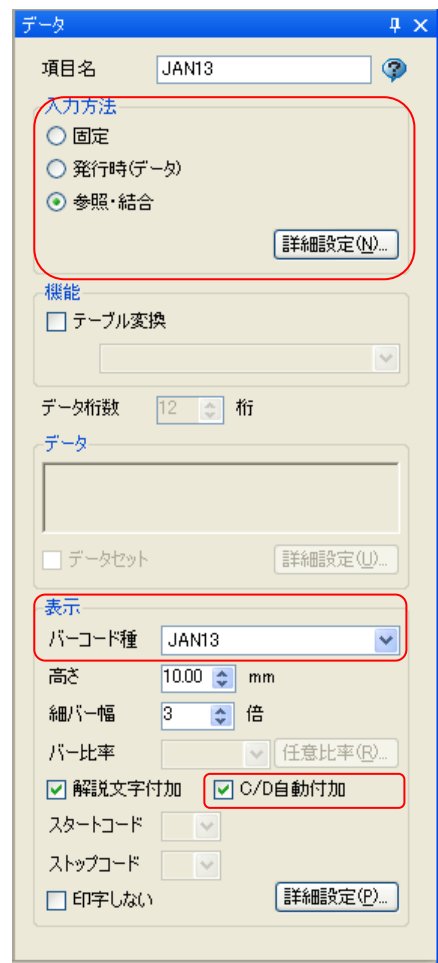
■ウィザードで作成したバーコードのデータウィンドウ



一部の項目以外の設定変更はできません



■通常のバーコードのデータウィンドウ



8.グリッド設定

グリッド表示状態

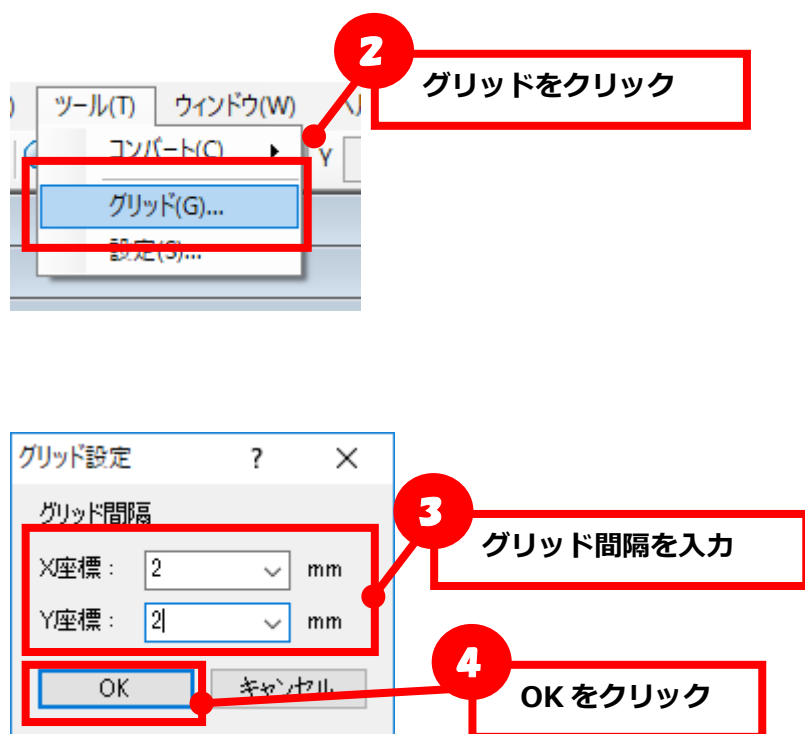


デザイン画面上に、オブジェクト配置の目安となるグリッドを表示することができます。

メニューバーグリッドボタン



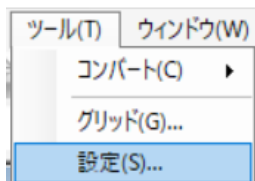
グリッドサイズの変更方法



9. ツール設定

ツールの設定をおこなう画面です。

1.メニューバーの「ツール」から、「設定」を選択してください。

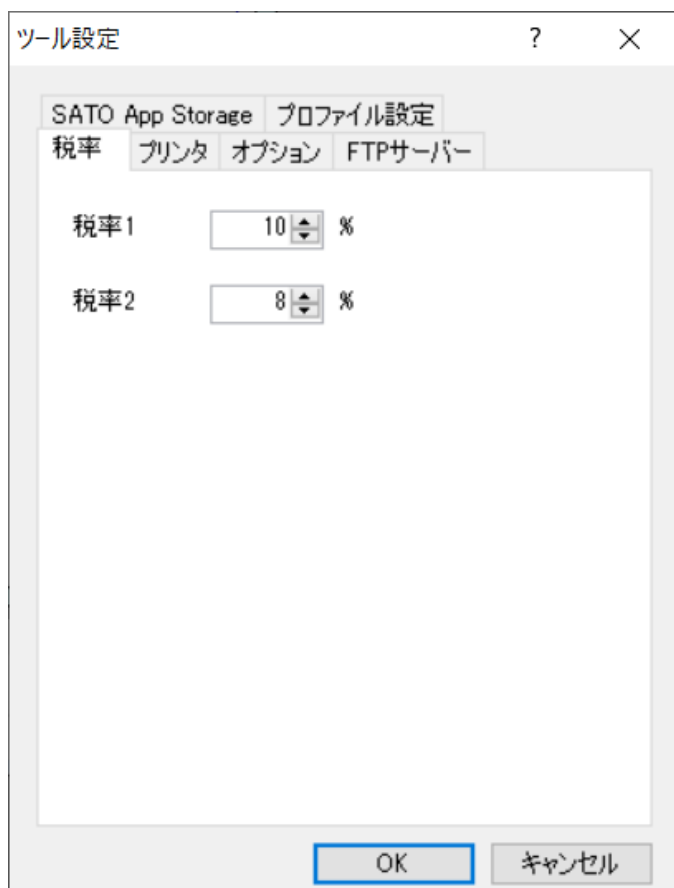


■ 税率設定タブ

新規にレイアウトを作成した際の、税率の初期値を設定します。

整数の値で税率を入力し、「OK」ボタンを押します。

ここで設定した税率は、新規に作成したレイアウトに適用されます。

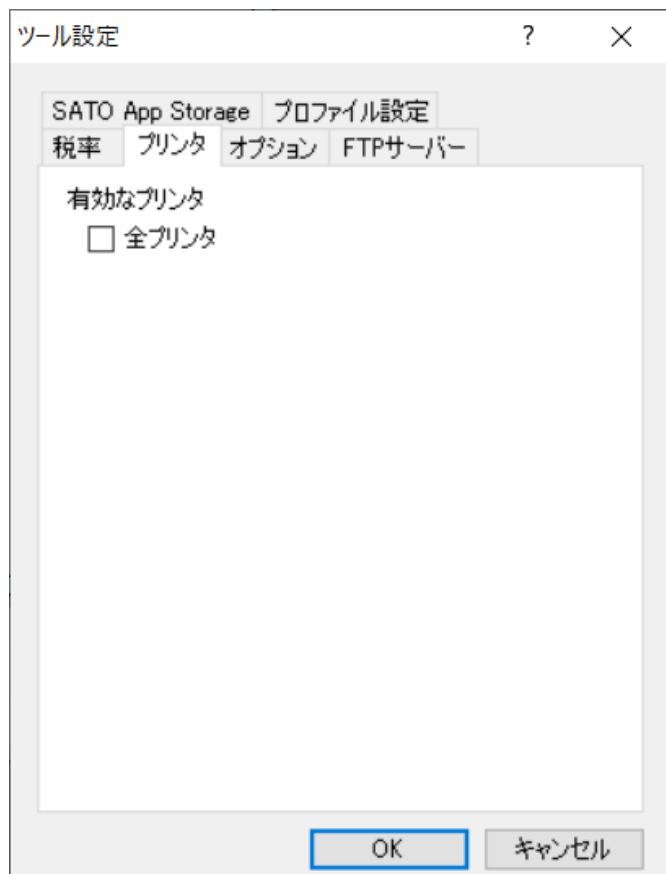


既存のレイアウトの税率設定の変更は、「レイアウト設定」から行ってください。

■プリンタタブ

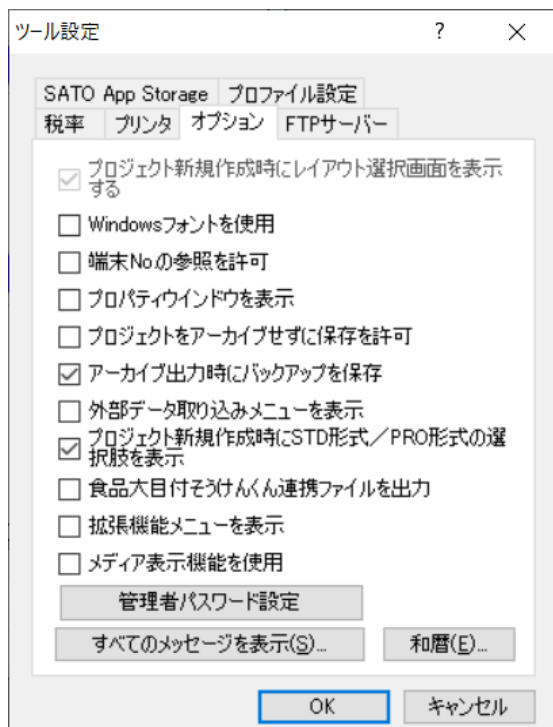
通常変更する必要はありません。

FLEQV FX3-LX 以外のプリンタ機種用のデータを作成する際にチェックをいれてください。
新規作成時またはプロジェクト設定画面にプリンタ選択画面が表示されるようになります。



■オプションタブ

Designer の動作についての設定を行います。



プロジェクト新規作成時にレイアウト選択画面を表示する :

プロジェクトを新規作成するときに、基本レイアウトか発行レイアウトかの選択画面を表示するか、しないかの設定を行います。

Windows フォントを使用 :

チェックを入れると、Windows フォントが選択可能になります。

端末 No.の参照を許可 :

チェックを入れると、e-Labe Print で設定する端末 No.の参照が可能になります。

プロパティウィンドウを表示する :

チェックを入れると、プロパティウィンドウでのオブジェクト設定が可能になります。

プロジェクトをアーカイブせずに保存を許可 :

通常は OFF です。プロジェクトを一ファイル化せずに保存できるようになります。peproj ファイルと、peproj ファイルと同名の.files フォルダの構成になりますが、ファイル名やフォルダ名を変更すると、プロジェクトが開けなくなります。

アーカイブ出力時にバックアップを保存 :

通常は ON です。データ出力をする際に、e-Labe Designer の Project ファイルのバックアップをフォーマットファイル (.pefmtz) 内に保存します。

外部データ取り込みメニューを表示 :

チェックを入れると、外部データ取り込み定義および外部データ取り込の2つの機能が有効になります。

プロジェクト新規作成時に STD 形式/PRO 形式の選択肢を表示 :

チェックを入れると、プロジェクト新規作成時に、STD 形式か PRO 形式を選択する画面を表示します。

食品大目付そうけんくん連携ファイルを出力：

PRO 形式選択時に有効となります。

チェックを入れると、「食品大目付そうけんくん」との連携用ファイルをプロジェクトの保存時に出力します。

拡張機能メニューを表示：

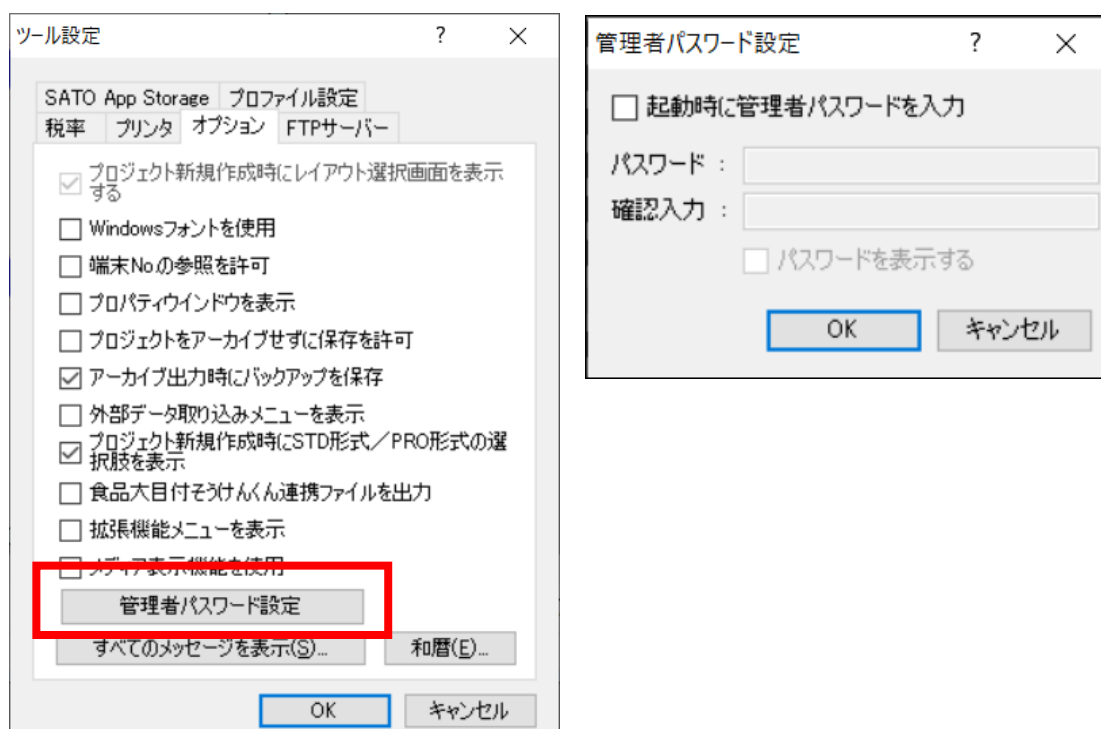
チェックを入れると、プロジェクト設定に「拡張機能」タブを表示します。

メディア表示機能を使用：

チェックを入れると、入力画面のメディア表示オプションや内部データの編集機能が有効になります。

管理者パスワード設定：

Designer 起動時にパスワード入力画面を表示するかを設定します。



・起動時に管理者パスワードを入力

チェックを入れると、Designer 起動時にパスワード入力画面を表示します。

・パスワード

パスワードを入力します。設定可能な条件は以下となります。

パスワード未設定の場合も、パスワード入力画面は表示されます。

[最大桁数]128 桁

[使用可能な文字]半角数字

半角英字 (大文字、小文字)

半角記号 !"#%&'()*+,-./:;<=>@[¥]^_`{|}~

・確認入力

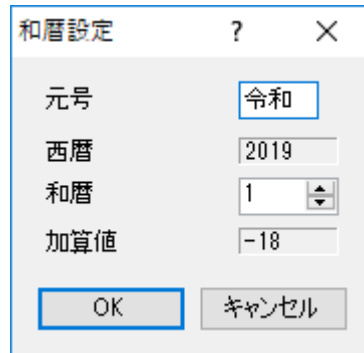
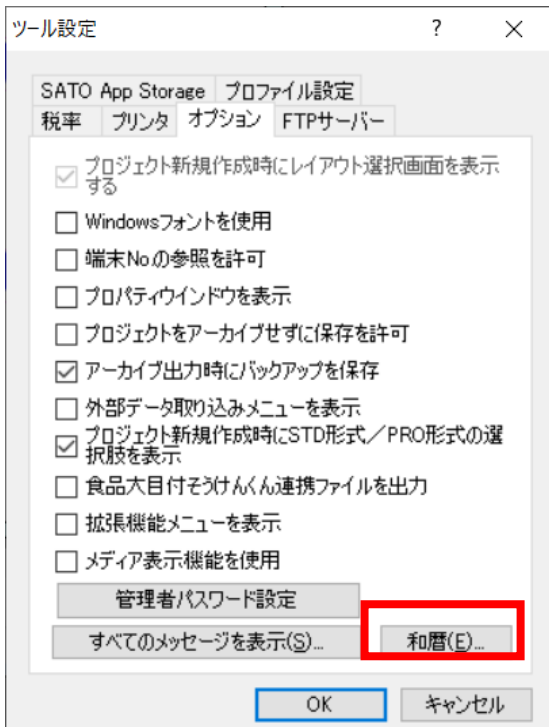
確認用に再度パスワードを入力します。

・パスワードを表示する

チェックを入れると、パスワードを表示します。

和暦設定：

e-Labe Print で印字する和暦を設定します。



元号と和暦を設定して、「OK」ボタンを押してください。

・元号

元号を漢字 2 文字以下で設定します。（未入力も可）

・西暦

パソコンのシステム日付から現在の西暦を表示します。

・和暦

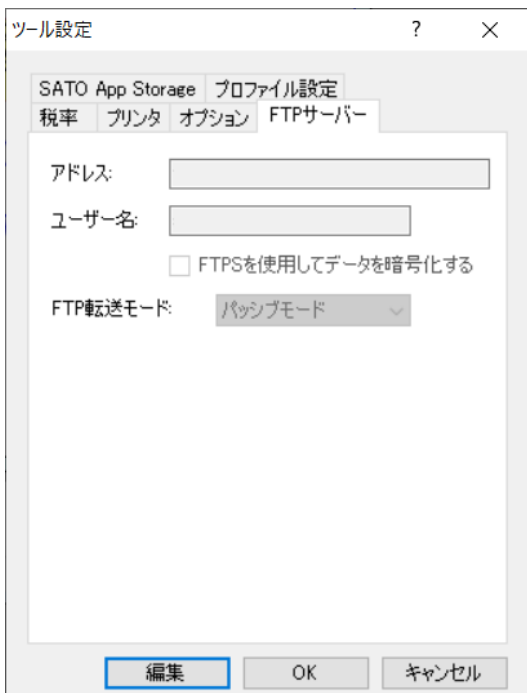
現在の和暦を 1～99 までの 2 桁の数字で入力します。

・加算値

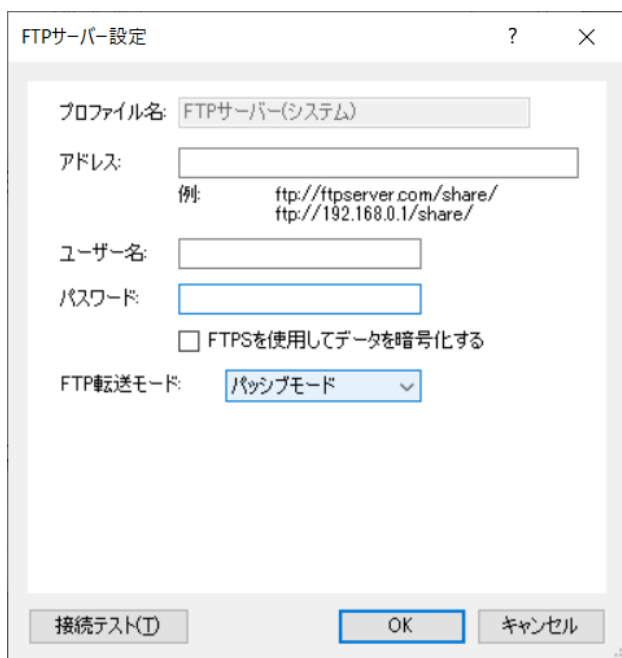
西暦の下 2 桁に対して、設定された和暦がいくつ加算されているかを計算して表示します。

■FTP サーバータブ

「データ出力」で FTP サーバへアップロードするための接続情報を設定します。接続テストも可能です。



【編集画面】

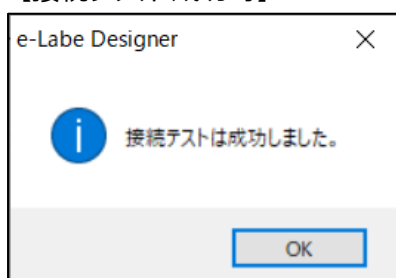


以下の項目を設定します。

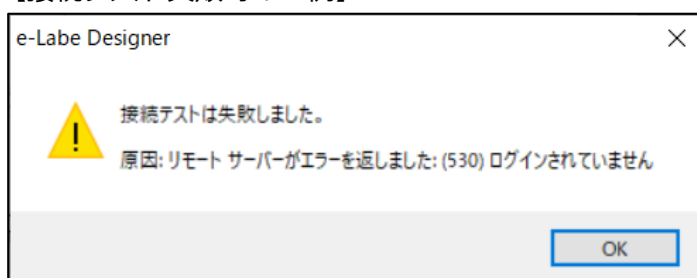
- ・アドレス
- ・ユーザー名
- ・パスワード
- ・FTPS を使用してデータを暗号化する
- ・FTP 転送モード (アクティブモード/パッシブモード)

上記設定での接続テストが可能です。

【接続テスト成功時】



【接続テスト失敗時の一例】



■ SATO App Storage タブ

「データ出力」で SATO App Storage へアップロードするための接続情報を設定します。
プッシュ配信設定の初期値も設定可能です。

ツール設定

税率 プリンタ オプション FTPサーバー

SATO App Storage プロファイル設定

アドレス:

会社ID:

ログインID:

詳細設定

グループ:

フォルダー:

編集 OK キャンセル

【編集画面】

SATO App Storage 接続設定

SATO App Storage プロキシ

プロフィール名:

アドレス:

会社ID:

ログインID:

パスワード:

詳細設定

グループ:

フォルダー:

プッシュ配信設定

プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約 (デフォルト値)

時刻

曜日 日 月 火 水 木 金 土

接続テスト OK キャンセル

以下の項目を設定します。

- ・アドレス
- ・会社 ID
- ・ログイン ID
- ・パスワード
- ・グループ ※1
- ・フォルダー ※2

※1:SATO App Storage で設定したグループ情報を取得し、ログイン ID 配下のグループを指定してデータ出力が可能です。

初期値「/」の場合、ログイン ID と同じ階層にデータが出力されます。

※2:フォルダーは任意項目です

フォルダーを利用した運用は次項の「フォルダーについて」を参照ください



プッシュ配信を行う：

チェックを入れると、プッシュ配信通知機能が有効になります

強制更新／任意更新：

強制更新を選択すると、Sato App Storage を介して e-Labe Print がプッシュ通知を受信した際、強制的にデータ更新を行います。

任意更新を選択すると、e-Labe Print の画面に、更新確認ダイアログが表示されます。

配信予約 (デフォルト値)：

チェックを入れると、Sato App Storage が e-Labe Print にプッシュ配信を送る日時を指定することが可能です。

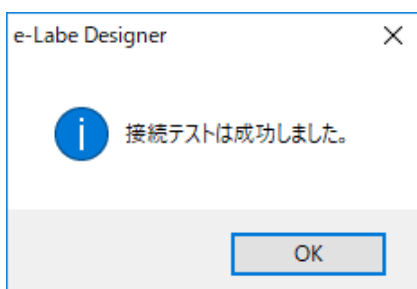
時刻や曜日を設定すると、データ出力をおこなう際に条件に一番近い日時が配信日時として表示されます。



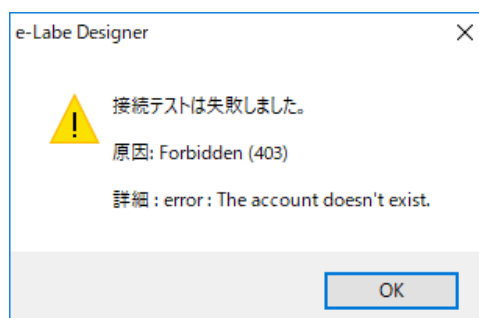
プロキシタブで必要に応じてプロキシを設定します。

上記設定での接続テストが可能です。

【接続テスト成功時】

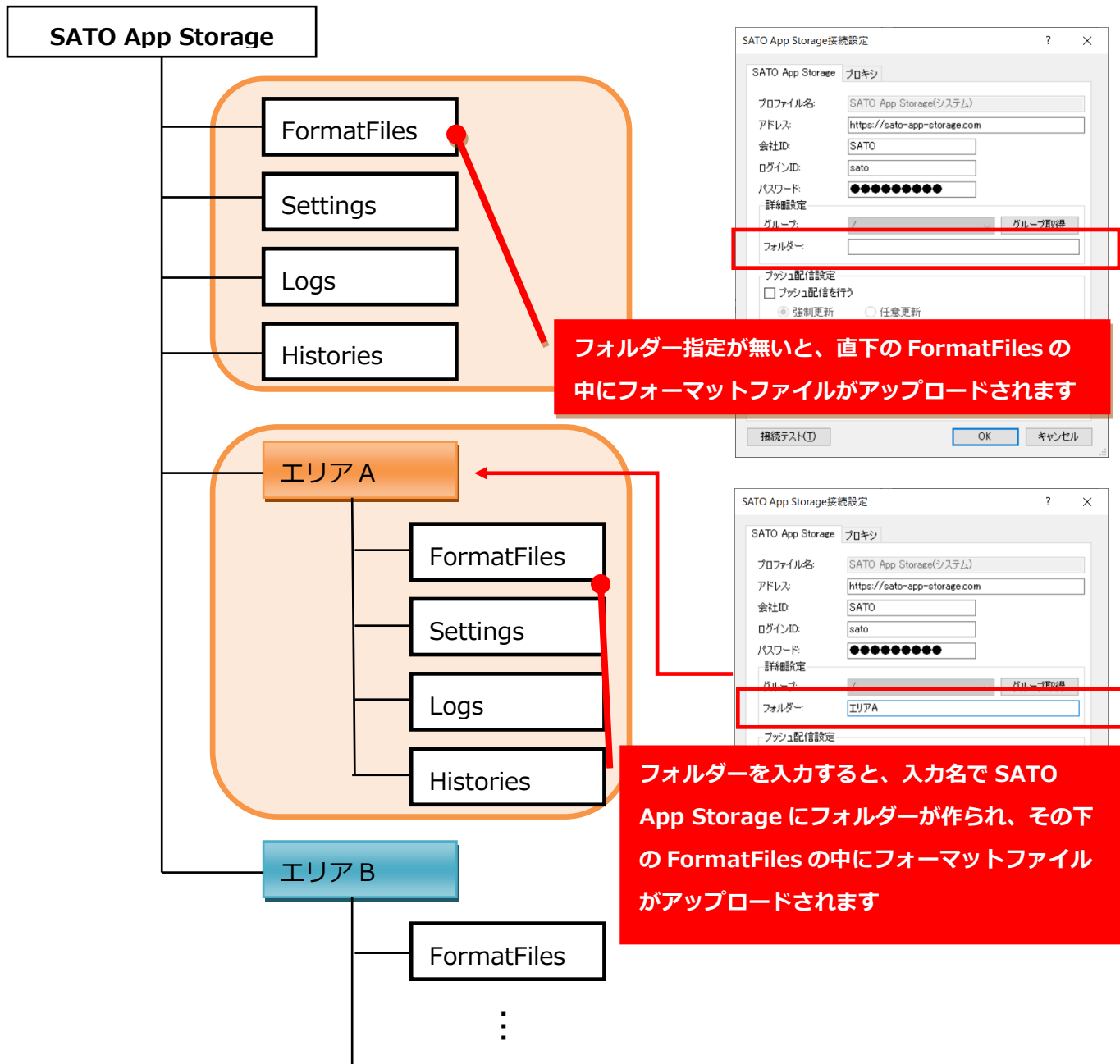


【接続テスト失敗時の一例】



・フォルダーについて

フォルダーは任意項目です。SATO App Storage にアップロードするファイルを、フォルダー別に分けたい場合に利用します。e-Labe Print で受信時も、そのフォルダーを指定することでフォルダー以下のファイルをダウンロード可能です。



■プロフィール設定タブ

「データ出力」でフォーマットファイルを出力する出力先情報の新規追加、編集、削除がおこなえます。設定情報をインポート/エクスポートも可能です。最大 10 件まで登録することができます。



□プロフィールを新規追加する

プロフィール設定画面で右クリック、表示されたメニューの中から「新規追加」をクリックし出力先を選択します。



●SATO App Storage の場合

出力先プロファイル設定（SATO App Storage）が開きます。

1. プロファイル名およびその他の項目を入力し「OK」をクリックします。

※各項目の細かな説明は「■SATO App Storage タブ」の説明をご参照ください。

出力先プロファイル設定 (SATO App Storage)

SATO App Storage プロキシ

プロファイル名: 関東エリア

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID: SATO

ログインID: sato

パスワード: ●●●●●●●●

詳細設定

グループ: / グループ取得

フォルダー:

プッシュ配信設定

プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約 (デフォルト値)

時刻 00:00

曜日 日 月 火 水 木 金 土

接続テスト(D) OK キャンセル

2. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。

ツール設定

税率 プリンタ オプション FTPサーバー

SATO App Storage プロファイル設定

表示順	プロファイル名	出力先
1	関東エリア	SATO App Storage

上へ移動 下へ移動

OK キャンセル

●FTP サーバーの場合

出力先プロファイル設定（FTP サーバー）が開きます。

1. プロファイル名およびその他の項目を入力し「OK」をクリックします。

※各項目の細かな説明は「■FTP サーバータブ」の説明をご参照ください。

出力先プロファイル設定(FTPサーバー)

プロファイル名: FTP設定

アドレス: ftp://192.168.1.1/
例: ftp://ftpserver.com/share/
ftp://192.168.0.1/share/

ユーザー名: sato

パスワード: ●●●●●●●●

FTPSを使用してデータを暗号化する

FTP転送モード: パッシブモード

接続テスト(T) OK キャンセル

2. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。

ツール設定

税率 プリンタ オプション FTPサーバー
SATO App Storage プロファイル設定

表示順	プロファイル名	出力先
1	関東エリア	SATO App Storage
2	FTP設定	FTPサーバー

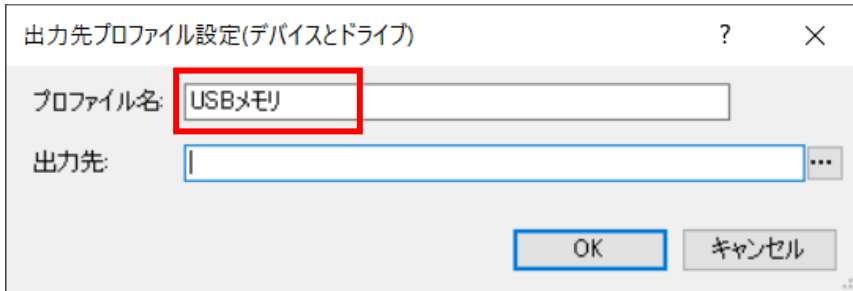
上へ移動 下へ移動

OK キャンセル

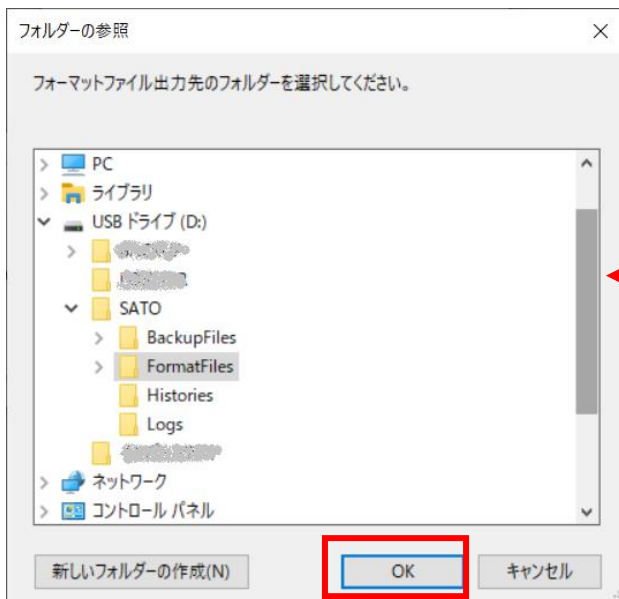
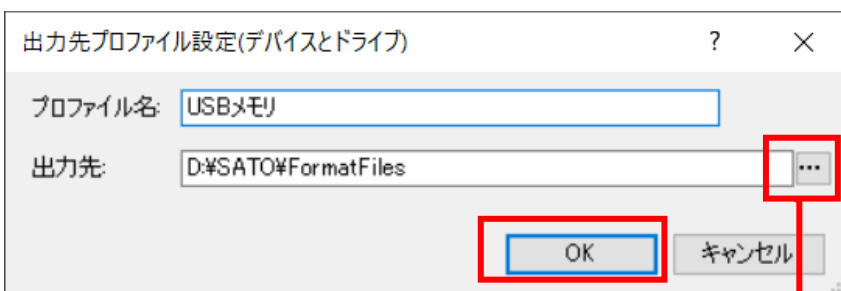
●デバイスとドライブの場合

出力先プロファイル設定（デバイスとドライブ）が開きます。

1. プロファイル名を入力します。



2. 出力先のパスを入力または参照ボタンをクリックし出力先を選択し「OK」をクリックします。



3. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。



□プロファイルをコピーして追加する

登録済みのプロファイルをコピーして追加することが可能です。

1. コピー元にするプロファイル名の上で右クリックし、「コピーして追加」をクリックします。



2. 出力先プロファイル設定画面が開くので、必要に応じて項目を編集し「OK」をクリックします。



※プロファイル名は重複できません



3. プロファイル設定画面に登録したプロファイル名が表示されます。



□プロフィールを編集する／設定内容を確認する

1. 編集または参照したいプロフィール名をダブルクリックするか、プロフィール名の上で右クリックし、「開く」をクリックします。



2. 出力先プロフィール確認画面が開きます。
編集したい場合は「編集」をクリックします。



3. 出力先プロファイル設定画面が開くので、必要に応じて編集し「OK」をクリックします。

出力先プロファイル設定 (SATO App Storage)

SATO App Storage プロキシ

プロファイル名: 関東エリア

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID: SATO

ログインID: sato-kanto

パスワード: ●●●●●●●●

詳細設定

グループ: /

フォルダー:

プッシュ配信設定

プッシュ配信を行う

強制更新 任意更新

配信予約 (デフォルト値)

時刻 00:00

曜日 日 月 火 水 木 金 土

4. 出力先プロファイル確認画面で編集内容を確認し「OK」をクリックします。

出力先プロファイル確認 (SATO App Storage)

プロファイル名: 関東エリア

アドレス: https://sato-app-storage.com

会社ID: SATO

ログインID: sato-kanto

詳細設定

グループ: /

フォルダー:

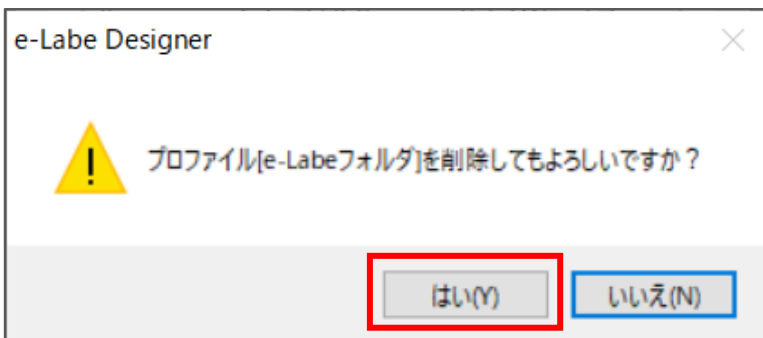
5. プロファイル設定画面に戻ります。

□プロフィールを削除する

1. 削除したいプロフィール名の上で右クリックし、「削除」をクリックします。



2. 確認ダイアログが表示されるので「はい」をクリックします。



3. プロファイル設定画面からプロファイル名が削除されます。



□プロファイルの表示順を変更する

データ出力で表示される出力先のプロファイルリストの順番を設定します。

1. 表示順を変更したいプロファイル名を選択し「上へ移動」（または「下へ移動」）をクリックします。



2. プロファイル設定画面の表示順が変わりました。



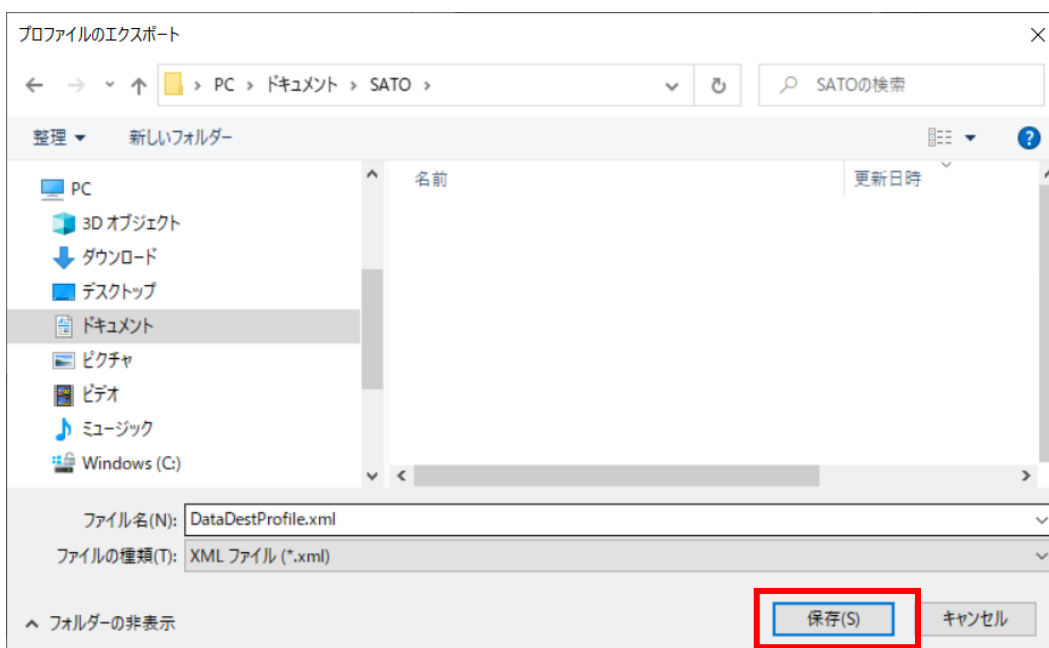
□プロファイルをインポート/エクスポートする

プロファイル情報のインポート/エクスポート機能を使うことで、他の PC に設定したプロファイル情報をコピーすることが可能です。

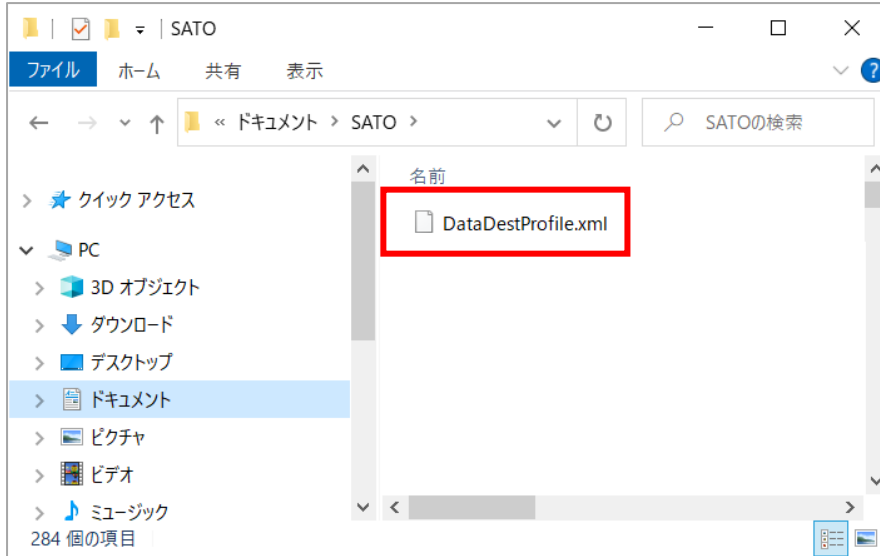
1. プロファイル設定画面のスペースで右クリックをし「エクスポート」をクリックします。



2. エクスポート先を選択し「保存」をクリックします。



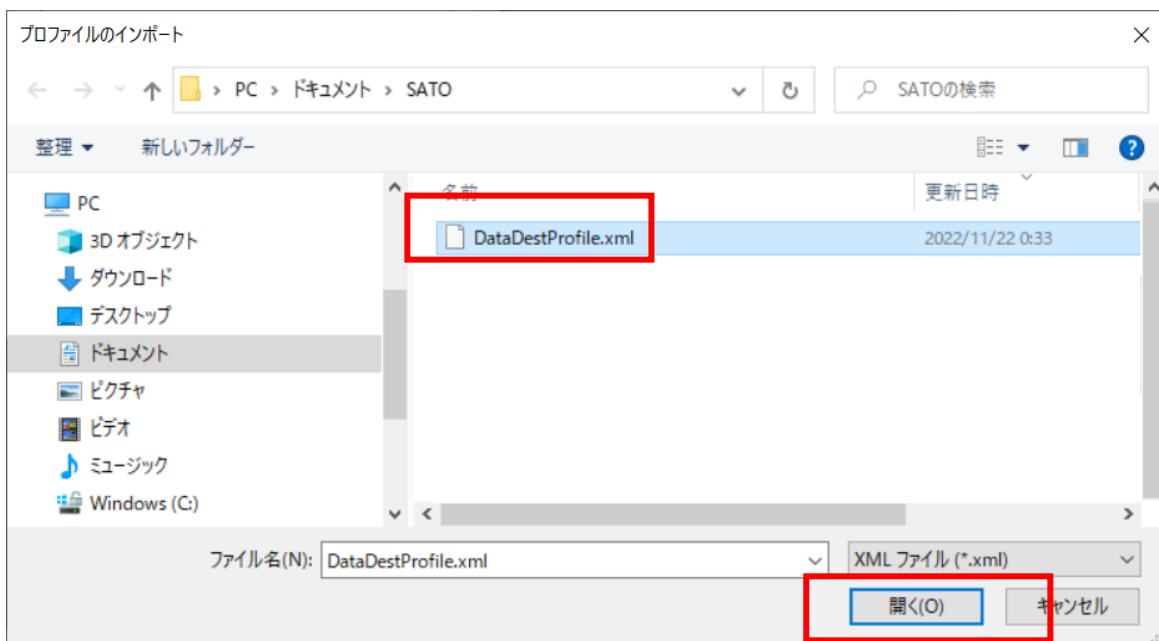
3. 「DataDestProfile.xml」ファイルが保存されます。



4. 「DataDestProfile.xml」ファイルを別の PC にコピーし、プロファイル設定画面のスペースで右クリックし「インポート」を選択します。



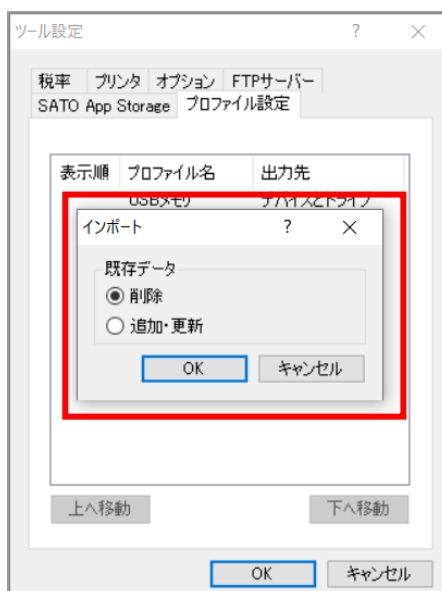
5. 「DataDestProfile.xml」ファイルを選択し「開く」をクリックします。



6. プロファイル設定がコピーされます。インポート完了ダイアログの「OK」をクリックします。



インポート先に既存プロファイルがある場合、既存データを「削除」するか「追加・更新」するかの確認ダイアログが表示されます。

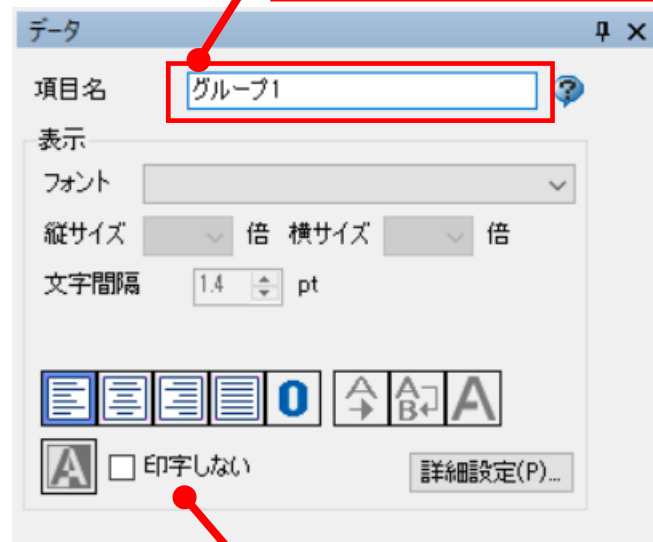
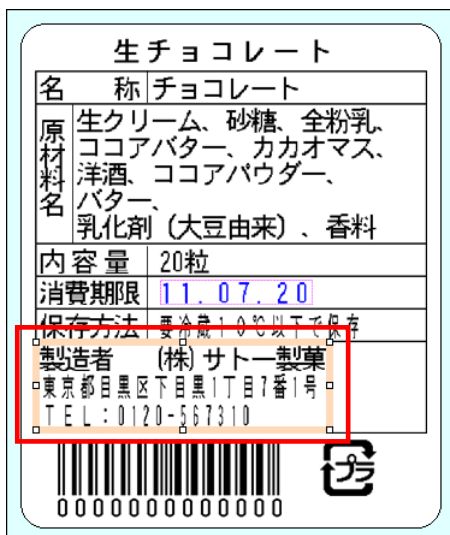
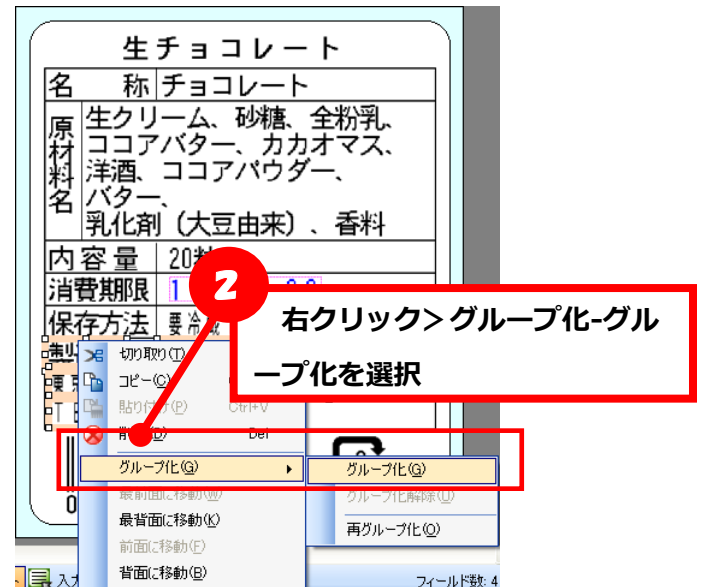
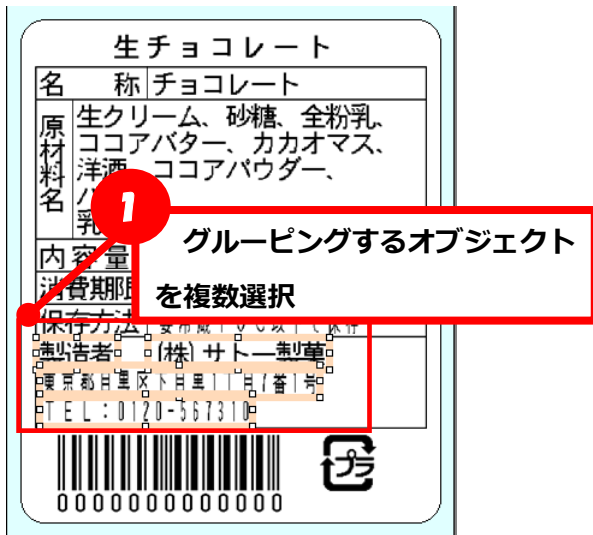


10.オブジェクトのグルーピング機能

レイアウト上の複数のオブジェクトを選択し、一つのグループにまとめる事が可能です。グループ化したオブジェクトは、移動させたり、回転させたりする場合などに便利です。

※グループ化したオブジェクトは、可変長ラベルの

■グルーピング手順





グループ名の変更も可能で

グループに属するオブジェクトに一括でフォント種等の設定が可能です。

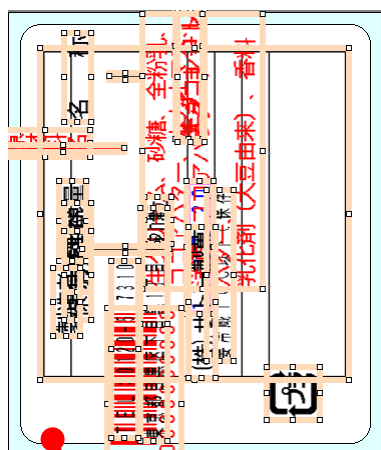
オブジェクトをグループ化すると・・・

便利さ1：レイアウト編集時、一括で移動できます（選択漏れが無い）

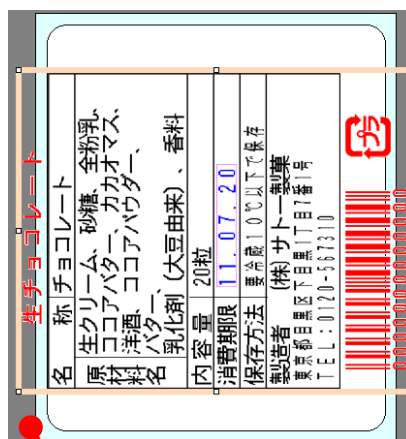
生チョコレート	
名称	チョコレート
原材料名	生クリーム、砂糖、全粉乳、ココアバター、カカオマス、洋酒、ココアパウダー、バター、乳化剤（大豆由来）、香料
内容量	20粒
消費期限	11.07.19
保存方法	要冷蔵10℃以下で保存
製造者	(株)サト一製菓
	東京都目黒区下目黒1丁目1番1号
TEL	0120-567310
 	
00000000000000	

便利さ2：位置関係を崩さず回転できます

【全オブジェクト選択し、90度回転させると・・・】 【グルーピングの上90度回転させると・・・】



各オブジェクトが回転してしま



位置情報をキープしたまま回転

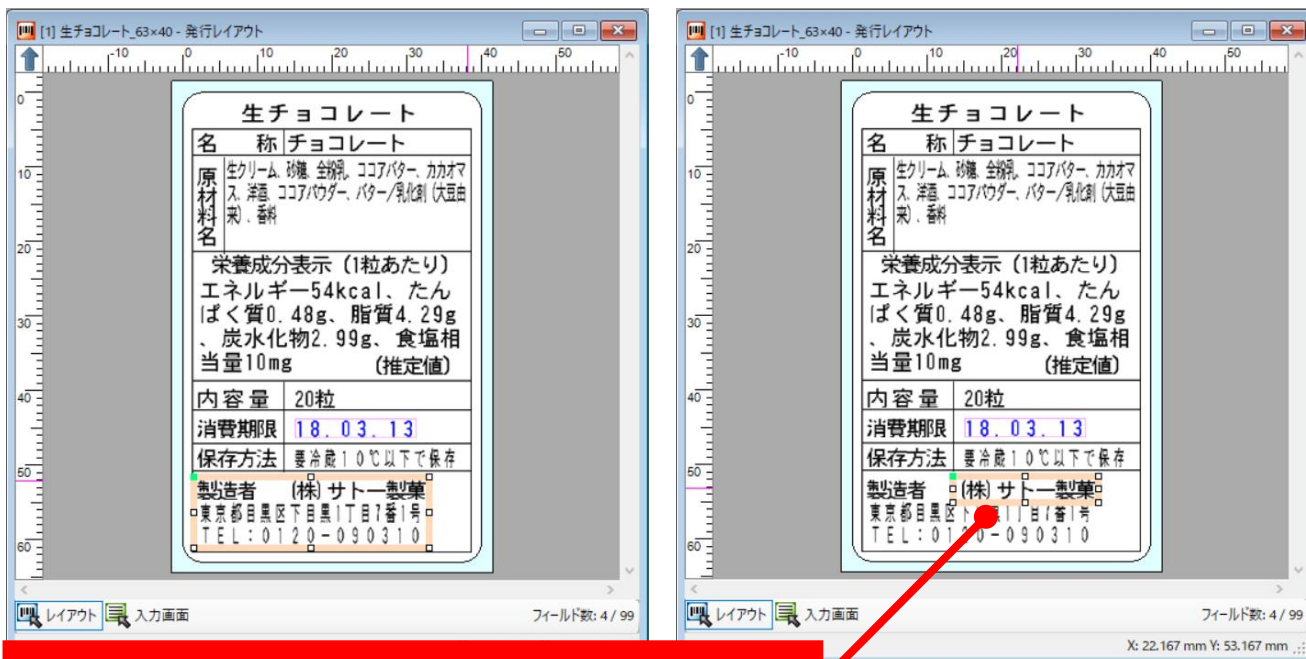
便利さ3：条件テーブルのアクションの設定にグループ単位で設定が可能です。

オブジェクト	アクション種別	種類	値
グループ1	印字有無	固定	印字しない

複数のオブジェクトに対してのアクションの設定がまとめられます

OK キャンセル

★グルーピングされている状態でも、各オブジェクトの設定を変更できます

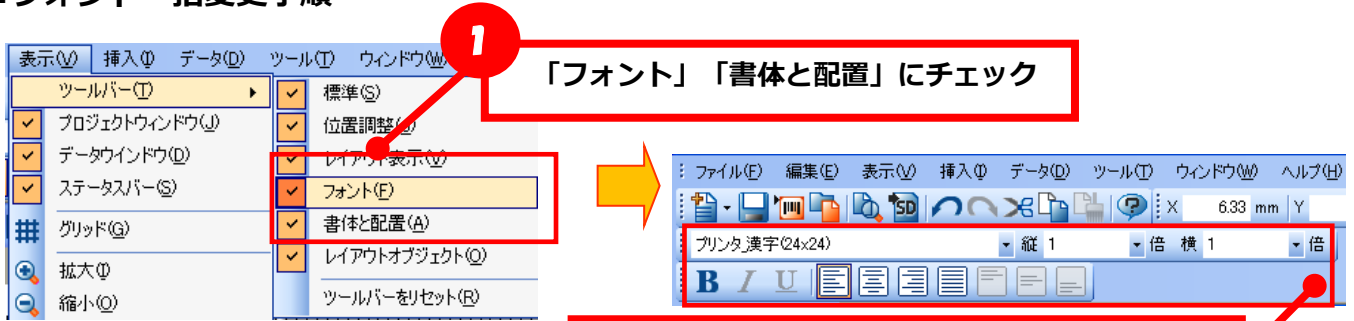


2回クリックするとグループの中の各オブジェクトを選択可能

11. フォント一括変更

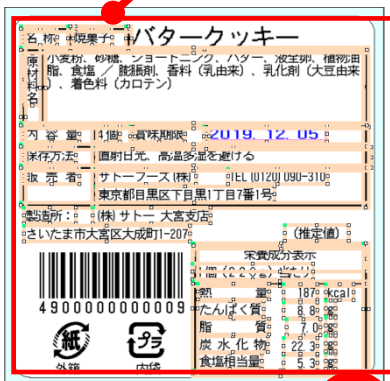
レイアウト上のオブジェクトのフォント種、縦/横サイズ、書体、配置などの情報を、一括で設定することが可能です。

■ フォント一括変更手順



フォント設定と、書体配置設定が表示されます

2 レイアウトでフォントを変更したいオブジェクトを複数選択



選択した複数のオブジェクトが複数のフォント種が指定されている場合は、フォントウィンドウは空白になります

3 フォント種、縦/横倍率、書体などを指定



フォント種をプリンタ漢字 24×24 から 32×32 に一括変更！



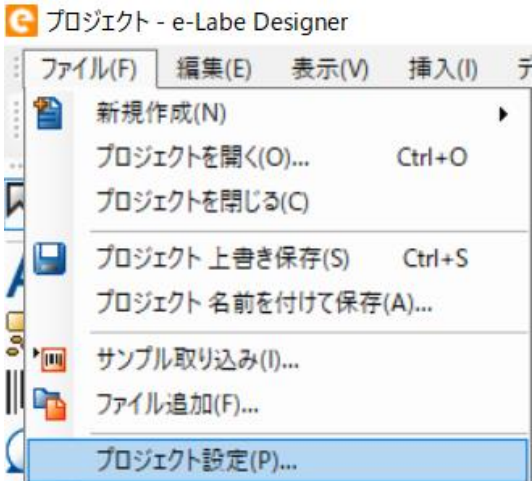
フォントウィンドウに表示されるフォント一覧は、選択しているオブジェクトの条件によって変わります。例えば、Windows フォントが使えないオブジェクトが含まれている場合は、Windows フォントは選択できません。

12.データ出力オプション

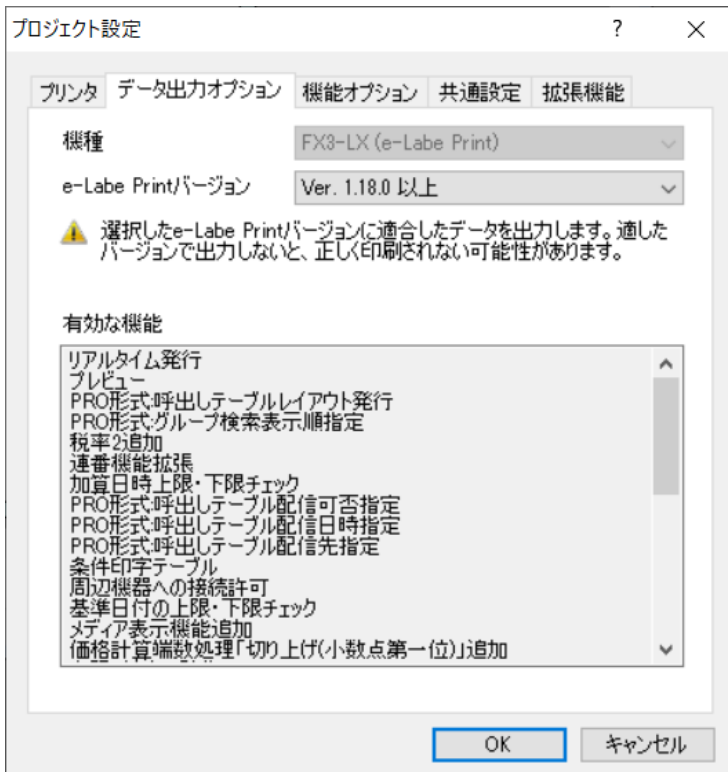
発行アプリケーションである「e-Labe Print」の各バージョンに適合するデータを出力できます。e-Labe Print のバージョンを確認の上該当のバージョンを選択すると、そのバージョンの e-Labe Print で使用できる範囲内でデータ出力が可能です。

■データ出力オプション機能設定手順

1.ファイル>プロジェクト設定を起動します

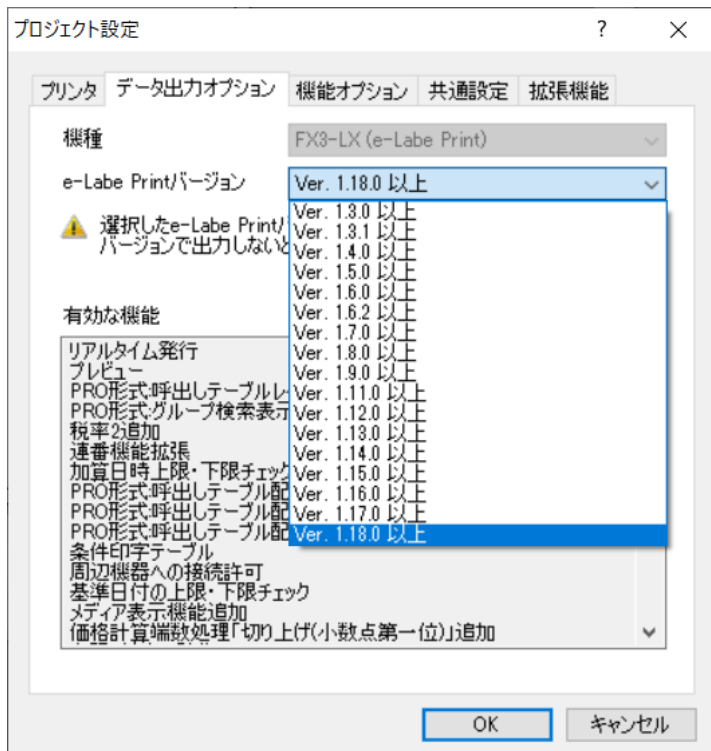


2.「データ出力オプション」タブを選択します。



3.お使いの e-Labe Print のバージョンを確認し、該当するバージョンを選択します。

バージョンが低いほど、有効な機能の範囲も狭くなります。



正しいバージョンを選択しないと、発行時にエラーが発生するなど問題が起こる事があります。正しいバージョンを選択してください。

★「e-Labe Print バージョン」を切り替えると、Designer は選択したバージョンで利用可能な機能のみ有効になります。

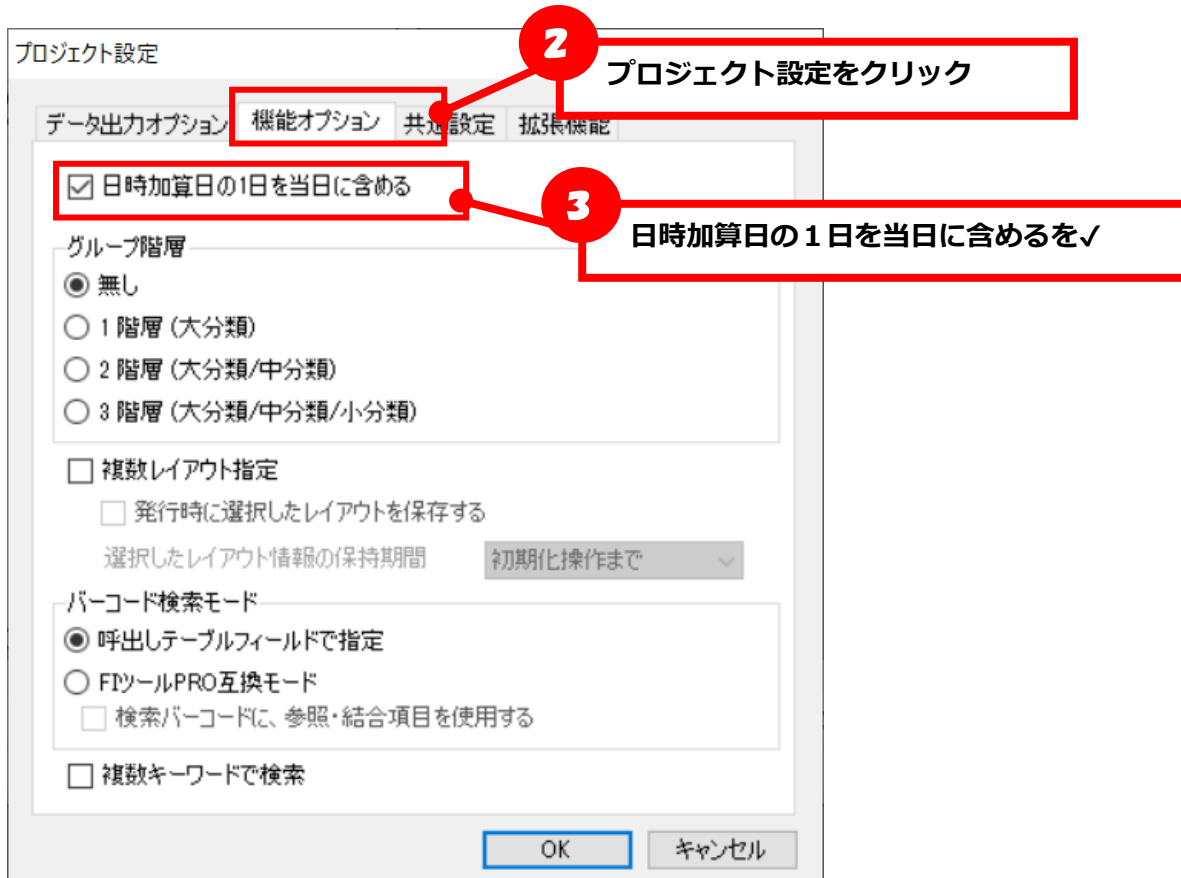
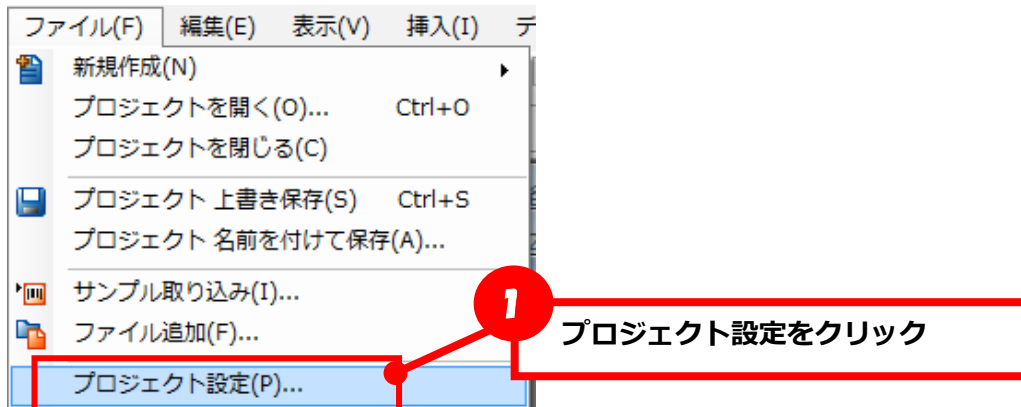
13.機能オプション

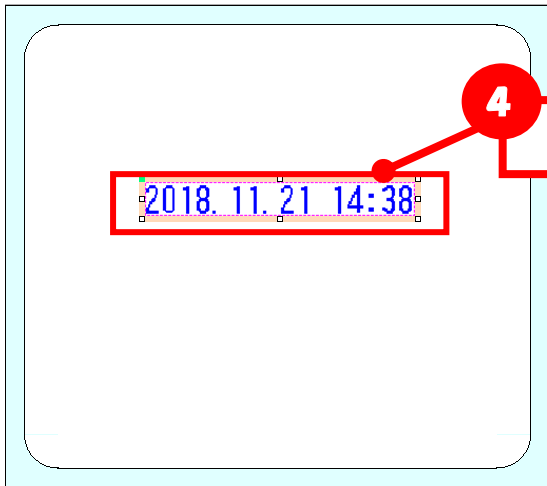
プロジェクト全体での機能オプションを設定可能です。

■加算日1日を当日に含めるオプション設定手順

[加算日1日を当日に含めるオプションとは]

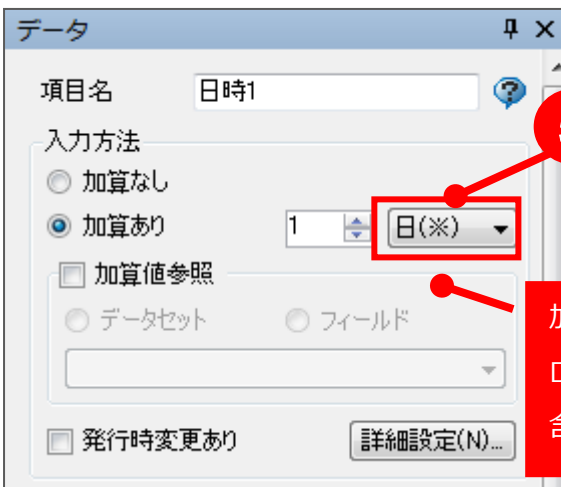
日時オブジェクトの加算日を「1日」とした場合に表示される日付が「翌日」なのか「当日」なのかをオプションで設定することが可能です。





4

日時オブジェクトを追加

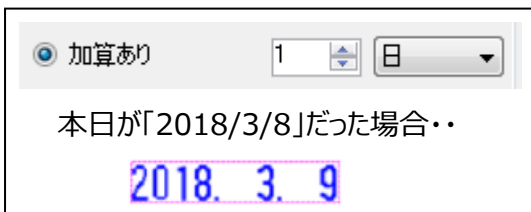


5

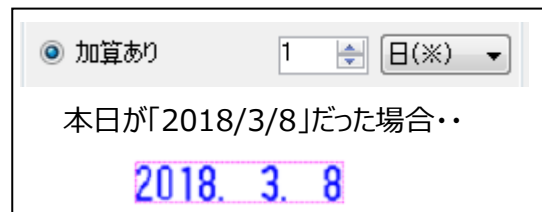
単位で「日(*)」を選択

加算単位は通常は「日」と表示されますが、「プロジェクト設定」で「日時加算日の1日を当日に含める」を有効にすると「日(*)」に変わります。

<オプションが無効の場合>

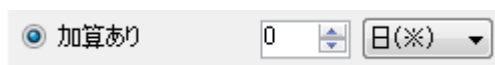
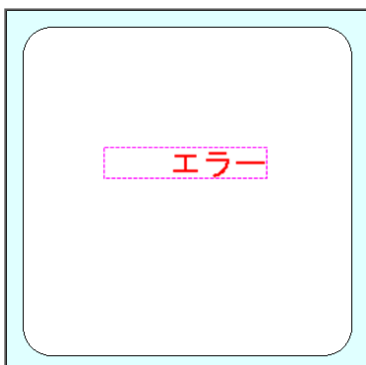


<オプションが有効の場合>



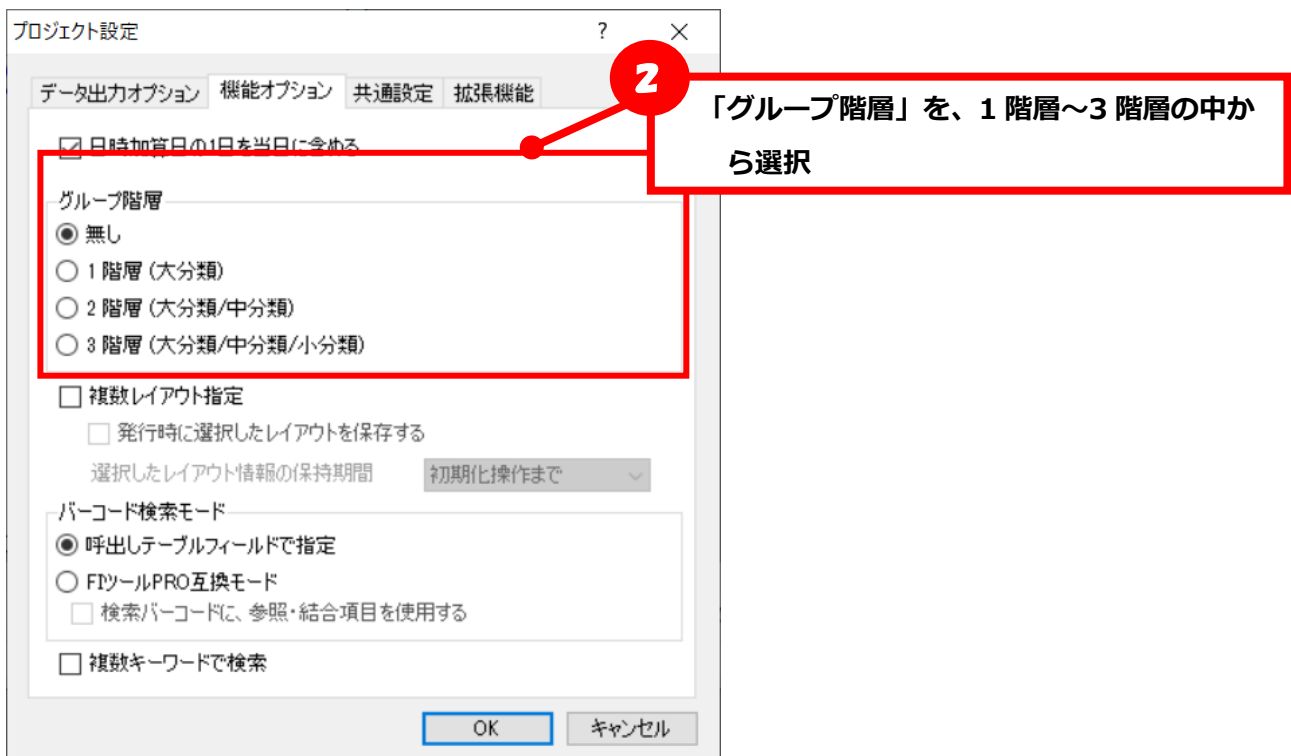
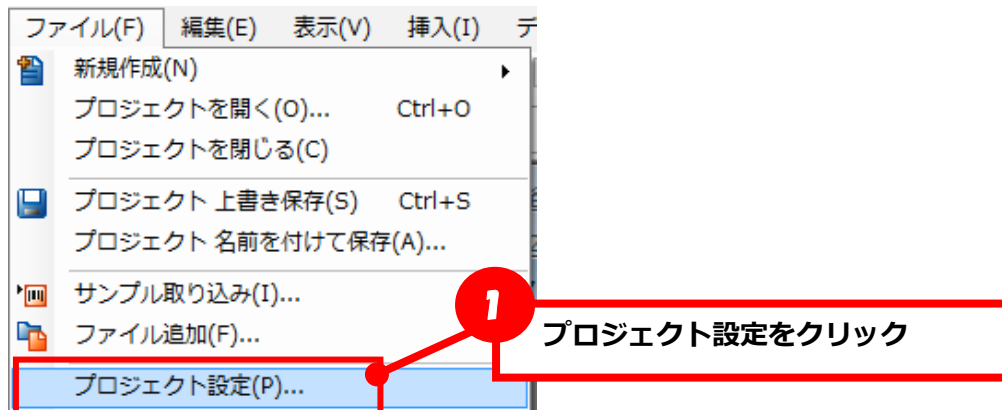
★日時加算日の1日を当日に含めるオプションが有効の場合で、加算単位を「日(*)」を選択している場合、加算値として設定できる最小値は「1」になります。

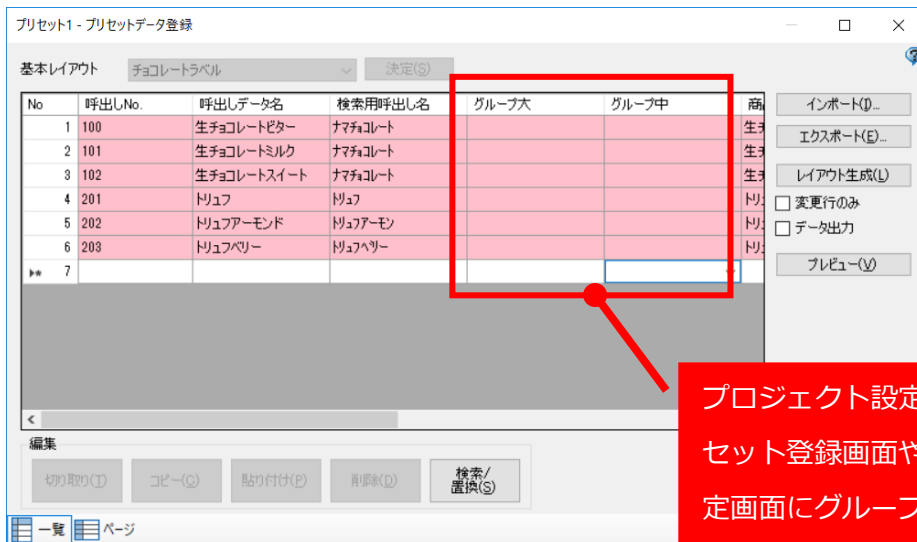
加算値に「0」をセットした後で、上記オプションを有効にした場合は「エラー」となります。



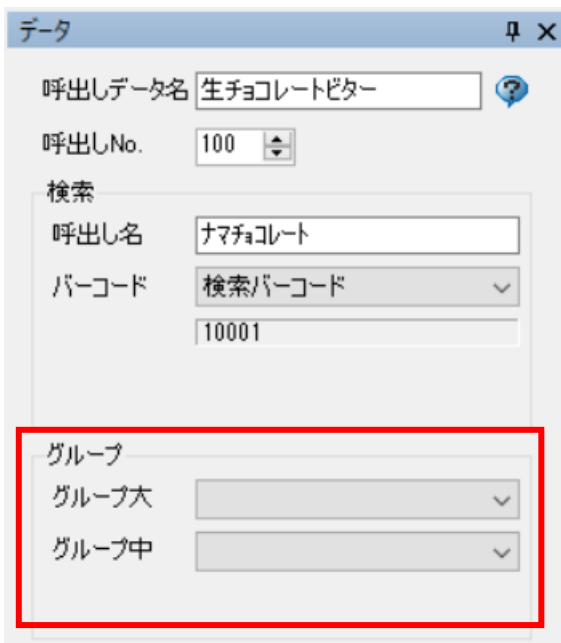
■グループ階層設定手順

e-Labe Print のグループ発行をおこなうためのグループ階層を選択することが可能です。



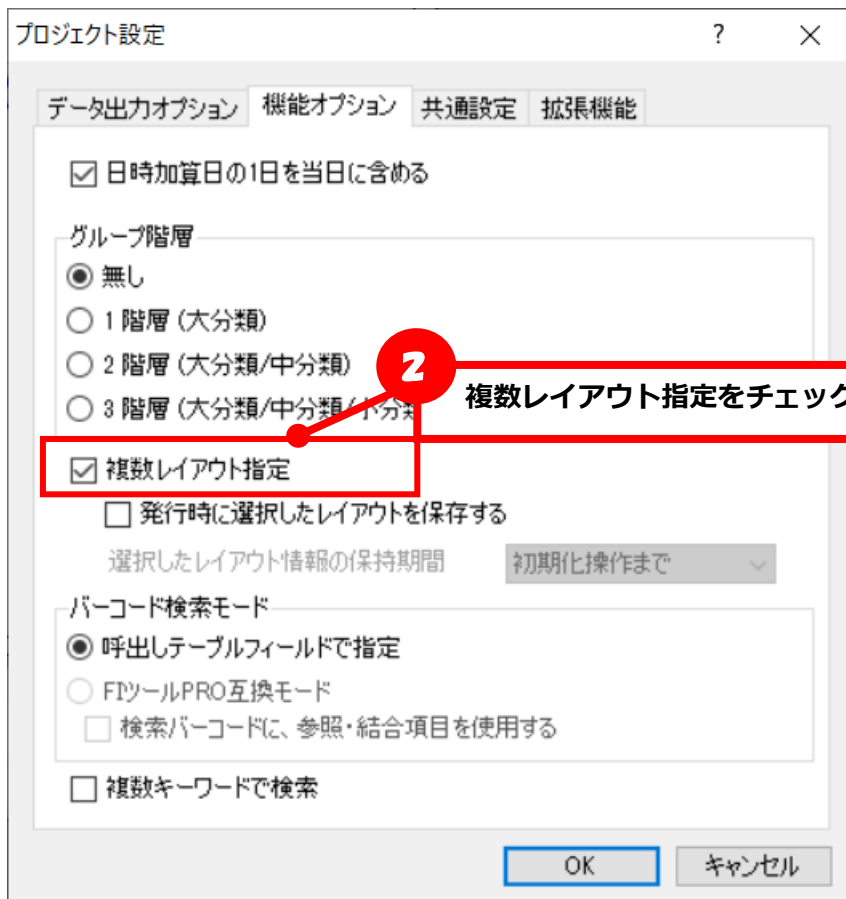
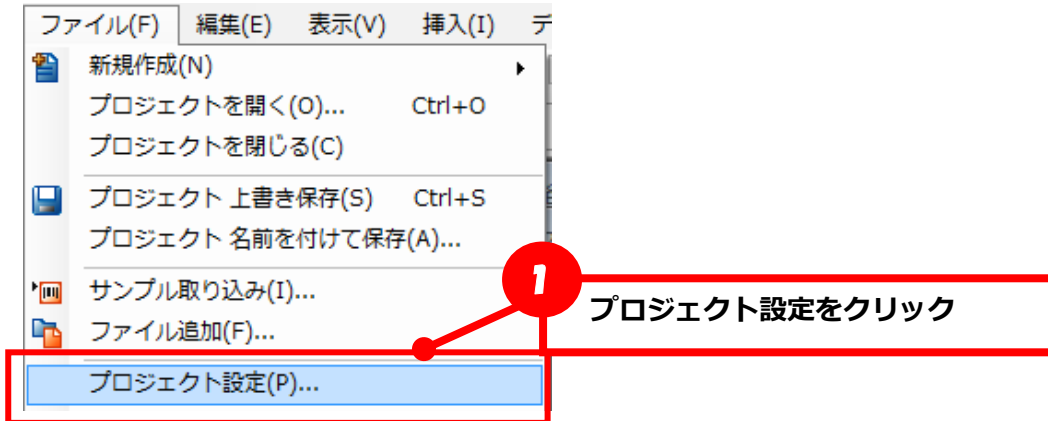


プロジェクト設定で設定した階層に応じて、プリセット登録画面や発行レイアウトのレイアウト設定画面にグループ設定項目が表示されます



■ 複数レイアウト設定手順

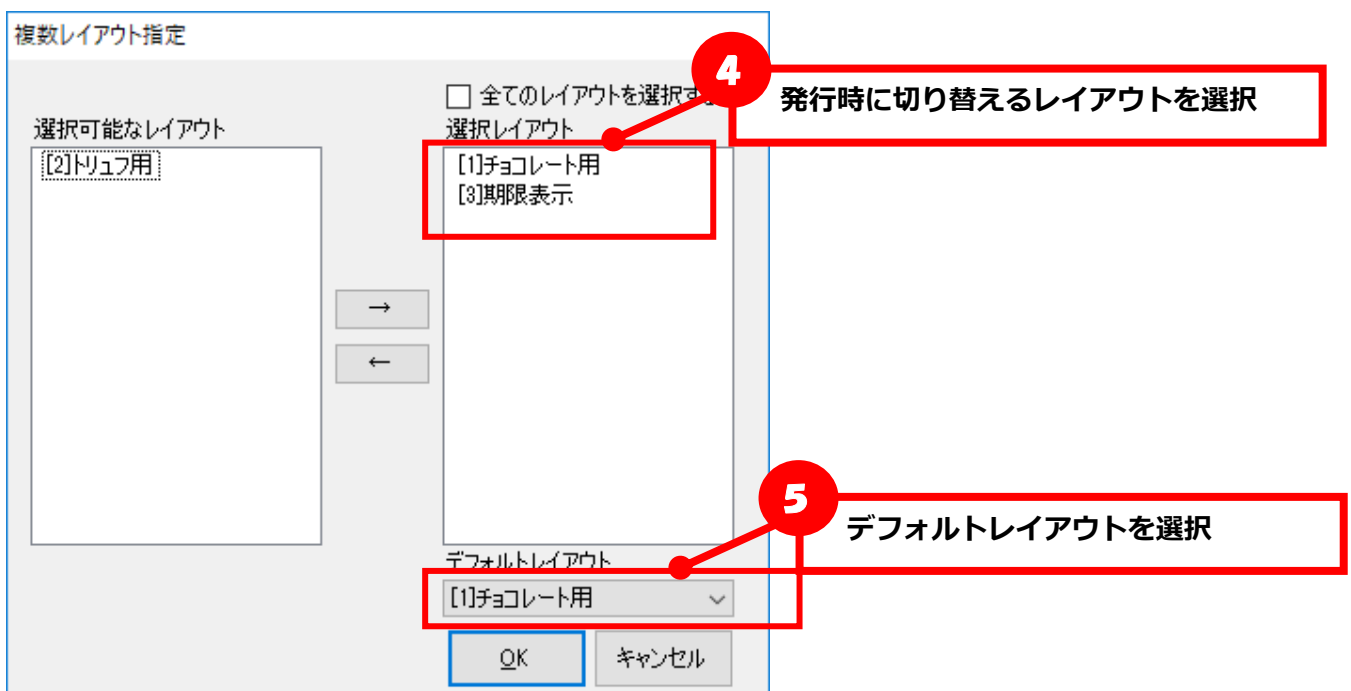
e-Labe Print で発行時にレイアウトを切り替える機能の設定が可能です。



3. 呼出しテーブルデータのレイアウト指定項目が複数項目設定可能になります。



発行時に切り替えるレイアウトを選択します。「デフォルトレイアウト」を指定しておく、発行時はそのレイアウトが選択された状態で発行画面に遷移します。



★デフォルトレイアウトとは

設定すると、e-Labe Print 発行時、そのレイアウトが選択された状態で発行画面に遷移します。

[e-Labe Print 画面]

0001 生チョコミルク

レイアウト 0001 チョコレート用

商品名 生チョコレートミルク

保存方法 冷蔵庫（10℃以下）で保存

本体価格 ¥540

商品コード 12345

プレビュー

1枚 発行

0001 生チョコミルク

レイアウト 0001 チョコレート用

商品名 生チョコレートミルク

保存方法 冷蔵庫（10℃以下）で保存

本体価格 ¥540

商品コード 12345

レイアウトを選択

0001 チョコレート用

0003 期限表示

キャンセル

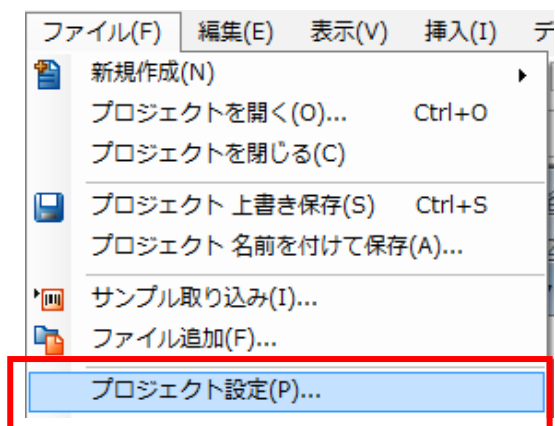
プレビュー

1枚 発行

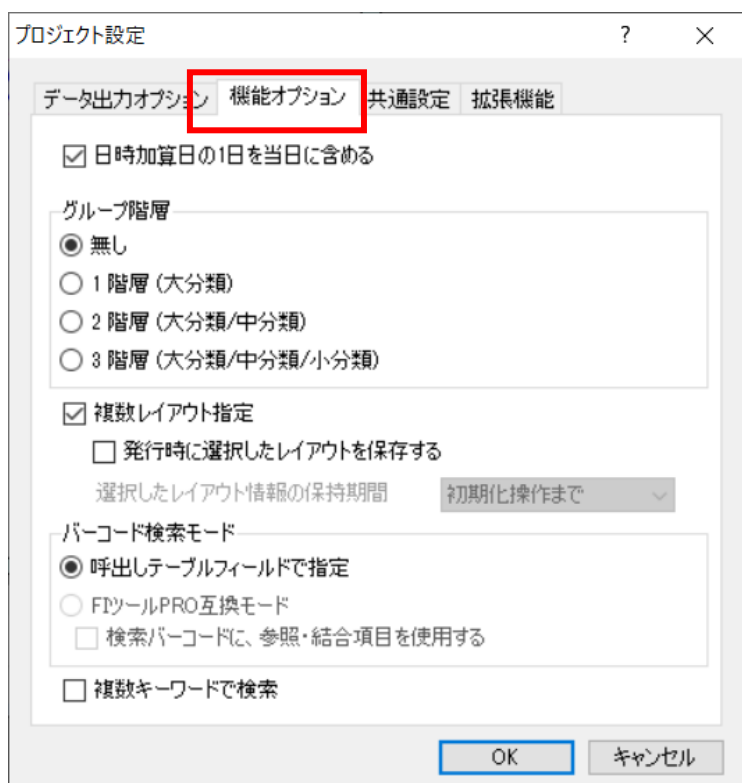
■ 複数レイアウトで最後に選択したレイアウト情報を保存する設定手順

複数レイアウト機能利用時、最後に選択したレイアウト情報を指定した期間記憶できる機能です。

1. ファイル>プロジェクト設定を起動します



2. 「機能オプション」タブを選択します



3. 「発行時に選択したレイアウトを保存する」をオンにし「選択したレイアウト情報の保持期間」を指定します

複数レイアウト指定

発行時に選択したレイアウトを保存する

選択したレイアウト情報の保持期間

初期化操作まで

初期化操作まで

電源切断まで

日付変更まで

バーコード検索モード

呼出しテーブルフィールドで指定

注意

- ・複数レイアウト指定が有効な場合に設定可能です
- ・保持期間はそれぞれ次の通りです

「初期化操作まで」：初期化操作をおこなうまで保持します

「電源切断まで」：FX3-LX の電源を切断するまで保持します

「日付変更まで」：日付（システム日付）が変わるまで保持します

※上記の指定タイミング以外に、以下の場合はレイアウト情報がクリアされますのでご注意ください

- ・フォーマットファイルが更新された場合
- ・オーバーライドファイルが更新された場合
- ・フォーマット別マスタ編集機能でデータを更新した場合

[e-Labe Print 画面]

0001 チョコレート詰め合わせ

レイアウト 0001 ラベルサイズ (大)

プレビュー

1	2	3	BS
4	5	6	C
7	8	9	0

1枚

発行

前回選択したレイアウト情報が保存されているため、何度もレイアウトを選択しなおす必要がありません

■バーコード検索モード設定手順

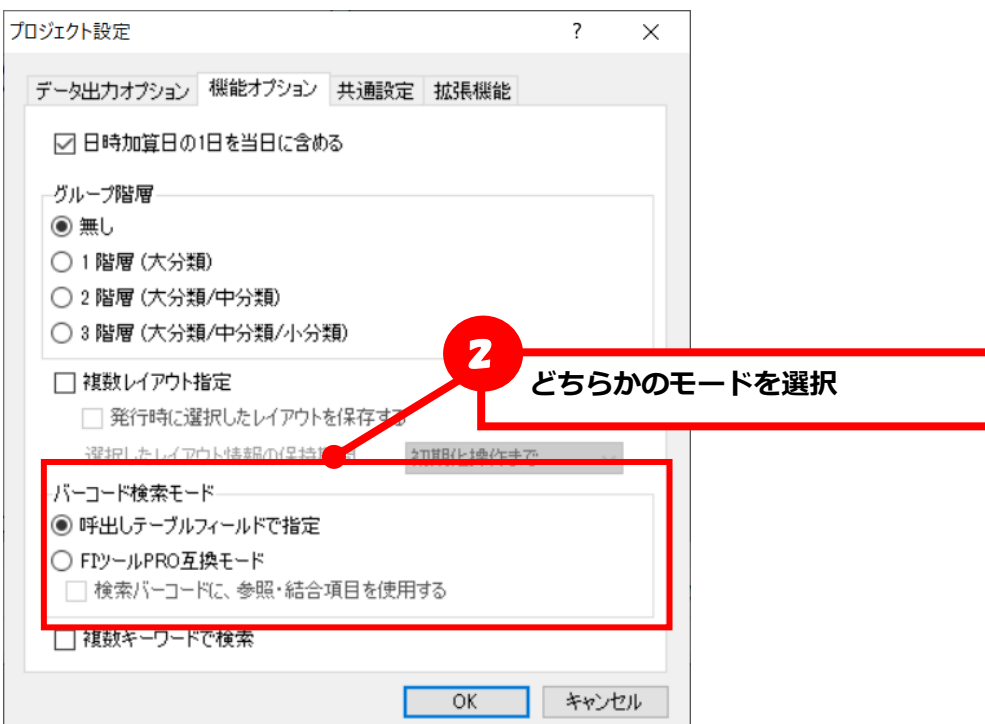
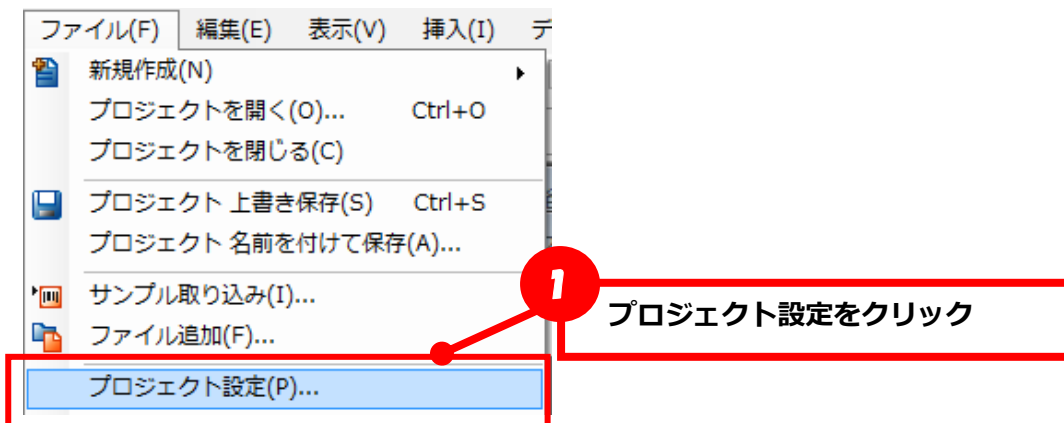
バーコード検索の検索キーの設定方法を選択可能です。

- ・呼出しテーブルフィールドで指定：呼出しテーブル定義で検索キー項目を指定します。
- ・FI ツール PRO 互換モード：レイアウト内のオブジェクトを検索キー項目に指定します。

※モードの差異

	呼出しテーブルフィールドで指定	FI ツール PRO 互換モード
複数レイアウト指定	使用できます	使用できません
オーバーライド機能の使用	使用できます	使用できません
検索バーコード重複時	バーコード検索可（候補を表示）	バーコード検索不可
C/D を付加した値で検索	不可	可

[手順]



[呼出しテーブルフィールドで指定]

呼出しテーブル定義

No.	項目名	桁数	桁数チェック	文字種チェック	属性
1	商品名	20	チェックなし	チェックなし	
2	商品コード	5	チェックなし	数字のみ	
3	価格	4	入力必須(未...	数字のみ	
4	保存方法	4	チェックなし	数字のみ	
5	バーコード1	12	全桁必須入力	数字のみ	バーコード検...
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

3-1 検索キーにする項目に「バーコード検索キー」を指定

呼出しテーブルデータ登録

No	枠大	グループ中	レイアウト指定	商品名	商品コード	価格	保存方法
1	ト	生チョコ	[1] チョコレート用	生チョコレートミルク	33221	540	1
2	ト	生チョコ	[1] チョコレート用	生チョコレート苺	12345	648	1
3	ト	生チョコ	[1] チョコレート用	生チョコレートビター	22345	540	1
4	ト	トリュフ	[1] チョコレート用	トリュフ	33222	1080	1

3-2 呼出しテーブルデータ登録画面でデータを登録

e-Label Designer

! [検索バーコード]が重複しています。

OK

バーコード検索キーに指定した項目は、値が重複するとチェックが掛かります。

★検索キーの C/D (チェックデジット) 等について

e-Labe Print でバーコード検索をする際の値は、Designer の呼出しテーブルで登録した値となります。JAN13 など、バーコード検索キーの項目がバーコードオブジェクトに紐づいているとしても、C/D 等が付加された値ではありませんので、スキャナの設定で C/D を非送信にするか、呼出しテーブルに C/D を含めた値をセットする等が必要になります

[FI ツール PRO 互換モードで指定]

3-1 レイアウトをクリック

※検索キーに指定したオブジェクトは緑で表示されます

3-2 バーコード検索キーにオブジェクトを指定

レイアウト名
レイアウトNo.
検索

バーコード JAN13
00000000000000

[1] チョコレート
[2] トリュフ用
[3] 期限表示

テーブル
[1] 漢字テーブル1
[2] 漢字テーブル2
[3] 漢字テーブル3
[4] 漢字テーブル4
[5] 漢字テーブル5
[90-93] 店名テーブル

外字
[1] 電話

レイアウト数: 3 / 99

[1] チョコレート用 - レイアウト

(商品コード)
生チョコレート
00000000000000
冷蔵庫 (10°C以下) で保存
税込価格 (価格)
(本体価格)

レイアウト 入力画面
フィールド数: 10 / 99

検索用バーコードに指定できるバーコードオブジェクトの条件

- ◆ 入力方法：固定または参照・結合（ただし、参照先のオブジェクトの入力方法が固定であること）
- ◆ セットする値が、呼出し No.ごとにユニーク ※ユニークでないと検索時抽出が出来ないため

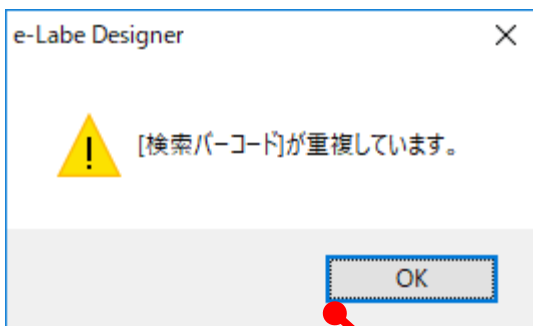
参照・結合項目をバーコード検索項目に指定するためには、機能オプションを有効にする必要があります

バーコード検索モード

呼出しテーブルフィールドで指定

FIツールPRO互換モード

検索バーコードに、参照・結合項目を使用する

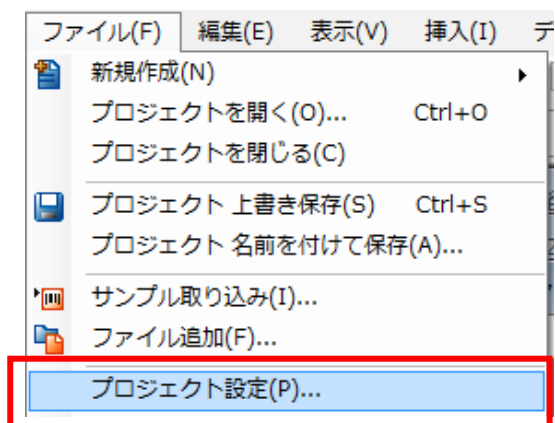


バーコード検索キーに指定した項目は、値が重複するとチェックが掛かります。

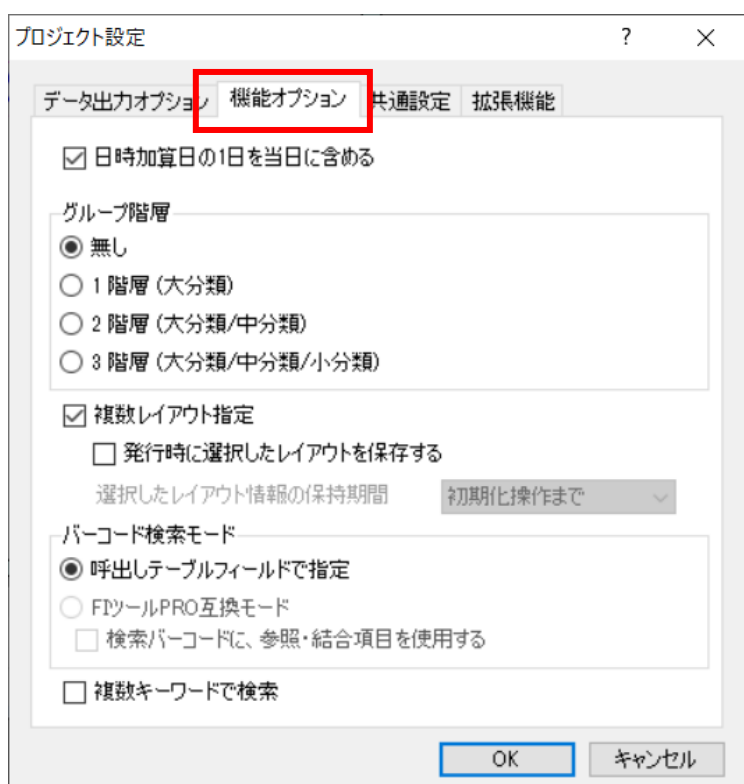
■ 複数キーワードで検索機能設定手順

キーワード発行で検索する項目を「呼出し名」に加え「検索用呼出し名」も対象とできます。設定を有効にすると、呼出しテーブルに「検索用呼出し名」項目が表示されるようになります。検索時は入力したキーワードが「呼出し名」または「検索用呼出し名」どちらかに含まれるアイテムを抽出します。

1. ファイル>プロジェクト設定を起動します



2. 「機能オプション」タブを選択します



3. 「複数キーワードで検索」をオンにします

バーコード検索モード

呼出しテーブルフィールドで指定

FTツールPRO互換モード

検索バーコードに、参照・結合項目を使用する

複数キーワードで検索

4. 呼出しテーブルデータに「検索用呼出し名」項目が表示されます

<複数キーワードで検索オフ>

呼出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	レイアウト指定	品名	価格
* 1					



<複数キーワードで検索オン>

呼出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	品名	価格
* 1						

5. 検索用呼出し名項目に検索キーワードを登録します (最大 100 桁)

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定
1	1	おにぎり鮭	さけ しゃけ	[1] ラベルサイズく...
2	2	おにぎり梅	うめ	[1] ラベルサイズく...
3	3	おにぎり明太子	めんたいこ	[1] ラベルサイズく...
4	4	おにぎり高菜	たかな	[1] ラベルサイズく...

注意

- ・本機能は e-Labe Designer Ver.1.15.0.0 以上でご利用いただけます
- ・初期設定では「検索用呼出し名」は非表示です
- ・「複数キーワードで検索」の設定に関わらず、インポート/エクスポート時の「検索用呼出し名」項目の処理は同一です (ファイル仕様は[こちら](#))
 - ☑エクスポート時「検索用呼出し名」項目が必ず出力されます
 - ☑インポート用ファイルに「検索用呼出し名」項目が無い場合、データが空の状態です
インポートが実行されます
 - ☑インポート用ファイルの「検索用呼出し名」に不正な値が入っている場合は、エラー

チェックの対象となります

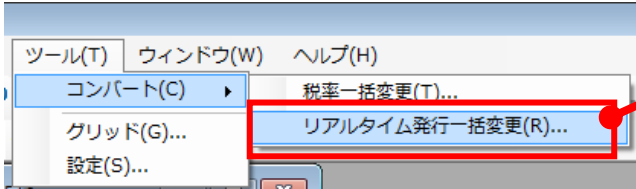
- ・キーワードは「|」（※縦線）で区切って複数登録することが可能です（「|」を検索キーワードに使用することはできません）
- ・全角／半角は区別せず同じ値として検索します。

[e-Labe Print 画面]

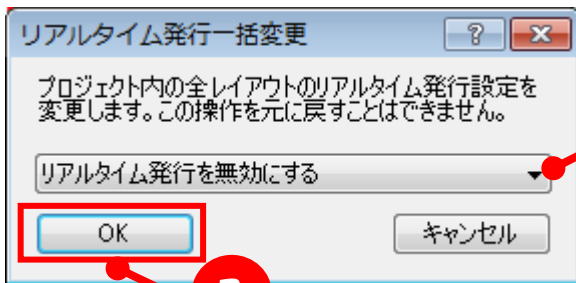


14.リアルタイム発行一括変更

プロジェクト内の日時オブジェクトのリアルタイム発行設定を一括で変更する機能です。
全ての既存レイアウトの設定が一括で変更されます。
変更を元に戻すことはできませんので、ご注意ください。

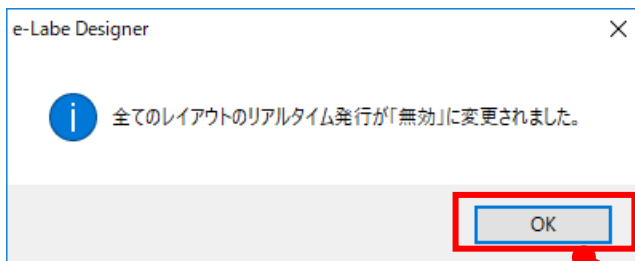


1 リアルタイム発行一括変更をクリック

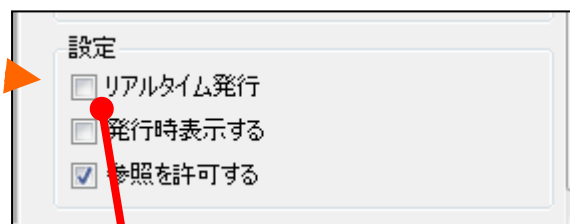
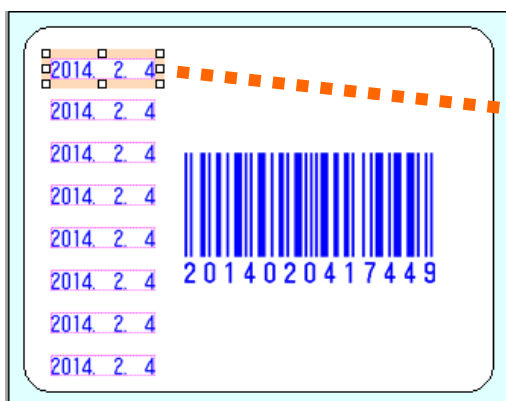


2 「リアルタイム発行を無効（有効）にする」を選択

3 「OK」をクリック



4 「OK」をクリック

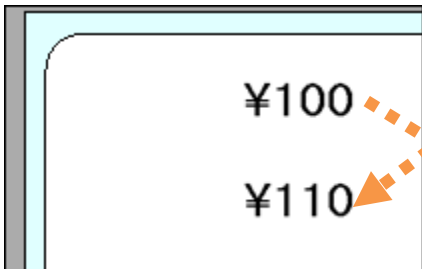


全ての日時オブジェクトの設定が変更されています。

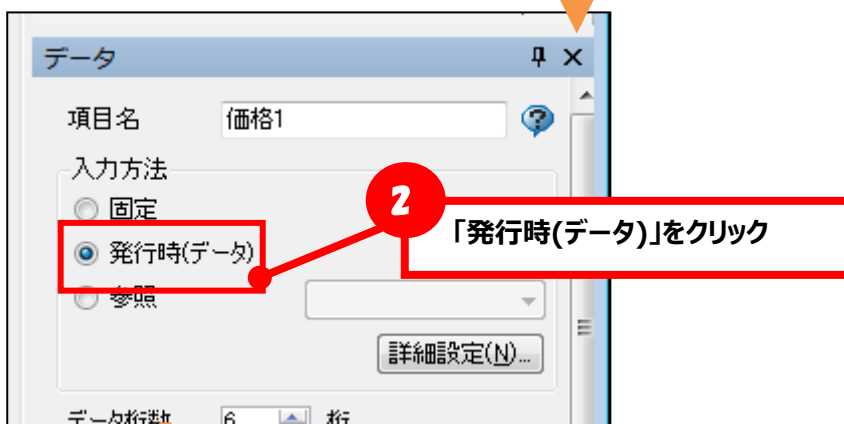
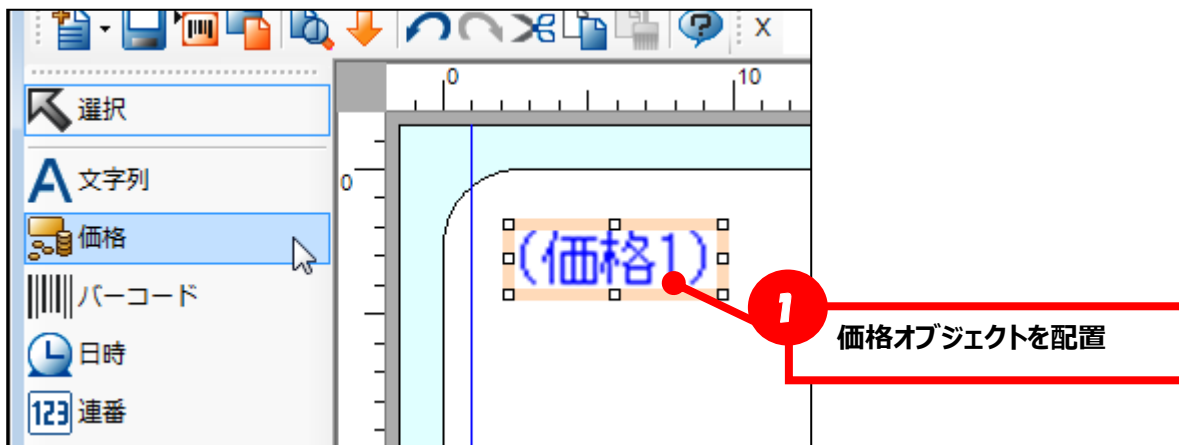
15.価格計算の設定方法

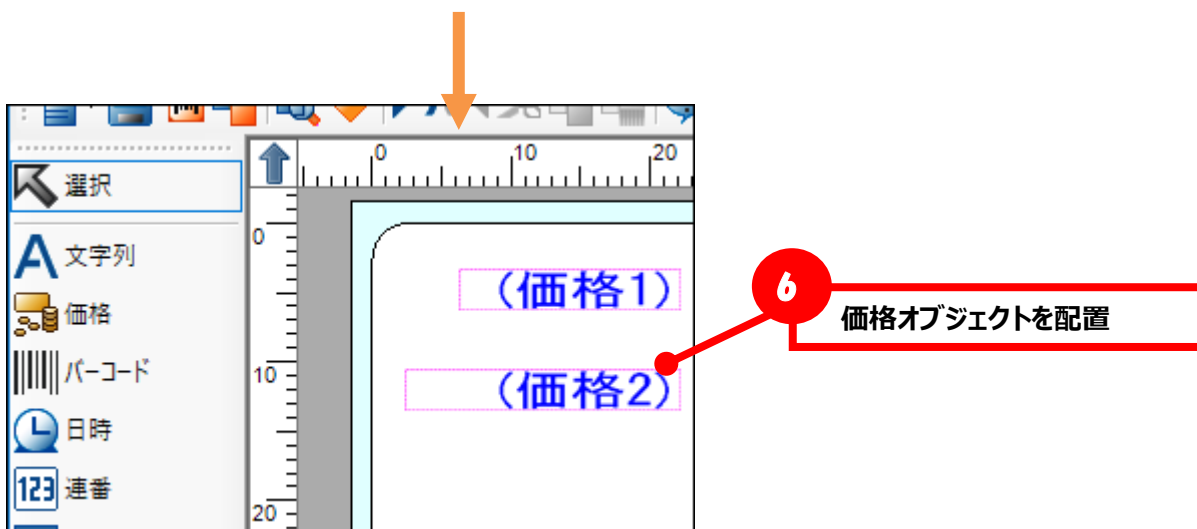
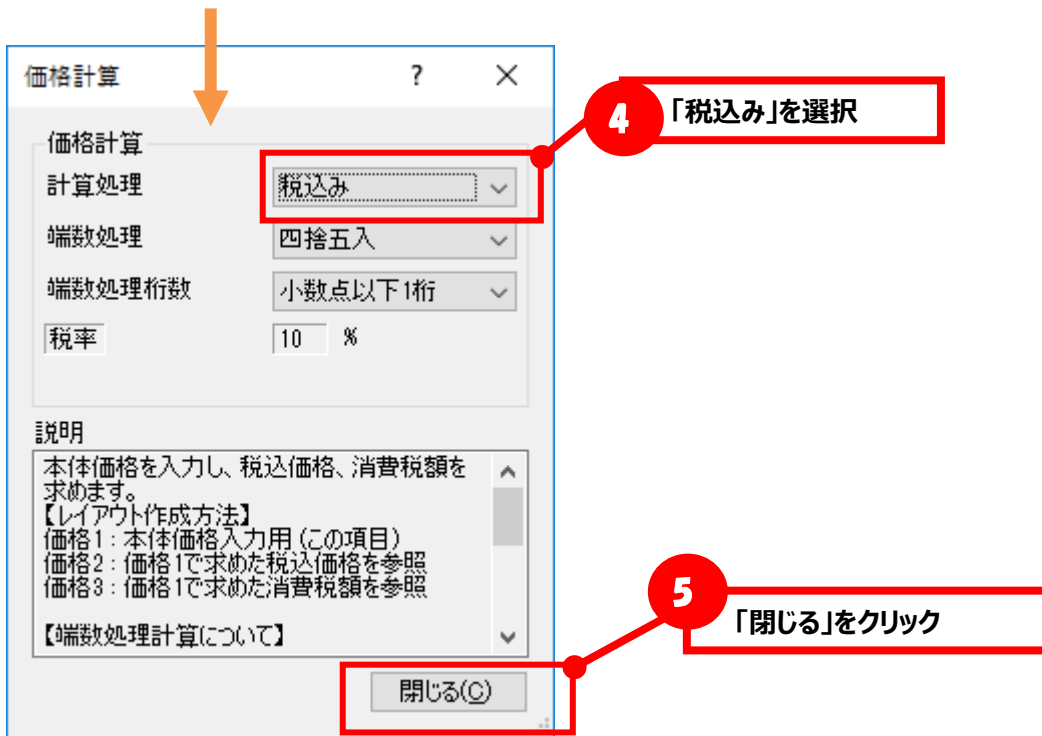
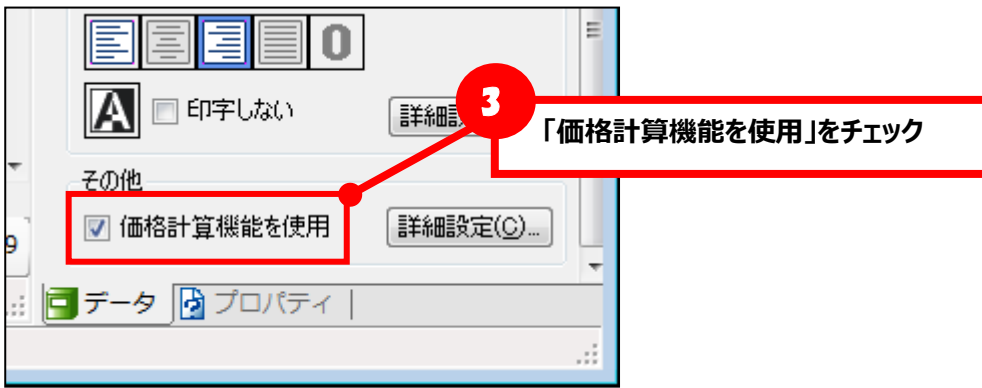
税込価格、税込価格（小数）、本体価格の作成方法や端数処理の考え方について説明します。

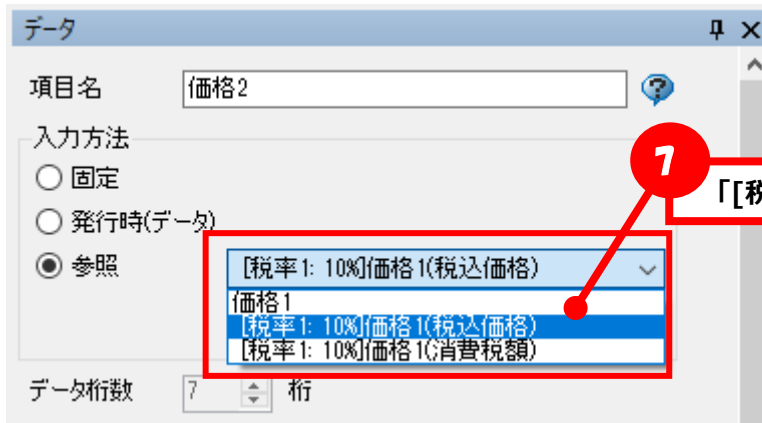
■本体価格から税込価格を求める



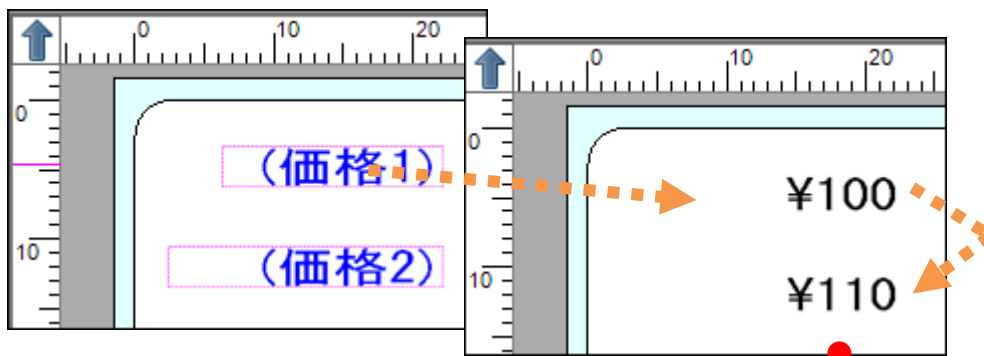
このような価格を作成するには・・・



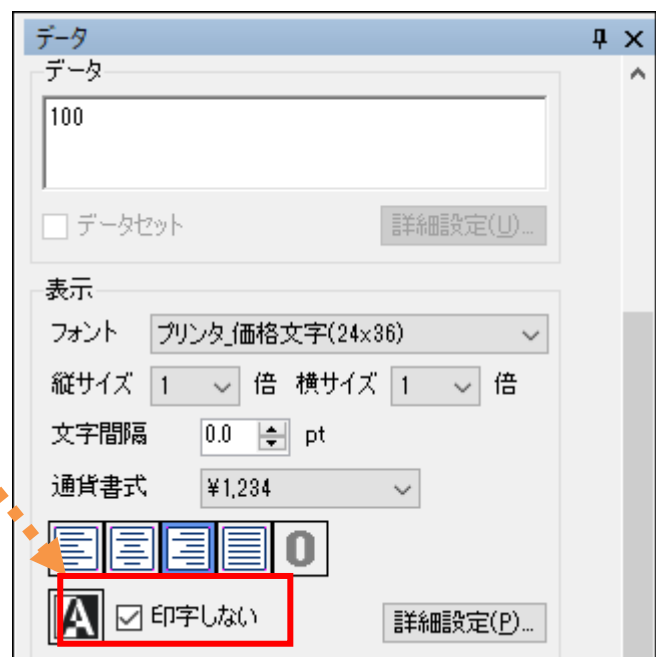
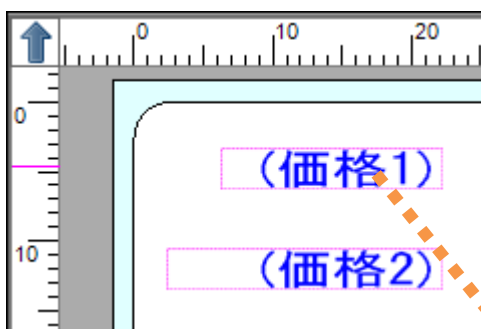




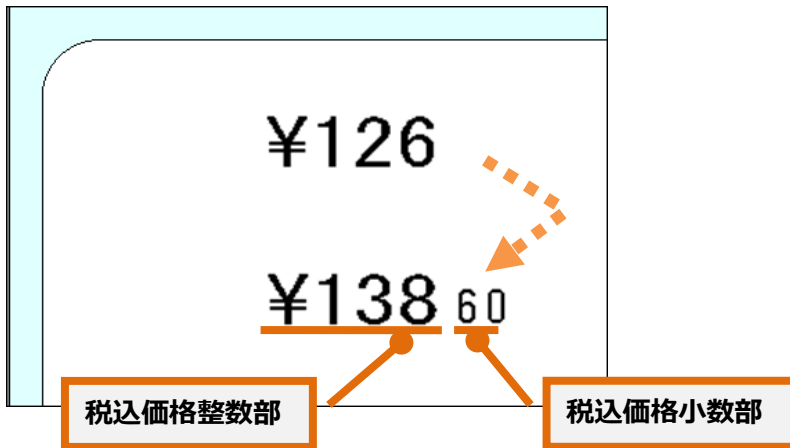
「[税率 1 : 10%]価格 1(税込価格)」を選択



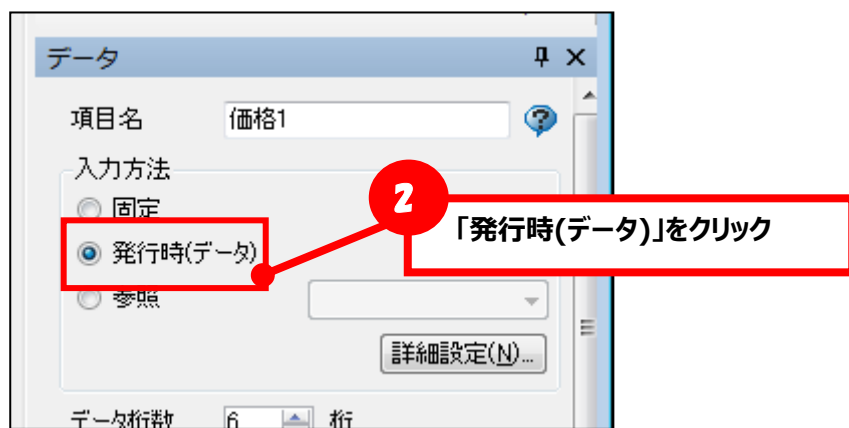
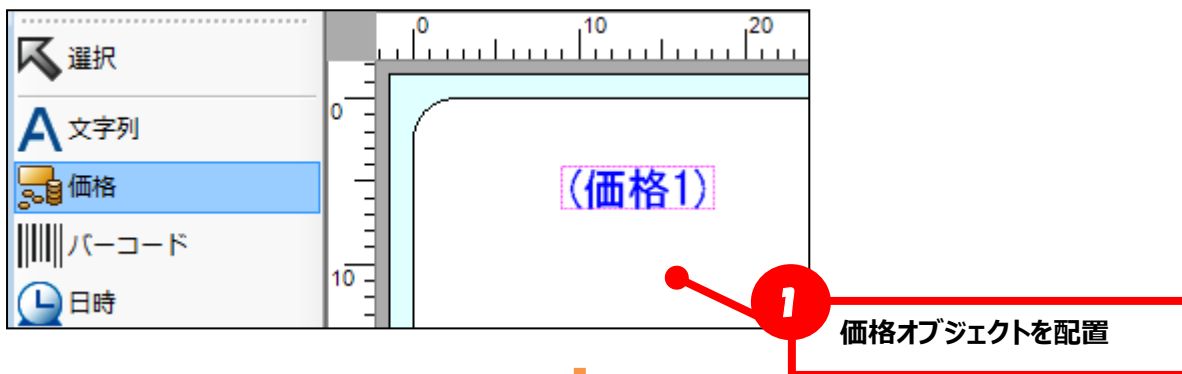
価格 1 に入力した値が「税込価格」で印字されます。

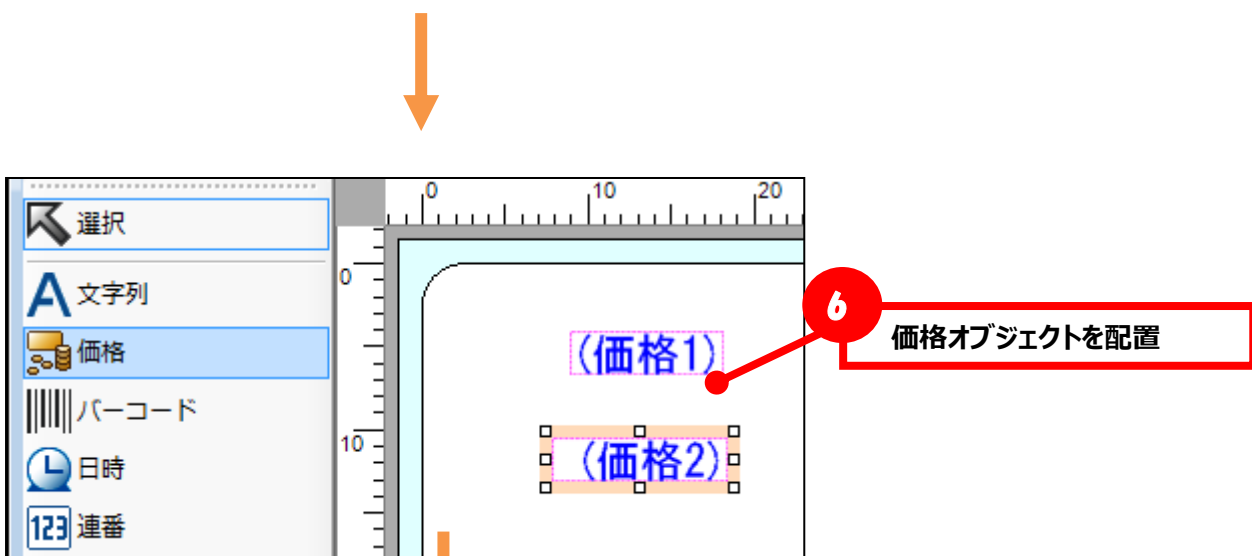
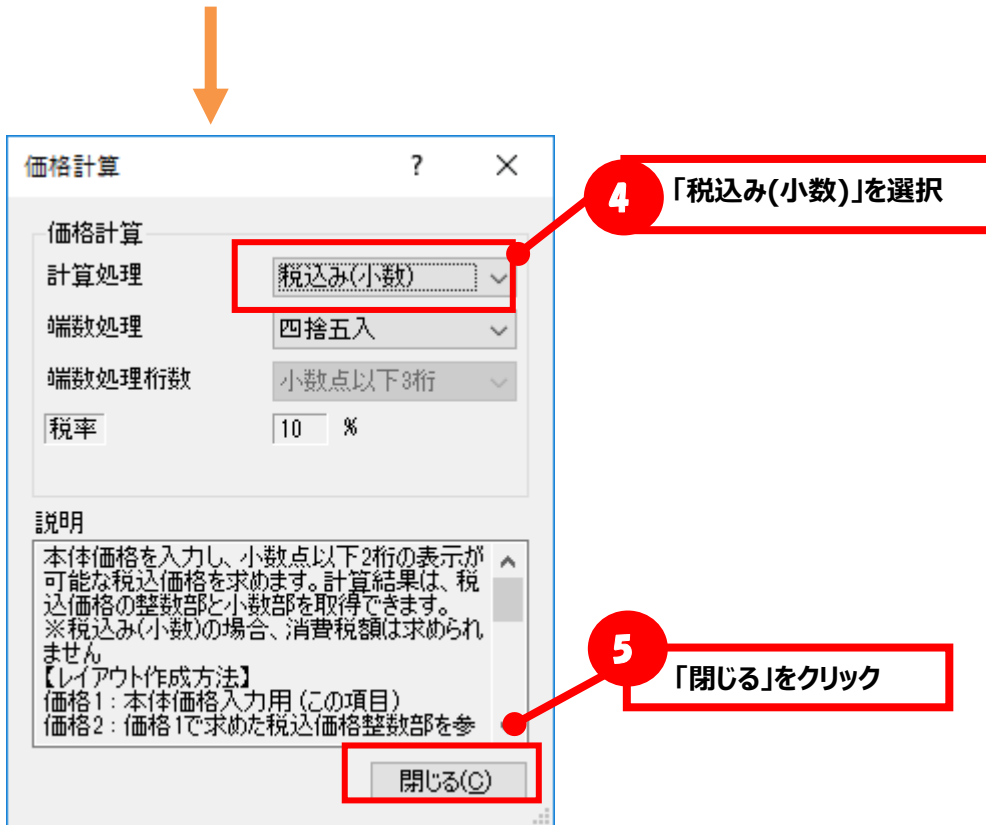
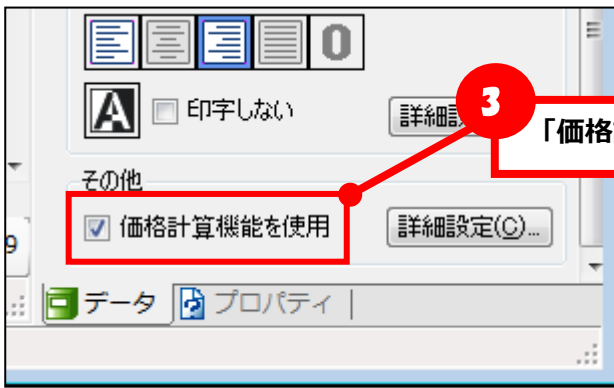


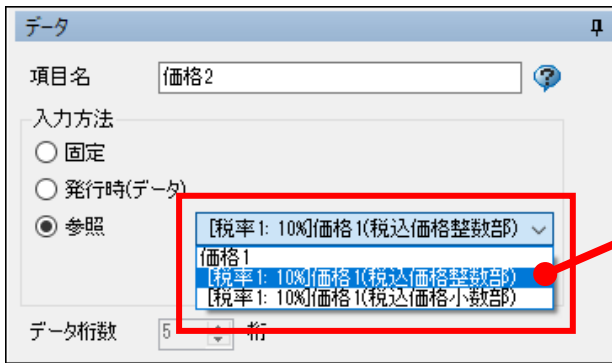
■ 本体価格から税込価格(小数点以下 2 桁表示)を求める



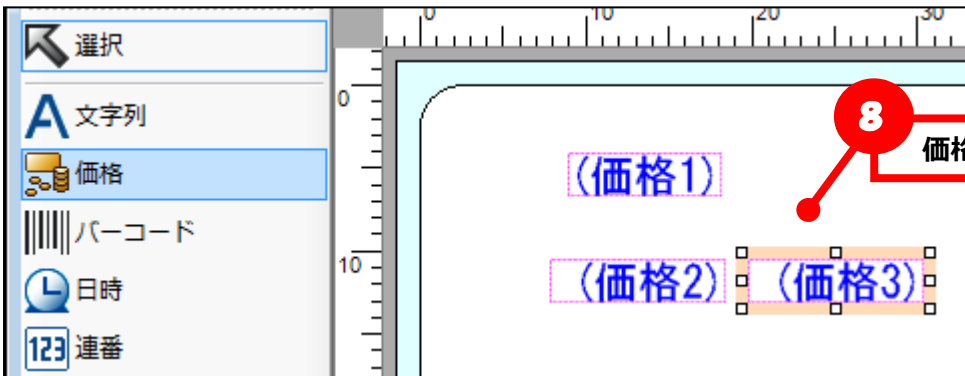
このような価格を作成するには・・・



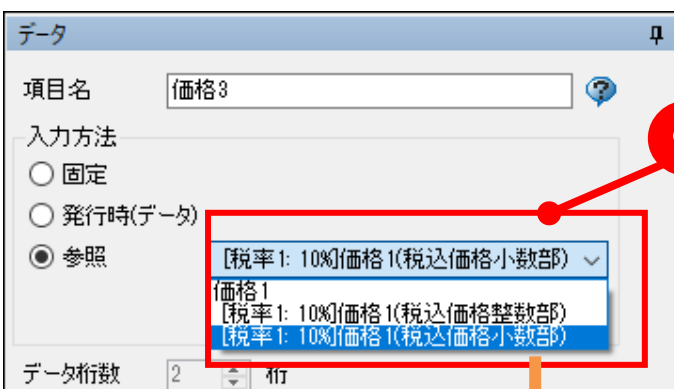




7 「[税率 1: 10%]価格 1(税込価格整数部)」
を選択

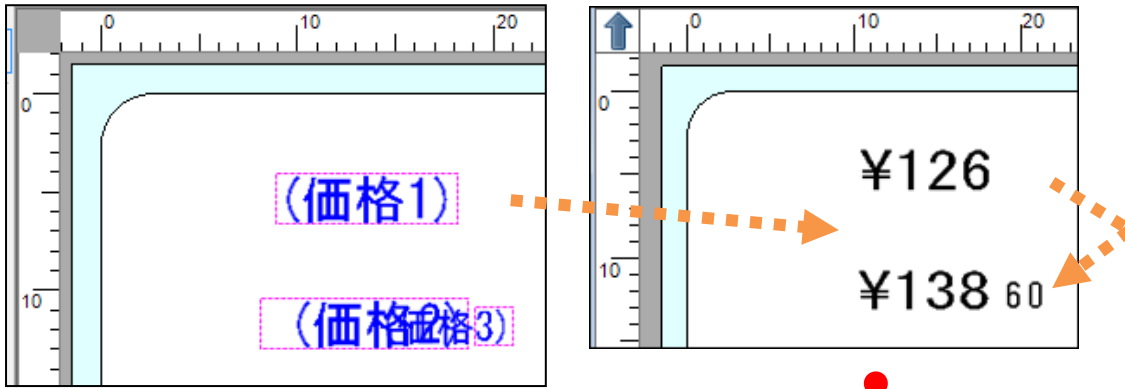


8 価格オブジェクトを配置

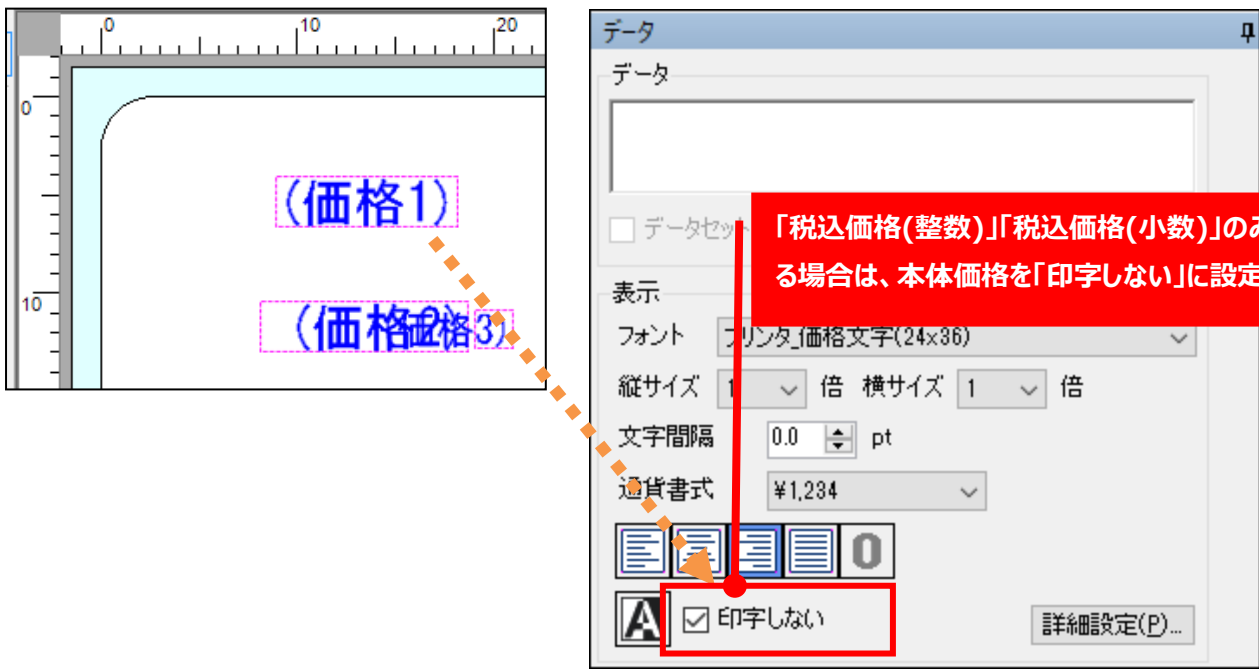


9 「[税率 1: 10%]価格 1(税込価格小数部)」を
選択

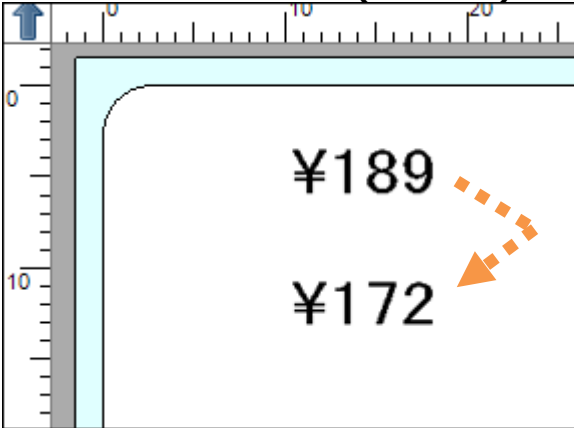




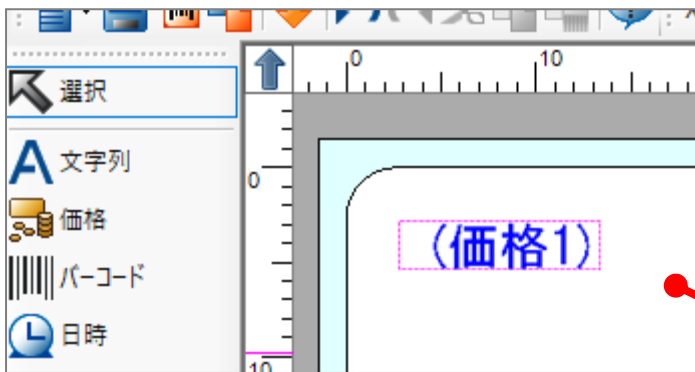
価格 1 に入力した値が「税込価格(整数)」と「税込価格(小数)」で印字されます。



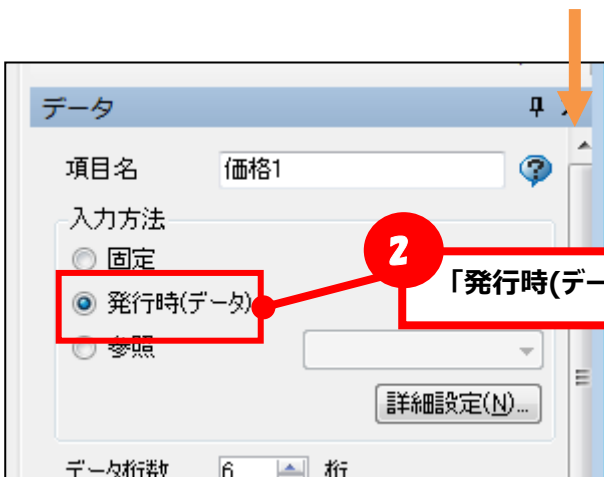
■ 税込価格から本体価格(税抜価格)を求める



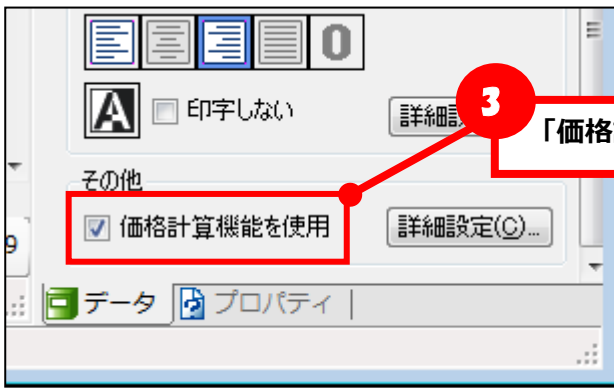
このような価格を作成するには・・・



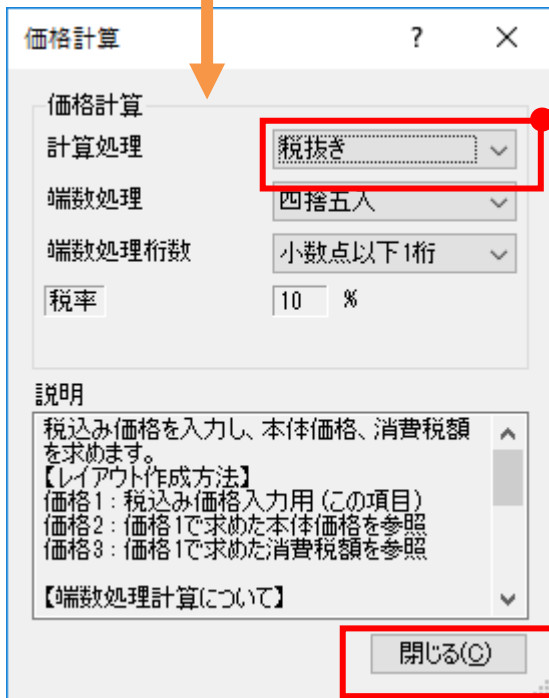
1 価格オブジェクトを配置



2 「発行時(データ)」をクリック

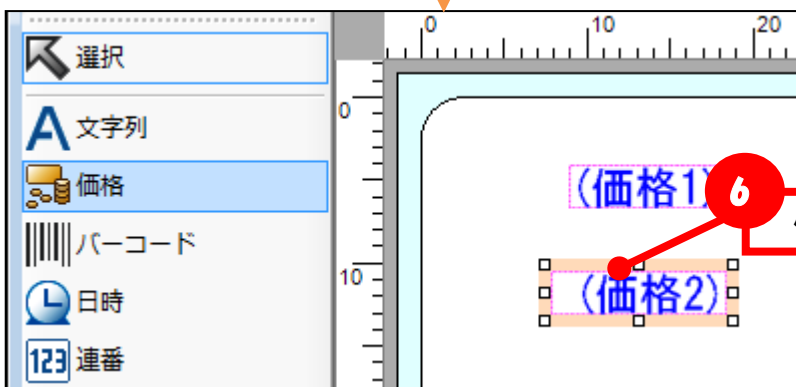


3 「価格計算機能を使用」をチェック



4 「税抜き」を選択

5 「閉じる」をクリック



6 価格オブジェクトを配置

データ

項目名

入力方法

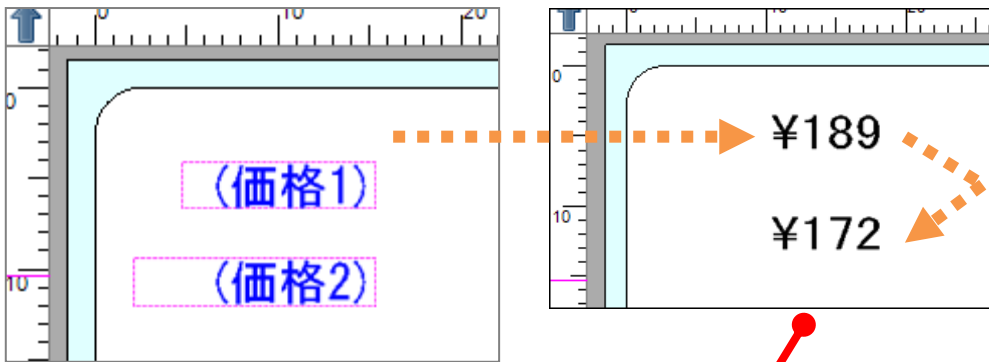
固定

発行時(データ)

参照

データ桁数 桁

1 「[税率 1: 10%]価格 1(税抜価格)」を選択



価格 1 に入力した値が「税抜価格」で印字されます。

■ 端数処理の計算方法

価格計算で発生する端数の処理方法を設定できます。**端数処理**は計算で求めた**消費税額に対して**行ないません。計算途中の値や計算結果に対しての端数処理ではないため**ご注意ください**。

端数処理で切り捨て、切り上げ、四捨五入は指定桁以下のすべての値を対象に端数処理をおこないます。

切り上げ（小数点第一位）は第一位の値のみを対象に端数処理をおこないます。

■ 本体価格 576 円で 8% の税込み計算の場合

端数処理	消費税額 (計算結果)	消費税額 (端数処理後)	税込価格 (端数処理後)
切り捨て	46.08	46 円	622 円
切り上げ	46.08	47 円	623 円
切り上げ（小数点第一位）	46.08	46 円	622 円
四捨五入	46.08	46 円	622 円

・ 税込み

価格計算

価格計算

計算処理 税込み

端数処理 四捨五入

端数処理桁数 小数点以下1桁

税率 10 %

計算処理「**税込み**」で求められる価格は「**税込価格**」と「**消費税額**」です。

入力価格が「128」、税率が「10」(%)の場合…

$$128 \times 0.1 = \mathbf{12.8} \text{ (消費税額)}$$

端数処理が「**四捨五入**」、端数処理桁数が「**小数点以下 1 桁**」の場合…

$$12.8 \Rightarrow \mathbf{13} \text{ (消費税額)}$$

価格計算の結果… 税込価格「**141**」、消費税額「**13**」となります。

・税抜き

価格計算

価格計算

計算処理 税抜き

端数処理 四捨五入

端数処理桁数 小数点以下1桁

税率 10 %

計算処理「**税抜き**」で求められる価格は「**税抜価格**」と「**消費税額**」です。

入力価格が「195」、税率が「10」(%)の場合…

$$195 \div 1.10 = 177.272727$$

$$195 - 177.272727 = \mathbf{17.727273} \text{ (消費税額)}$$

端数処理が「**切り上げ**」、端数処理桁数が「**小数点以下 1 桁**」の場合…

$$17.727273 \Rightarrow \mathbf{18} \text{ (消費税額)}$$

価格計算の結果… 税抜価格「**177**」、消費税額「**18**」となります。

[注意]税抜価格の誤差について

税込価格から税抜価格、消費税額を求めた場合、端数処理の関係で、税抜価格から税込価格を求めた場合に対して誤差が発生する場合があります。十分ご注意ください。

例) 消費税率を 8%設定時に、税込みで 9,800 円を入力した場合 (指定: 端数処理は切捨て)

- ①税込価格として **9,800 円**を入力し、消費税と税抜価格を求めます。

$$9,800 \div 1.08 = 9074.074074\dots$$

$$9,800 - 9074.074074\dots = 725.925925\dots \text{ 消費税は } \Rightarrow 725 \text{ 円}$$

$$9,800 - 725 = 9,075 \text{ 税抜価格は } \Rightarrow 9,075$$



- ② ①の計算で求められた税抜価格 9,075 円から税込価格を再計算してみます。

$$9,075 \times 0.08 = 726 \text{ 消費税は } \Rightarrow 726 \text{ 円}$$

$$9,075 + 726 = 9,801 \text{ 税込価格は } \Rightarrow \mathbf{9,801 \text{ 円}}$$

以上のように ①で入力した税込価格と ②で算出した税込価格に誤差が生じます。

16. 税率の設定／変更方法

税率の設定や税込み価格、本体価格の作成方法を説明します。

税率は大きく分けて2通りの設定方法があります。

- ① レイアウト毎に税率を保持する
- ② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する

従来の①以外に、②の設定方法を追加しました。編集が必要なレイアウト数が多い場合、②がより税率変更時の作業量が少なく済みます。

上記①と②の税率保持方法以外に、税率を設定するタイミングによって設定項目が異なります。

以下のリストで作業内容を確認の上、該当する設定方法を確認ください

[新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定]

作業内容	設定項目
プロジェクト作成前に、税率を設定する	ツール>設定>税率
プロジェクト作成後に、新規作成するレイアウトの税率を設定する	レイアウトデフォルト設定>税率・割引率 プロジェクト設定>共通設定

[既存レイアウトの税率変更]

① レイアウト毎に税率を保持する場合

作業内容	設定項目
レイアウトの税率を一括で変更する	ツール>コンバート>税率一括変更
レイアウトの税率を個別に変更する	レイアウト設定>税率・割引率

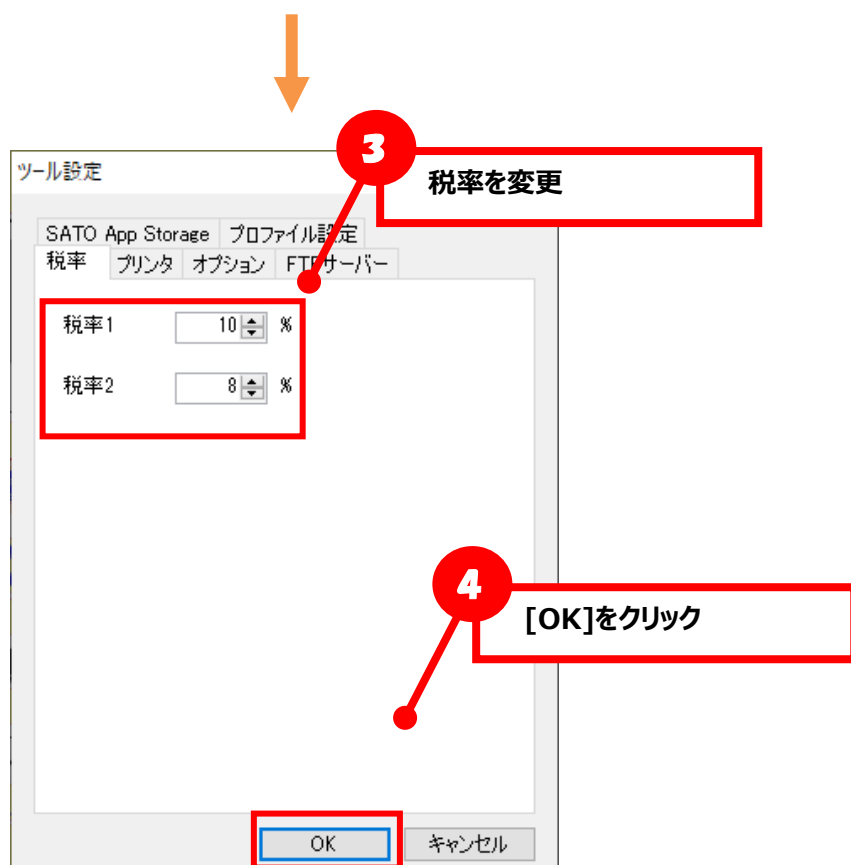
② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合

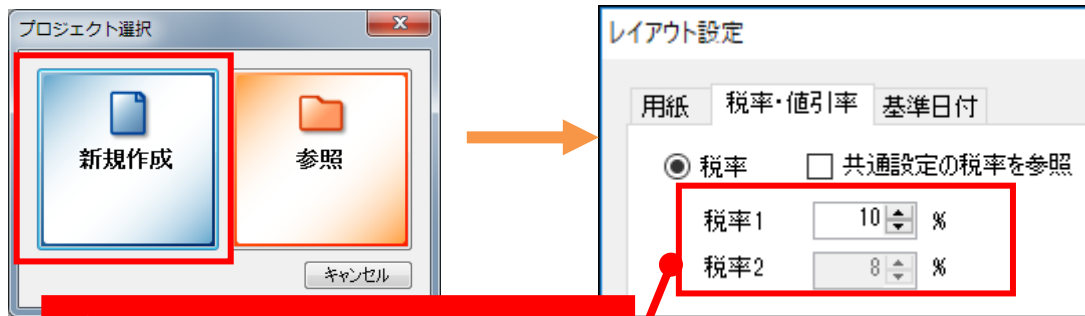
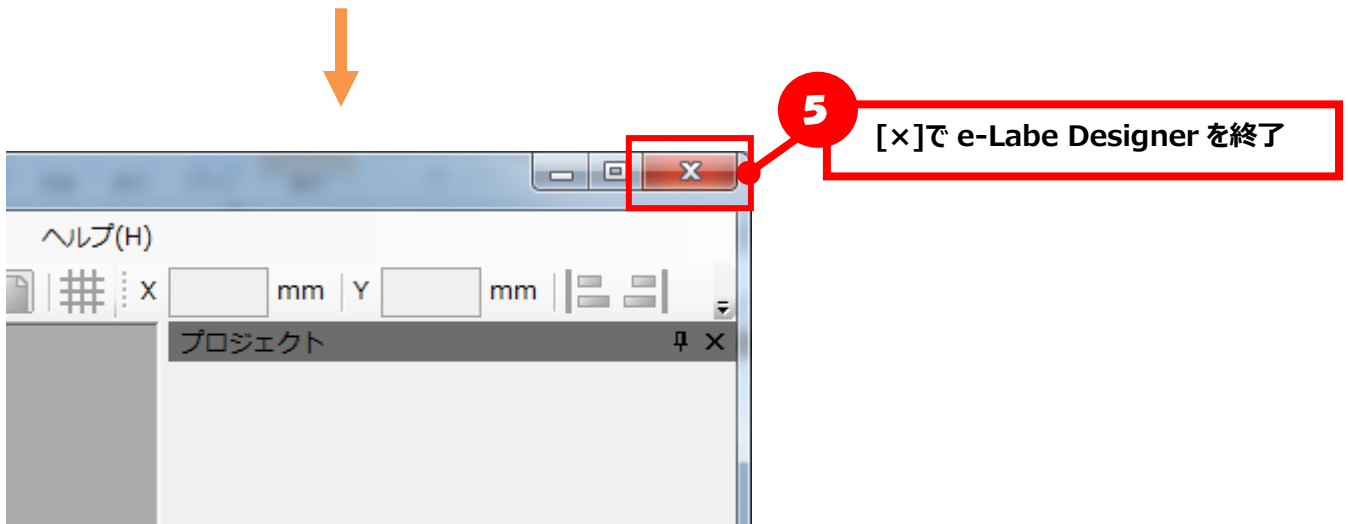
作業内容	設定項目
レイアウトの税率を変更する	プロジェクト設定>共通設定

■ [新規でプロジェクトやレイアウトを作成時の税率設定]

- ・プロジェクト作成前に、税率を設定する

※本設定で設定した税率は、「次回プロジェクトを新規作成時」に反映されます。
既存のプロジェクトの税率変更は、「既存レイアウトの税率変更」をご確認ください。

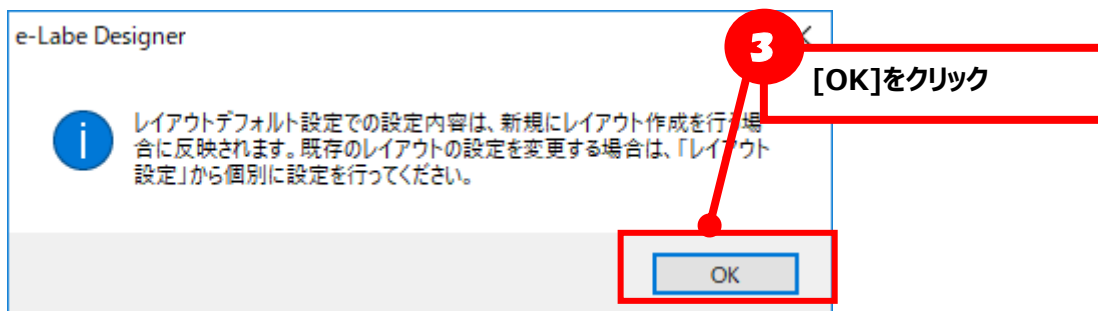
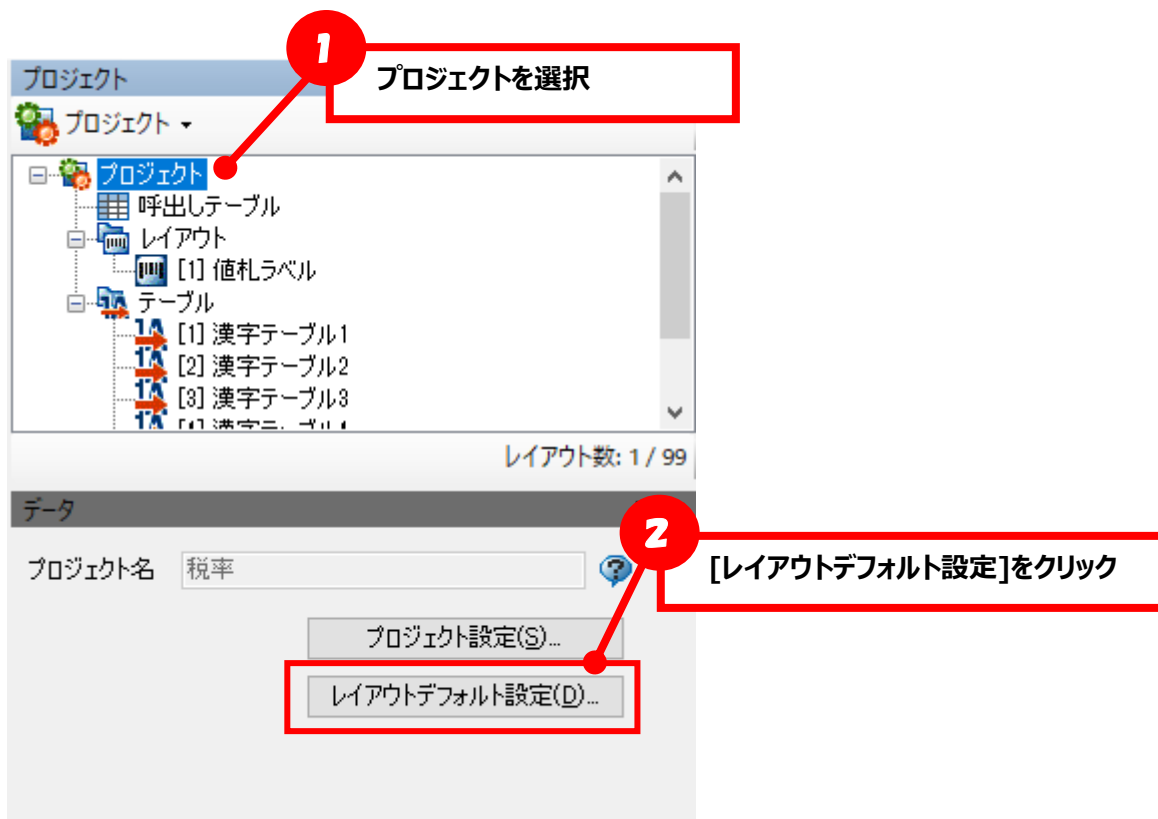


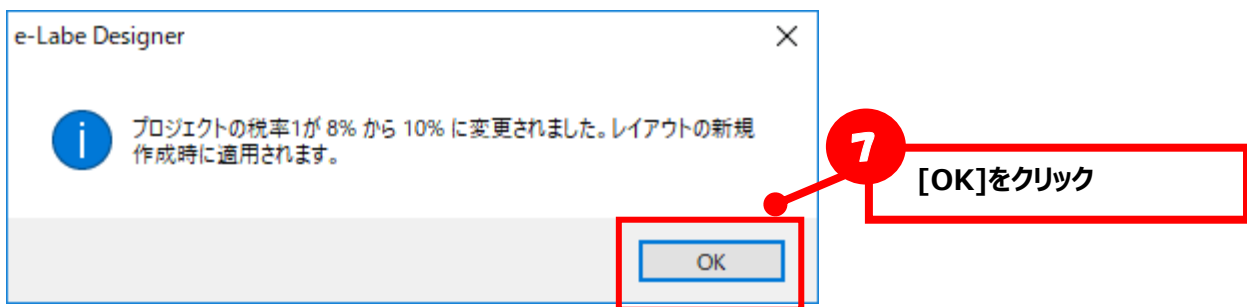
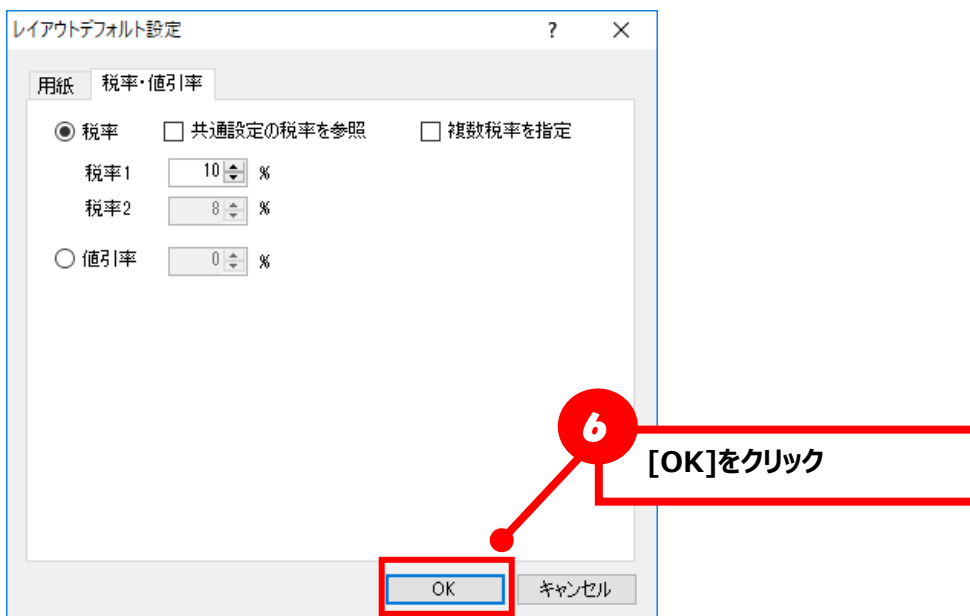
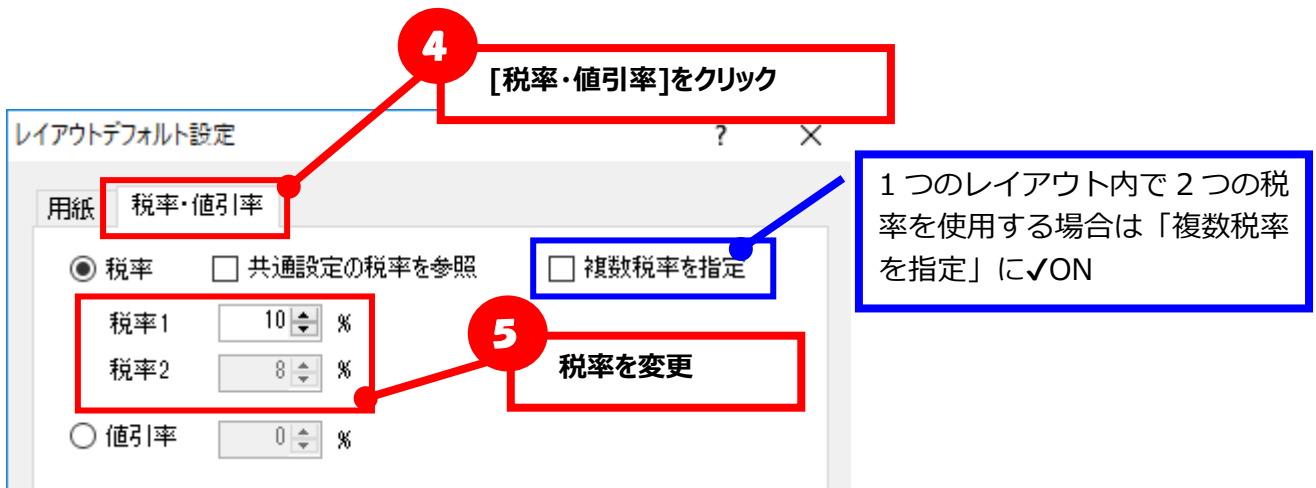


プロジェクトを新規作成して、レイアウト設定を開くと変更した税率が反映されています。

・プロジェクト作成後に、新規作成するレイアウトの税率を設定する

① レイアウト毎に税率を保持する場合

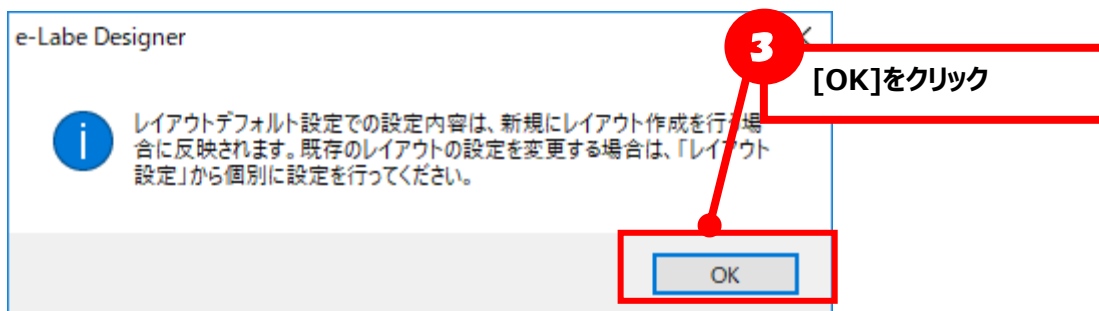
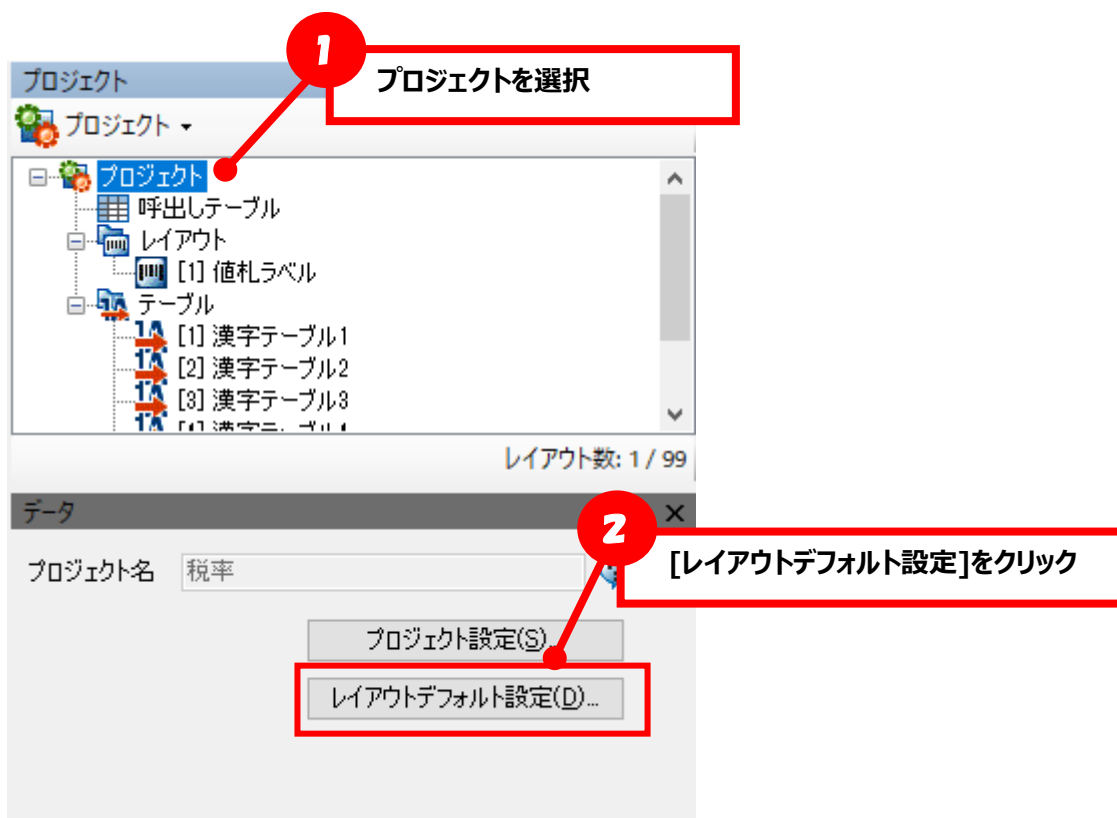






レイアウトを新規作成すると、レイアウト設定に税率が反映されています。

② プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合



4 [税率・値引率]をクリック

レイアウトデフォルト設定

用紙 税率・値引率

● 税率 共通設定の税率を参照 複数税率を指定

税率1 10 %

税率2 8 %

○ 値引率 0 %

5 [共通設定の税率を参照]をクリックし√ON

1つのレイアウト内で2つの税率を使用する場合は「複数税率を指定」に√ON

6 [OK]をクリック

レイアウトデフォルト設定

用紙 税率・値引率

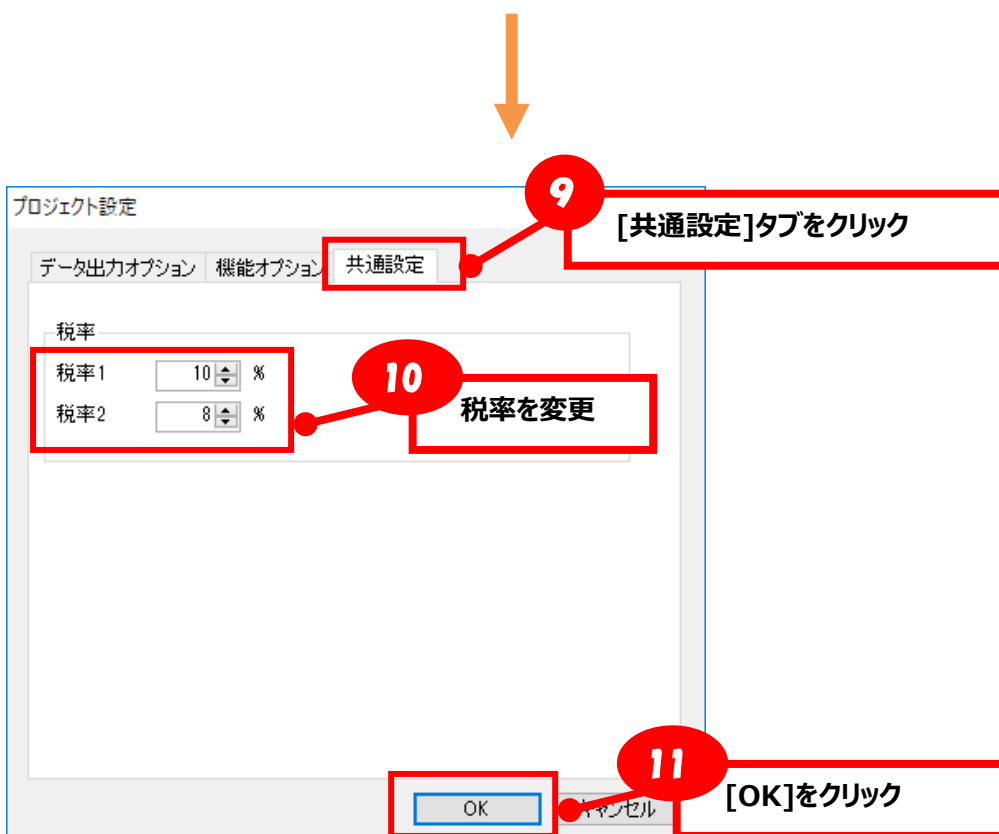
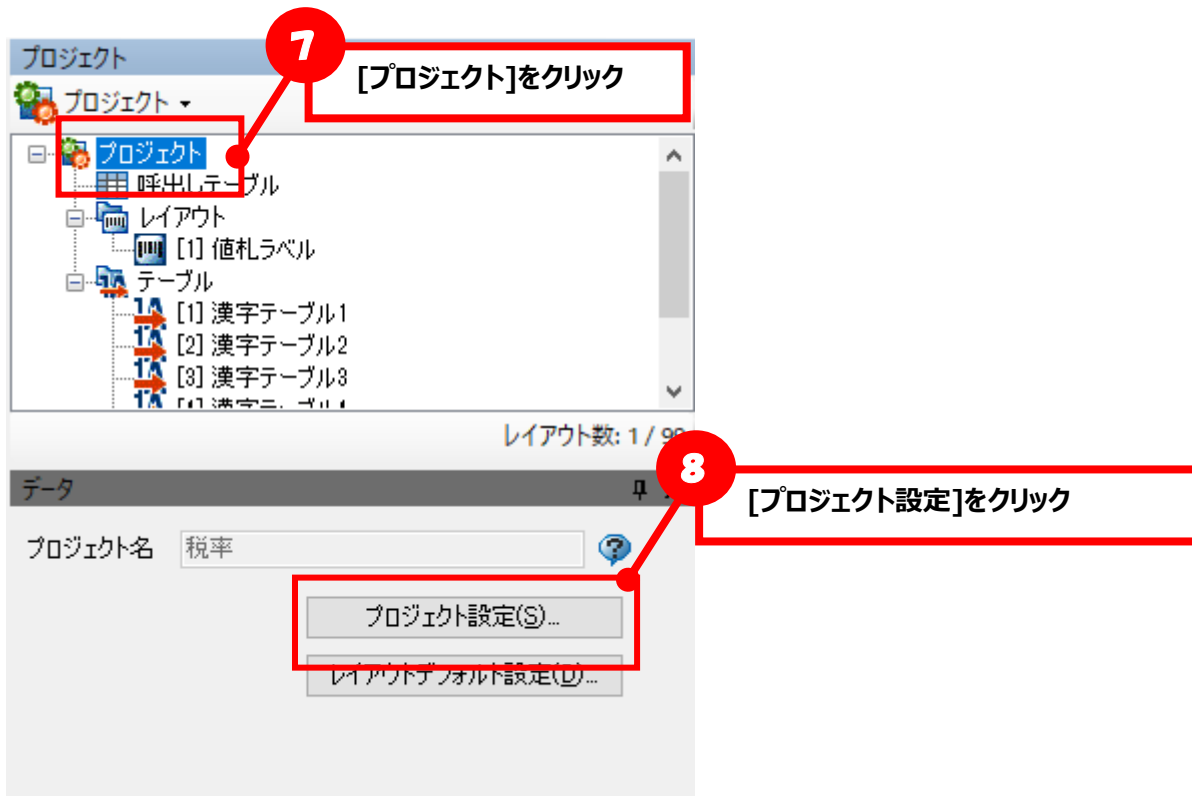
● 税率 共通設定の税率を参照 複数税率を指定

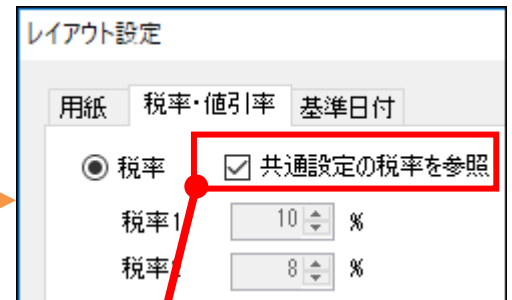
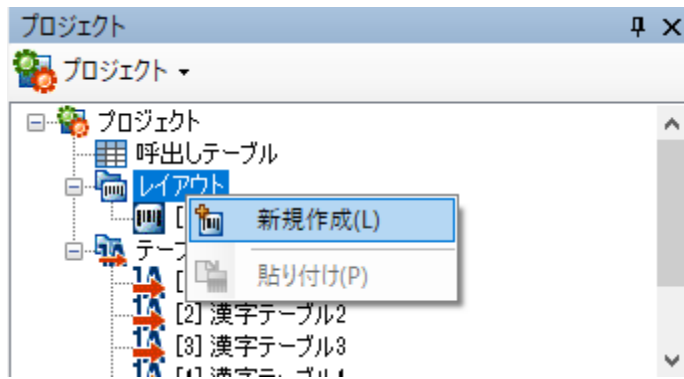
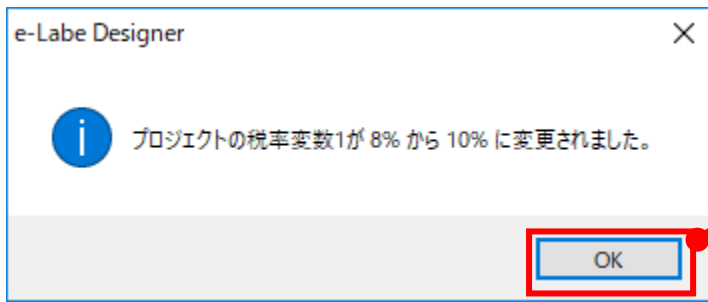
税率1 10 %

税率2 8 %

○ 値引率 0 %

OK キャンセル

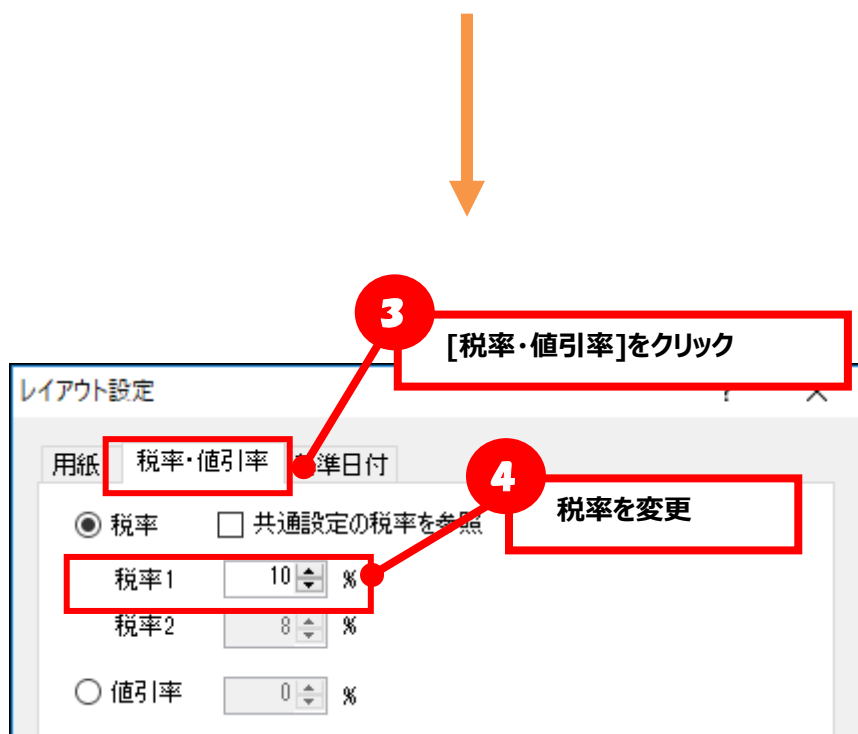
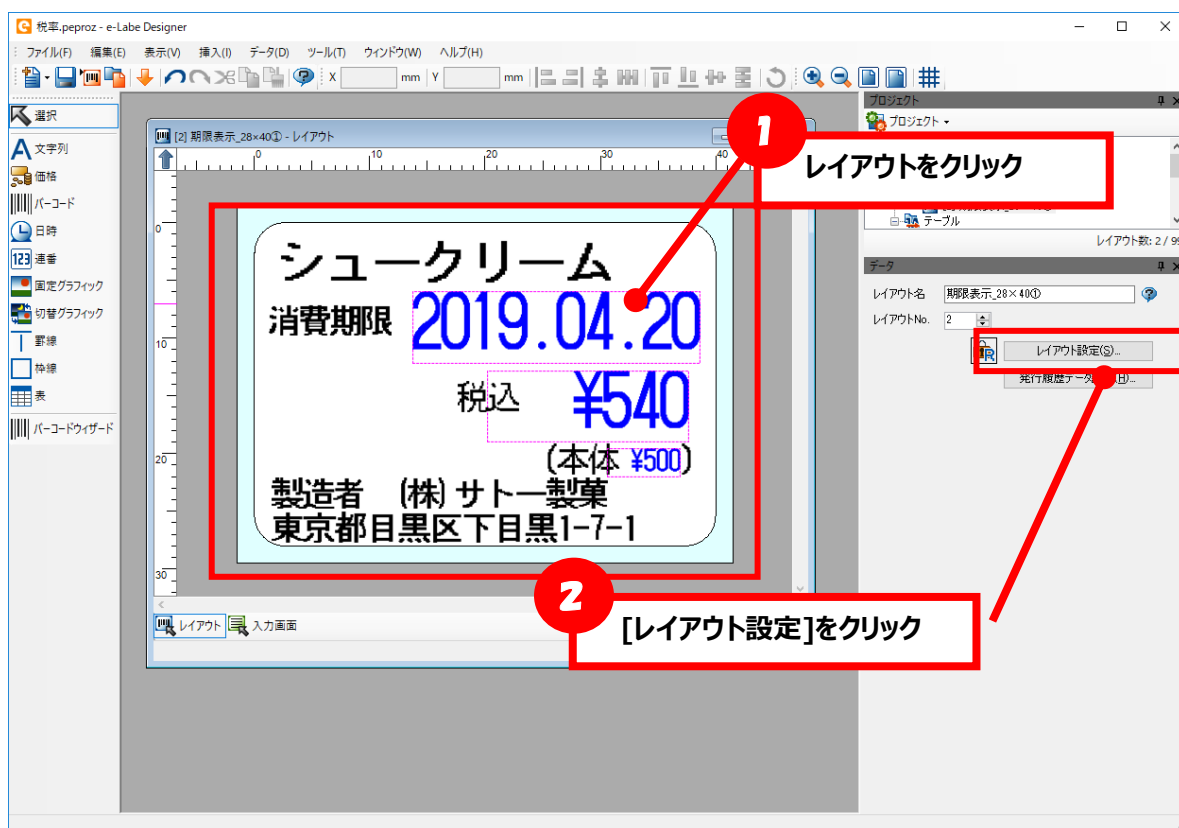




レイアウトを新規作成すると、レイアウト設定に「共通設定の税率を参照」の✓ONが反映されています。

■[既存レイアウトの税率変更]

- ・税率を個別に変更する（①レイアウト毎に税率を保持する場合）



レイアウト設定

用紙 税率・値引率 基準日付

税率 共通設定の税率を参照 複数税率を指定

税率1 10 %

税率2 8 %

値引率 0 %

OK キャンセル

5 [OK]をクリック

e-Labe Designer

レイアウトの税率が 8% から 10% に変更されました。

OK

6 [OK]をクリック

価格計算

価格計算

計算処理 税込み

端数処理 切り捨て

端数処理桁数 小数点以下1桁

税率 10 %

説明

本体価格を入力し、税込価格、消費税額を求めます。
 【レイアウト作成方法】
 価格1：本体価格入力用(この項目)
 価格2：価格1で求めた税込価格を参照
 価格3：価格1で求めた消費税額を参照

【端数処理計算について】
 【端数処理】【端数処理桁数】は、計算で求め

閉じる(C)

シュークリーム

消費期限 2019.04.20

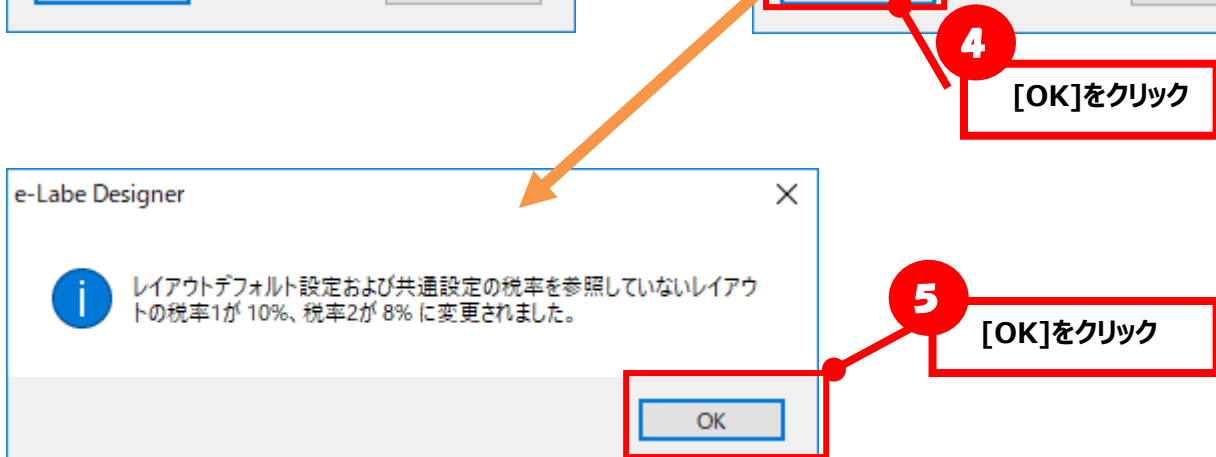
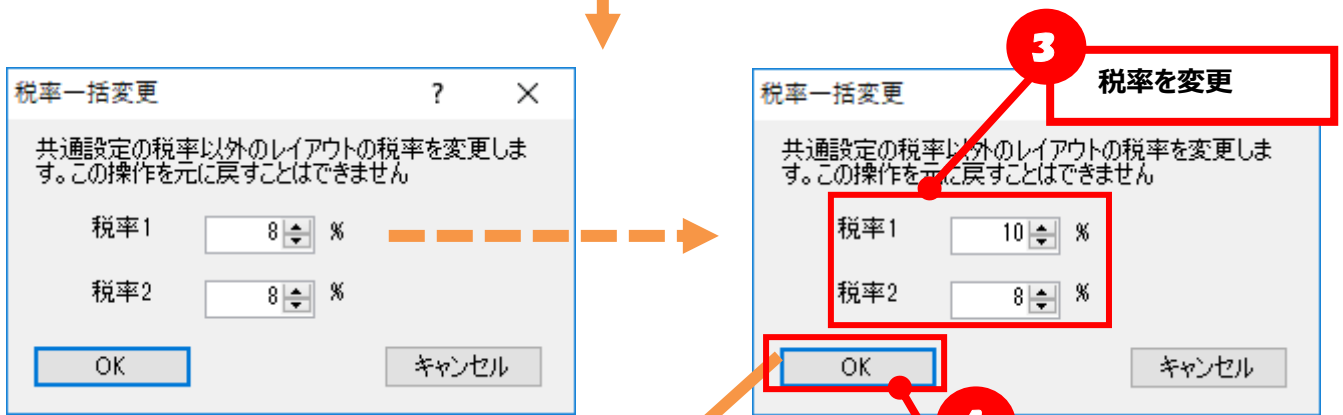
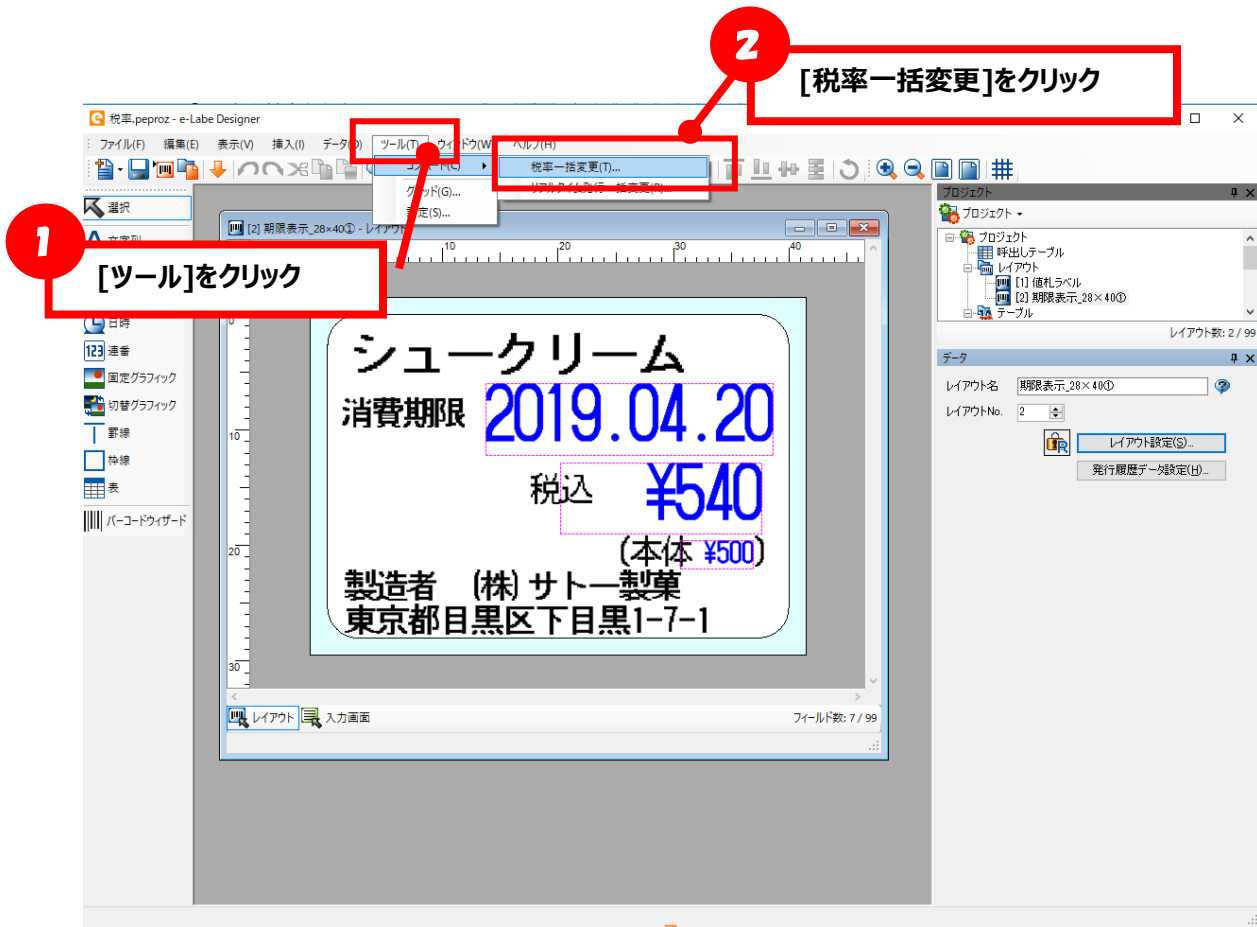
税込 ¥550

(本体 ¥500)

製造者 (株) サトー製菓
 東京都目黒区下目黒1-7-1

★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

・ 税率をまとめて変更する (①レイアウト毎に税率を保持する場合)





価格計算

価格計算

計算処理 税込み

端数処理 切り捨て

端数処理桁数 小数点以下1桁

税率 10 %

説明

本体価格を入力し、税込価格、消費税額を求めます。

【レイアウト作成方法】

価格1: 本体価格入力用(この項目)

価格2: 価格1で求めた税込価格を参照

価格3: 価格1で求めた消費税額を参照

【端数処理計算について】

[端数処理] [端数処理桁数]は、計算で求め

閉じる(C)

シュークリーム

消費期限 2019.04.20

税込 ¥550

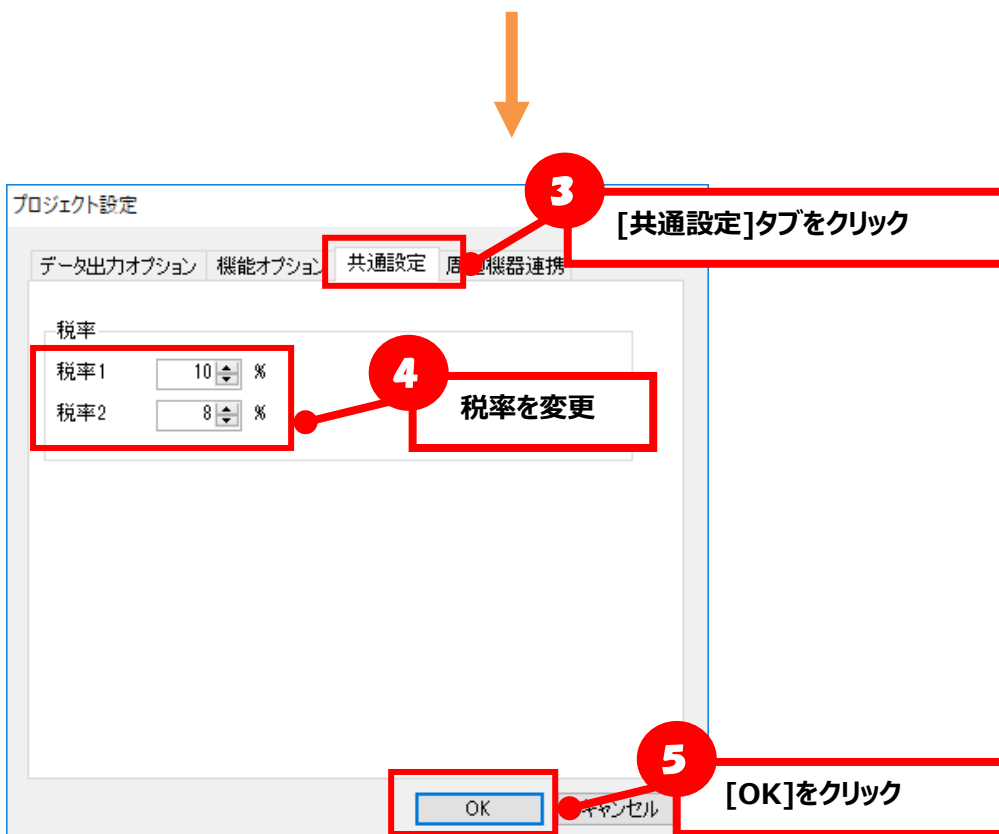
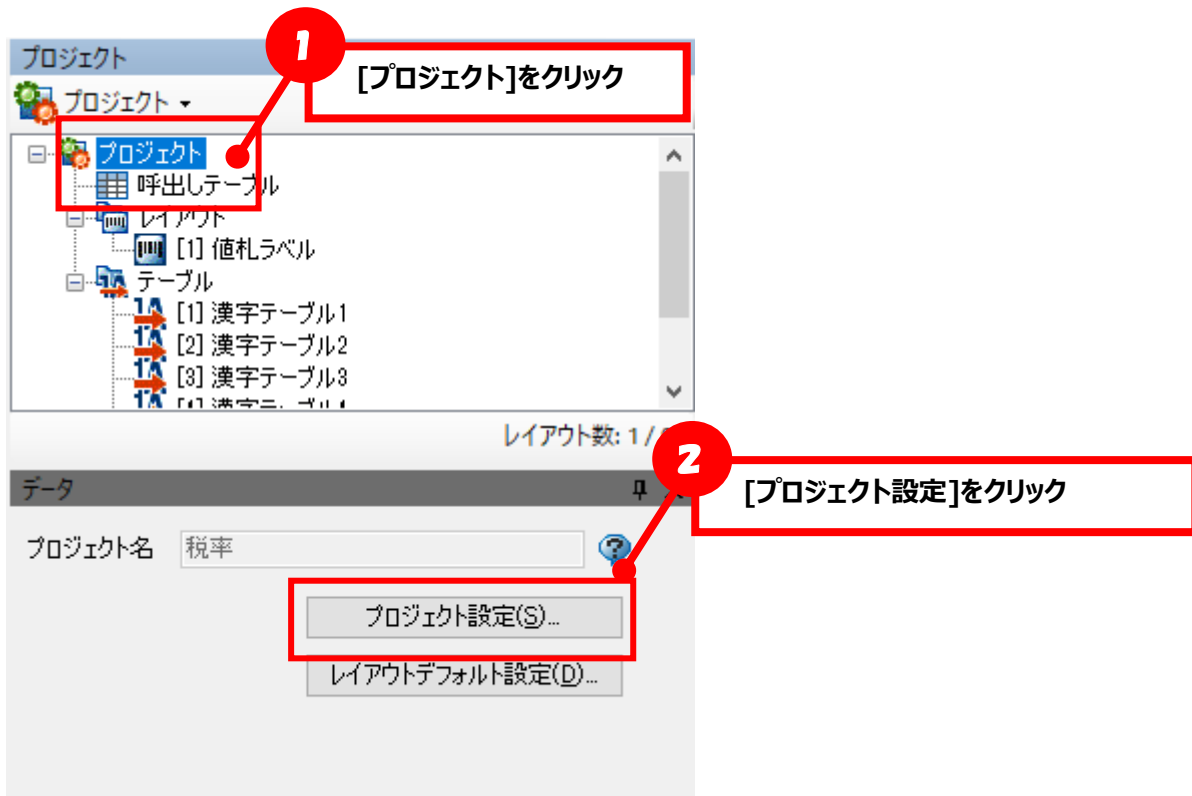
(本体 ¥500)

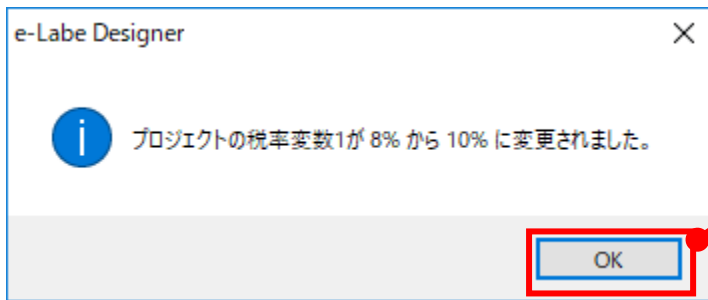
製造者 (株) サトー製菓

東京都目黒区下目黒1-7-1

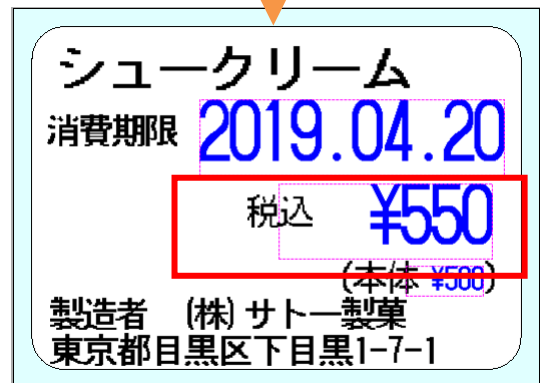
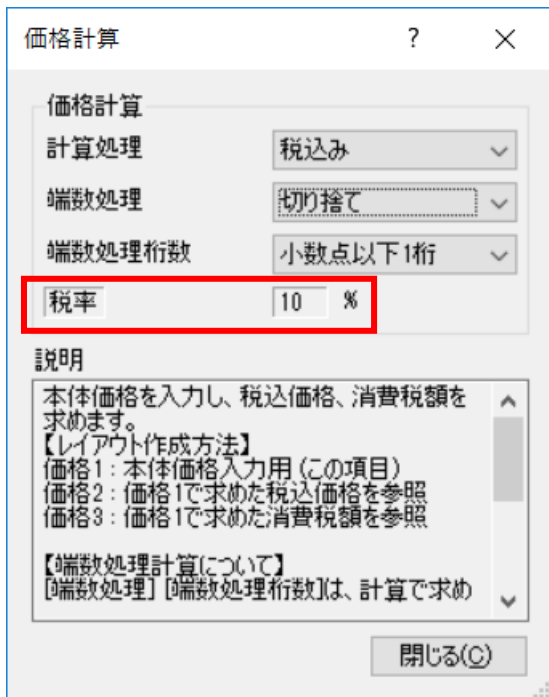
★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

- ・ 税率を変更する（②プロジェクトで保持する税率をレイアウトで参照する場合）





6 [OK]をクリック

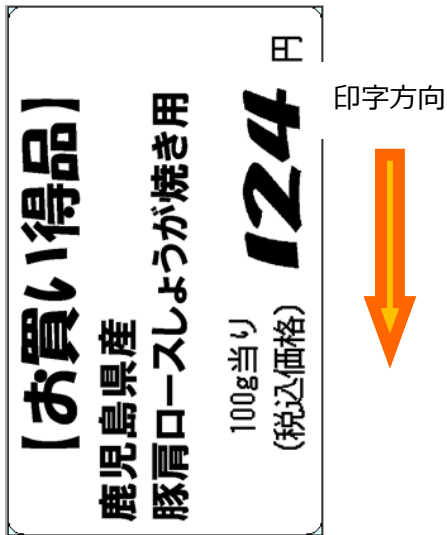


★変更後はデータ出力を行い、実際に印字をして税率変更後の値を確認してください

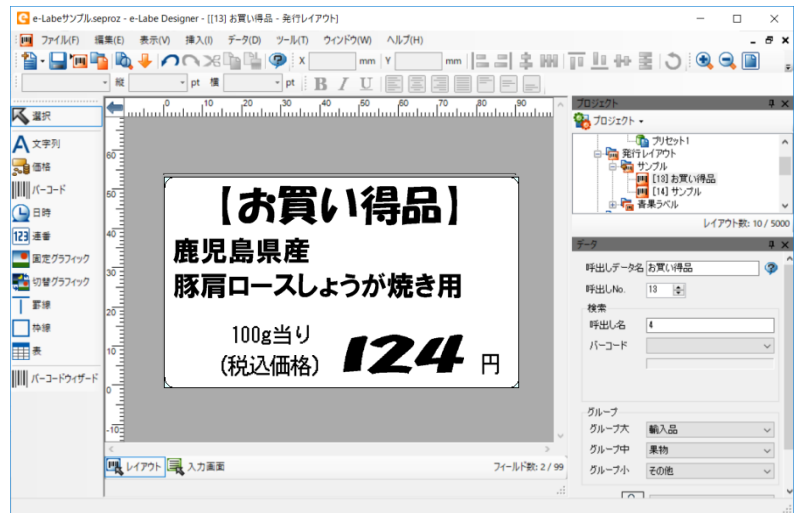
17. 用紙回転機能

デザイン画面の用紙を0度、90度、180度、270度に切り替えて表示できます。
縦長のラベルを横書きで印字したい場合など、用紙を回転させてデザインが可能です。

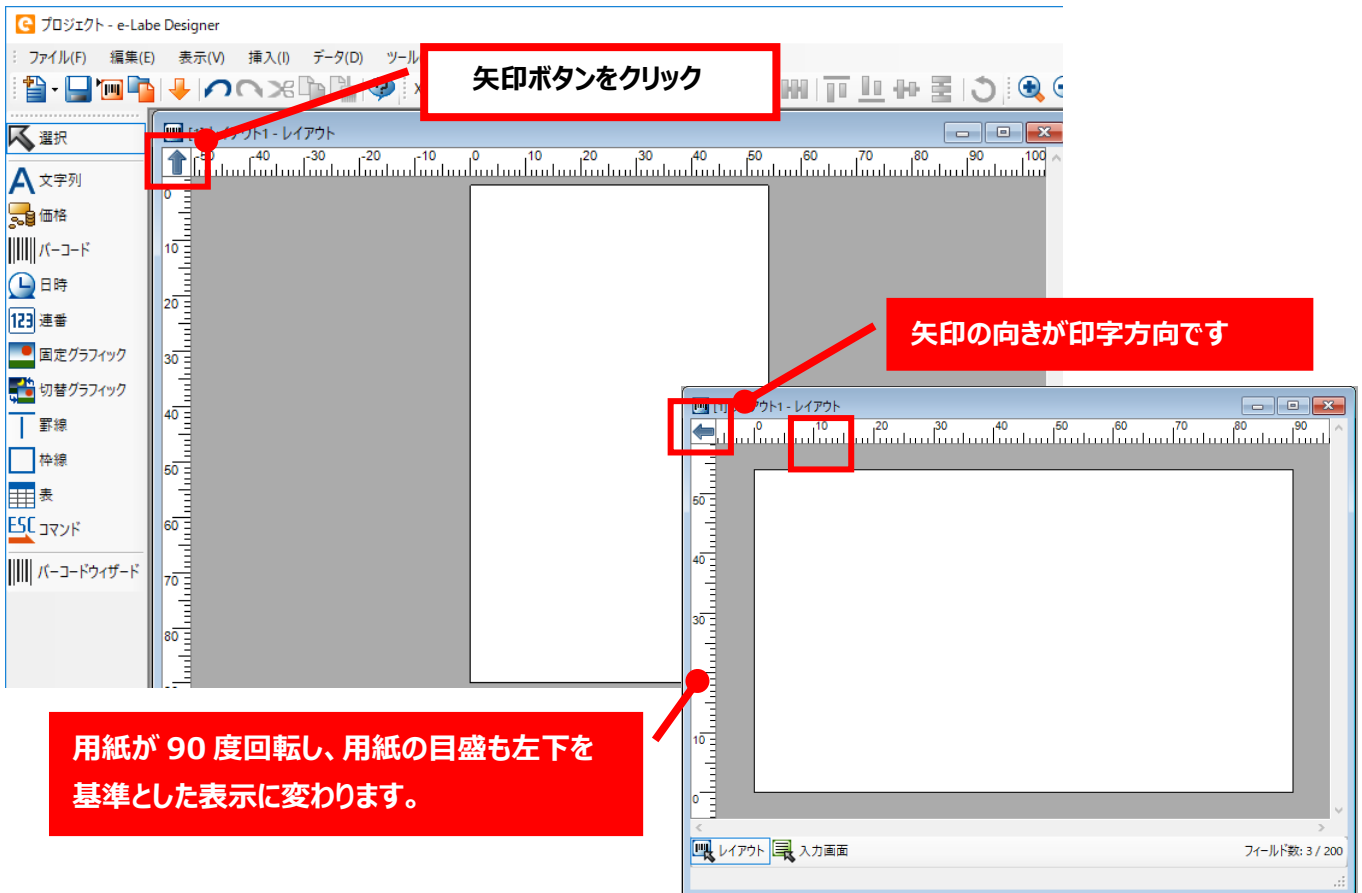
【印字ラベル】

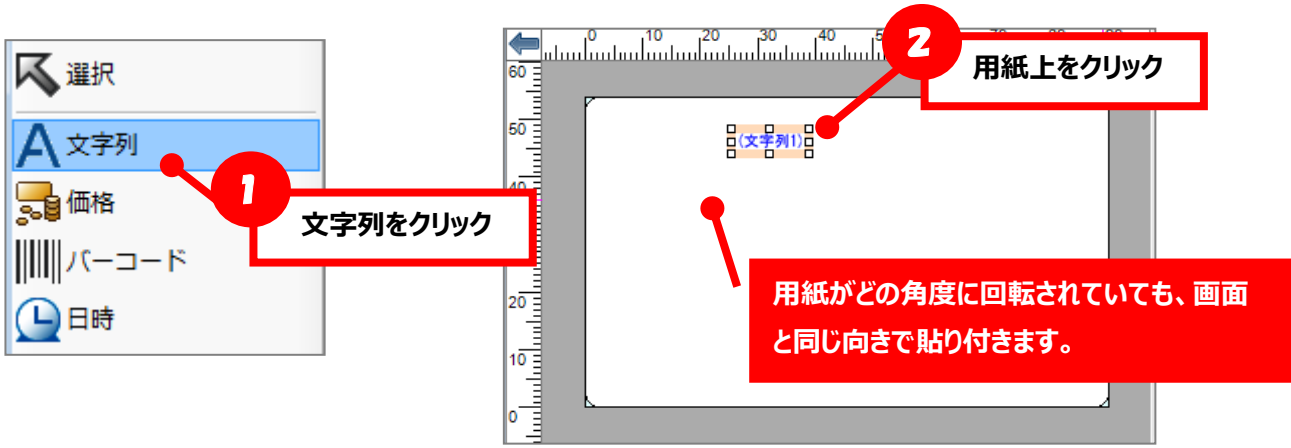


【デザイン画面】

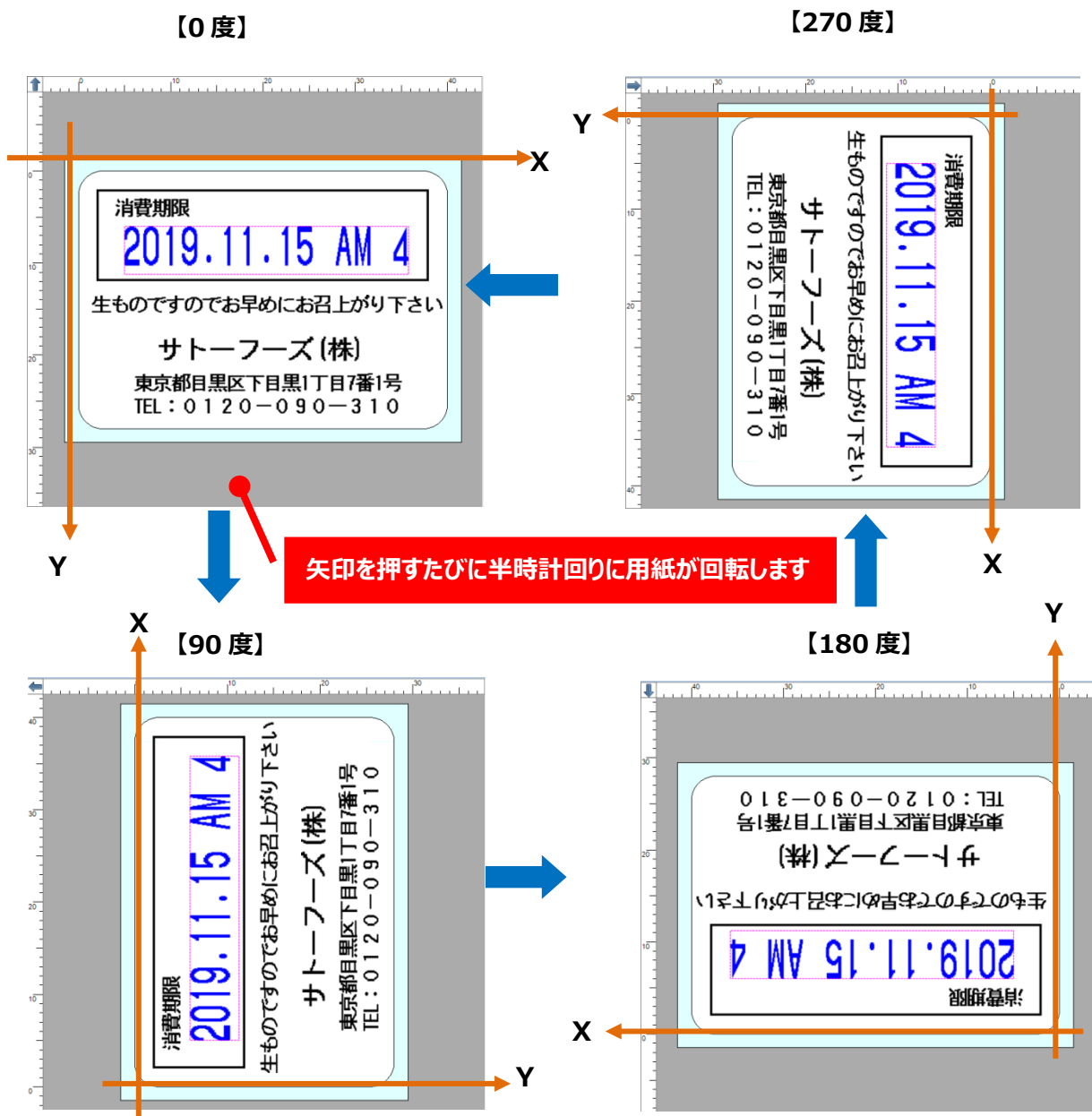


■ 用紙回転手順





■用紙回転時の表示



18.食品大目付そうけんくん連携機能

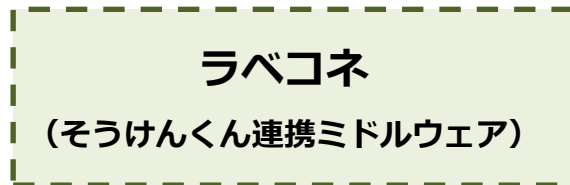
食品大目付そうけんくん（株式会社エフシージー総合研究所）から CSV 出力された食品原材料データを e-Labe に取り込む連携機能に対応しています。

※連携には「ラベコネ」（連携用ミドルウェア）が別途必要です（別売）

食品大目付そうけんくん、ラベコネについては販売店にお問い合わせください。



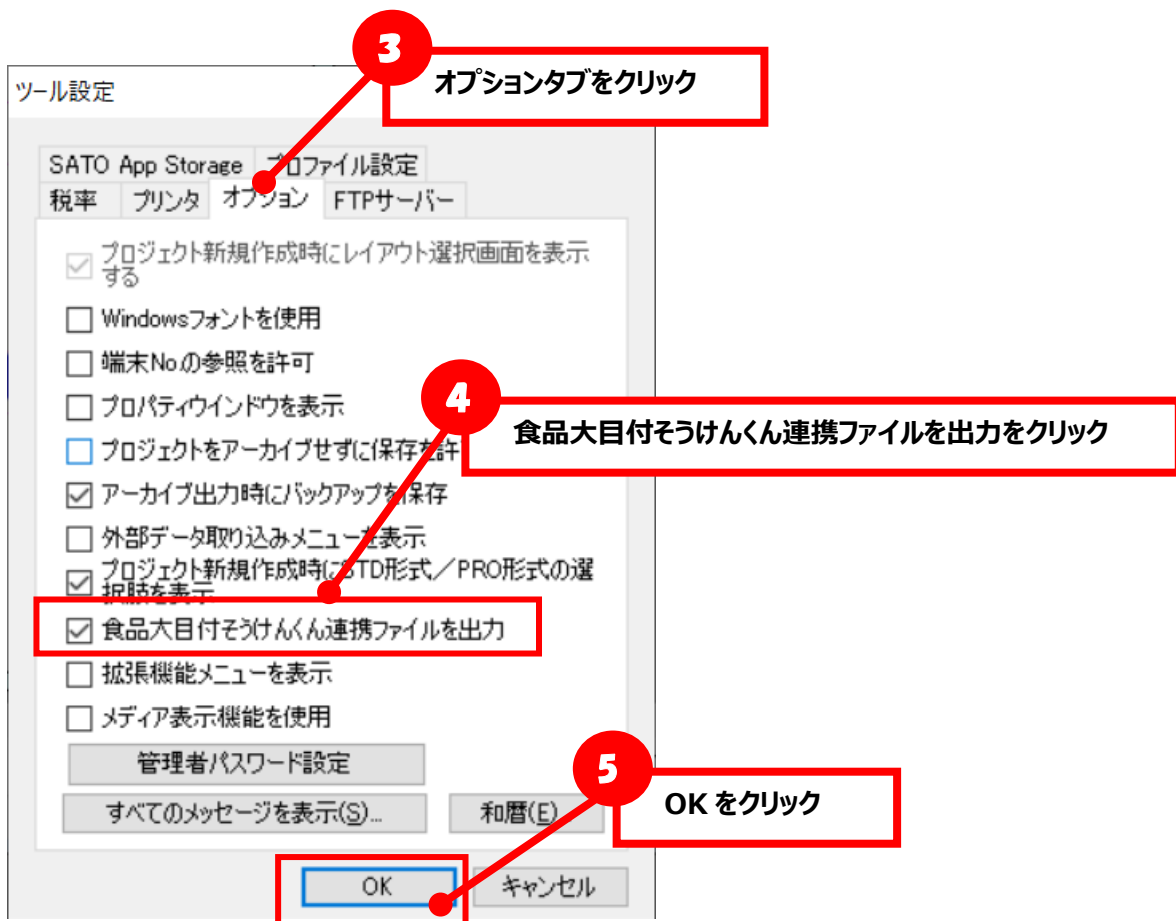
CSV
ファイル



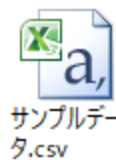
呼出しテーブル
ファイル

■ 食品大目付そうけんくん連携設定手順





上記の設定を有効にすることで、プロジェクトの保存時、連携に必要なファイルが同じ名前でも出力されます。



19.テーブルデータのオーバーライド（置き換え）機能

PRO 形式のファイル構造は、SATO App Storage や WebDAV サーバーに e-Labe のフォーマットファイルを置き、各端末がダウンロードする運用に適した形式となっています。

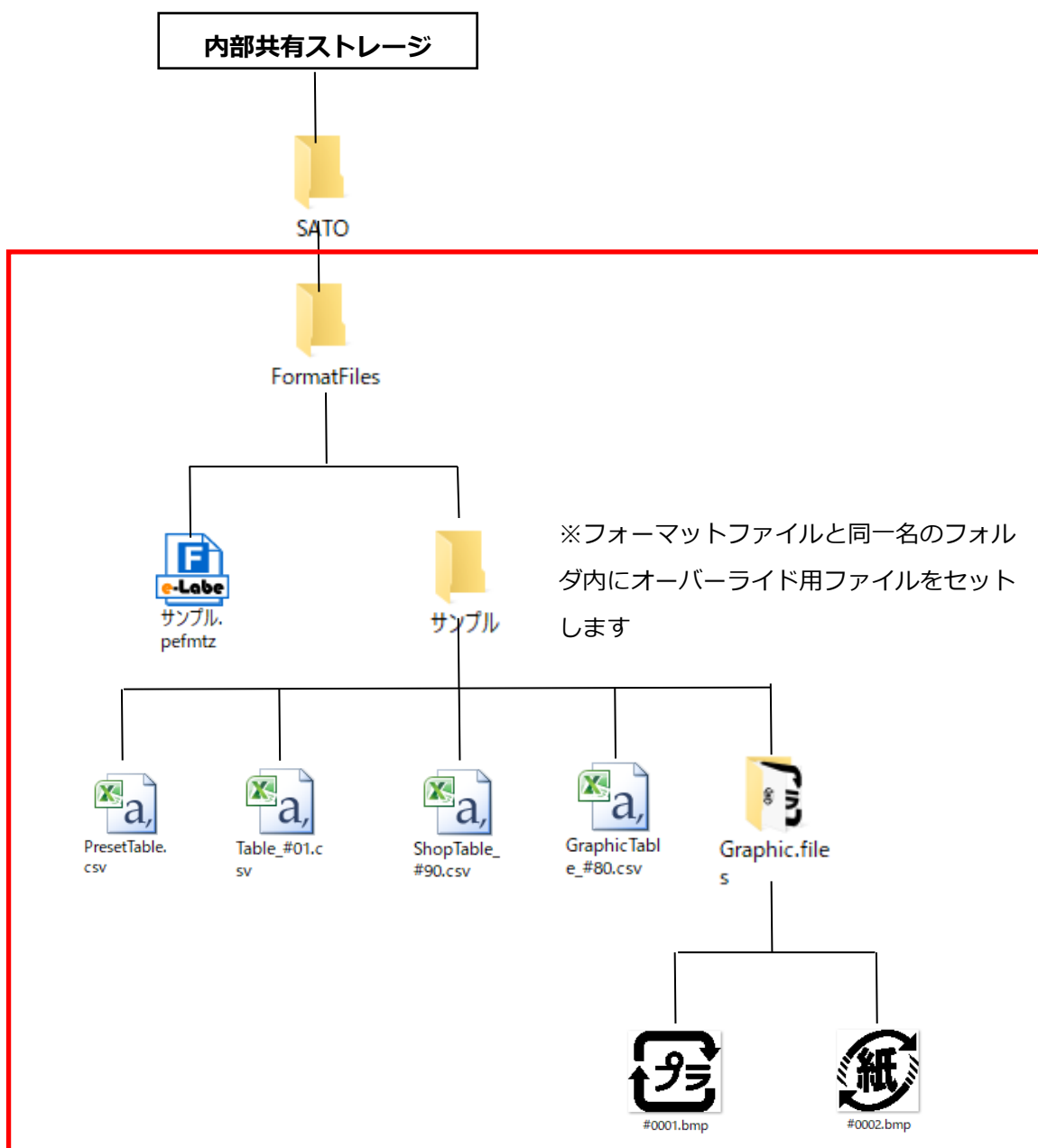
「呼出しテーブル」「漢字テーブル」「店名テーブル」「グラフィックテーブル」に関しては、上位システムより CSV/TAB 形式のデータをセットすることで、フォーマットファイルではなく、セットされた CSV/TAB 形式のデータにオーバーライド（置き換え）して呼び出すことが可能です。

※ファイルサイズは最大 10MB です。

[オーバーライドファイルのセット場所]

オーバーライド機能を使用する場合は、以下のフォルダ構成でファイルをセットする必要があります。SATO App Storage や WebDAV などのサーバーからファイルダウンロードをする場合も、サーバー側に赤枠の構成でファイルをセットしてください。

<FX3-LX>



オーバーライド用ファイル	備考
PresetTable.csv/.txt	呼出しテーブル
Table_#01.csv/.txt～ Table_#10.csv/.txt	漢字テーブル 1～ 漢字テーブル 10
Table_#111.csv/.txt～ Table_#199.csv/.txt	漢字テーブル 111～ 漢字テーブル 199
ShopTable_#90.csv/.txt	店名テーブル
GraphicTable_#80.csv/.txt	グラフィックテーブル
#0001.bmp～#1000.bmp	グラフィックテーブル用ビットマップファイル 【格納先】 内部共有ストレージ¥SATO¥FormatFiles¥(フォーマットファイルと同一名称)¥Graphic.files¥

※ファイル名は上記と同じである必要があります（大文字小文字も区別）

■ 呼出しテーブルファイル

[ファイル仕様]

- ・書式：RFC4180 準拠の可変長テキストファイル
- ・エンコーディング：Shift-JIS

[ファイル名]（固定、大文字小文字を区別）

- ・PresetTable.csv （カンマ区切り）
- ・PresetTable.txt （タブ区切り）

[ファイル内容]

- ・1レコード目 **※必須**
呼出しテーブルの項目名
- ・2レコード目以降
呼出しテーブルのデータ

[各項目の仕様]

※次ページの表を参照

[改行コード]

- ・CR+LF

★Designerのオプションが有効時、項目が必要

○：必須項目 △：条件により必須項目

項目名	バイト数	入力必須	値	備考
配信可否 ★	－	△	TRUE/FALSE	※配信可否オプション
呼出しNo.	4	○	1～9999	
呼出し名	32		任意の値	使用不可文字 「"」,「<」,「>」,「 」,「:」, 「*」,「?」,「¥」,「/」
検索用呼出し名	100		任意の値	複数検索用フィールド 「 」は区切り文字として処理
グループ大 ★	32	△	任意の値	※グループ階層「1階層」以上
グループ中 ★	32	△	任意の値	※グループ階層「2階層」以上
グループ小 ★	32	△	任意の値	※グループ階層「3階層」以上
配信開始日 ★	10		YYYY/MM/DD	※配信開始日／終了日指定オプション
配信終了日 ★	10		YYYY/MM/DD	※配信開始日／終了日指定オプション
配信先 ★	4		1～9999	※配信先オプション 配信先の店名テーブル番号をセット 複数ある場合は、カンマ区切りでセット 全対象の場合は、未セット
レイアウト指定	2	○	1～99	【複数レイアウト指定OFF】 レイアウトNo.を セット
	－	○	※備考欄参照	【複数レイアウト指定ON】 デフォルトレイアウト No.をセパレータ「 」で区切り、選択可能なレイ アウトNo.をカンマ区切りでセット（例： 2 1,2,5） デフォルトレイアウトNo.を設定しない場合は「- 」をセット 選択可能なレイアウトがすべての場合は「*」を セット
任意項目1	－	△		呼出しテーブル定義で指定した項目
任意項目2	－	△		呼出しテーブル定義で指定した項目
・ ・ ・				
任意項目99	－	△		呼出しテーブル定義で指定した項目

データを省略する場合でも区切り文字（,）や（TAB）はセットする必要があります。

[カンマ区切りテキストファイル例]

1	10	20	30	40	50	60	70	80
1	呼出しNo.,	呼出し名,	検索用呼出し名,	グループ大,	グループ中,	レイアウト指定,	商品名,	商品コード,価格,保存方法↓
2	1,	生チョコミルク,,	チョコレート,	生チョコ,	1,	生チョコレートミルク,	12345,	540,1↓
3	2,	生チョコピター,,	チョコレート,	生チョコ,	1,	生チョコレートピター,	22345,	540,1↓
4	3,	生チョコ苺,,	チョコレート,	生チョコ,	1,	生チョコレート苺,	12345,	648,1↓
5	10,	トリュフ,,	チョコレート,	トリュフ,	1,	トリュフ,	33222,	1080,1↓
6	[EOF]							

[タブ区切りテキストファイル例]

1	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100
1	呼出しNo.>	呼出し名>	検索用呼出し名>	グループ大>	グループ中>	レイアウト指定>	商品名>	商品コード>	価格>	保存方法↓
2	1>	生チョコミルク>	>	チョコレート>	生チョコ>	1>	生チョコレートミルク>	12345>	540>	1↓
3	2>	生チョコピター>	>	チョコレート>	生チョコ>	1>	生チョコレートピター>	22345>	540>	1↓
4	3>	生チョコ苺>	>	チョコレート>	生チョコ>	1>	生チョコレート苺>	12345>	648>	1↓
5	10>	トリュフ>	>	チョコレート>	トリュフ>	1>	トリュフ>	33222>	1080>	1↓
6	[EOF]									

■ 漢字テーブル 1~10、111~199

[ファイル仕様]

- ・書式：RFC4180 準拠の可変長テキストファイル
- ・エンコーディング：Shift-JIS

[ファイル名] (固定、大文字小文字を区別)

- ・Table_#01.csv~Table_#10.csv、Table_#111.csv~Table_#199.csv (カンマ区切り)
- ・Table_#01.txt~Table_#10.txt、Table_#111.txt~Table_#199.txt (タブ区切り)

[ファイル内容]

- ・1行目~
漢字テーブルのデータ

[改行コード]

- ・CR+LF

[各項目の仕様]

項目	バイト数	入力必須	値	備考
テーブル番号	4	○	0~9999	
テーブルデータ	1000		任意の値	

データを省略する場合でも区切り文字 (,) や (TAB) はセットする必要があります。

[カンマ区切りテキストファイル例]

	0	10	20	30
1	1,	冷蔵庫 (10℃以下)	で保存↓	
2	2,	常温で保存↓		
3	[EOF]			

[タブ区切りテキストファイル例]

	0	10	20	30
1	1>	冷蔵庫 (10℃以下)	で保存↓	
2	2>	常温で保存↓		
3	[EOF]			

■ 店名テーブル

[ファイル仕様]

- ・書式：RFC4180 準拠の可変長テキストファイル
- ・エンコーディング：Shift-JIS

[ファイル名] (固定、大文字小文字を区別)

- ・ShopTable_#90.csv (カンマ区切り)
- ・ShopTable_#90.txt (タブ区切り)

[ファイル内容]

- ・1行目～
店名テーブルのデータ

[改行コード]

- ・CR+LF

[各項目の仕様]

項目	バイト数	入力必須	値	備考
テーブル番号	4	○	1~9999	
店名	60		任意の値	
住所	100		任意の値	
電話番号	80		任意の値	
メモ	80		任意の値	

データを省略する場合でも区切り文字 (,) や (TAB) はセットする必要があります。

[カンマ区切りテキストファイル例]

	0	10	20	30	40	50
1	1,	目黒店,	東京都目黒区下目黒1-7-1,	03-0000-0000,	↓	
2	2,	大宮店,	埼玉県さいたま市大宮区大成町1-207,	048-000-0000,	↓	
3	3,	名古屋店,	愛知県名古屋市西区市場木町390,	052-000-0000,	↓	
4	[EOF]					

[タブ区切りテキストファイル例]

	0	10	20	30	40	50	60
1	1>	目黒店>	東京都目黒区下目黒1-7-1>	03-0000-0000>	↓		
2	2>	大宮店>	埼玉県さいたま市大宮区大成町1-207>	048-000-0000>	↓		
3	3>	名古屋店>	愛知県名古屋市西区市場木町390>	052-000-0000>	↓		
4	[EOF]						

■ グラフィックテーブル

[ファイル仕様]

- ・書式：RFC4180 準拠の可変長テキストファイル
- ・エンコーディング：Shift-JIS

[ファイル名] (固定、大文字小文字を区別)

- ・ GraphicTable_#80.csv (カンマ区切り)
- ・ GraphicTable_#80.txt (タブ区切り)

[ファイル内容]

- ・ 1行目～
グラフィックテーブルのデータ

[改行コード]

- ・ CR+LF

[各項目の仕様]

項目	バイト数	入力必須	値	備考
テーブル番号	4	○	0~9999	
テーブルデータ	32		任意の値	

データを省略する場合でも区切り文字 (,) や (TAB) はセットする必要があります。

[カンマ区切りテキストファイル例]

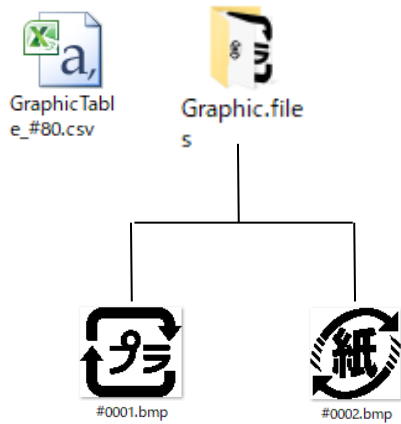
```
0 10 20
1 1,プラ6mm↓
2 2,紙6mm↓
3 [EOF]
```

[タブ区切りテキストファイル例]

```
0 10 20
1 1>   プラ6mm↓
2 2>   紙6mm↓
3 [EOF]
```

■ グラフィックテーブル用ビットマップファイル

グラフィックテーブル (GraphicTable_#80.csv/.txt) から呼び出すビットマップファイルです。CSV/TAB ファイルと同一ディレクトリに Graphic.files フォルダを作成し、格納します。



ファイル名は「# (グラフィックテーブルのテーブル番号 4 桁) .bmp」になります

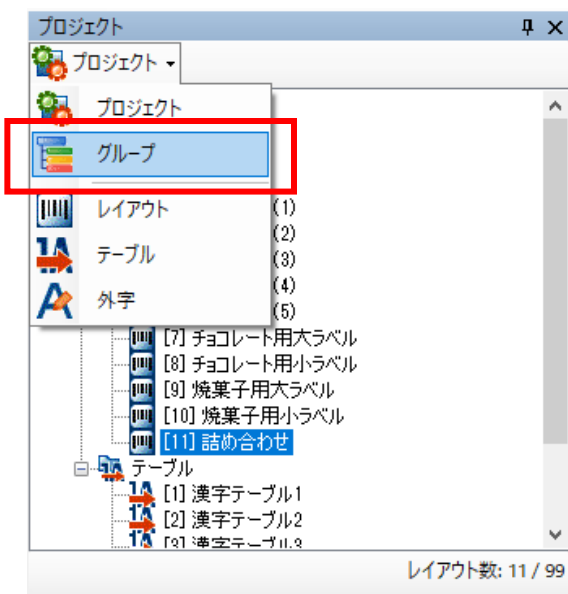
例) テーブル番号 11 番のビットマップファイル名
#0011.bmp

20.グループの設定方法

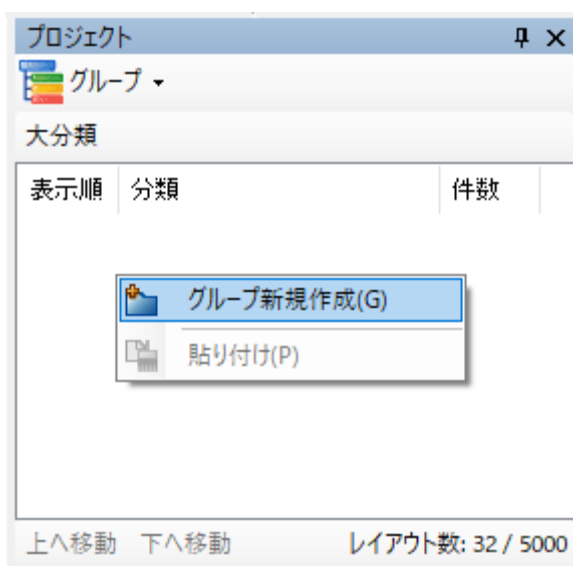
e-Labe Printの「グループ発行」でアイテムを絞り込んで発行するためのグループ設定が行えます。各階層のグループ情報やグループ毎のアイテム一覧の確認も可能です。グループの最大登録件数は、各階層で100件ずつです。（大分類がA、Bとある場合、それぞれの大分類に対して100件ずつ中分類が登録可能です）

■グループ設定手順

1. プロジェクト設定画面で、グループの階層を指定します
※詳細は「13. 機能オプション-グループ階層設定手順」を参照してください
2. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。

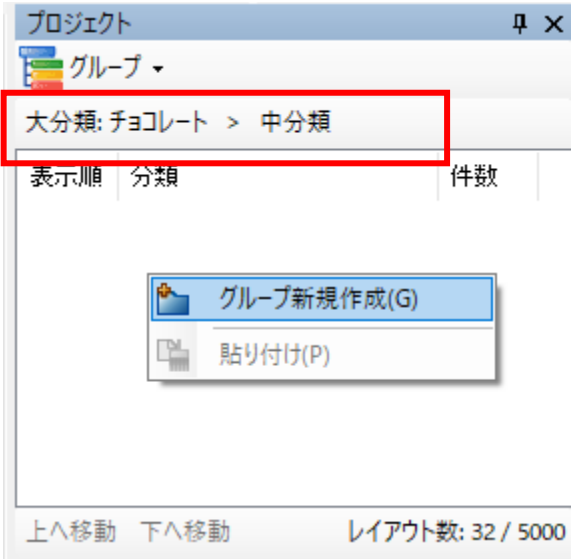


3. 右クリック>グループ新規作成で大分類のグループを作成します。

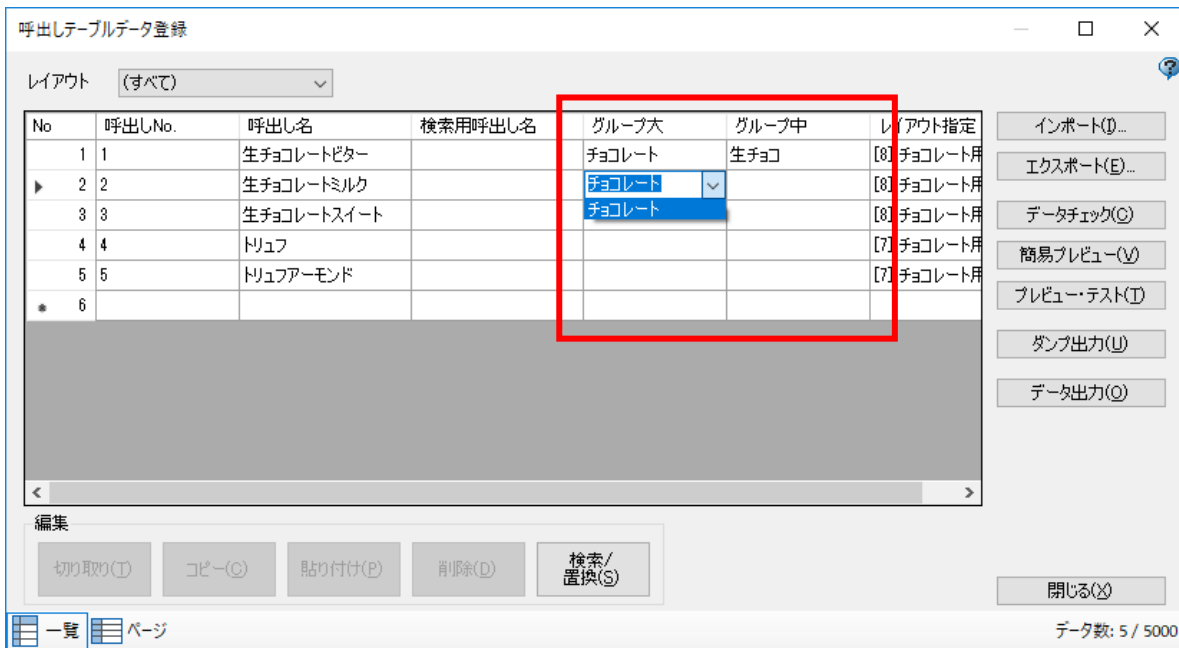


4. 作成した大分類のグループをダブルクリックし、中分類を表示し右クリック>グループ新規作成で中分類のグループを作成します。

※3階層の設定をしている場合は、同様に小分類も作成します



5. 呼出しテーブルデータ登録画面でグループの設定を行います。



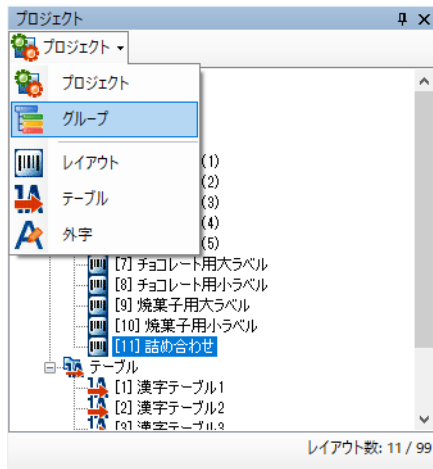
※ 3、4番目の手順で登録したグループをリストから選択する以外に、直接入力も可能です
3、4番の手順を省略することも可能です

※グループ情報は必須項目です。

グループが入っていないデータはデータ出力時にエラーとなりフォーマットファイルが作成できません

■グループ情報の表示

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



2. 各階層のグループ一覧やそのグループが選択されている呼出しデータ数を確認できます。

The screenshot shows the 'プロジェクト' (Project) window with the 'グループ' (Group) view selected. The '大分類' (Major Category) section shows a table with one row for 'チョコレート' (Chocolate) with a count of 6.

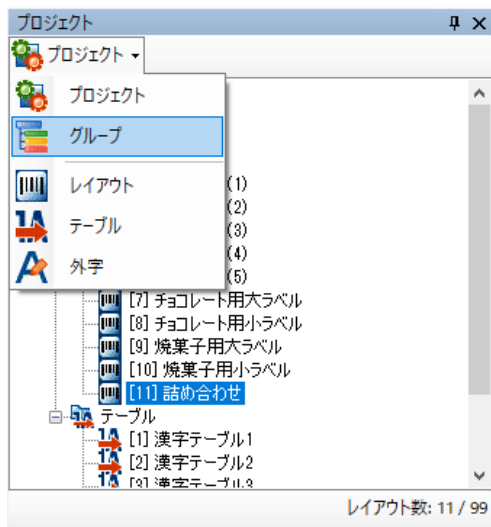
表示順	分類	件数
1	チョコレート	6

The screenshot shows the 'プロジェクト' (Project) window with the 'グループ' (Group) view selected. The '大分類: チョコレート > 中分類' (Major Category: Chocolate > Sub-category) section shows a table with two rows for '生チョコ' (Raw Chocolate) and 'トリュフ' (Truffle), both with a count of 3.

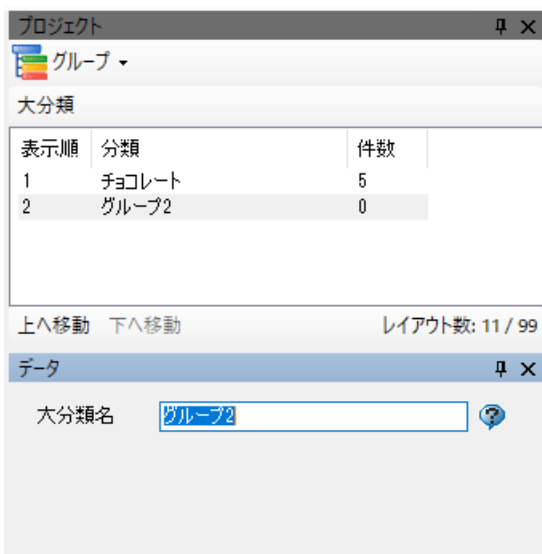
表示順	分類	件数
1	生チョコ	3
2	トリュフ	3

■グループ名の編集

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



2. 名称を変更したいグループを選択し、データウィンドウで変更します。

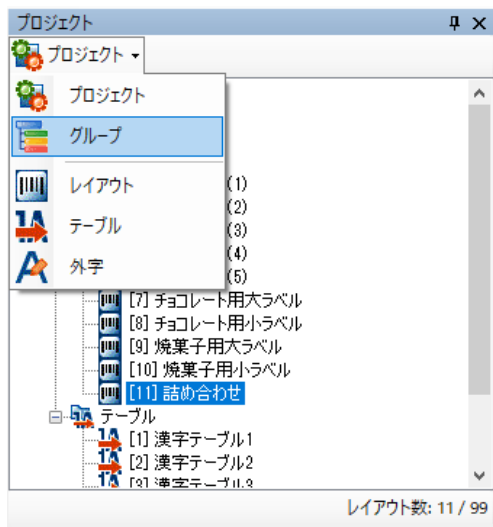


※但し、既に呼出しテーブルで選択されている（件数が1件以上の）グループはグループ名の編集ができません

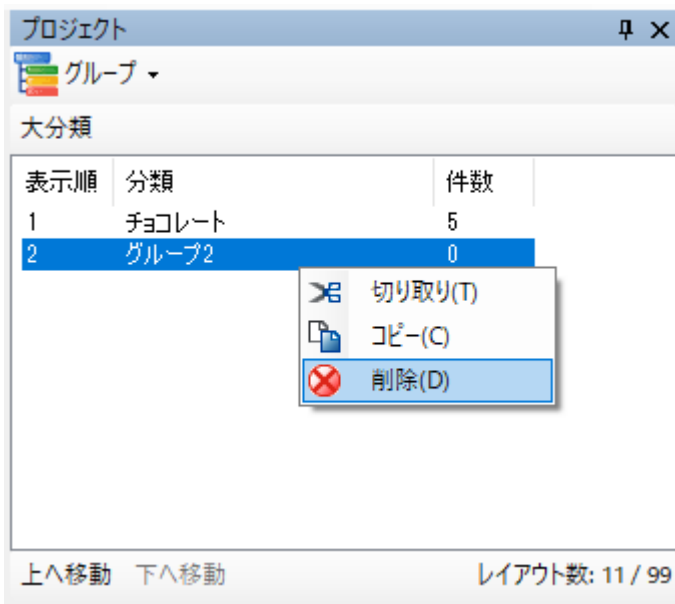
既に選択されているグループ名を変更したい場合は、呼出しテーブルデータ登録画面の「検索／置換」機能で該当のグループ名を一括置換し、その後、グループ設定画面で、不要になったグループ名を削除してください

■グループの削除

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



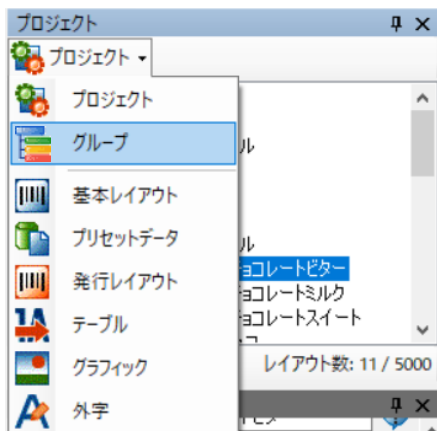
2. 削除したいグループを選択し、右クリック> 削除を選択します。



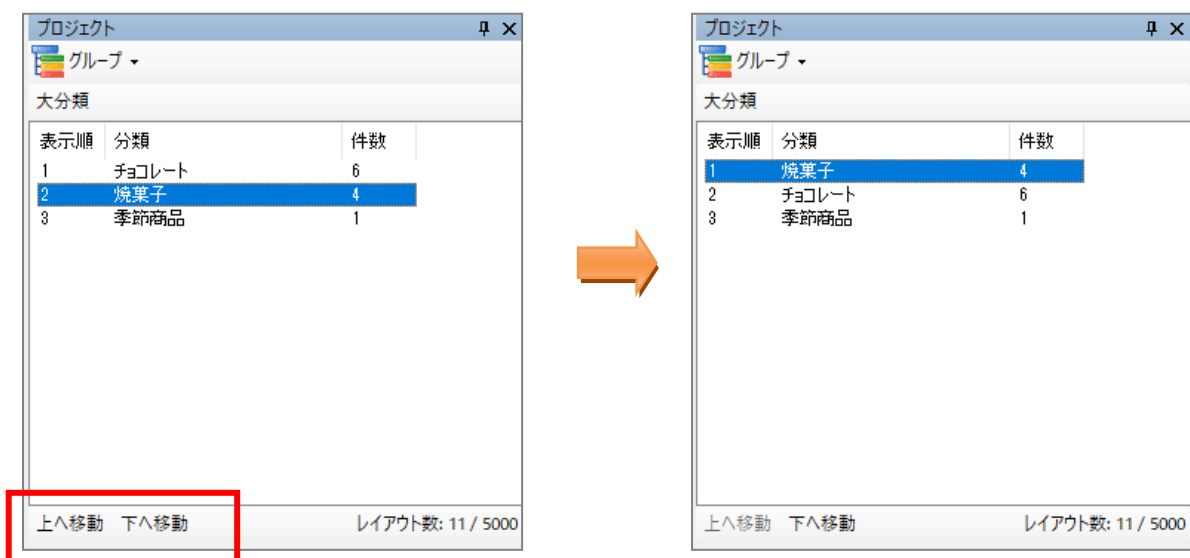
※但し、既に呼出しテーブルで選択されている（件数が1件以上の）グループは削除ができません

■グループの表示順変更

1. プロジェクトウィンドウの表示項目を「グループ」に切り替えます。



2. 階層ごとに、「上へ移動」「下へ移動」ボタンでグループの表示順を並び替えます。



※ここで変更した表示順は e-Labe Print のグループ発行にも反映します

21.データ配信オプション機能

呼出しテーブルの各アイテムに対し、発行可能な期間や配信先を指定することができます。また、Designer 上で登録しているアイテムからデータ出力するアイテムを指定可能です。

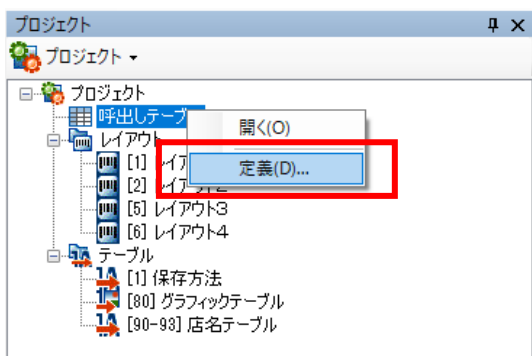
■ 配信開始日／終了日設定手順

項目名	説明
配信開始日	FX3-LX 本体の日付が指定した日付になったら、e-Labe Print で呼出し可能になります。 省略時、配信終了日まで呼出し可能です。
配信終了日	FX3-LX 本体の日付が指定した日付を過ぎるまで、e-Labe Print で呼出し可能になります。省略時、配信開始日以降は呼出し可能です。

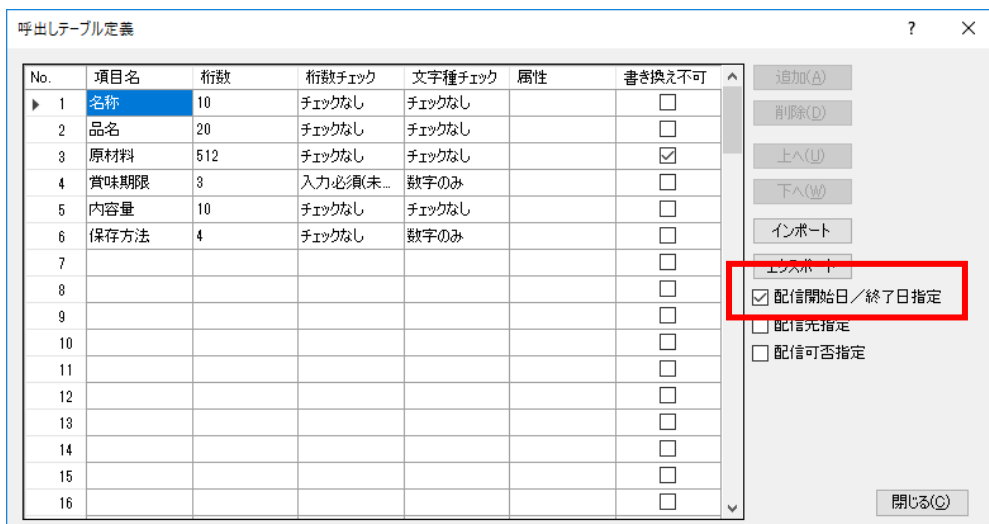
※配信開始日、配信終了日は FX3-LX 本体のシステム日付に従います。e-Labe Print の「基準日付」ではありません。

※配信期間の判断は e-Labe Print でアイテムを呼び出す際に行います。そのため、対象となるアイテムの発行画面を開いた状態で配信終了日を過ぎても無効とならず発行が可能です。

1. プロジェクトウィンドウの呼出しテーブルで右クリック> 定義を選択します。



2. 呼出しテーブル定義画面で「配信開始日／終了日指定」をチェックして閉じます。



3. 呼出しテーブルをダブルクリックし、呼出しテーブルデータ登録画面を開きます。

4. 発行可能期間を指定したいアイテムの配信開始日、配信終了日に値をセットします。

呼出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	配信開始日	配信終了日	レイアウト指定
▶ 1	11	チョコチップクッキー	チョコチップ			[1] レイアウト1
2	12	レモンクッキー	レモンクッキー			[1] レイアウト1
3	13	イチゴクッキー	イチゴクッキー			[1] レイアウト1
4	14	ココアクッキー	ココアクッキー			[1] レイアウト1
5	15	セザミクッキー	セザミクッキー			[1] レイアウト1
* 6						

編集

切り取り(T) コピー(C) 貼り付け(P) 削除(D) 検索/置換(S)

インポート(I)...
エクスポート(E)...
データチェック(C)
簡易プレビュー(V)
プレビューテスト(T)
ダンプ出力(U)
データ出力(O)

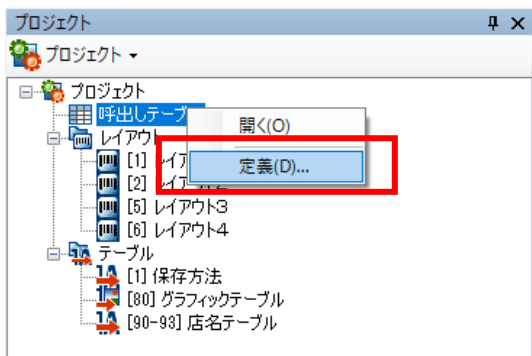
閉じる(C)

データ数: 5 / 5000

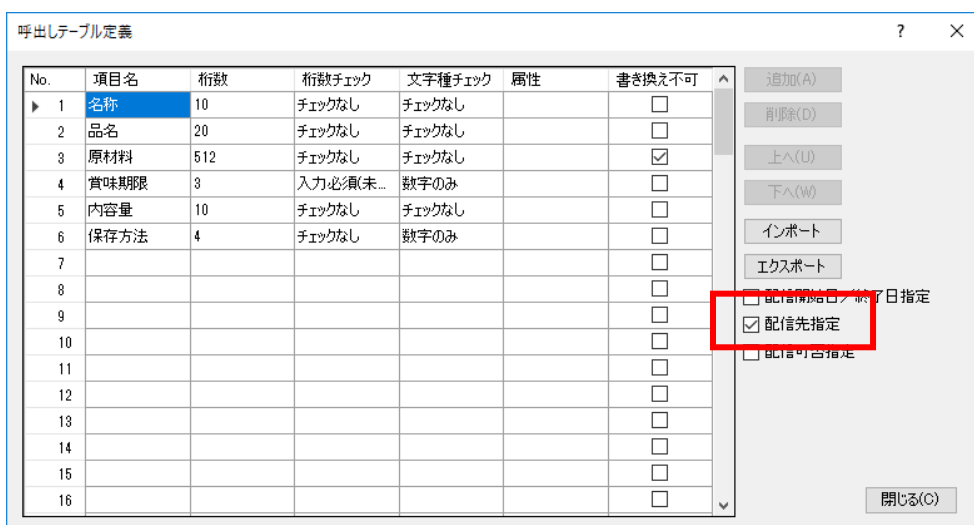
■ 配信先指定手順

項目名	説明
配信先指定	アイテムの使用を許可する 端末 No. を指定します。 配信先指定に登録した端末 No.と e-Labe Print の端末 No.が一致した場合のみ、該当のアイテムを表示します。

1. プロジェクトウィンドウの呼出しテーブルで右クリック> 定義を選択します。

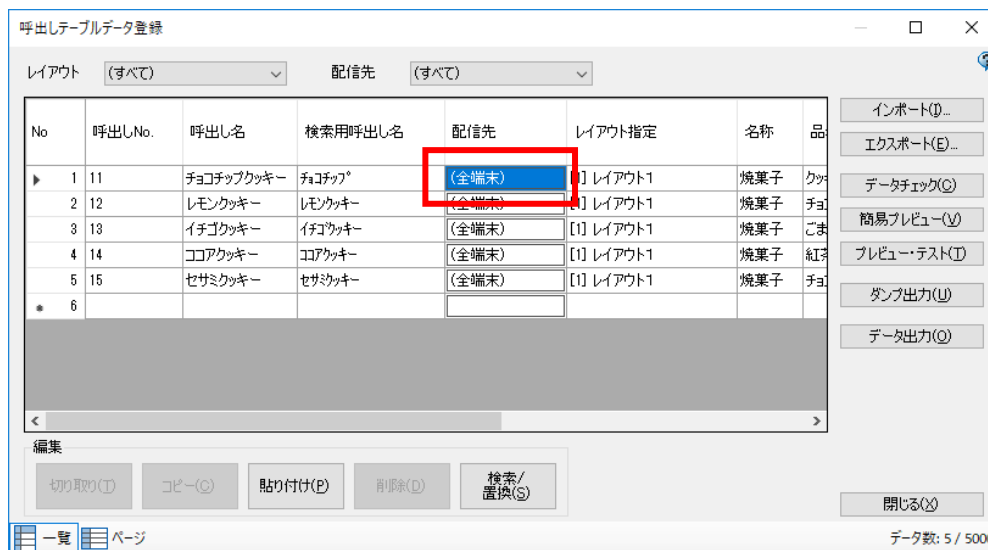


2. 呼出しテーブル定義画面で「配信先指定」をチェックして閉じます。



3. 呼出しテーブルをダブルクリックし、呼出しテーブルデータ登録画面を開きます。

4. 配信先をクリックします。



5. アイテムの使用を許可する端末 No.を選択し、OK をクリックします。



※配信先指定画面では「店名テーブル」からデータを参照します。店名テーブルに e-Labe Print で利用する端末 No.を登録してください。

No.	登録番号	店名	住所
1	1	A店	大阪府吹田市広芝町
2	2	B店	東京都目黒区下目黒
3	3	C店	埼玉県さいたま市大宮
4	4	D店	東京都八王子市大和
5			

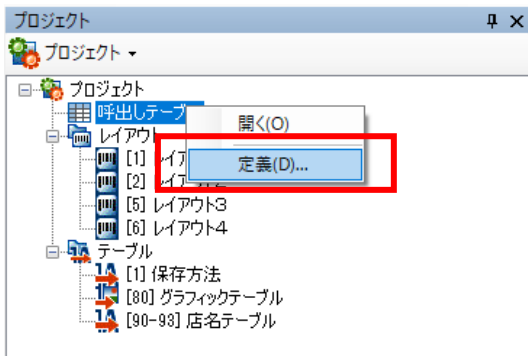
6. 配信先が変わっていることを確認します。



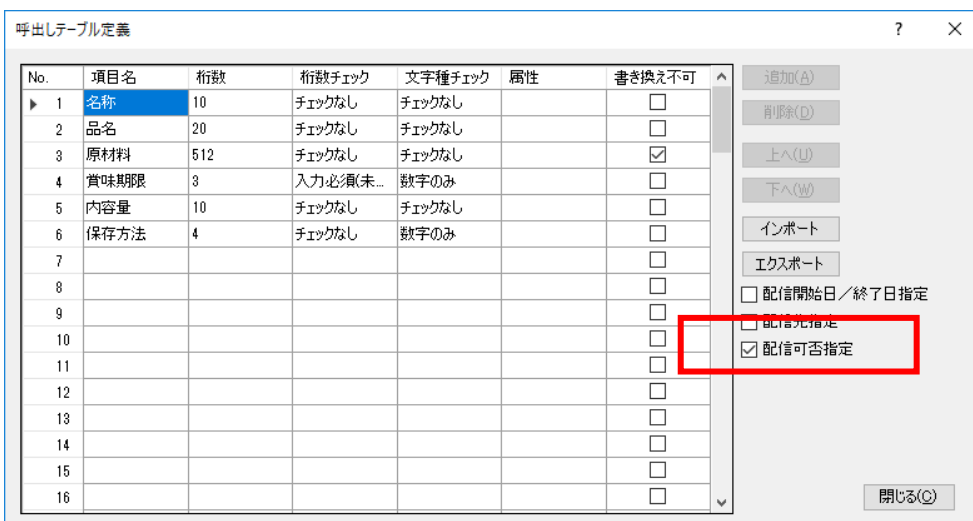
■ 配信可否指定手順

項目名	説明
配信可否指定	呼出しテーブルに登録されているアイテムの中からデータ出力対象を指定します。 期間限定のアイテムは期間外では出力対象から外すことで、生成されるフォーマットファイルのサイズを小さくすることができます。

1. プロジェクトウィンドウの呼出しテーブルで右クリック> 定義を選択します。



2. 呼出しテーブル定義画面で「配信可否指定」をチェックして閉じます。



3. 呼出しテーブルをダブルクリックし、呼出しテーブルデータ登録画面を開きます。

4. 「配信可否」列からデータ出力しないアイテムのチェックを外したあと、データ出力します。

呼出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	配信可否	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	名称	品名
1	<input checked="" type="checkbox"/>	11	チョコチップクッキー	チョコチップ	[1] レイアウト1	焼菓子	クッキー
2	<input checked="" type="checkbox"/>	12	レモンクッキー	レモンクッキー	[1] レイアウト1	焼菓子	チョコクッキー
3	<input type="checkbox"/>	13	イチゴクッキー	イチゴクッキー	[1] レイアウト1	焼菓子	ごまクッキー
4	<input checked="" type="checkbox"/>	14	ココアクッキー	ココアクッキー	[1] レイアウト1	焼菓子	紅茶クッキー
5	<input checked="" type="checkbox"/>	15	セザミクッキー	セザミクッキー	[1] レイアウト1	焼菓子	チョコクッキー
6	<input checked="" type="checkbox"/>						

編集

切り取り(C) コピー(C) 貼り付け(P) 削除(D) 検索/置換(S)

インポート(I)...
エクスポート(E)...
データチェック(C)
簡易プレビュー(V)
プレビュー・テスト(T)
ダンプ出力(U)
データ出力(O)
閉じる(C)

データ数: 5 / 5000

22.日時加算値の上限／下限チェック機能の設定方法

あらかじめ日時オブジェクトに上限値と下限値を設定しておくことで、e-Labe Print で範囲外の加算値を入力時、入力エラーをかけられます。

上限値、下限値は固定の値や、他のオブジェクトの値を参照することが可能です。

※チェック機能を利用するには、e-Labe Print の設定で「日付加算の上限下限チェック」をオンにする必要があります。

■日時オブジェクトに固定の上限値／下限値を設定する手順

1. チェックをかけたい日時オブジェクトを選択し、入力方法の詳細設定を開きます。

データ

項目名

入力方法

加算なし

加算あり

加算値参照

データセット フィールド

発行時変更あり

データ桁数 桁

表示

2. 上限チェックのチェックをオンにし、固定を選択します。

詳細設定

加算値参照

全桁

桁指定

開始桁 桁数

日付加算値入力範囲チェック

上限チェック

固定

参照

3. 上限値を入力します。

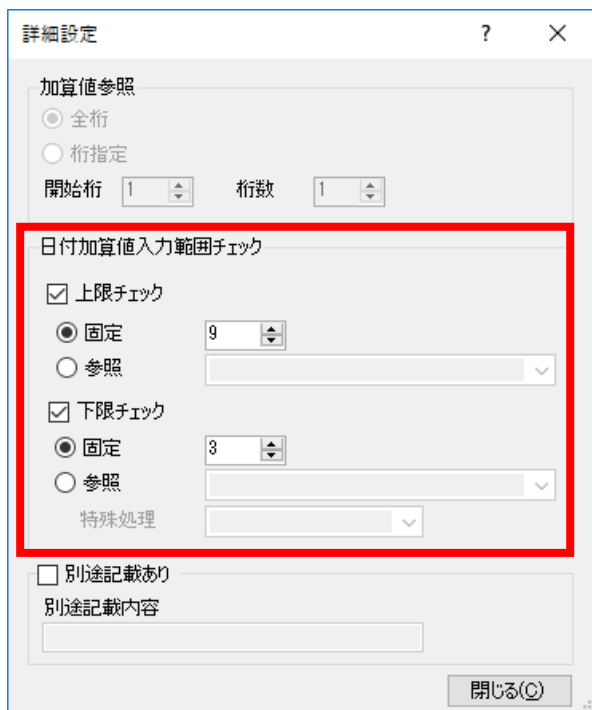
日付加算値入力範囲チェック

上限チェック

固定

参照

4. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、固定を選択、下限値を入力します。

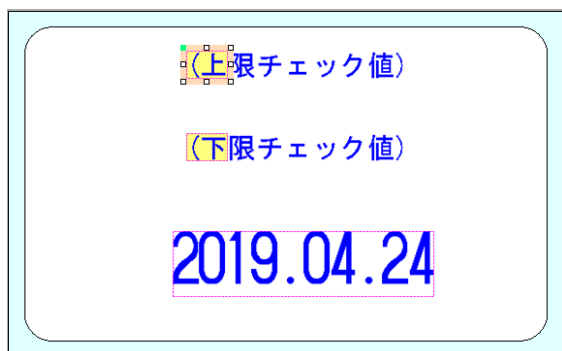


5. e-Labe Print> 設定> システム管理> 「日付加算の上限下限チェック」をオンにします。

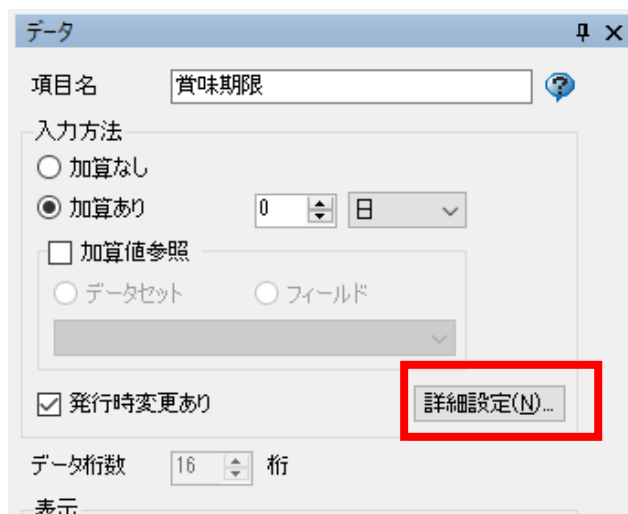


■呼出しデータで上限値/下限値を設定する手順

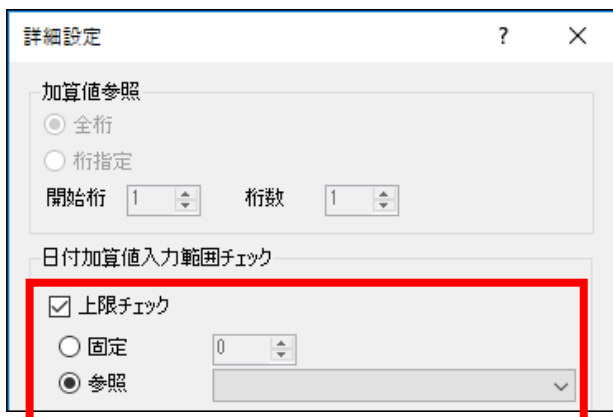
1. レイアウトで上限値（下限値）を入力するための文字列を作成し、データセットをオン、呼出しテーブル項目と紐づけの設定を行います



2. チェックをかけた日時オブジェクトを選択し、入力方法の詳細設定を開きます



3. 上限チェックのチェックをオンにし、参照を選択します



4. 「1」で作成しておいた「上限チェック値」オブジェクトを選択します

日付加算値入力範囲チェック

上限チェック

固定 0

参照 上限チェック値

5. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、参照を選択、「下限チェック値」を選択します

詳細設定

加算値参照

全桁

桁指定

開始桁 1 桁数 1

日付加算値入力範囲チェック

上限チェック

固定 0

参照 上限チェック値

下限チェック

固定 0

参照 下限チェック値

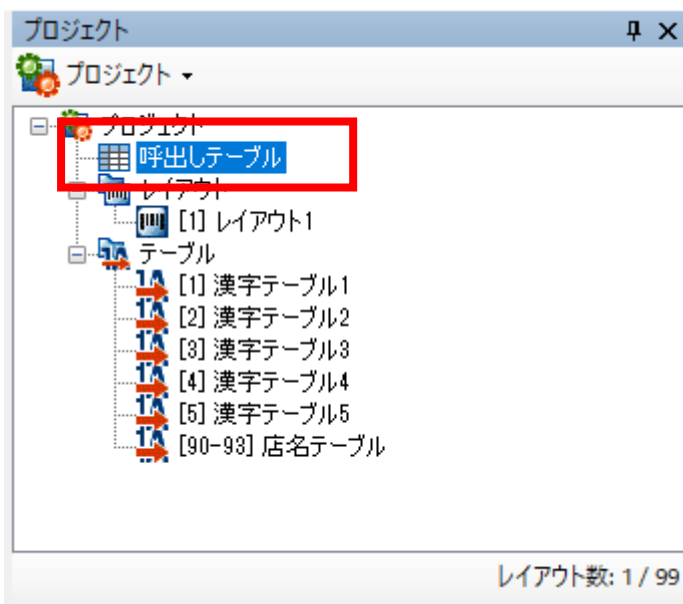
特殊処理 なし

別途記載あり

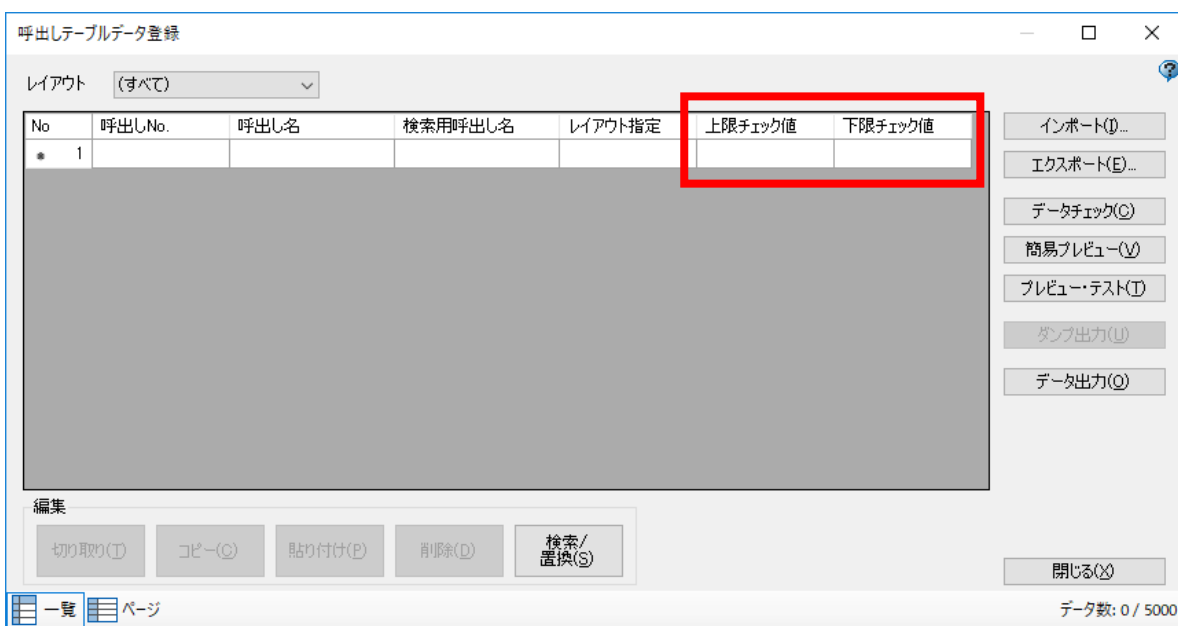
別途記載内容

閉じる(C)

6. プロジェクトウィンドウの呼出しテーブルをダブルクリックします



7. 呼出しデータ登録画面に「上限チェック値」「下限チェック値」が表示されるので、呼出し No.毎に任意の値をセットします



8. e-Labe Print > 設定 > システム管理 > 「日付加算の上限下限チェック」をオンにします



23.基準日付の上限／下限チェック機能の設定方法

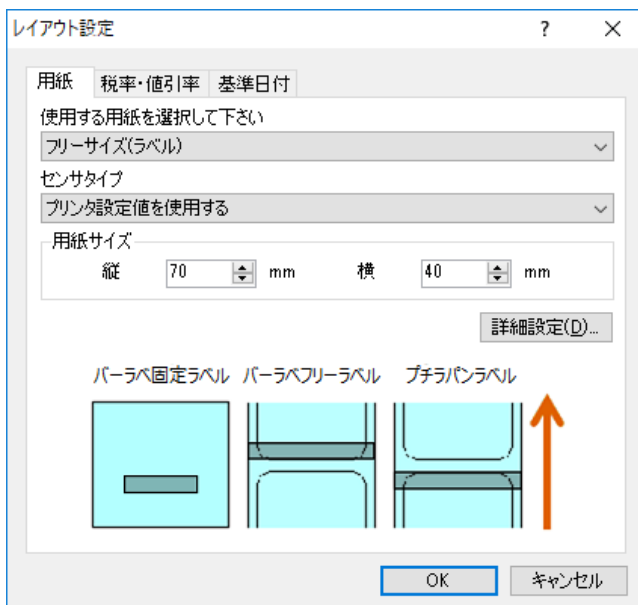
あらかじめ上限値と下限値を設定しておくことで、e-Labe Print で範囲外の基準日付を選択時、設定エラーをかけられます。設定はレイアウト単位で行います。

上限値、下限値は固定の値や、他のオブジェクトの値を参照することが可能です。

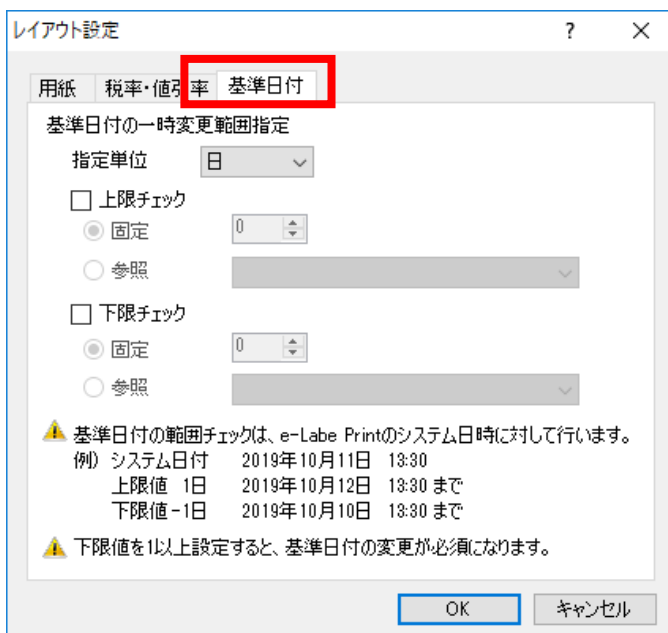
※チェック機能を利用するには、e-Labe Print の設定で「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにする必要があります。

■ 固定の上限値／下限値を設定する手順

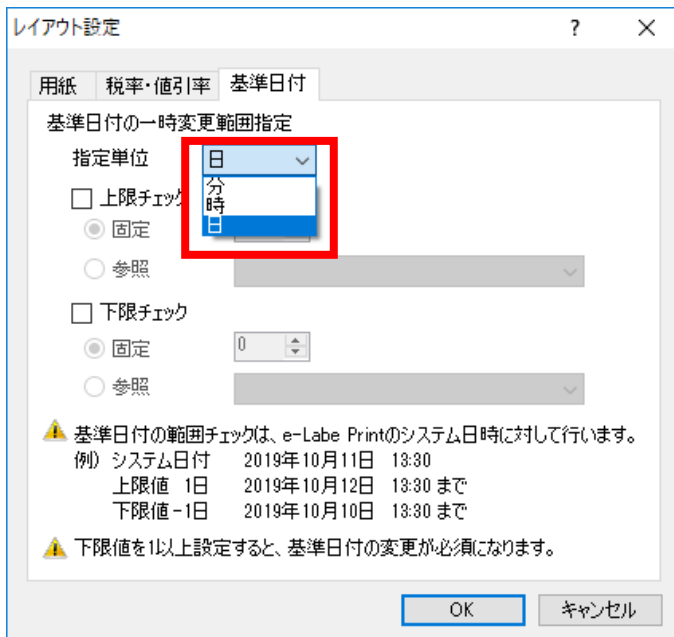
1. チェックをかけたいレイアウトを選択し、「レイアウト設定」を開きます



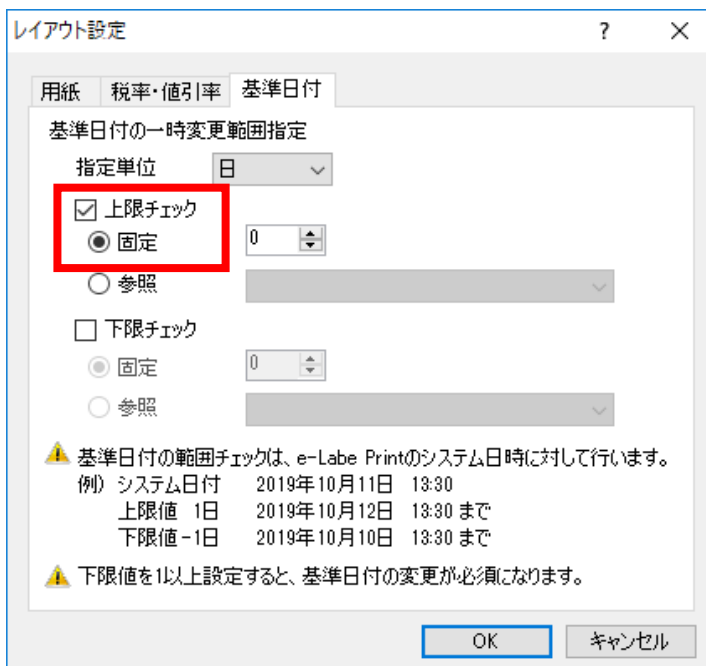
2. 基準日付タブをクリックします



3. 指定単位を選択します



4. 上限チェックのチェックボックスをオンにし、固定を選択します



5. 上限値を-999~999の範囲で指定します（ここでは例として「5」とします）

レイアウト設定

用紙 税率・値引率 基準日付

基準日付の一時変更範囲指定

指定単位 日

上限チェック

固定 5

参照

下限チェック

固定 0

参照

⚠ 基準日付の範囲チェックは、e-Labe Printのシステム日時に対して行います。
例) システム日付 2019年10月11日 13:30
上限値 1日 2019年10月12日 13:30 まで
下限値 -1日 2019年10月10日 13:30 まで

⚠ 下限値を1以上設定すると、基準日付の変更が必須になります。

OK キャンセル

6. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、固定を選択、下限値を入力します（ここでは例として「-1」とします）

レイアウト設定

用紙 税率・値引率 基準日付

基準日付の一時変更範囲指定

指定単位 日

上限チェック

固定 5

参照

下限チェック

固定 -1

参照

⚠ 基準日付の範囲チェックは、e-Labe Printのシステム日時に対して行います。
例) システム日付 2019年10月11日 13:30
上限値 1日 2019年10月12日 13:30 まで
下限値 -1日 2019年10月10日 13:30 まで

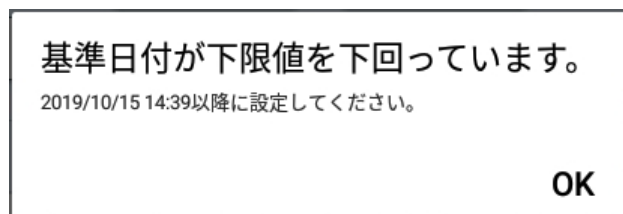
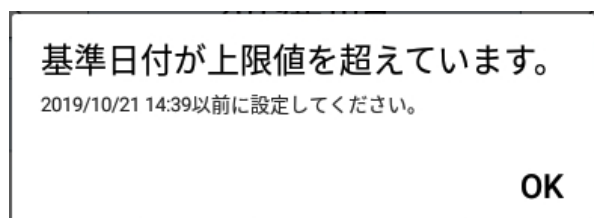
⚠ 下限値を1以上設定すると、基準日付の変更が必須になります。

OK キャンセル

7. e-Labe Print> 設定> システム管理> 「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにします



発行画面で範囲外の日時を選択すると、以下のようなエラーが掛かります。

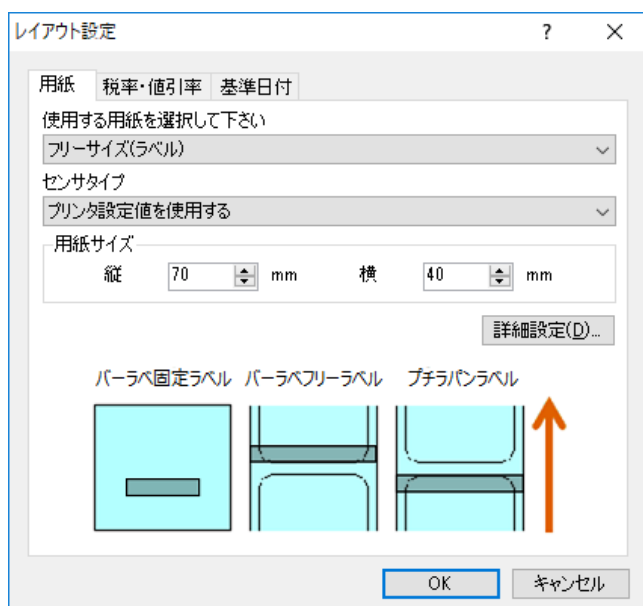


■呼出しデータで上限値/下限値を設定する手順

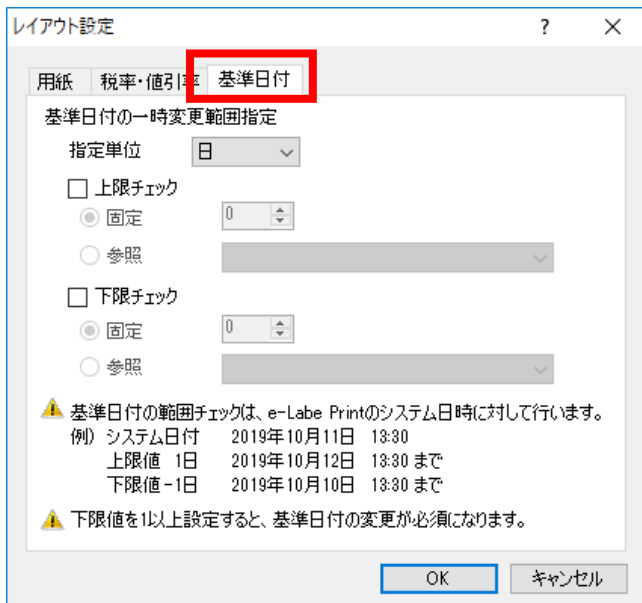
1. レイアウトで上限値（下限値）を入力するための文字列を作成し、データセットをオン、呼出しテーブル項目と紐づけの設定を行います



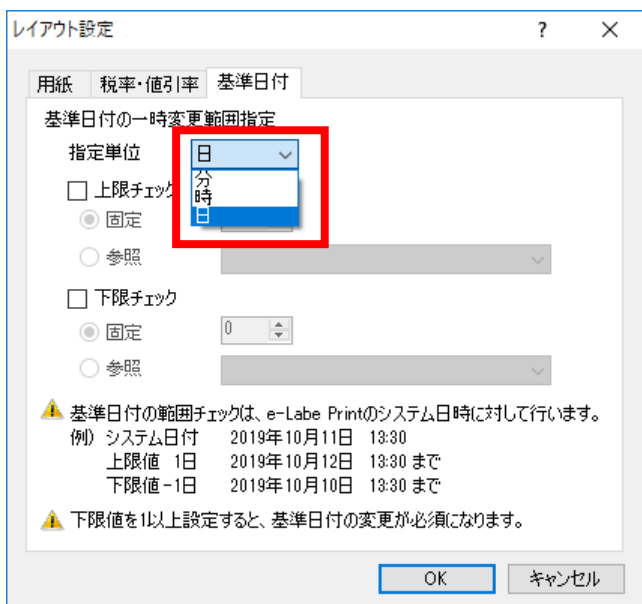
2. レイアウト設定を開きます



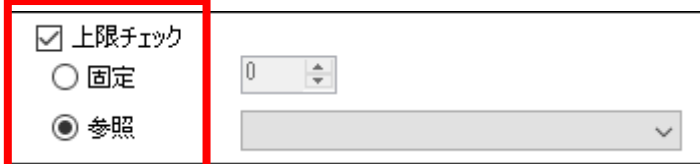
3. 基準日付タブをクリックします



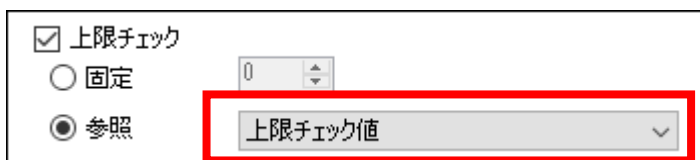
4. 指定単位を選択します



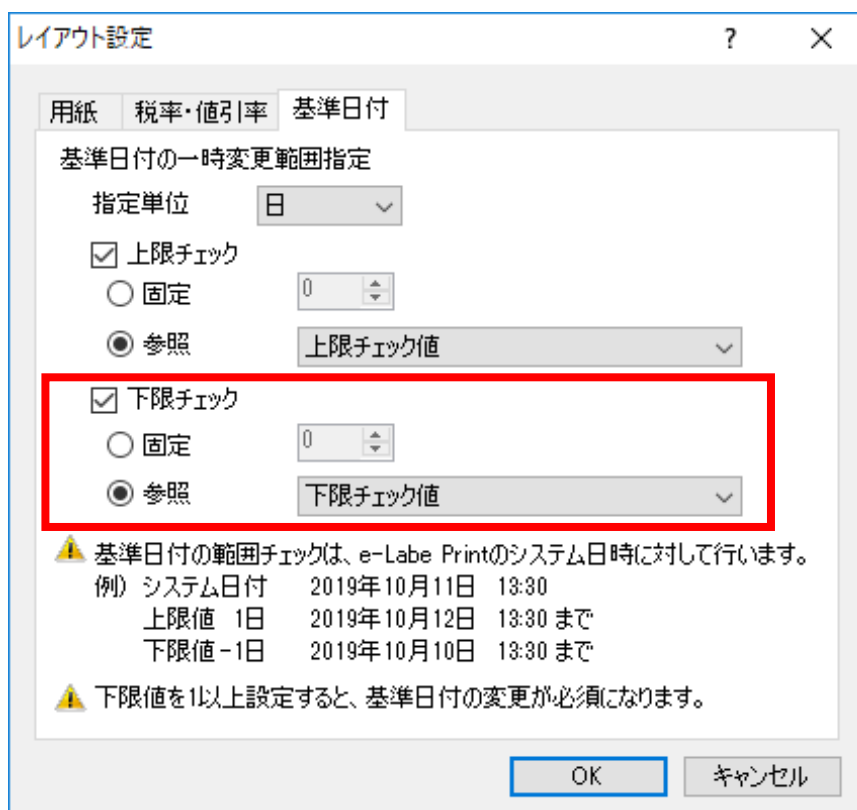
5. 上限チェックのチェックをオンにし、参照を選択します



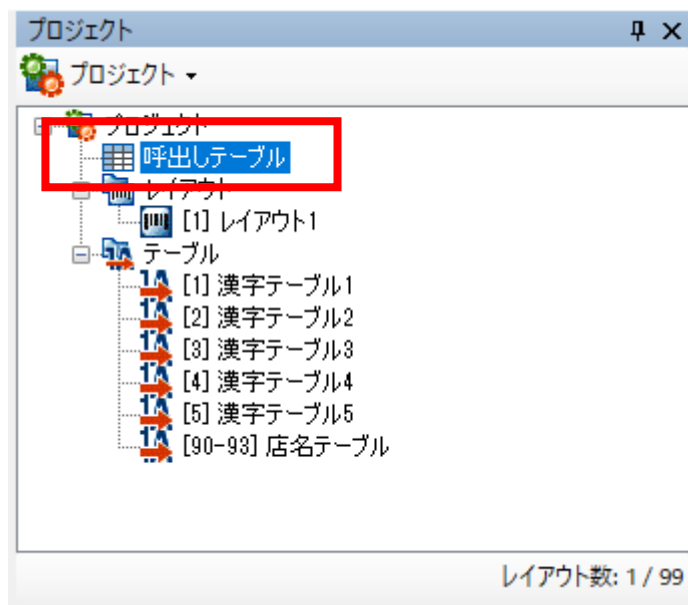
6. 「1」で作成しておいた「上限チェック値」オブジェクトを選択します



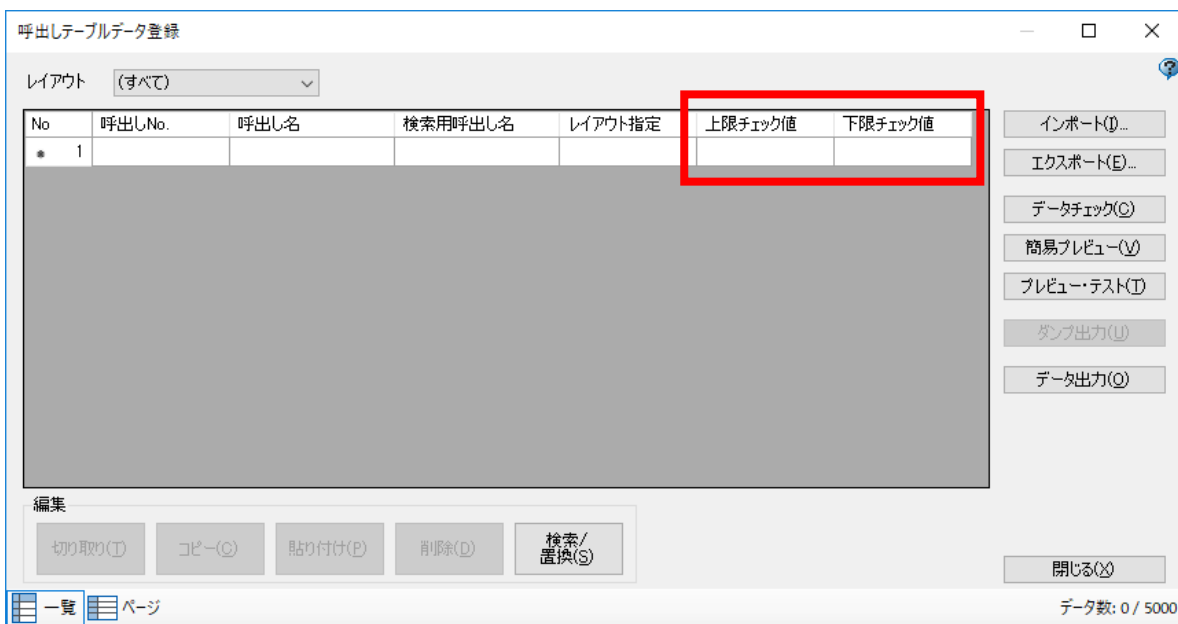
7. 下限チェックも同様にチェックをオンにし、参照を選択、「下限チェック値」を選択します



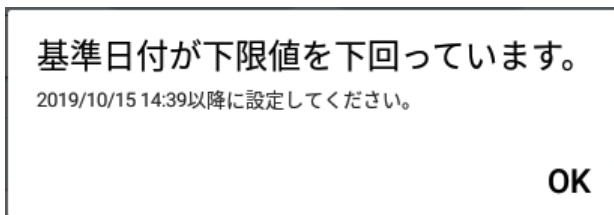
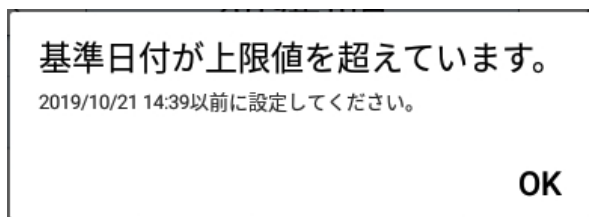
8. プロジェクトウィンドウの呼出しテーブルをダブルクリックします



9. 呼出しデータ登録画面に「上限チェック値」「下限チェック値」が表示されるので、呼出し No.毎に任意の値をセットします



10. e-Labe Print> 設定> システム管理> 「基準日付変更の上限下限チェック」をオンにします
発行画面で範囲外の日時を選択すると、以下のようなエラーが掛かります



24.条件テーブルを使った条件印字の設定方法

特定のデータ入力時にオブジェクトを印字する・しないを条件テーブルとして設定可能です。レイアウトを増やすことなく異なるパターンの印字が可能です。

条件テーブルはレイアウトごとに設定しますが、設定条件はコピー＆ペーストができるため、他のレイアウトの条件テーブルに内容をコピーして使用することも可能です。

■条件テーブル 画面項目説明

<条件テーブルメイン>

No.	項目	内容
1	判定オブジェクト	<p>条件の判断対象とするオブジェクトを選択します。</p> <p><判定対象に指定不可能なオブジェクト></p> <ul style="list-style-type: none"> ・連番 ・リアルタイム発行 ON の日時 ・上記 2 つを参照するオブジェクト
2	判定形式	データの値の種類を [文字列] / [値] から選択します。
3	条件	<p>データの比較条件を選択します。「判定形式」で選択した形式により、選択可能な条件が異なります。</p> <p>文字列：次の値に等しい</p> <p style="padding-left: 20px;">次の値に等しくない</p> <p style="padding-left: 20px;">次の値を含む</p> <p style="padding-left: 20px;">次の値を含まない</p> <p style="padding-left: 20px;">次の値で始まる</p>

		<p>次の値で終わる</p> <p>数値： 次の値の間 次の値の間以外 次の値に等しい 次の値に等しくない 次の値より大きい 次の値より小さい 次の値以上 次の値以下</p>
4	判定値種別	[固定]のみ選択可能
5	判定値 1	<p>条件を満たす判定値を入力します。</p> <p>[文字列]は最大 100 桁まで入力可能です。</p> <p>[値]は最大 15 桁の数字が入力可能です。</p> <p><[文字列]入力時の留意点></p> <p>データは自動的にダブルクォーテーション(“)でくくられます (手動でくくった場合を除く)。判定値はダブルクォーテーションを取り除いた値を使用します。</p> <p>例) 判定値「"e-Labe"」 ⇒ 「e-Labe」として判定</p> <p>判定値「""e-Labe""」 ⇒ 「"e-Labe"」として判定</p> <p>判定値「"""e-Labe"」 ⇒ 「"e-Labe"」として判定</p>
6	判定値 2	「条件」が[次の値の間]と[次の値の間以外]を選択時のみ入力可能です。判定値 1 と設定方法は同じです。
7	アクション	条件を満たしたときの動作を設定します。

<アクション設定>

アクション設定

オブジェクト	アクション種別	種類	値
JANコード	印字有無	固定	印字しない

行挿入(N)
行削除(D)

OK キャンセル

No.	項目	内容
1	オブジェクト	アクション対象のオブジェクトを選択します。 グループ名（グループ化した複数のオブジェクト）も選択可能です。
2	アクション種別	[印字有無]のみ選択可能
3	種類	[固定]のみ選択可能
4	値	[印字有無]の動作を選択します。 [印字する]：オブジェクトを印字します [印字しない]：オブジェクトを印字しません [(レイアウトの設定に従う)]： データウィンドウ「印字しない」の設定に従います

■条件テーブルを設定する手順

本マニュアルでは以下の条件を例に条件テーブルを設定する手順を説明します。

[やりたいこと]

税込価格を印字する際、小数点以下2桁まで印字する。

但し、計算した結果、小数点以下が「00」の場合は、整数部分のみを右に寄せて印字する。



[条件設定に必要なオブジェクト]

条件判断	① 本体価格	¥398 ①
パターン1	② 税込価格 (整数) ③ 税込価格 (小数) ④ 小数点	¥437.80
パターン2	⑤ 税込価格 (整数) 右寄せ	¥550

※レイアウト上は、パターン1とパターン2を重ねて配置します

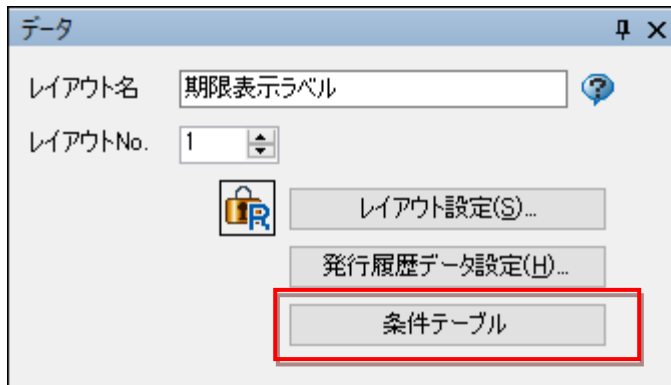
[条件設定内容]

「税込価格 (小数)」が「00」に等しい ⇒パターン1を印字しない

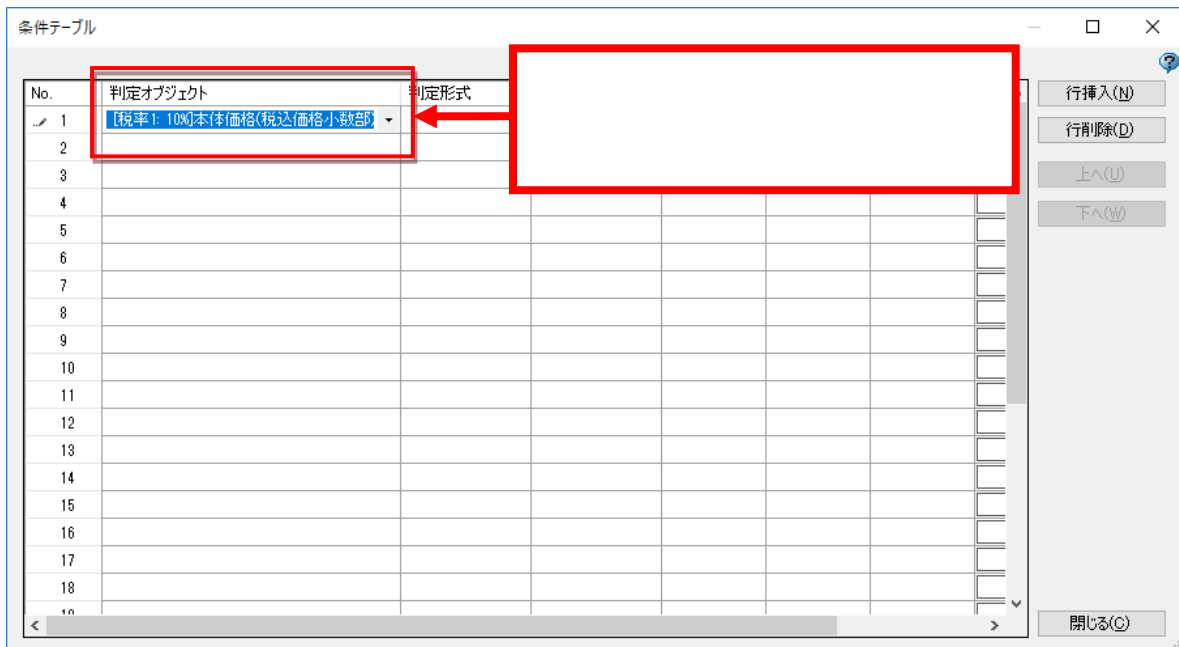
「税込価格 (小数)」が「00」に等しくない ⇒パターン2を印字しない

[条件テーブルの設定]

1. レイアウトのデータウィンドウにある「条件テーブル」を開きます



2. 「判定オブジェクト」に「[税率 1 : XX%]本体価格 (税込価格小数部)」を選択します
※上記の「条件設定内容」に記載されている「税込価格 (小数)」の値は、元となる「本体価格」の税込計算結果として「本体価格 (税込価格小数部)」というオブジェクトとして参照可能です




3. 判定形式以下を次のように設定します

- ・判定形式：文字列
- ・条件：次の値に等しい
- ・判定値種別：固定
- ・判定値 1：“00”

判定オブジェクト	判定形式	条件	判定値種別	判定値 1	判定値 2
[税率 1 : 10%]本体価格(税込価格小数部)	文字列	次の値に等しい	固定	“00”	

4. アクションボタンをクリックし、アクション設定画面を表示します

判定値1	判定値2	アクション
"00"		

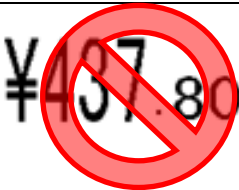
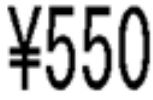
5. 「アクション設定」には、『設定した条件に合致した場合のアクション』を設定します
今回は『「税込価格（小数）」が'00'に等しい場合のアクション』を設定します

<アクション>

- ・オブジェクト：税込価格（整数）
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

- ・オブジェクト：税込価格（小数）
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

- ・オブジェクト：小数点
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

パターン1	税込価格（整数） ※印字しない 税込価格（小数） ※印字しない 小数点 ※印字しない	
パターン2	税込価格（整数） 右寄せ	

アクション設定 ? ×

オブジェクト	アクション種別	種類	値
税込価格(整数)	印字有無	固定	印字しない
税込価格(小数)	印字有無	固定	印字しない
小数点	印字有無	固定	印字しない
▼			

6. 条件テーブル登録画面に戻り「「税込価格（小数）」が"00"に等しくない場合、パターン 2 を印字しない」という条件を登録します

- ・判定オブジェクト：[税率 1：XX%]本体価格（税込価格小数部）
- ・判定形式：文字列
- ・条件：次の値に等しくない
- ・判定値種別：固定
- ・判定値 1：“00”

<アクション>

- ・オブジェクト：税込価格（整数）右寄せ
- ・アクション種別：印字有無
- ・種類：固定
- ・値：印字しない

パターン 1	税込価格（整数） 税込価格（小数） 小数点	¥437.80
パターン 2	税込価格（整数）右寄せ ※印字しない	¥550

条件テーブル

No.	判定オブジェクト	判定形式	条件	判定値種別	判定値1	判定値2	アクション
1	[税率 1: 10%]本体価格(税込価格小数部)	文字列	次の値に等しい	固定	"00"		印字しない：税込 印字しない：税込 印字しない：小
2	[税率 1: 10%]本体価格(税込価格小数部)	文字列	次の値に等しくな...	固定	"00"		印字しない：税込 右寄せ
3							

アクション設定

オブジェクト	アクション種別	種類	値
税込価格(整数)右寄せ	印字有無	固定	印字しない

OK キャンセル

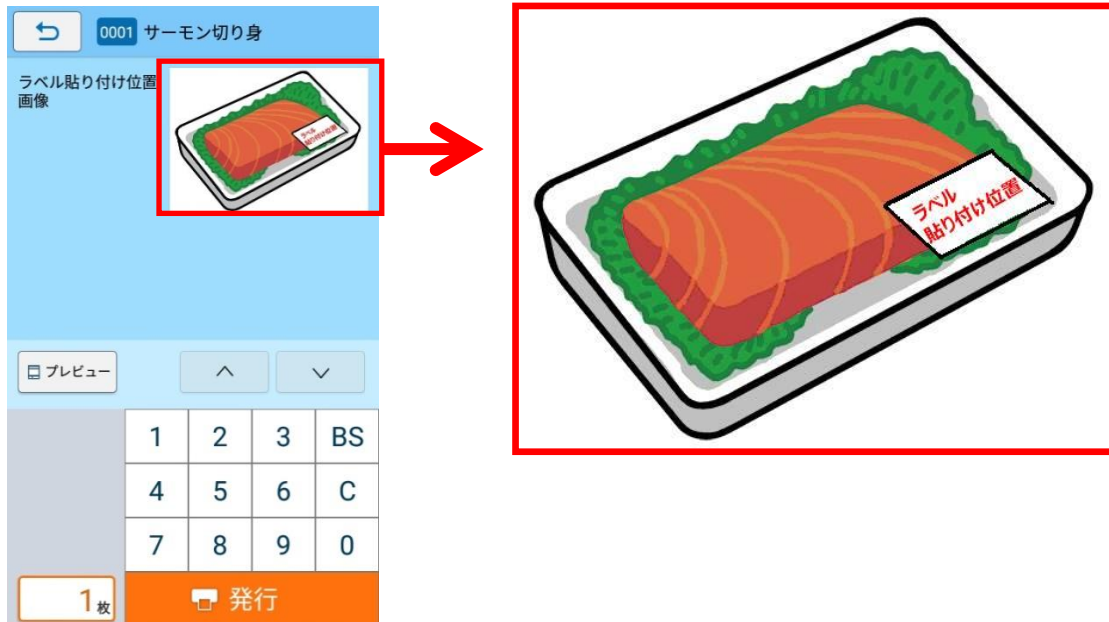
7. 条件テーブルを閉じます。

25.発行画面にメディア（画像、動画など）を表示する設定方法

メディアファイルや URL のパス情報を文字列にセットし、メディアの種類を表示オプションで指定することで、e-Labe Print の発行画面に商品の画像や Web サイトを表示したり、動画を再生したりすることが可能です。

メディアファイルは、プロジェクト内に登録するか FX3 のストレージ内の所定フォルダに置いて利用します。

メディア表示機能を利用する場合は、ツール設定で「メディア表示機能を使用」を ON にしてください。



■表示可能なメディア種類

メディア種類	表示方法
画像	PNG や JPEG 等の画像ファイルを、内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置して表示
動画	MP4 等の動画ファイルを、内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置して表示
Web	HTML ファイルを内部フォルダまたは FX3 ストレージ内に配置、または Web サイトの URL をパス情報にセットして表示

【メディアファイルについての注意】

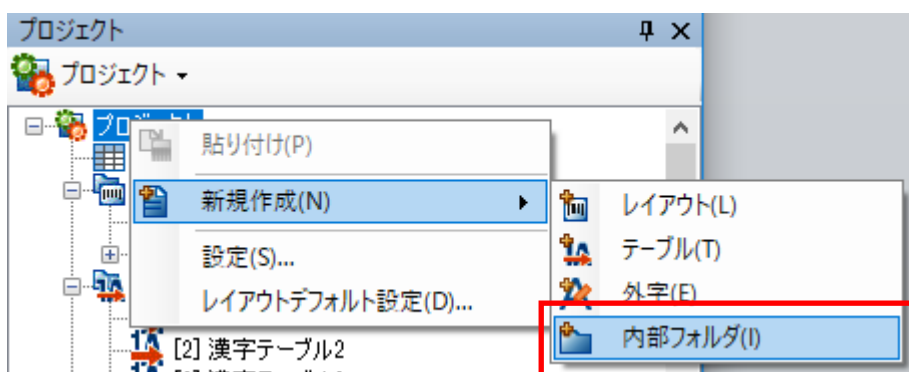
FX3 の画面解像度は 800×480 なので、高画素数の画像を表示することはお勧めできません。また、ファイルサイズが大きなメディアファイルは、ストレージの容量圧迫や表示速度に影響を与える可能性があります。e-Labe Print で動作を確認しながら調整をお願いします。また、動画ファイルに関しては、動画再生がスムーズでない場合、ビットレートを落としてください。総ビットレートは 1000Kbps 未満を推奨します。

■プロジェクトに登録したメディアファイル（画像）を発行画面に表示する手順

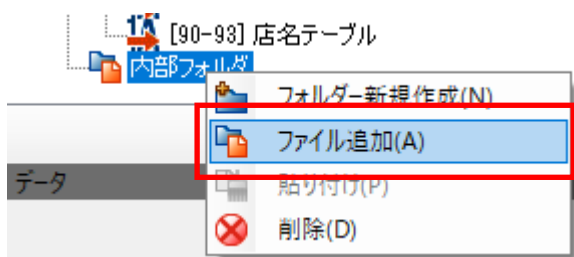
[手順の流れ] ※印字するラベルデザイン等は作成してあることを前提として説明します

- 内部フォルダにメディアファイル（画像）を追加する
- レイアウトにメディアファイルのパス情報をセットする文字列オブジェクトを追加する
- 入力画面設定で文字列の表示形式を指定する
- 呼出しテーブルデータにパス情報をセットする
- データ出力し、フォーマットファイルを生成する
- e-Labe Print でアイテムを呼出し、画像が表示されることを確認する

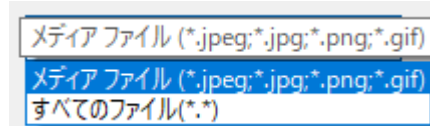
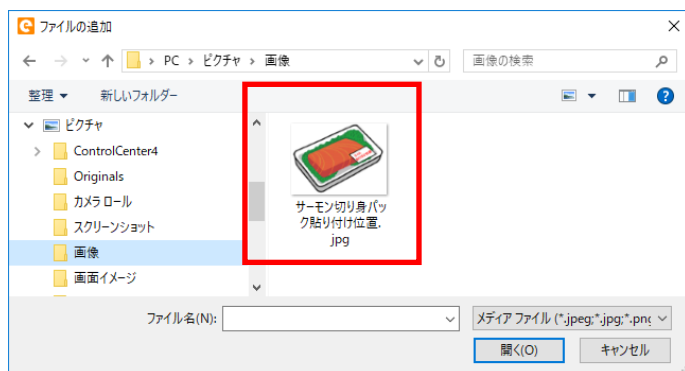
1. プロジェクトツリー画面のプロジェクトの上で右クリック>新規作成>内部フォルダを選択します。
※新規作成メニューに内部フォルダが出てこない場合、ツール設定の「メディア表示機能を使用する」が OFF になっている可能性があります。



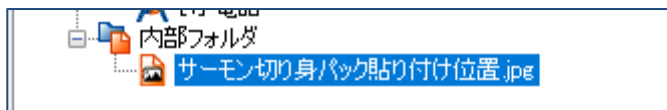
2. プロジェクトツリーに追加された内部フォルダの上で右クリック>ファイル追加を選択します。



3. 追加する画像を選択し、「開く」をクリックします。
※デフォルトのファイル種類は「jpeg」「jpg」「png」「gif」です。動画や HTML ファイルを選択する場合は、拡張子を「すべてのファイル」に切り替えてください。

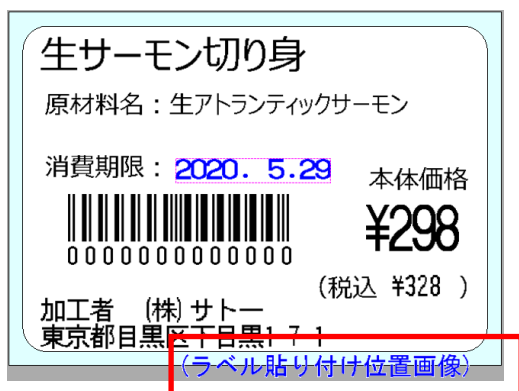


4. 内部フォルダに画像ファイルが登録されます。

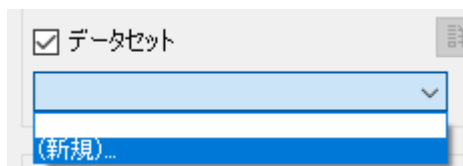


【最大桁数】内部フォルダに追加できるファイルはフォルダー構成のパス情報を含め100桁以内です。内部フォルダに登録できず以下のエラーが出た場合はファイル名またはフォルダーを含めたファイルパス情報が100桁を超えていますので、名称を変更するなどしてください。

5. メディア表示するレイアウトに文字列オブジェクトを追加します。（名称は適宜変更してください）

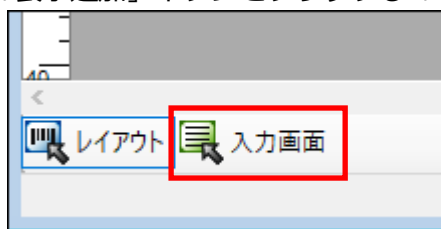


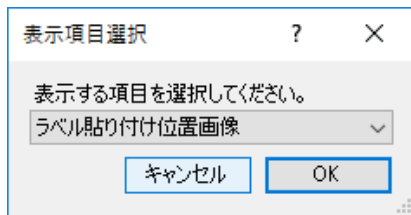
6. 「入力方法：固定」「データセット：ON」「呼出しテーブル紐づけ：（新規）を選択して紐づけ」「印字しない：ON」に設定します。



7. デザインウィンドウ下の「入力画面」タブをクリックします。

8. 「表示追加」ボタンをクリックし「5」の文字列を表示項目に追加します。





	入力方法	項目名	表示オプション	データ
▶ 1	参照	ラベル貼り付け位置画像		(ラベル貼り付け位置画像)
2	入力	(発行枚数)		

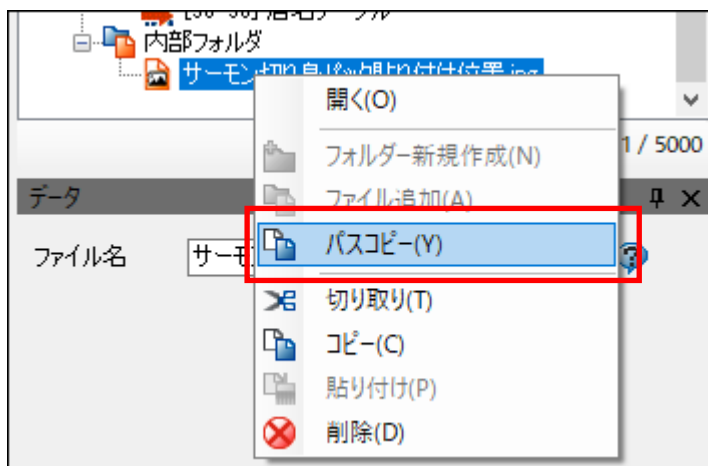
9. 表示オプションで「メディア（画像）」を選択します。

※画像以外に、動画、Web の表示形式があります。指定するメディアファイルと、本設定の表示形式が合わないと、e-Labe Print で正しく表示されません。

	入力方法	項目名	表示オプション	データ
▶ 1	参照	ラベル貼り付け位置画像	メディア(Web) ▼	(ラベル貼り付け位置画像)
2	入力	(発行枚数)		

10. 「4」で追加した画像の上で右クリック>パスコピーを選択します。

※パスコピー：登録したメディアファイルのフォルダ階層を含んだパス情報を取得できます。内部データに登録したメディアを使用する場合、パスコピーで取得したパス情報を値としてセットします。



11. 呼出しテーブル画面を開きます。

12. 「5」の文字列項目に「10」でパスコピーしたパス情報を貼り付けます。

No	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定	ラベル貼り付け位置画像
1	1	サーモン切り身	サーモン切り身	[1] レイアウト	サーモン切り身パック貼り付け位置.jpg
▶ 2					

13. 呼出しテーブル登録画面を保存して閉じます。

14. データ出力ボタンでフォーマットを出力し、FX3のSATO/FormatFilesにフォーマットをセットします。

15. e-Labe Printで該当の呼出しNo.を呼出します。内部データに取り込んだ画像が表示されます。



■FX3 の所定フォルダにメディアファイル（画像）をセットし発行画面に表示する手順

[手順の流れ] ※印字するラベルデザイン等は作成してあることを前提として説明します

- メディアファイル（画像）を FX3 にセットする
- 基本レイアウトにメディアファイルのパス情報をセットする文字列オブジェクトを追加する
- 入力画面設定で文字列の表示形式を指定する
- プリセットデータにパス情報をセットし、レイアウト生成する
- データ出力し、フォーマットファイルを生成する
- e-Labe Print でアイテムを呼出し、画像が表示されることを確認する

【メディアファイルの配置場所、パスについて】

FX3 のストレージ内のメディアファイルを発行画面に表示する場合、以下のパスの配下に配置する必要があります。

<配置先>FX3 内部ストレージ/SATO/FormatFiles 配下

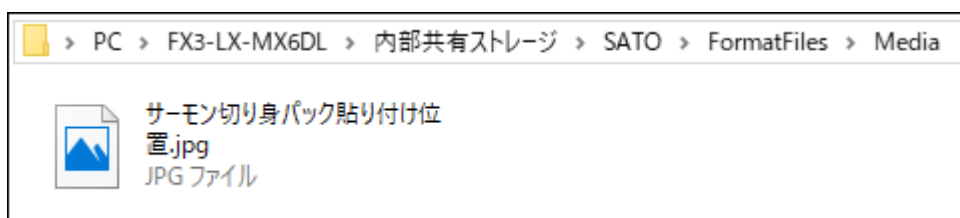
パスは上記 FormatFiles を起点とした相対パスを指定します。

例)

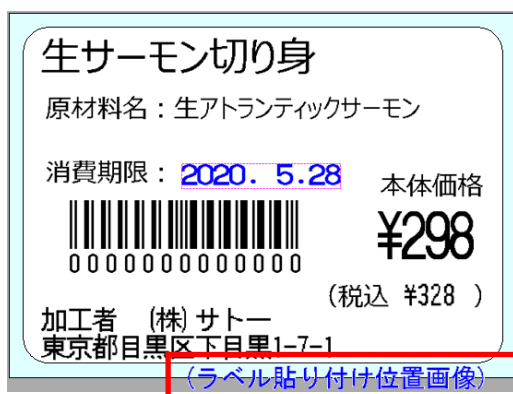
<配置先>FX3 内部ストレージ/SATO/FormatFiles/Media/FX3.png

<指定するパス>Media/FX3.png

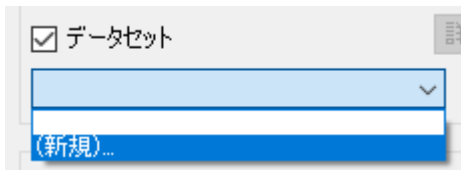
1. 表示するメディアファイル（画像）を FX3 の SATO/FormatFiles 内の任意のフォルダにコピーします。本資料では、FormatFiles に Media フォルダを作成し、メディアファイルをコピーします。



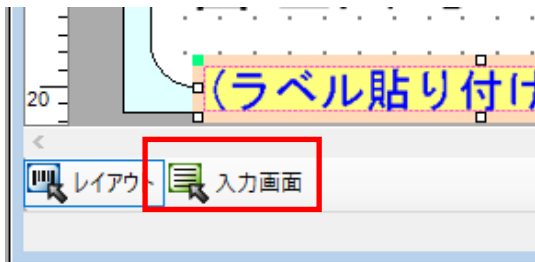
2. メディア表示するレイアウトに文字列オブジェクトを追加します。（名称は適宜変更してください）



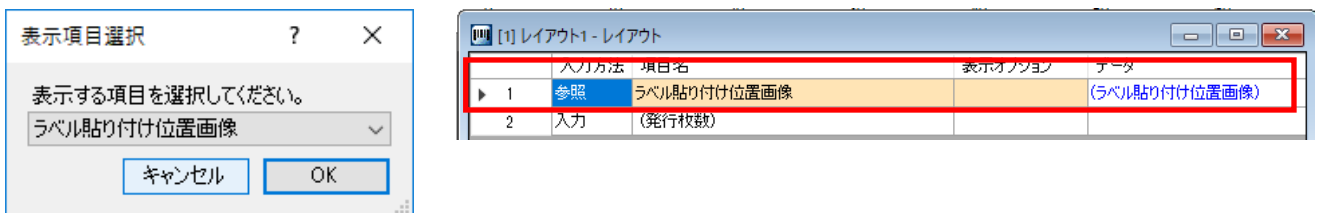
- 「入力方法：固定」「データセット：ON」「呼出しテーブル紐づけ：（新規）を選択して紐づけ」「印字しない：ON」に設定します。



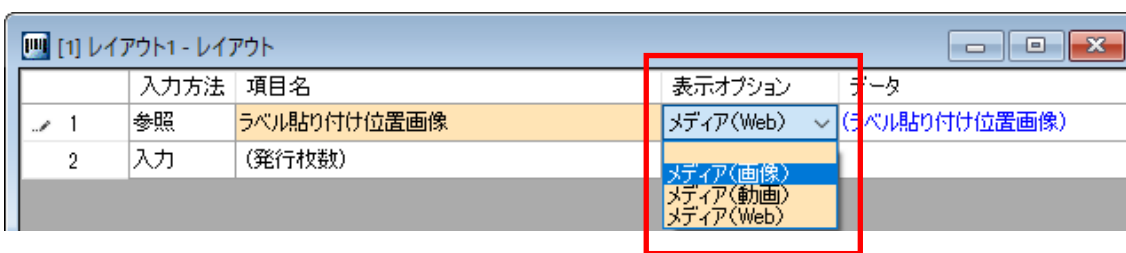
- デザインウィンドウ下の「入力画面」タブをクリックします。



- 「表示追加」ボタンをクリックし「1」の文字列を表示項目に追加します。



- 表示オプションで「メディア（画像）」を選択します
 ※1 表示オプションにメディア表示のリストが出てこない場合、ツール設定の「メディア表示機能を使用する」がOFFになっている可能性があります。
 ※2 画像以外に、動画、Web の表示形式があります。指定するメディアファイルと、本設定の表示形式が合わないと、e-Labe Print で正しく表示されません。



- 呼出しテーブル画面を開きます。

- 「2」の文字列項目に「1」で配置したメディアファイルのパスを入力します。
 パス：Media/サーモン切り身パック貼り付け位置.jpg

呼出しテーブルデータ登録				
No.	呼出しNo.	呼出し名	検索用呼出し名	レイアウト指定
1	1	サーモン切り身		[1] レイアウト
2				ラベル貼り付け位置画像 Media/サーモン切り身パック貼り付け位置.jpg

9. 呼出しテーブル登録画面を保存して閉じます。
10. データ出力ボタンでフォーマットを出力し、FX3のSATO/FormatFilesにフォーマットをセットします。
11. e-Labe Printで該当の呼出しNo.を呼出します。内部データに取り込んだ画像が表示されます。



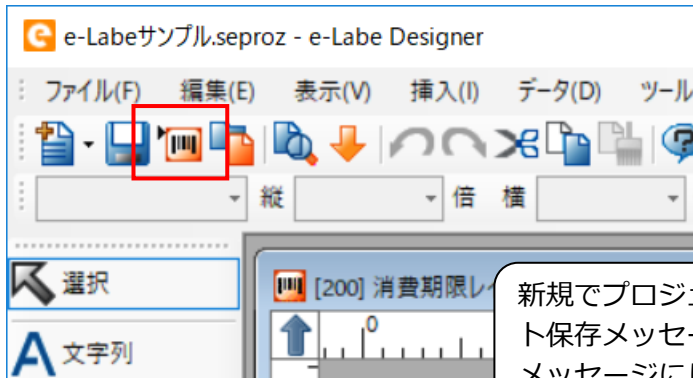
26. サンプルデータ取込機能

e-Label Designer には、いくつかの印字サンプルが登録されています。

これらを利用することで、レイアウト作成の時間を短縮することができます。

■ サンプルデータをデザインに取り込む手順

1. ツールバーの「サンプル取込」ボタンをクリックします。

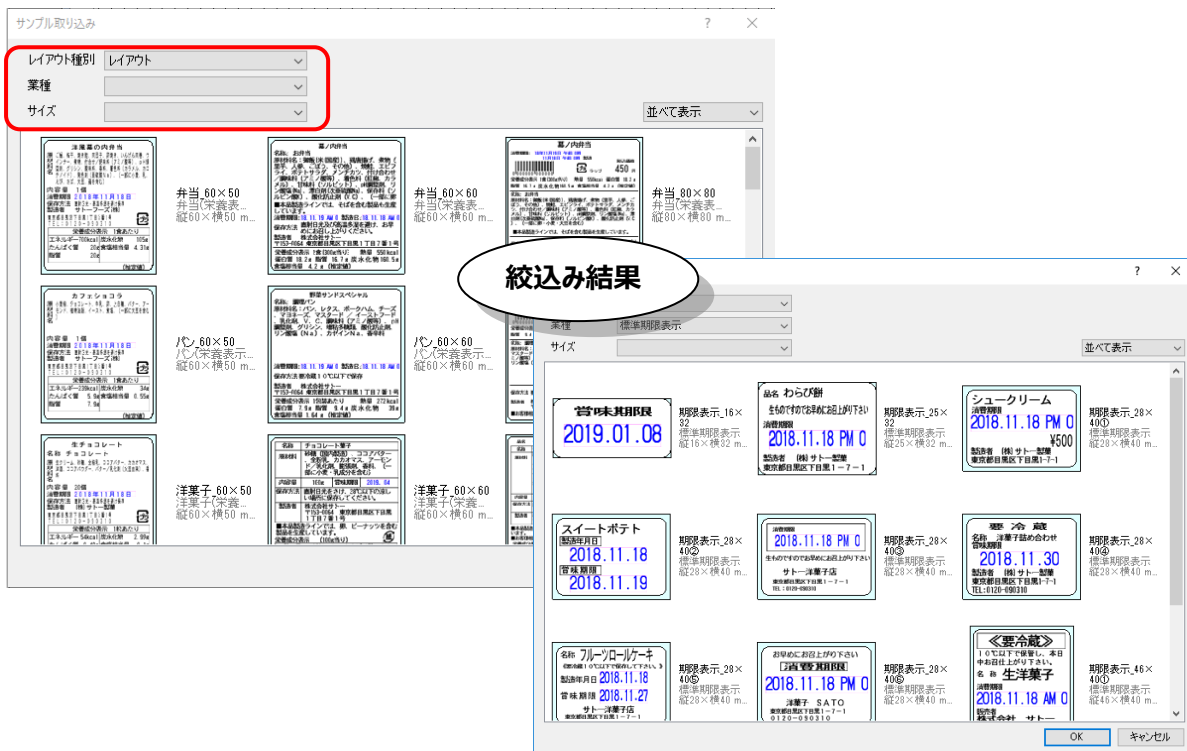


新規でプロジェクトを作成した場合、プロジェクト保存メッセージが表示されます。メッセージにしたがって、プロジェクトを保存してください。

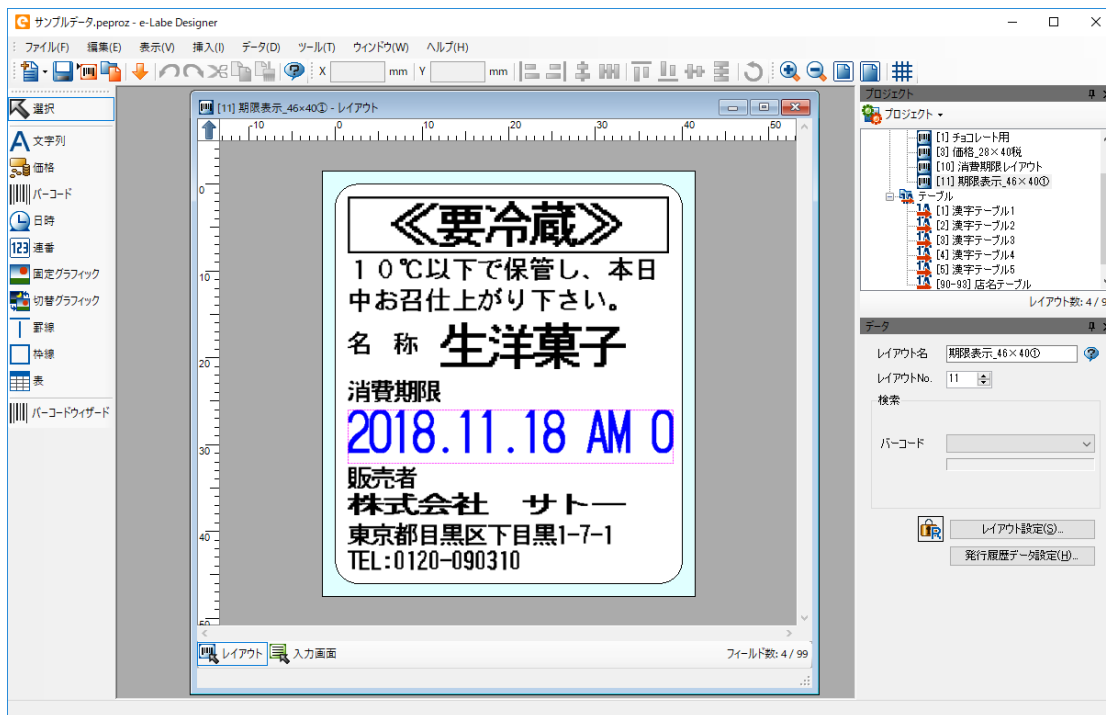
2. サンプル選択画面が開きます。

3. 表示された一覧から直接選択するか、「レイアウト種」、「業種」、「サイズ」でレイアウトの絞り込みを行います。

4. 作成したいレイアウトのイメージに近いレイアウトを選択し、クリックします。



5.取り込んだファイルが画面に表示されます。



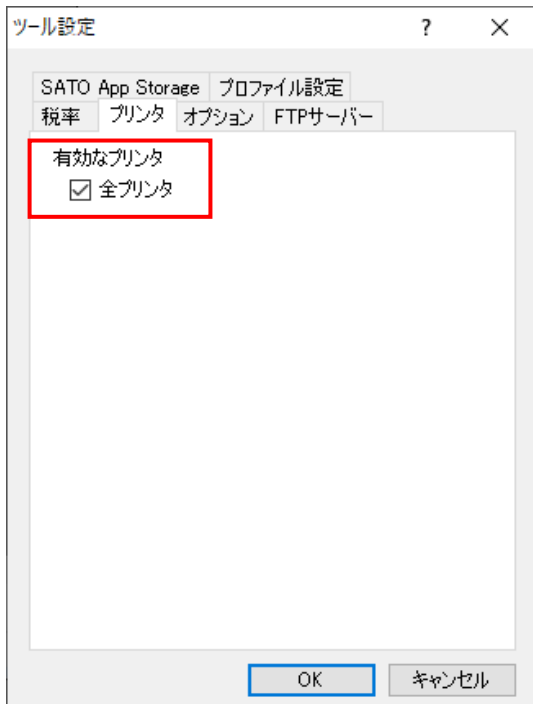
6.貼り付けられた項目の設定を、デザインウィンドウやデータウィンドウで変更します。

27.プリンタ機種の変更方法

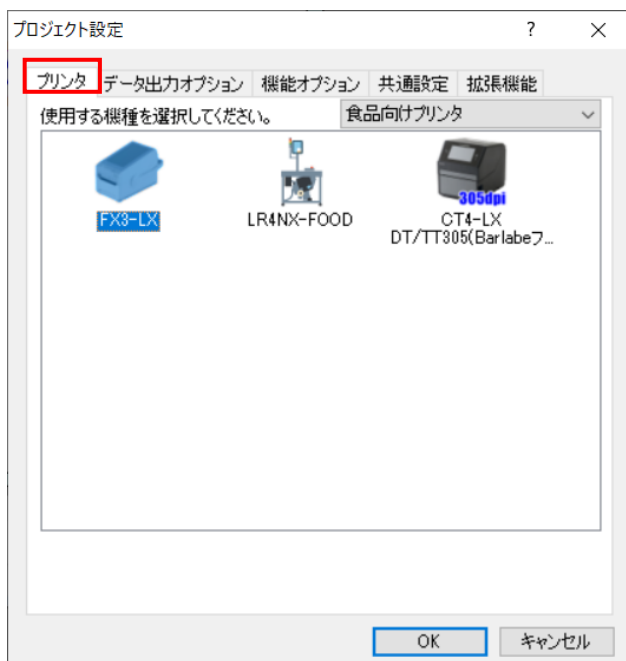
Ver.1.12.0.0 から複数のプリンタ機種のレイアウト作成が可能となっています。作成したレイアウトのプリンタ機種を変更することも可能です。

■プリンタ機種の変更手順

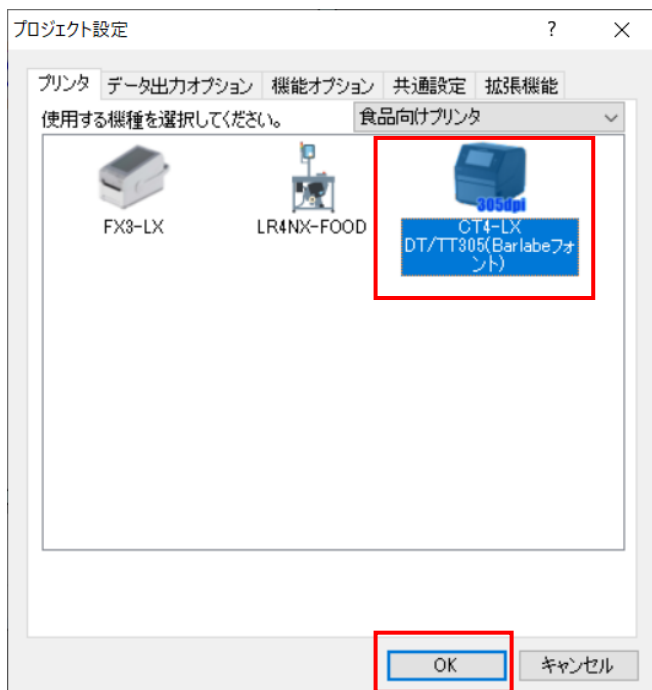
1. メニューバーのツール> 設定> プリンタタブを開き「全プリンタ」にチェックを入れて[OK]をクリックします。



2. メニューバーの「ファイル」>「プロジェクト設定」を開き「プリンタ」タブをクリックします。現在選択されているプリンタ機種が選択された状態で表示されます。



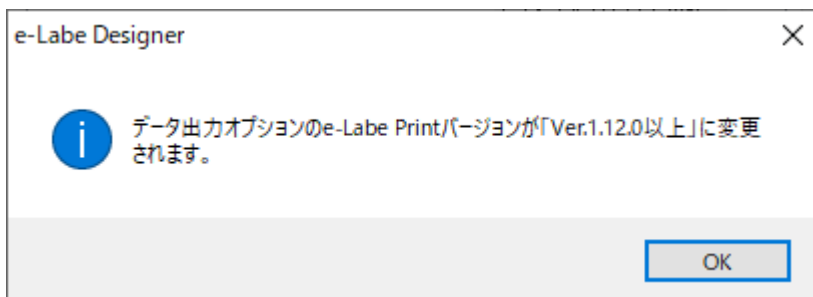
3. 変更したいプリンタ機種を選択し、[OK]をクリックします。



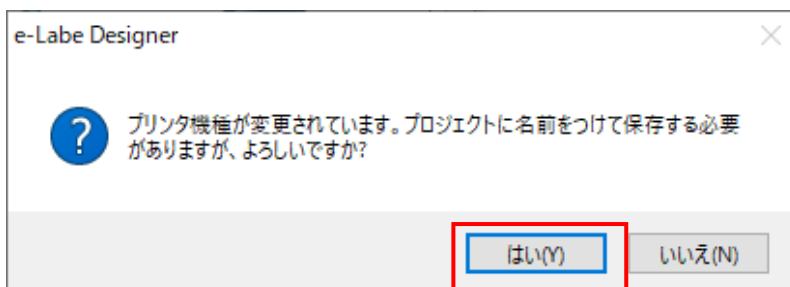
4. 保存ダイアログが表示されますので、[はい]を選択し、プロジェクトを別名で保存します。

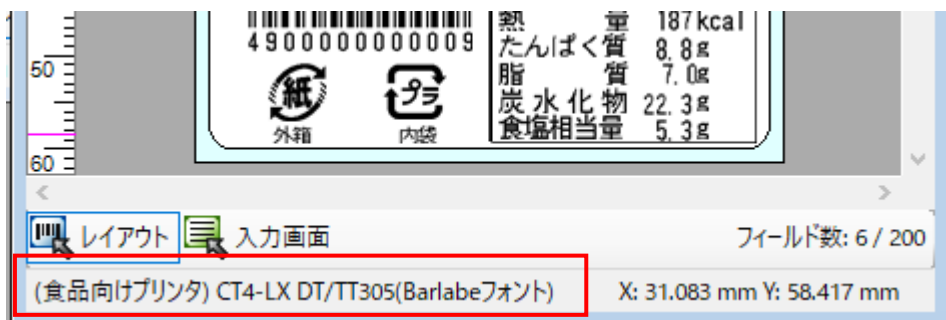
注意

以前の e-Labe Print バージョンを指定して変更先のプリンタ機種に未対応の場合、以下のダイアログが表示されバージョンが変更されます。



5. レイアウトの左下の機種名が変更した機種になっていることを確認します。





注意

変更先の機種に搭載していないフォントは別の搭載されているフォントに置き換わります。

変換後はレイアウトの確認をお願いします。

28.最大値／最小値を参照する方法

参照・結合の「参照（ユーザ定義）」機能を利用することで、オブジェクトの値を比較し最も大きい値または小さい値（日時は最も新しい日時または古い日時）を参照することが可能です。

- 「参照（ユーザ定義）」の編集タイプで「最大値を参照」、「最小値を参照」を利用可能なオブジェクトは以下のオブジェクトです。

[文字列]、[バーコード]、[連番]、[切替グラフィック]

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補填種別
▶ 1	参照(ユーザ定義)				
2					
3					
4					

参照(ユーザ定義)詳細設定

編集タイプ: 最大値を参照

比較データ: 数値 日時

日時書式: YYYY/MM/DD hh:mm

No.	オブジェクト
▶ 1	
2	
3	
4	
5	

削除(D) 閉じる(C)

- 選択したオブジェクト同士の値を比較します。

比較データは「数値」または「日時」のどちらかを選択可能です。

[数値]

参照(ユーザ定義)詳細設定

編集タイプ: 最大値を参照

比較データ: 数値 日時

日時書式: YYYY/MM/DD hh:mm

No.	オブジェクト
1	入力①
✓ 2	入力②
3	
4	
5	

削除(D) 閉じる(C)

数値として大小比較をします。

使用例) 重量、長さ、温度などの値の比較

設定手順は[こちら](#)を参照ください。

[日時]

参照(ユーザ定義)詳細設定

編集タイプ: 最小値を参照

比較データ: 数値 日時

日時書式: YYYY.MM.DD

No.	オブジェクト
1	日付(自動計算)
2	日付(手入力)
▶ 3	
4	
5	

削除(D) 閉じる(C)

指定した「日時書式」に基づき日時として大小比較をします。

例) 詰め合わせ商品の賞味期限比較、異なる期限（賞味期限と開封期限など）の比較

設定手順は[こちら](#)を参照ください。

■ 数値を比較し最大値／最小値を参照する手順

例として、以下のような2つの文字列に入力した値のうち、大きい方の値を参照する手順を説明します。

(入力①)

(入力②)

最大値 : (最大値参照)

[数値]で比較する場合について

・比較可能なオブジェクト種は以下のとおりです。

文字列

バーコード

価格

日時

システム項目（呼出し No./呼出しデータ名/端末 No./発行枚数）

・比較可能な最大桁数は16桁です。比較対象のオブジェクトの桁数を16桁以下にしてください。

・データには正の整数または小数を入力してください（1234、123.45、など）。

カンマやマイナス記号など半角数字と小数点以外の記号が含まれていると、数値とはみなされずエラーになりますのでご注意ください（1,000、-100、など）。

・前ゼロや、数値の前または後ろに半角スペースが付いている場合は、e-Labe側で取り除いてから数値比較を行います。

・値が未入力の場合や半角スペースのみセットされている項目は無視されます。

1. 最大値を参照したいオブジェクトの参照・結合詳細設定を開き、「参照（ユーザ定義）詳細設定」画面を開きます。

2. 編集タイプで「最大値を参照」を選択します。

参照(ユーザ定義)詳細設定

編集タイプ **最大値を参照**

比較データ 数値 日時

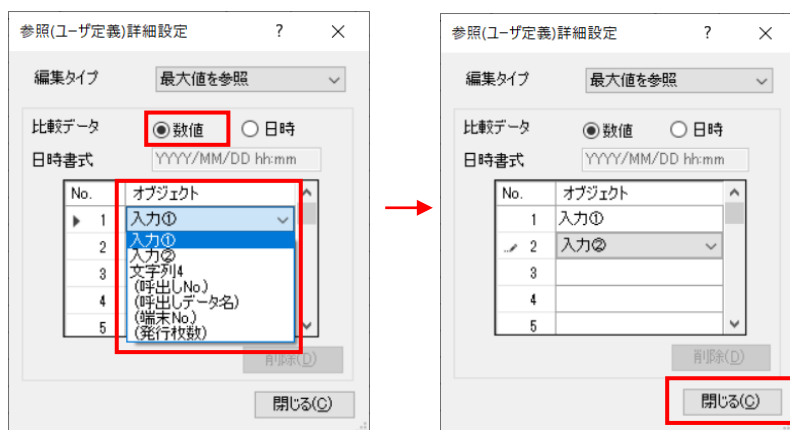
日時書式 YYYY/MM/DD hh:mm

No.	オブジェクト
▶ 1	
2	
3	
4	
5	

削除(D)

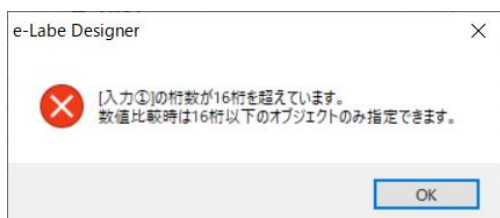
閉じる(O)

- 比較データは「数値」とし、比較対象とするオブジェクトをリストから選択し、「閉じる」をクリックします。



注意

桁数設定が 17 桁以上のオブジェクトが選択されている場合、画面を閉じる際にエラーとなります。



- 参照・結合詳細画面で必要に応じて参照開始桁、桁数、補填種別を変更します。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補填種別
1	参照(ユーザ定義)	[入力①,入力②]最大...	1	10	左詰めスペース補...
2					
3					
4					

- プレビュー・テスト発行画面で最大値が参照されることを確認します。

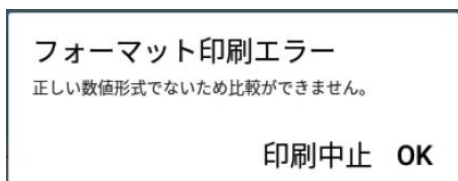


- e-Labe Print で発行確認をおこないます。



注意

入力値が数値以外の場合、発行時やプレビュー時に以下のようなエラーが表示されます。



■日時を比較し最大値／最小値を参照する手順

例として、以下のような日時オブジェクトと手入力用の文字列の日付のうち、より期限に近い（古い）方の値を参照する手順を説明します。

賞味期限： (日付(手入力))
開封後期限： 2024. 7. 30
使用可能期限 (最も近い期限)

日時の場合の最大値、最小値は以下となります。

- ・最大値→最も新しい日付
- ・最小値→最も古い日付

[日時]で比較する場合について

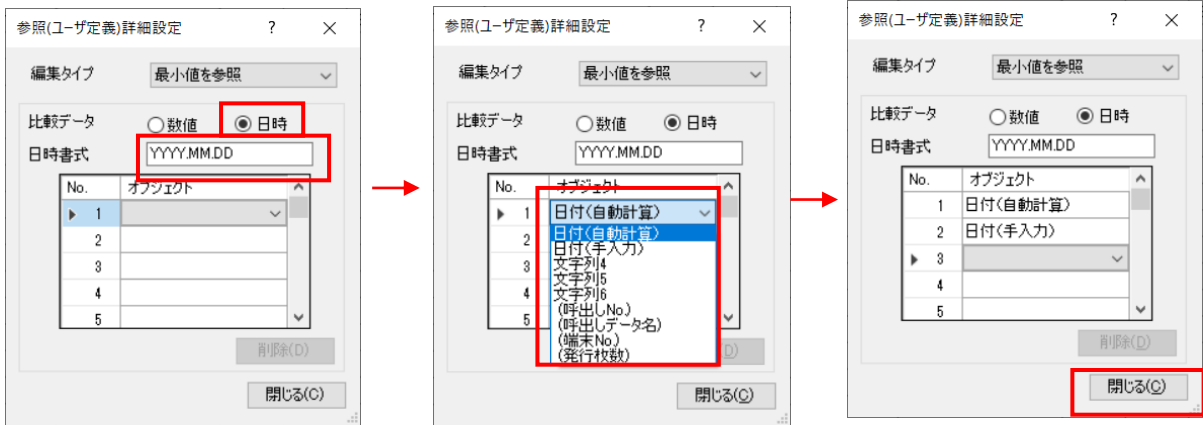
- ・比較可能なオブジェクト種は以下のとおりです。
 - 文字列
 - バーコード
 - 価格
 - 日時
 - システム項目（呼出し No./呼出しデータ名/端末 No./発行枚数）
- ・比較可能な最大桁数は 32 桁です。比較対象のオブジェクトの桁数を 32 桁以下にしてください。
- ・日時書式に基づいた値を入力してください。
- ・値が未入力の場合や半角スペースのみセットされている項目は無視されます。

1. 最小値を参照したいオブジェクトの参照・結合詳細設定を開き、「参照（ユーザ定義）詳細設定」画面を開きます。
2. 編集タイプで「最小値を参照」を選択します。

No.	オブジェクト
1	
2	
3	
4	
5	

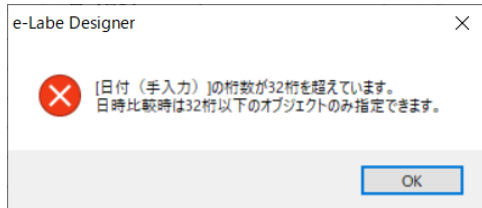
3. 比較データは「日時」とし、比較する日時書式を入力します。対象とするオブジェクトをリストから選択し、「閉じる」をクリックします。

日時書式に指定可能な書式は「[■日時比較で指定可能な日時書式](#)」を参照してください。



注意

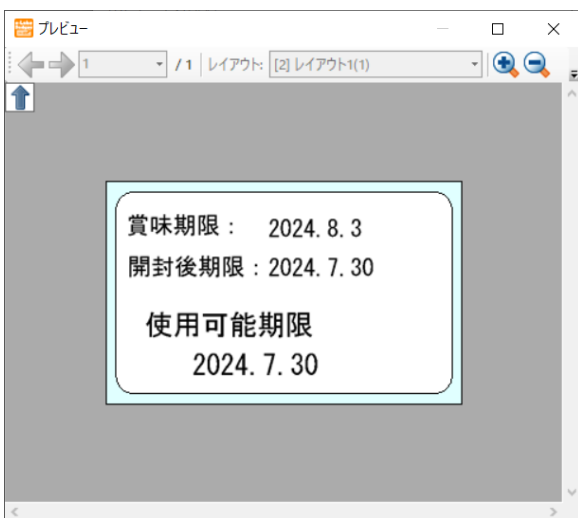
桁数設定が 33 桁以上のオブジェクトが選択されている場合、画面を閉じる際にエラーとなります。



4. 参照・結合詳細画面で必要に応じて参照開始桁、桁数、補填種別を変更します。

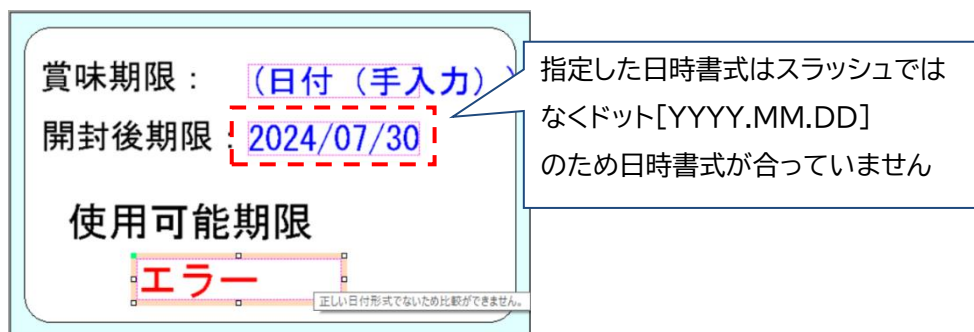
No.	種類	データ	開始桁	桁数	補填種別
1	参照(ユーザ定義)	日付(自動計算),日付...	1	10	左詰めスペース補...
2					
3					
4					

5. プレビュー・テスト発行画面で最小値(最も古い日付)が参照されることを確認します。



注意

・参照（ユーザ定義）詳細設定画面で指定した日時書式と異なる書式の日時が比較対象に選択されている場合、参照オブジェクトがエラーで表示されます。

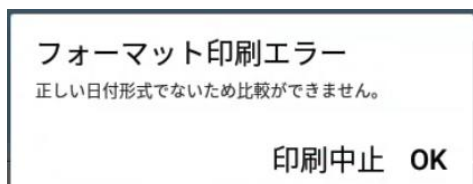


6. e-Labe Print で発行確認をおこないます。



注意

入力値が指定した日時書式と異なる場合や全角数字、全角スペースが入力されている場合、以下のようなエラーが表示されます。



■ 日時比較で指定可能な日時書式

設定可能な日時書式のパターンは以下の一覧のとおりです。

● 日時書式パターン

種類	パターン	書式
日付のみ	「年(2桁)」のみ	YY
	「年(4桁)」のみ	YYYY
	「年(2桁)」+「月」	YYMM
	「年(4桁)」+「月」	YYYYMM
	「年(2桁)」+「月」+「日」	YYMMDD
	「年(4桁)」+「月」+「日」	YYYYMMDD

種類	パターン	書式	パターン	書式
日付+時刻	「年(2桁)」+「月」+「日」	YYMMDD	「時(24)」+「分」	hhmm
	「年(4桁)」+「月」+「日」	YYYYMMDD	「AM/PM 時(12)」+「分」	TTHHmm
	「月」+「日」	MMDD	「am/pm 時(12)」+「分」	ttHHmm
			「午前/午後時(12)」+「分」	TTTTHHmm
			「時(24)」	hh
			「AM/PM 時(12)」	TTHH
			「am/pm 時(12)」	ttHH
			「午前/午後時(12)」	TTTTHH

種類	パターン	書式
時刻のみ	「時(24)」+「分」	hhmm
	「AM/PM 時(12)」+「分」	TTHHmm
	「am/pm 時(12)」+「分」	ttHHmm
	「午前/午後時(12)」+「分」	TTTTHHmm
	「時(24)」	hh
	「AM/PM 時(12)」	TTHH
	「am/pm 時(12)」	ttHH
	「午前/午後時(12)」	TTTTHH

桁数が足りない場合は前ゼロまたは半角スペースを付加してください。

(例：20240101、2024 1 1、am07、AM 7)

書式には任意の区切り文字(スラッシュ(/)、ドット(.)、ハイフン(-)、コロン(:)など)も使用できます。

(例：YYYY/MM/DD、YYYY.MM.DD、YYYY-MM-DD、YYYY/MM/DD hh:mm、TTHH:mm)

区切り文字を使用時は、桁数が足りない場合の前ゼロまたは半角スペースを省略できます。

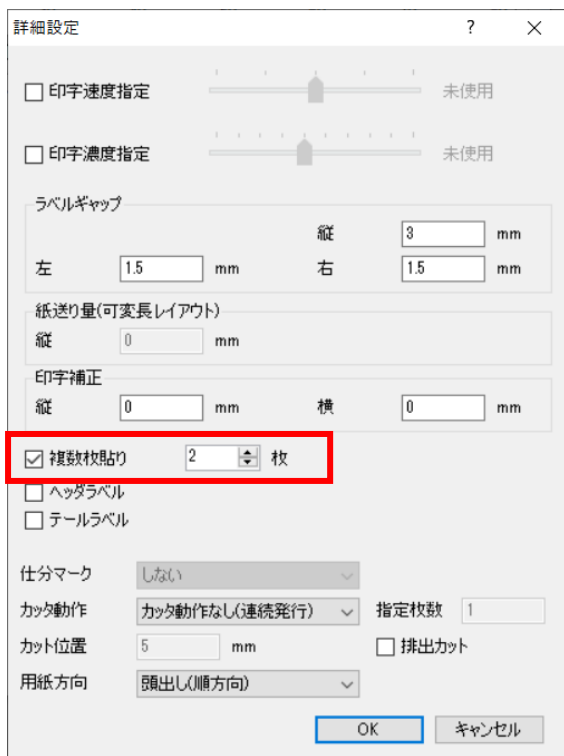
(参考) 日時書式

日付書式		時間書式	
YY	年(2桁)	hh	時(24時間制)
YYYY	年(4桁)	HH	時(12時間制)
MM	月	mm	分
DD	日	TT	AM/PM
		tt	am/pm
		TTTT	午前/午後

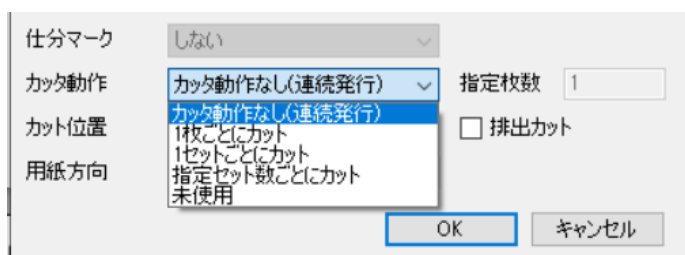
1. 用紙種やサイズを設定し、「詳細設定」画面を開きます。



2. 「複数枚貼り」を ON にし、枚数を「2」枚とセットします。



3. 「カッター動作」で「1枚ごとにカット」を選択し、「OK」をクリックします。「1枚ごとにカット」では、ラベルが切りかわるタイミングで必ずカットします。また、1セットごとにカットしたり、指定したセット数ごとにカットすることも可能です。(ラベル1とラベル2は1セットとして扱われます。)

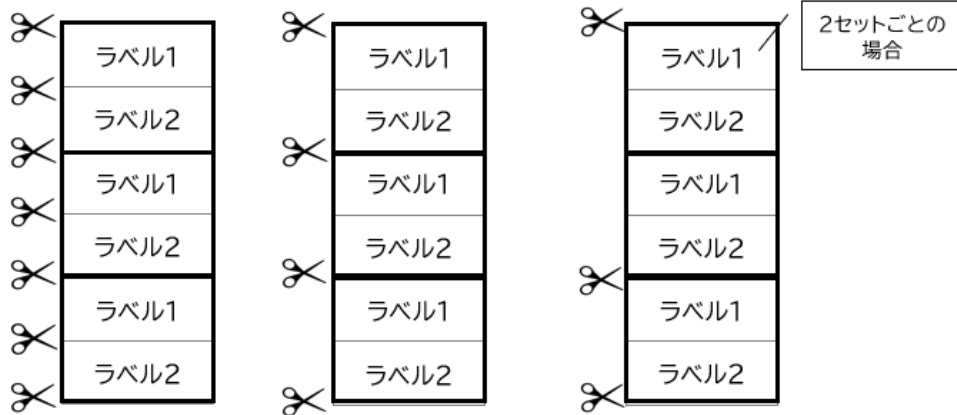


【参考情報】 カッタ動作

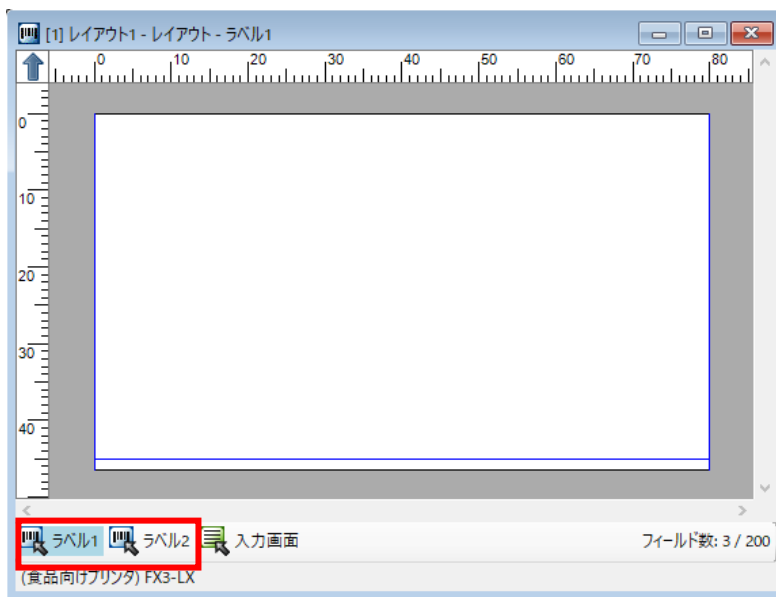
1枚ごとにカット

1セットごとにカット

指定セット数ごとにカット



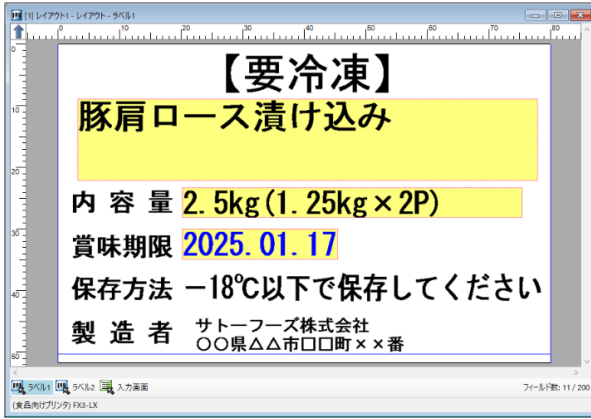
4. デザイン画面の下部に「ラベル1」「ラベル2」とシートが表示されます。このシートを切り替えてデザインを作成します。



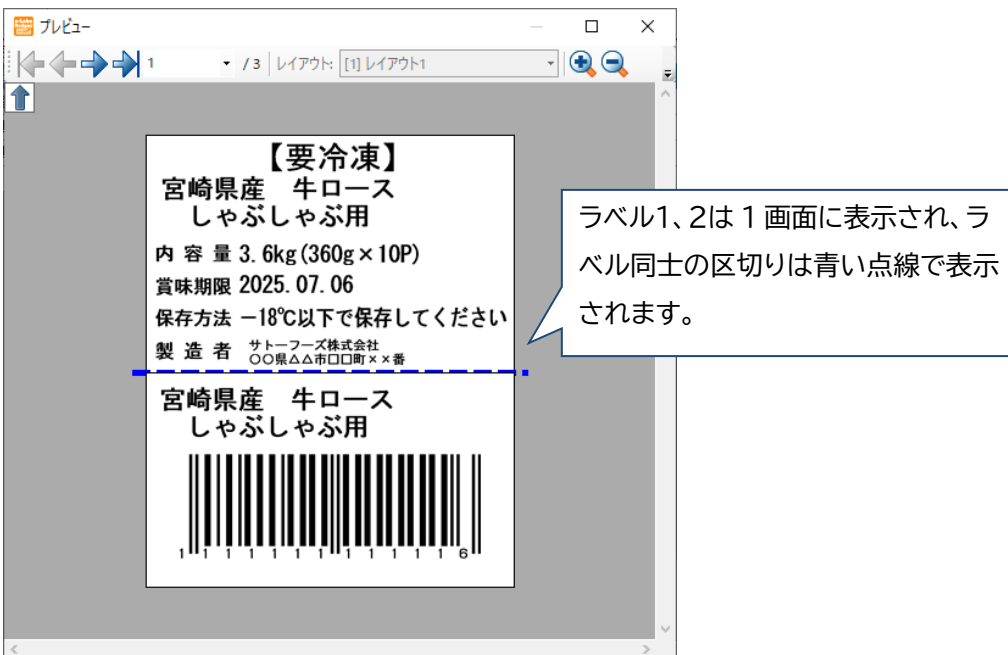
注意

- ・ラベル1～4の名称は固定です。
- ・ラベル1～4の順番を入れ替えることはできません。
印字するラベルの順序を考えてデザインしてください。

5. ラベル1、ラベル2のデザインを作成します。



6. プレビュー・テスト発行画面を確認します。



7. e-Labe Print でプレビュー表示、発行確認をおこないます。



注意

・発行時は発行指示 1 枚につきラベル 1、2 を 1 セットとして発行します。2 枚発行指示した場合、1 セット目（ラベル 1、2）、2 セット目（ラベル 1、2）と発行します。

■ラベルの数を減らした場合のラベル削除について

複数枚貼りのラベル数を減らした場合、ラベル番号が大きいものから削除されます。

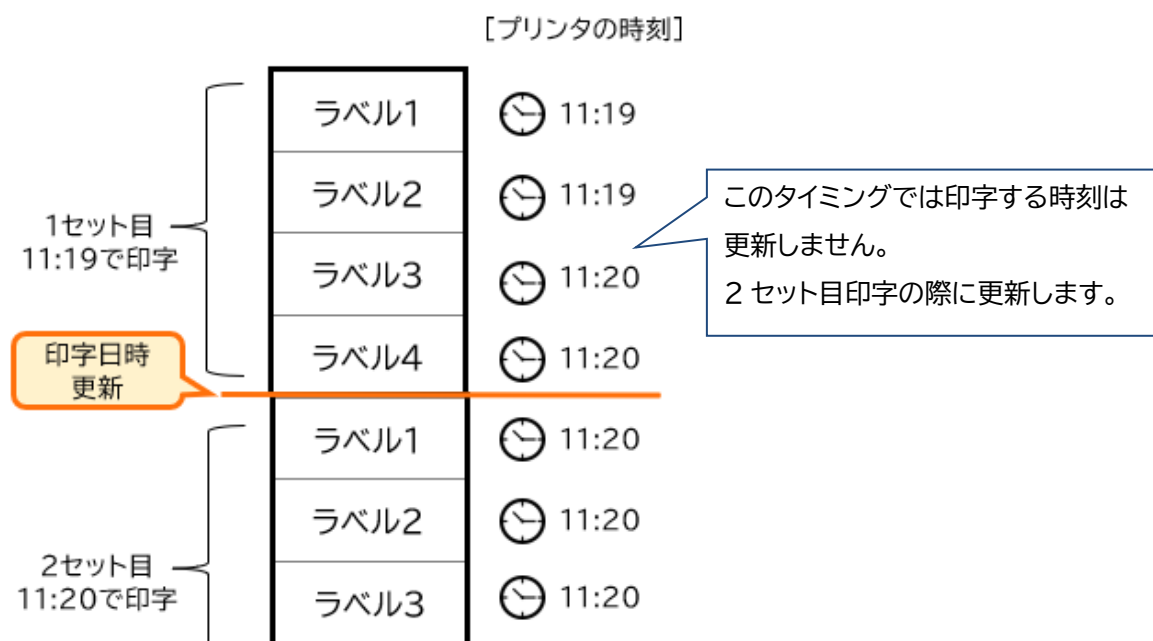
例) 4 枚→3 枚にした場合 ラベル 4 が削除されます。

同様に、複数枚貼りの設定を OFF にした場合、ラベル 2～4 は削除されます。

削除したラベルに配置されていたオブジェクトも併せて削除され、復旧はできません。

■リアルタイム印字 ON の日時について

複数枚貼りレイアウトでリアルタイム印字 ON の日時を発行時、1 セット目を発行中に時刻が更新されても途中で時刻は更新されません。2 セット目発行時に更新されます。



■発行履歴について

複数枚貼りレイアウトの発行履歴は通常のレイアウトと異なり、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、発行指示した時点での発行履歴のみ取得可能です。（枚数カウント表示 OFF の時と同じ履歴となります。）

■連番の保存値について

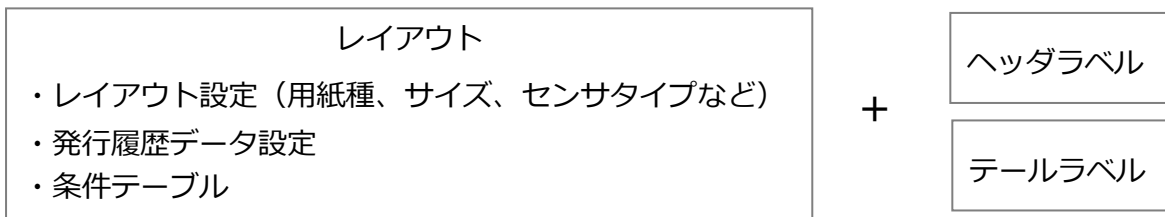
複数枚貼りレイアウトの発行を途中キャンセルした場合、e-Labe Print で「枚数カウント表示」設定を ON にしている場合も、連番は発行指示枚数分カウントしたものとみなして連番値を保存します。

30.ヘッダラベル、テールラベルを印字する方法

主となるラベルに付随して印字前、または印字後にラベルを印字することが可能です。今から印字するラベルのタイトル、発行指示枚数を印字したり、印字の末尾が分かるよう目印を印字したい場合に使用します。

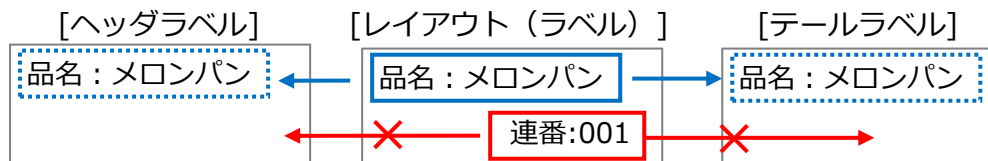
■ヘッダラベル、テールラベルについて

・レイアウトに付随するラベルのため、ラベルサイズやセンサタイプなど、レイアウト単位で持つ設定情報は共通です。ラベルサイズや用紙の回転など共通の設定を変更するとヘッダラベル、テールラベルにも反映されます。複数枚貼り機能と併用することが可能です。



・ラベルとヘッダラベル、テールラベルに配置したオブジェクトの値は互いに参照することが可能です。ただし、以下のオブジェクトは各々のラベル内でのみ参照可能です。

- ✓リアルタイム ON の日時オブジェクト
- ✓連番



■ヘッダ/テールラベルの設定手順

例として、ヘッダ・テールラベル両方を印字するレイアウトの作成手順を説明します。

ヘッダラベル

ふくじん漬け

発行日時 2025. 1. 8 18:01

発行枚数 1枚

レイアウト(ラベル)

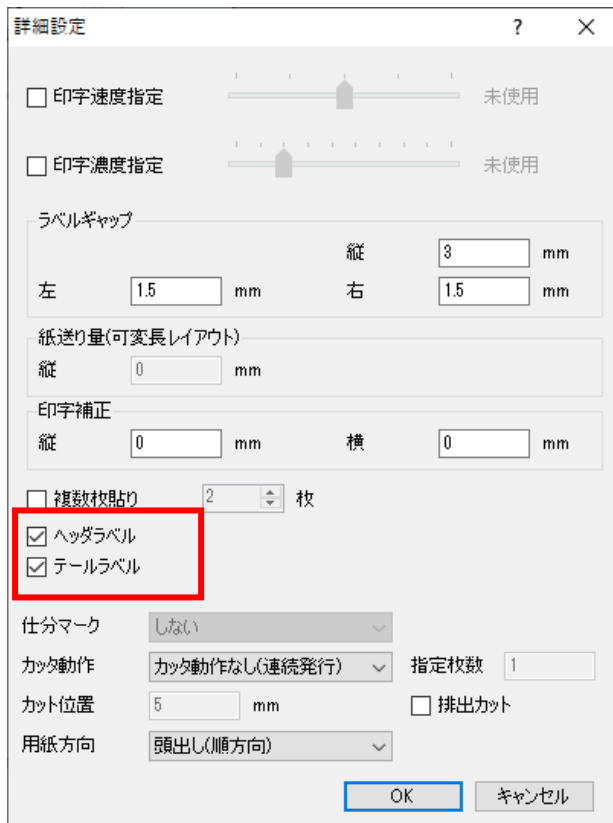
名 稱 ふくじん漬け	
原材料: 大根、なす、ごぼう、れんこん、なたまめ、しょうが、しそ、漬け材料【しょうゆ、糖類(砂糖、水飴)、香辛料】/調味料(アミノ酸等)、アルコール、(一部に大豆、小麦を含む)	
原料	国産(大根、なす、ごぼう、れんこん、なたまめ、しょうが、しそ)
内 容 量	200g賞味期限 2025. 1. 18
保存方法	冷蔵庫(10℃以下)
製 造 者	サトーフーズ(株) 〇〇県△△市□□町××番 TEL:0120-XXX-XXX
※開封後はお早めにお召し上がりください。	
栄養成分表示(1個200g当たり) (推定値)	
熱 量	187kcal
たんぱく質	8.8g
脂 質	7.0g
炭水化物	22.3g
食塩相当量	5.3g

テールラベル

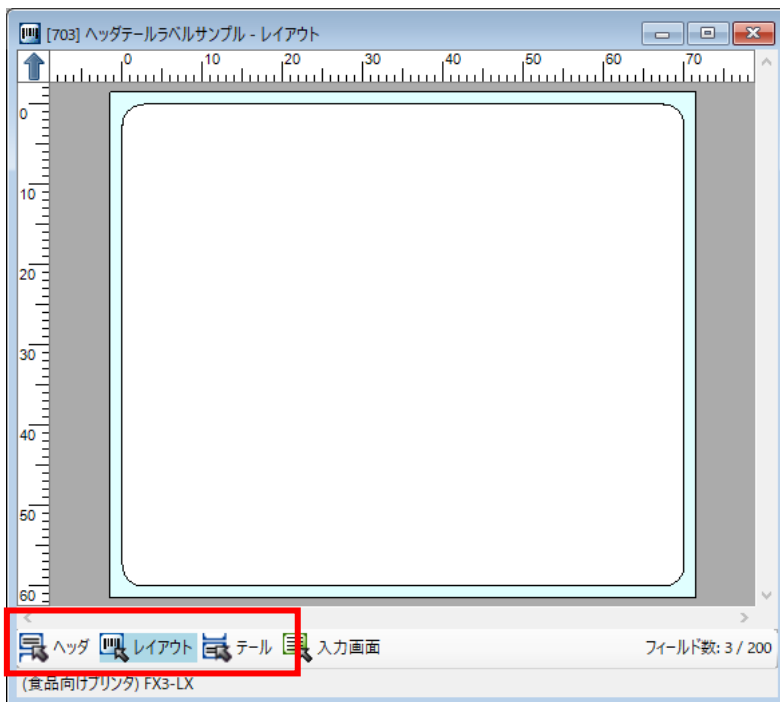
1. 用紙種やサイズを設定し、「詳細設定」画面を開きます。



2. 「ヘッダラベル」「テールラベル」を ON にし、「OK」をクリックします。



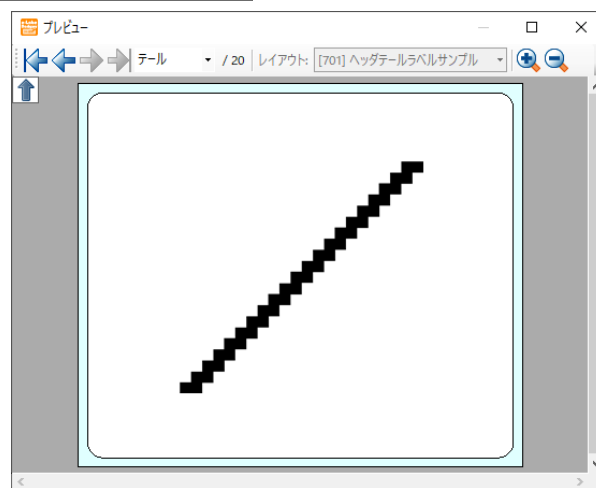
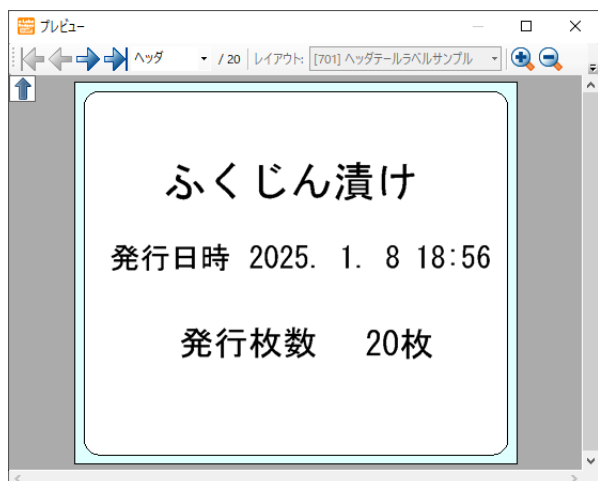
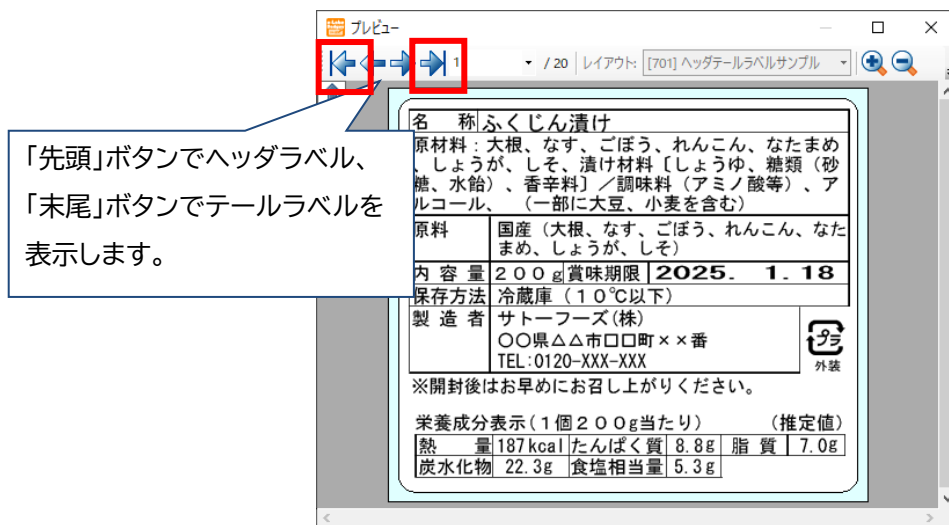
3. デザイン画面の下部に「ヘッダ」「レイアウト」「テール」シートが表示されます。このシートを切り替えてデザインを作成します。



注意

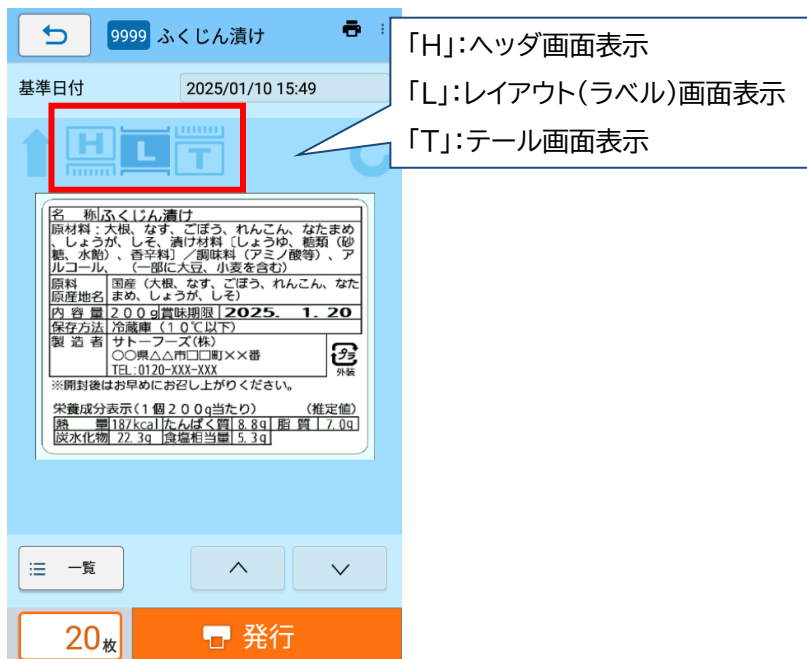
- ・ヘッダ、テールのシート名称は固定です。
- ・ヘッダ、レイアウト、テールシートの順番を入れ替えることはできません。

4. ヘッダ、レイアウト、テールそれぞれのデザインを作成しプレビュー・テスト発行画面を確認します。

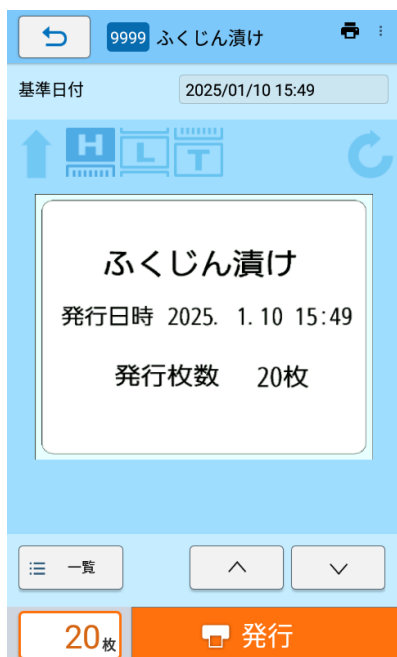


5. e-Labe Print でプレビュー表示、発行確認をおこないます。ヘッダラベル、テールラベルがある場合はプレビュー画面左上に、画面切り替えボタンが表示されます。「H」ボタンや「T」ボタンを押してヘッダラベル、テールラベルのプレビューを確認します。

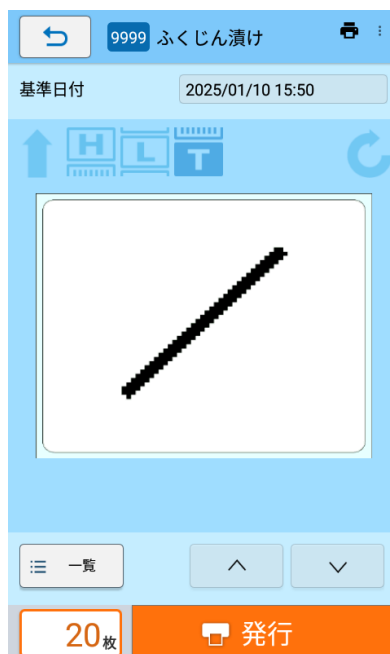
[レイアウト (ラベル)]



[ヘッダラベル]

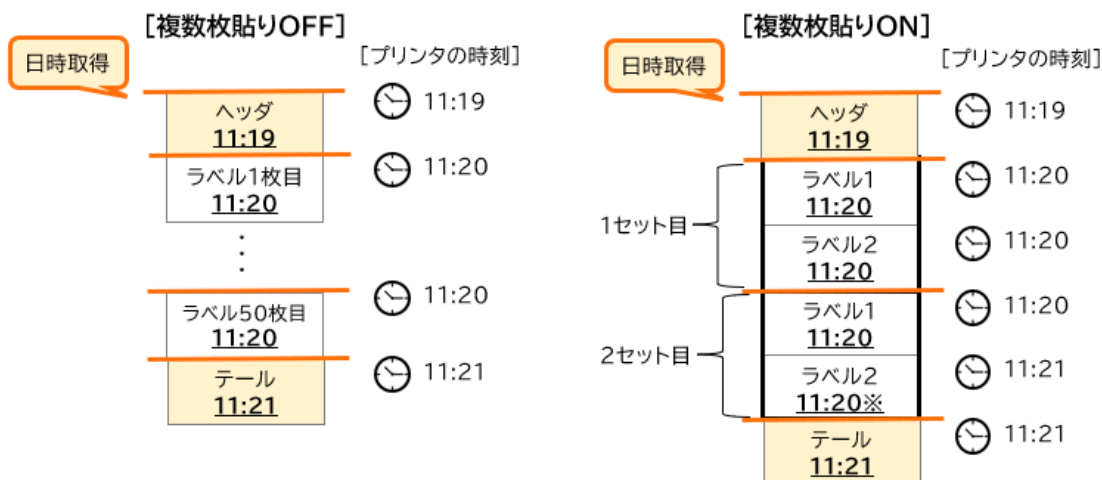


[テールラベル]



■ リアルタイム印字 ON の日時について

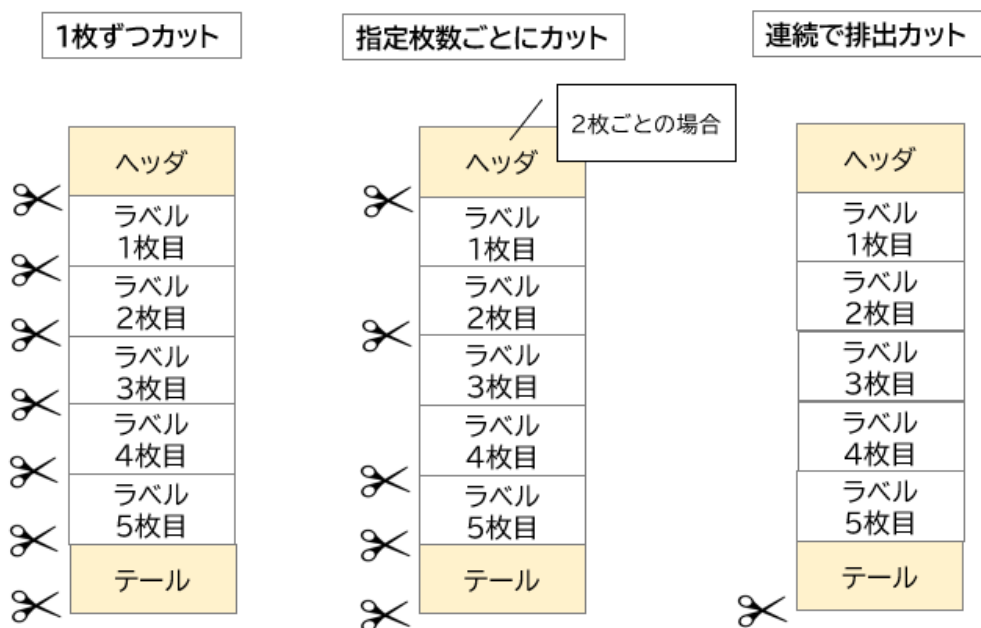
リアルタイム印字 ON の日時を発行した場合、各ラベル種 (ヘッダ、ラベル、テール) の発行タイミングで日時情報を更新して発行します。



※複数枚貼りがONの場合、1セット印字中に時刻が更新されてもラベルに印字する時刻は更新されません

■ カット動作について

レイアウト設定でカット動作ありとした場合、ヘッダラベル印字後、テールラベル印字前は必ずカットします。連続発行で排出カットのみの場合はヘッダやテールはカットしません。



■ 発行履歴について

ヘッダラベル・テールラベルを使用しているレイアウトは、e-Labe Printで「枚数カウント表示」設定をONにしている場合も、発行指示した時点での発行履歴のみ取得可能です。（枚数カウント表示OFFの時と同じ履歴となります。）

■連番の保存値について

ヘッダラベル・テールラベルを使用しているレイアウトの発行を途中キャンセルした場合、e-Labe Printで「枚数カウント表示」設定をONにしている場合も、連番は発行指示枚数分カウントしたものとみなして連番値を保存します。

31.発行枚数をプリセットする方法

発行枚数を事前にセット可能です。発行枚数の入力方法を指定することで、発行時に発行枚数の変更を許可するかどうかを指定できます。

■発行枚数のセットについて

- ・レイアウトのデータウィンドウで発行枚数に関する設定が可能です。

- ・「入力」「固定」「参照」を選択し、発行枚数をセットします。
 - 【入力】

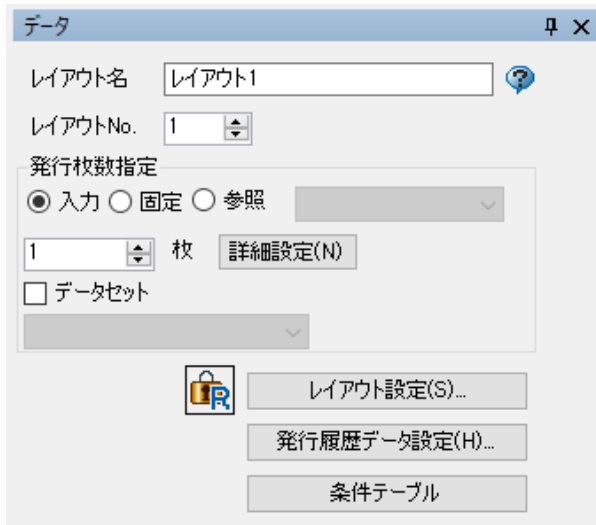
登録した値を初期値として発行画面に表示します。発行枚数の変更が可能です。
発行枚数入力欄は未セットまたは 0～9999 をセット可能です。
データセット機能を有効にした場合、呼出しテーブルでアイテム毎に発行枚数を登録可能です。
[補足]未セットまたは 0 枚を初期値に指定すると、発行画面で発行枚数がエラーになります。
必ず発行枚数を入力してから発行したいケースに活用できます。
 - 【固定】

登録した値で発行します。発行時に枚数の変更はできません。
発行枚数入力欄は 1～9999 をセット可能です。
データセット機能を有効にした場合、呼出しテーブルでアイテム毎に発行枚数を登録可能です。
 - 【参照】

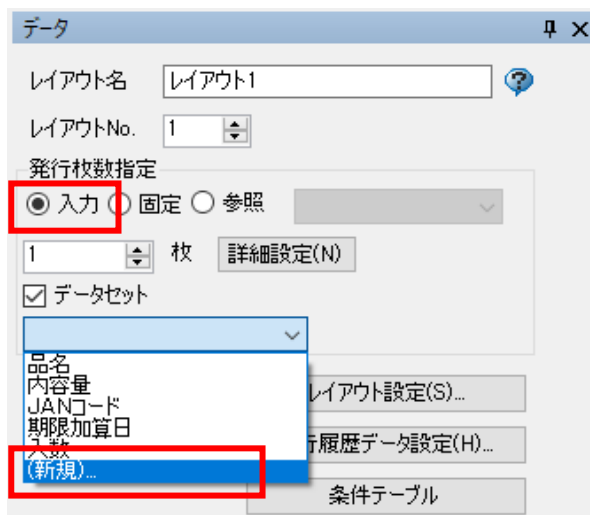
文字列オブジェクトの値を発行枚数として参照します。
参照先の文字列の入力方法が「発行時（データ）」の場合、入力チェックの文字種を「数字のみ」にしてください。

■呼出しテーブルで商品ごとに発行枚数をセットする手順

1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。



- 発行枚数指定で「入力」または「固定」を選択し「データセット」を有効、呼出しテーブル項目を新規で作成します。
既に発行枚数項目がある場合はその項目を選択してください。



- 呼出しテーブル項目を新規作成すると「(発行枚数)」という項目が自動で生成されますので、商品ごとに発行枚数を登録します。

呼出しテーブルデータ登録

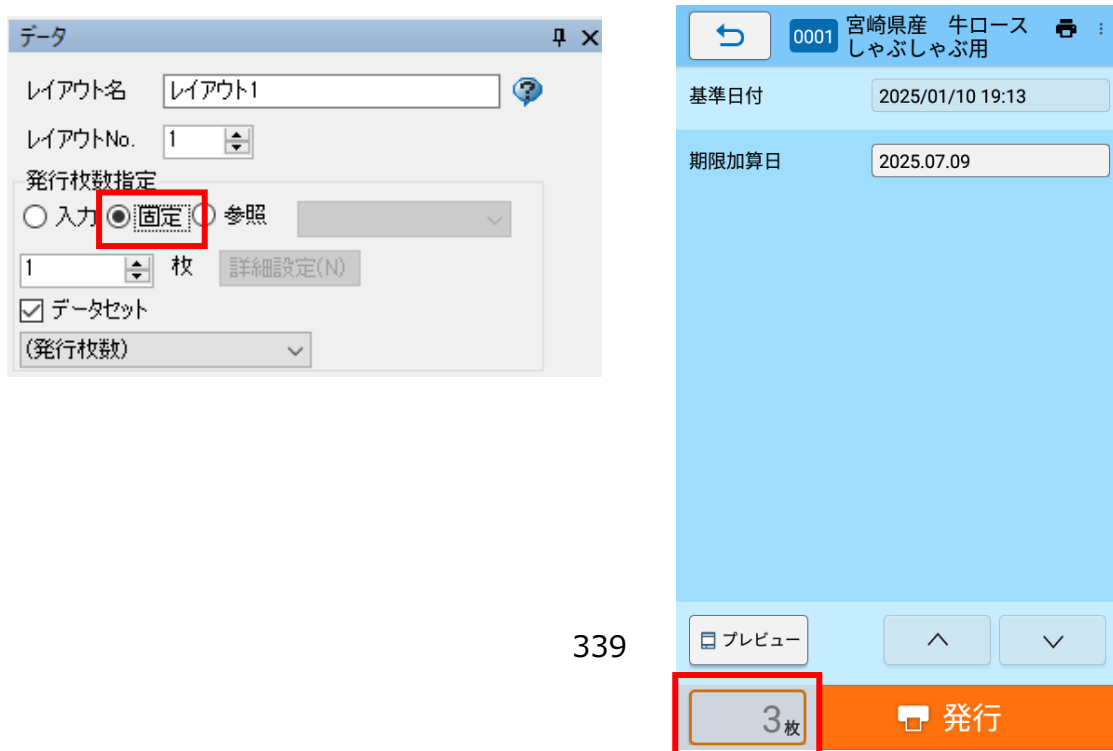
レイアウト (すべて)

No	呼出しNo.	呼出し名	レイアウト指定	品名	内容量	JANコード	期限加算日	(発行枚数)
1	1	宮崎県産 牛ロースしゃ...	[1] レイアウト1	宮崎県産 牛ロ...	3.6kg(360g×10P)	1111111111111	180	3
2	2	宮崎県産 牛肩ロース...	[1] レイアウト1	宮崎県産 牛肩...	4.0kg(400g×10P)	2222222222222	180	4
3	3	鹿児島県産 黒豚ロー...	[1] レイアウト1	鹿児島県産 黒...	8.0kg(400g×20P)	3333333333333	180	5
4	4	鹿児島県産 黒豚肩ロ...	[1] レイアウト1	鹿児島県産 黒...	8.0kg(400g×20P)	4444444444444	180	5

4. e-Labe Print で商品を出し、それぞれの発行枚数がセットされていることを確認します。



手順「2」で「固定」を選択した場合は、以下のように発行枚数項目は表示のみ（変更不可）となります。



注意

・プリセットされた発行枚数が1~4桁の数値以外だった場合、発行枚数項目が「エラー」表示となります。「エラー」表示部をタップすると、エラー詳細が表示されます。

0001 宮崎県産 牛ロース
しゃぶしゃぶ用

基準日付 2025/01/12 14:54

期限加算日 2025.07.11

プレビュー

1	2	3	BS
4	5	6	C
7	8	9	0

エラー枚 発行

0001 宮崎県産 牛ロース
しゃぶしゃぶ用

基準日付 2025/01/12 14:56

期限加算日 2025.07.11

発行枚数エラー

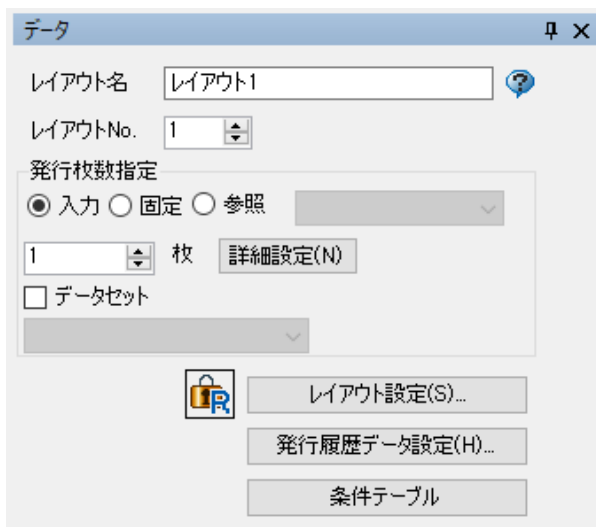
発行枚数に以下の値がセットされています。
12345
発行枚数は1~9999の値を入力してください。

OK

エラー枚 発行

■ 文字列の値を参照し、発行枚数にセットする手順

1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。



2. 発行枚数指定で「参照」を選択し、リストから参照する文字列を選択します。



注意

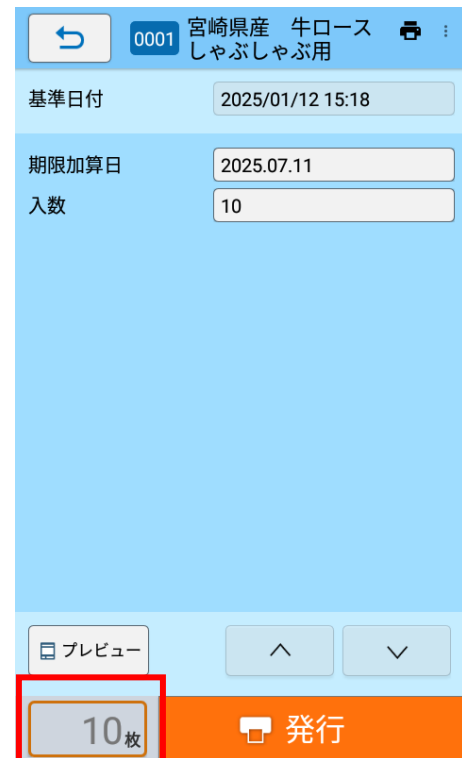
・参照先の文字列が発行枚数の値として不正な場合、レイアウトエラー（デザイン画面が赤線で囲われる）となります。レイアウト上にカーソルを置くとエラーの詳細が表示されます。

【エラーとなる例】

- ・全角文字がセットされている
- ・発行時（データ）の文字列の文字種設定が「数字のみ」になっていない

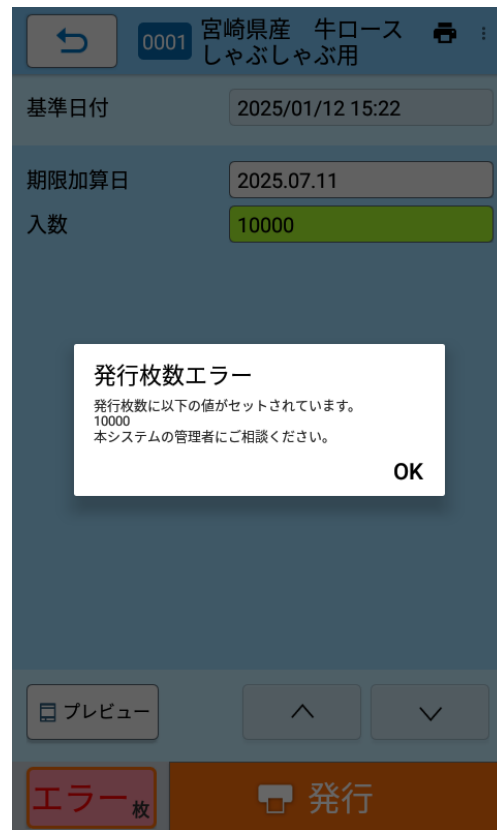
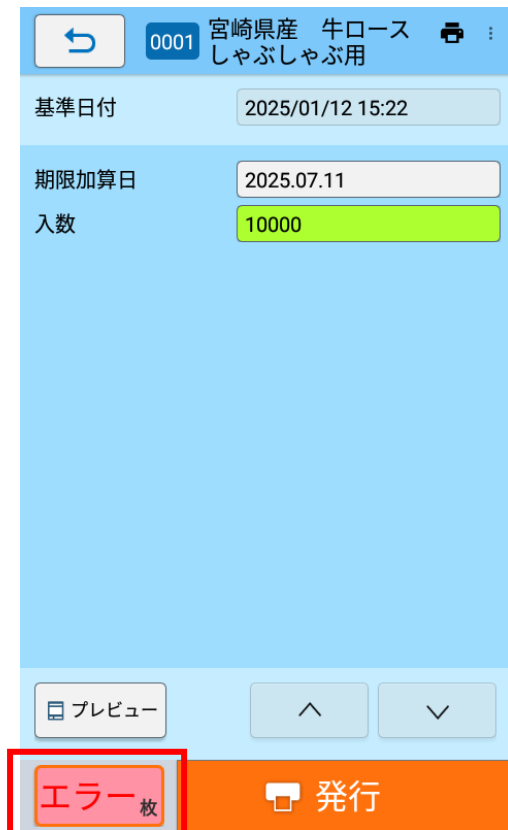


3. 参照先の文字列に発行枚数の値をセットし、e-Labe Print で発行枚数が文字列の値になっていることを確認します。



注意

- ・参照先の文字列の値が 1~4 桁の数値以外だった場合、発行枚数項目が「エラー」表示となります。「エラー」表示部をタップすると、エラー詳細が表示されます。

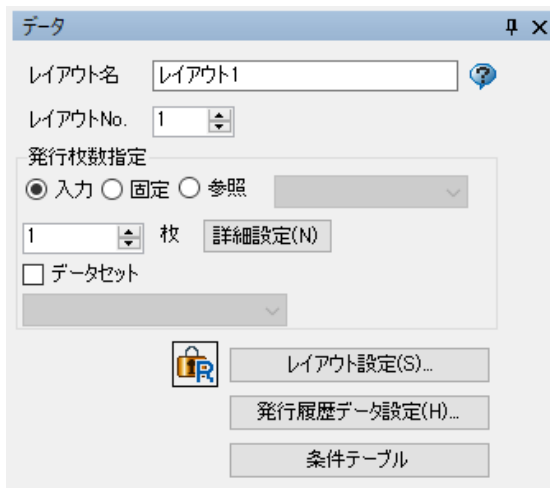


32.発行枚数の上限／下限チェック機能の設定方法

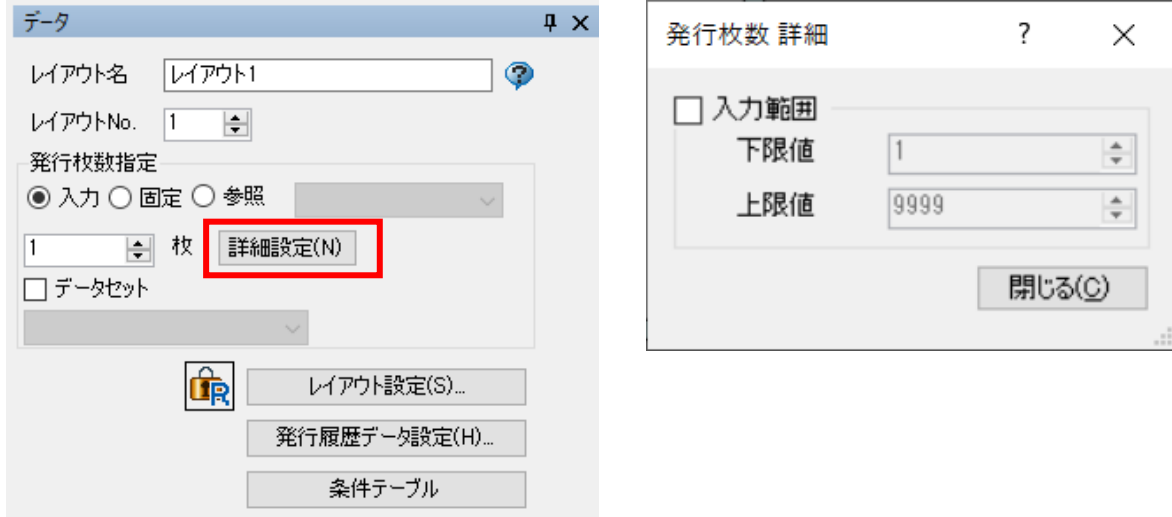
上限値／下限値をセットすることで発行枚数入力時に入力チェックをおこない、発行枚数の入力ミスを防ぎます。

■ 上限値／下限値を設定する手順

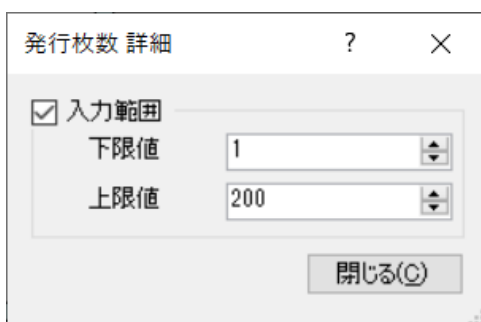
1. レイアウトのデータウィンドウを表示します。



2. 「詳細設定」ボタンをクリックし「発行枚数詳細」画面を表示します。



3. 「入力範囲」を ON にし、「下限値」「上限値」に値を入力し「閉じる」をクリックします。



4. e-Labe Print で設定した範囲外の発行枚数を入力し、入力チェックが掛かることを確認します。

The screenshot shows the e-Labe Print interface with the following details:

- Header: 0001 宮崎県産 牛ロース しゃぶしゃぶ用
- 基準日付: 2025/01/12 14:32
- 期限加算日: 2025.07.11
- Buttons: プレビュー, ^, v
- Keypad: A 3x4 grid keypad with numbers 1-9, 0, and function keys BS, C.
- Input field: 300枚
- Action button: 発行

The screenshot shows the e-Labe Print interface with an error message overlay:

- Header: 0001 宮崎県産 牛ロース しゃぶしゃぶ用
- 基準日付: 2025/01/12 14:33
- 期限加算日: 2025.07.11
- Buttons: プレビュー, ^, v
- Keypad: A 3x4 grid keypad with numbers 1-9, 0, and function keys BS, C.
- Input field: 300枚
- Action button: 発行
- Error message: 発行枚数が上限値を超えています。200枚以下に設定してください。 OK

8.付録

1.練習マニュアル

1.基本的なレイアウトの作成

e-Labe Designer の一般的な機能を利用して、下図の様なレイアウトを作成する手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

印字内容

No.	データ	入力方法	備考
e	商品名	e-Labe Print で入力	
②	バーコード	e-Labe Print で入力	JAN13 チェックデジット自動付加
③	保存方法	テーブル	
④	価格	e-Labe Print で入力	価格編集
⑤	税込価格	固定データ	

用紙情報

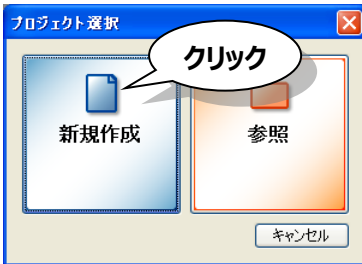
縦 50mm×横 50mm、バーラベフリーラベル

1. e-Label Designer を起動します。

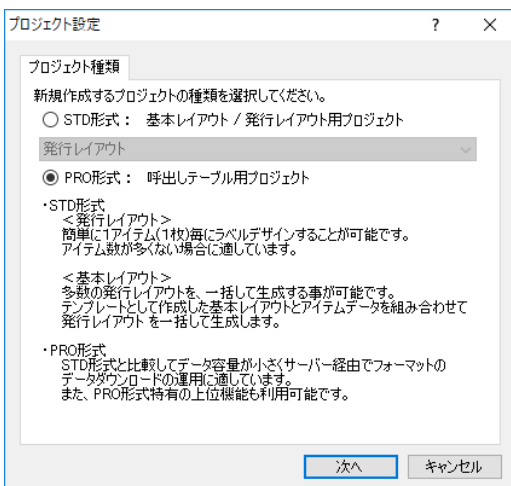
デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。



2. プロジェクト選択画面で新規作成を選択します。



3. プロジェクト種類選択画面で「PRO 形式」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



4. 用紙設定 (用紙定義、センサタイプ、サイズ) を行い、「次へ」ボタンをクリックします。

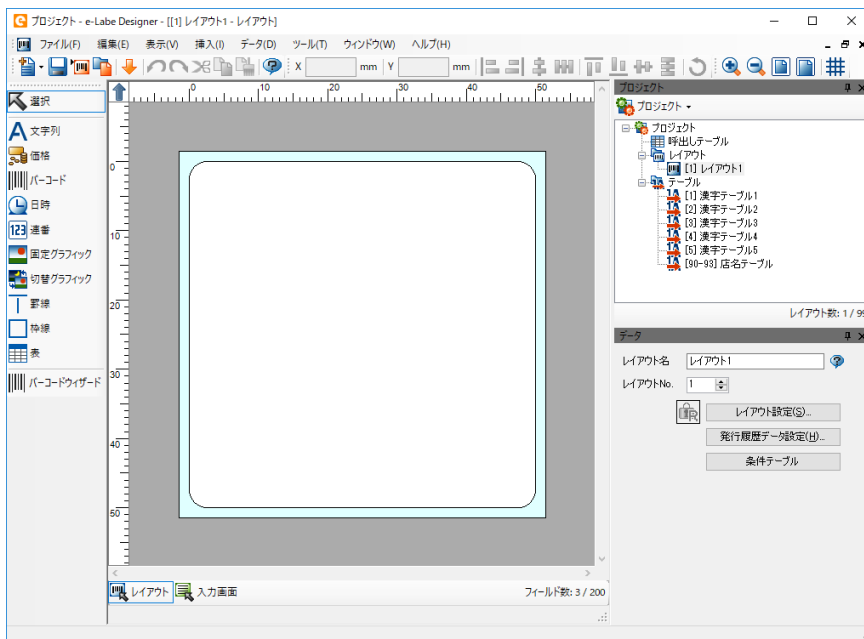


今回のレイアウト作成は
バーラベフリーラベル (縦 50mm×横 50mm) を使用します。

用紙サイズは、1mm 単位での指定が可能です。

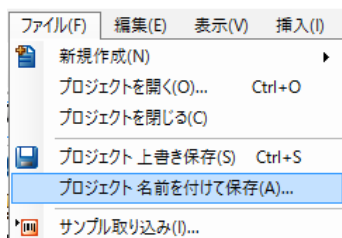
用紙やプリンタの動作に関して、より詳細な設定をおこなう場合は、「詳細設定」ボタンを押し、詳細設定画面で設定を行います。

5. 3~4 で設定した情報が反映された、用紙のレイアウトデザイン画面が開きます。

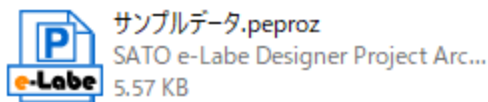


6. 新規作成した情報を保存します。

メニューバーの「ファイル」>「プロジェクト 名前を付けて保存」でファイルを保存します。



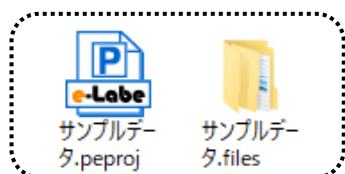
作成したプロジェクトは、.peproz の拡張子で保存されます。



注意：

ツール設定のオプションで「プロジェクトをアーカイブせずに保存を許可する」オプションを選択時に、ファイルの種類 プロジェクトファイル (*.peproj) を選択すると、保存したプロジェクトは peproj ファイルと、.files フォルダで構成されます。

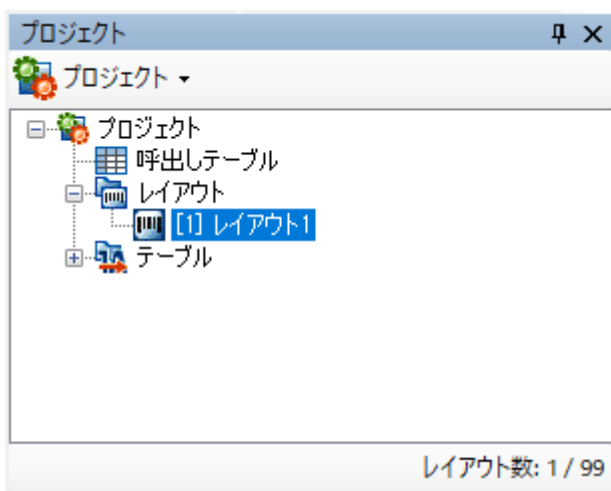
ファイルを移動したり、バックアップとしてコピーしたりする場合は、必ずセットで操作してください。



プロジェクトをアーカイブせずに保存した場合は、プロジェクトファイル及び、フォルダの名称は変更しないでください。作成したデータが参照できなくなります。


7. レイアウトの名称を付けます。

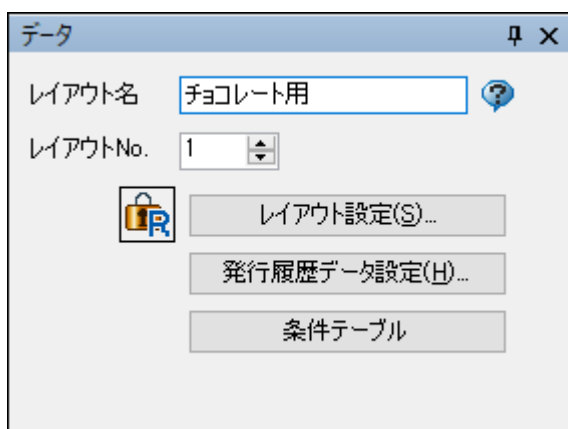
- ① プロジェクトウィンドウのレイアウトを選択します。
新規作成時は初期名称“レイアウト 1”等が設定されています。



- ② データウィンドウの情報がレイアウト情報に変更されますので、レイアウト名とレイアウト No. を入力します。

レイアウト No.は、印刷データとの紐付けで指定する番号になります。

読み取り専用ボタン  を ON にすると、呼出しデータの上書きが禁止されます。

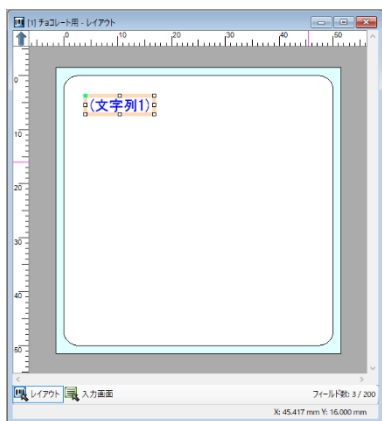


8. 文字を貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



文字オブジェクトは、ドラッグで位置の移動が可能です

- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。

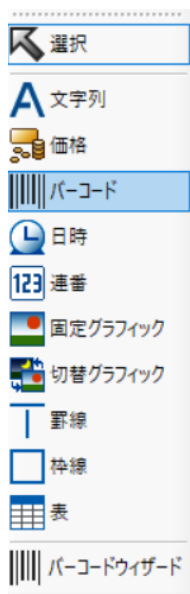


項目名：商品名
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：20 桁
データ：
フォント名：プリント_漢字（32x32）“8pt 相当”
縦サイズ：2 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0.5pt

※それぞれの項目の設定内容はボタンをクリックして、ヘルプをご覧ください。

9. バーコードを貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「バーコード」をクリックして、「バーコード」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



バーコードオブジェクトは、マウストラッグで位置の移動、サイズ（倍率）変更が可能です。

- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



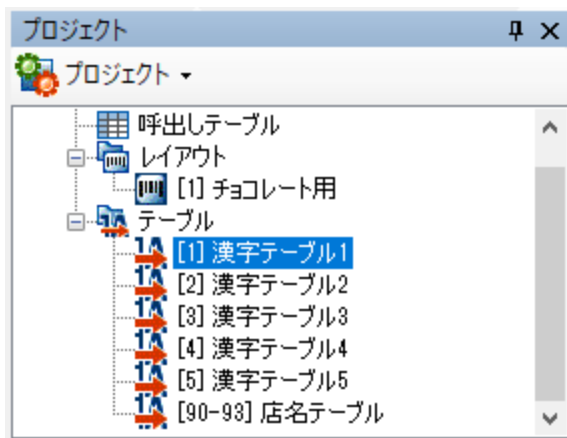
項目名 : JAN13
入力方法 : 発行時 (データ)
データ : 00000000000000
バーコード種 : JAN13
高さ : 10mm
細バー幅 : 4 倍
解説文字付加 :
C/D 自動付加 :

※ 「C/D 自動付加」 にチェックを入れることにより、e-Label Print でデータ入力時、最終桁にチェックデジットが自動的に計算されて付加されます。

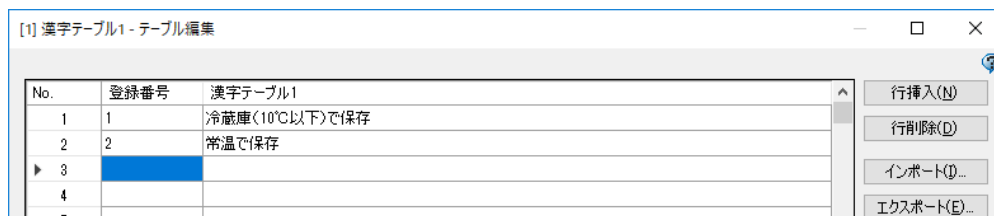
10. 保存方法用のテーブルを作成します。

保存方法メッセージ項目は、テーブル機能を使用しています。まずは、参照するためのテーブルを作成します。

① 「プロジェクトウィンドウ」>「漢字テーブル」の順で、テーブル登録画面を開きます。

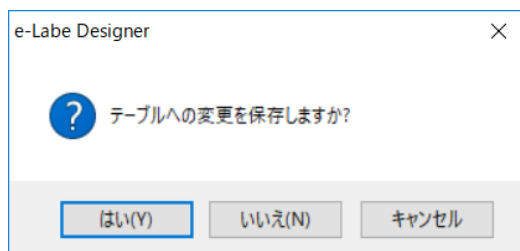


② テーブルデータを登録します。

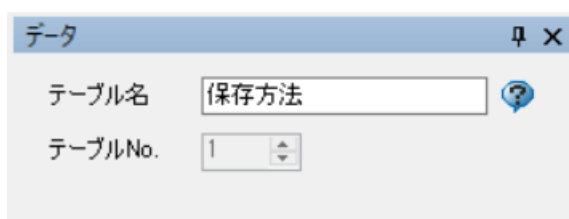


登録番号は e-Labe Print で入力する番号、値はその番号に対して変換され印字されるデータです。
例) e-Labe Print で“2”と入力 →“常温で保存”と印字

③ 登録が完了したら画面右下の「閉じる」ボタンをクリックし、テーブルを保存して画面を閉じます。



④ データウィンドウでテーブル名を設定します。テーブル No.は変更できません。



11. 保存方法項目を貼り付けます。

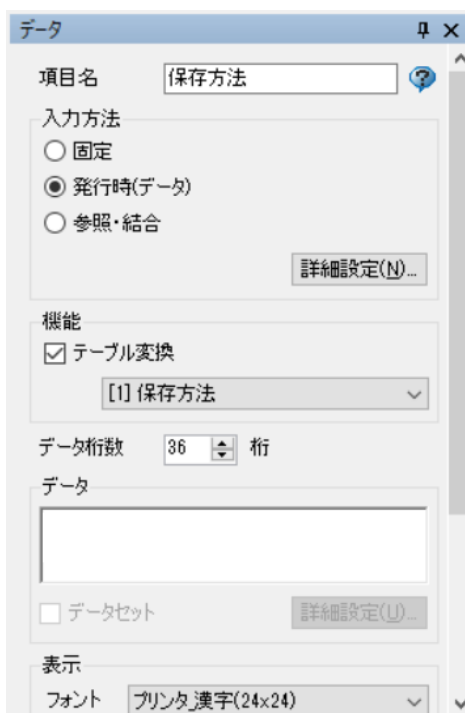
- ① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。

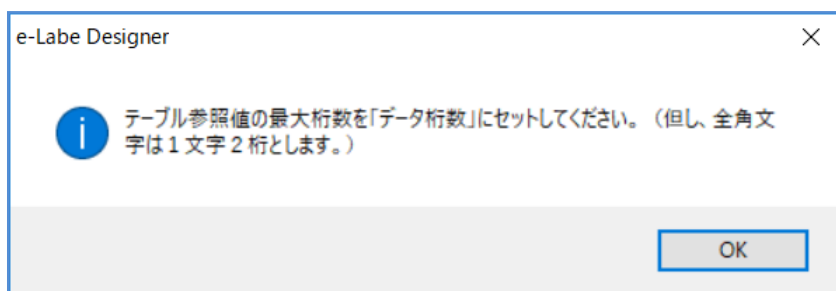


- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：保存方法
入力方法：発行時（データ）
機能：テーブル変換 ✓
テーブル：「1」保存方法
データ桁数：24 桁
データ：
フォント名：プリンタ_漢字（24×24）
縦サイズ：2 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0.0pt

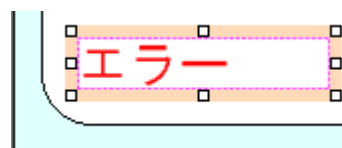
「テーブル変換」選択時に、以下のメッセージが表示されます。



「テーブル参照値の最大桁数を「データ桁数」にセットしてください。(ただし、全角文字は1文字2桁とします。)」

データ桁数にセットする値は、参照中のテーブルの“値”の最大桁数をセットする必要があります。テーブルの登録を更新した際などに、セットした最大桁数を超えてしまうと、右図の様に“エラー”として表示されます。

エラーになった場合は、テーブルの“値”の最大桁数にデータ桁数を変更してください。



12. “税込価格”文字を貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：税込価格固定
入力方法：固定
データ：税込価格
フォント名：プリンタ_漢字 (32x32) “8pt 相当”
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt

13. 税込価格を貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「価格」をクリックして、「価格」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



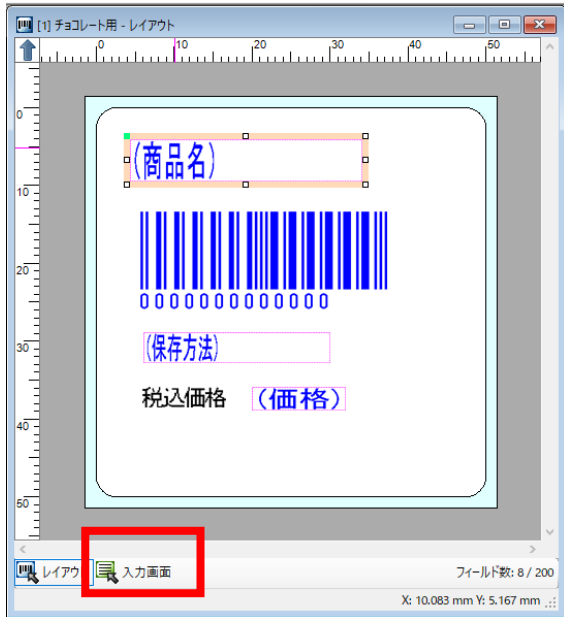
- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：価格
入力方法：発行時（データ）
データ行数：4 桁
データ：
フォント名：プリンタ_価格文字 24×36
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：0pt
通貨書式：¥1,234

14. e-Labe Print の入力画面を設計します。

- ① 「入力画面」タブをクリックして、e-Labe Print の入力画面設定を開きます。



- ② クリックで「保存方法」行を選択し、「下へ移動」ボタンで「価格」との入力順番を入れ替えます。



	入力方法	項目名	表示オプション	データ
1	入力	商品名		(商品名)
2	入力	JAN13		00000000000000
3	入力	価格		(価格)
4	入力	保存方法		(保存方法)
▶ 5	入力	(発行枚数)		

e-Labe Print 画面

 0001 チョコレート用

商品名

JAN13

価格

保存方法

1	2	3	BS
4	5	6	C
7	8	9	0

枚

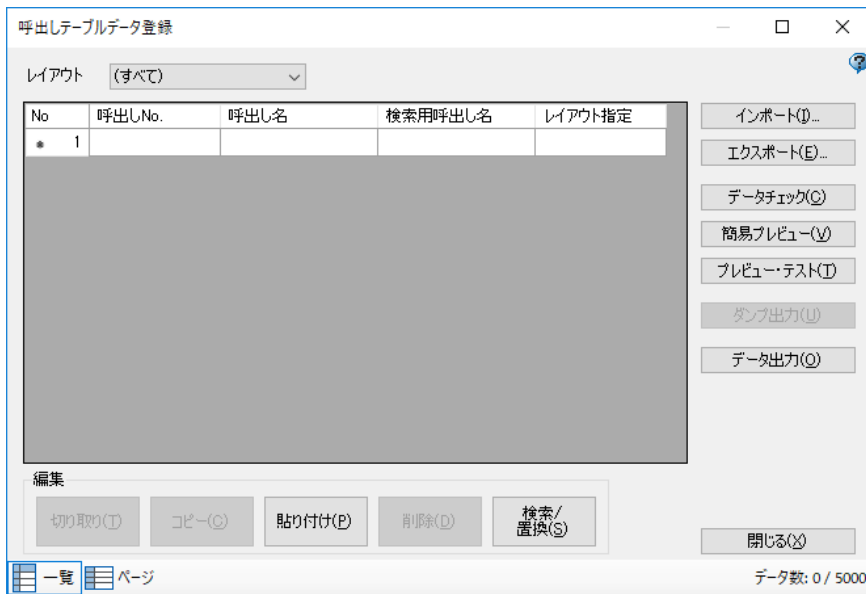
15. 呼出しテーブルデータを登録します。

呼出しテーブルデータに、e-Labe Print で呼び出すための、呼出し No.等を登録します。

レイアウトに貼り付けたオブジェクトのデータを、呼出しテーブルデータと紐付ける場合は、まず呼出しテーブル定義に紐付ける項目を登録する必要があります。

今回は、オブジェクトのデータを、呼出しテーブルデータと紐付けは行っていませんが、e-Labe Print で呼び出すための呼出し No.等最低限必要なデータを登録する必要があります。

① プロジェクトウィンドウ > 「呼出しテーブル」の順に、呼出しテーブル登録画面を開きます。

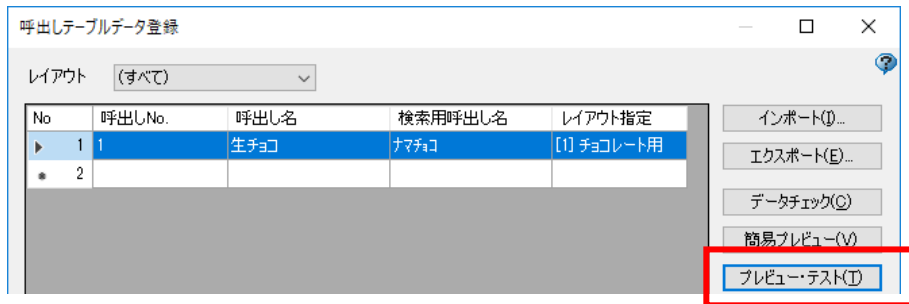


② 「呼出し No.」、「呼出し名」、「検索用呼出し名」、「レイアウト指定」にデータを登録します。



16. プレビューでレイアウトを確認します。

- ① 呼出しテーブルデータ登録画面の「プレビュー・テスト発行」ボタンをクリックし、プレビュー・テスト発行画面を表示します。

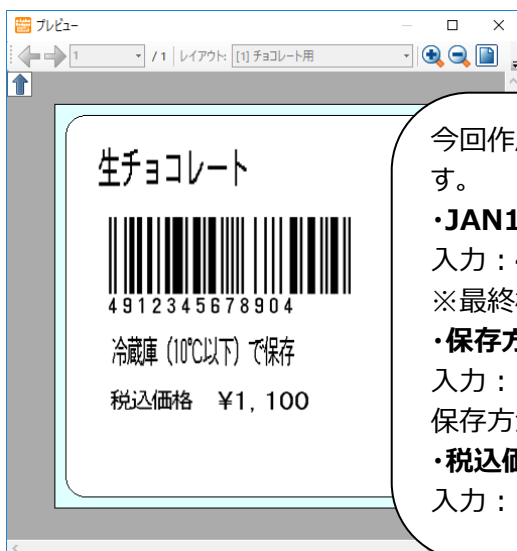


- ② 各項目の入力値に印字データを入力します。



商品名：生チョコレート
JAN13：491234567890
価格：1100
保存方法：1
発行枚数：1

- ③ 「プレビュー」ボタンを押して、印字プレビューを表示します。



今回作成したレイアウトのプレビュー結果には、以下の内容が反映されています。

・**JAN13・・・CD 計算**

入力：491234567890 ⇒ プレビュー：4912345678904

※最終桁 C/D (チェックデジット) 付加

・**保存方法・・・テーブル**

入力：1 ⇒ 冷蔵庫 (10℃以下) で保存してください

保存方法テーブル (漢字テーブル) の登録番号“1”の“変換値”をセット

・**税込価格・・・¥, 補填**

入力：1100 ⇒ 印字：¥1,100

プリンタがオンラインで接続されている環境であれば、「プリンタ」で設定したプリンタドライバを経由してプリンタからラベルを発行することが可能です。

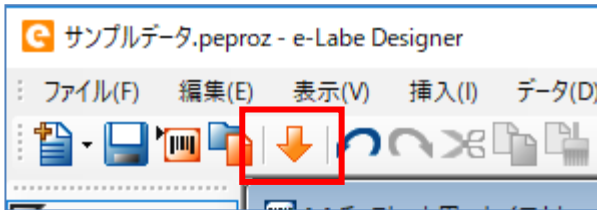
プリンタドライバは株式会社サトーのホームページ (<http://www.sato.co.jp>) からダウンロードできます。

17. データを出力します。

e-Labe Designer で作成したデータを e-Labe Print で呼出すためには、データ出力をする必要があります。

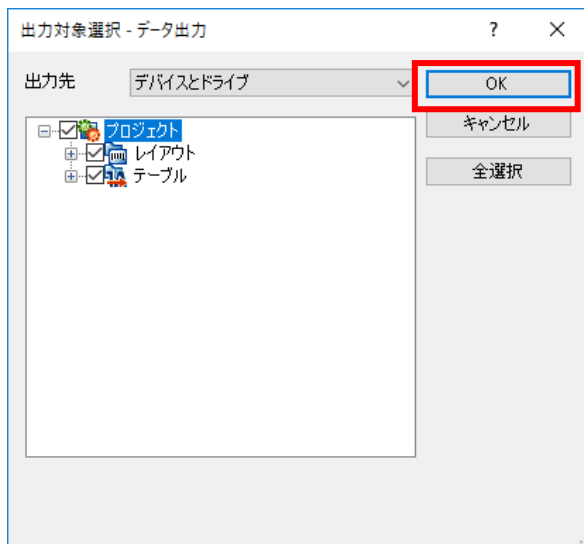
この作業で、Designer で作成したレイアウト、テーブル、その他の情報を Print で呼出せるフォーマット形式 (*.pefmtz ファイル) に変換します。

- ① ツールバーの「データ出力」ボタンをクリックし、データ出力画面を表示します。



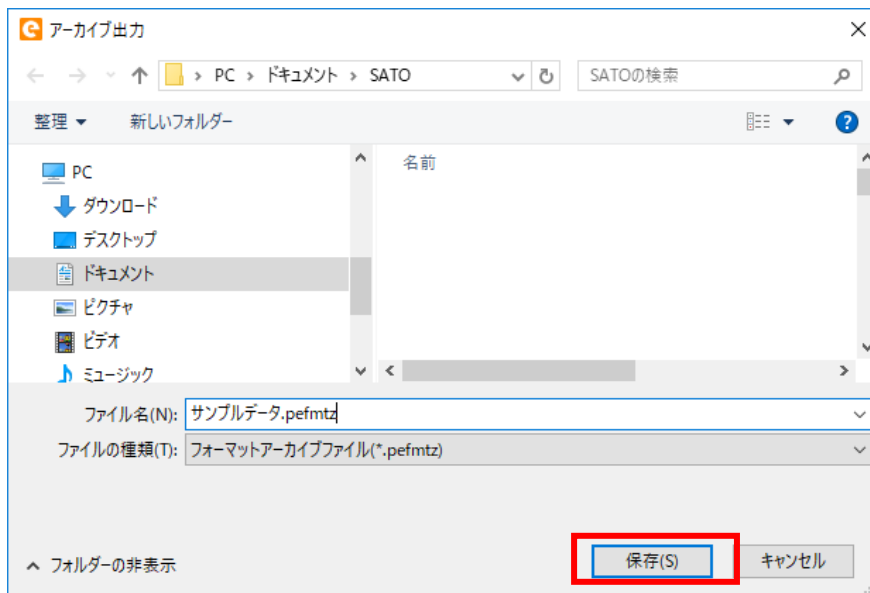
メニューバーの「ファイル」>
「データ出力」からでも同様の画面が開けます。

- ② 出力先「デバイスとドライブ」を選択し、データ出力内容を確認し、OK ボタンをクリックします。
初期状態では、全てのファイルが出力対象となります。

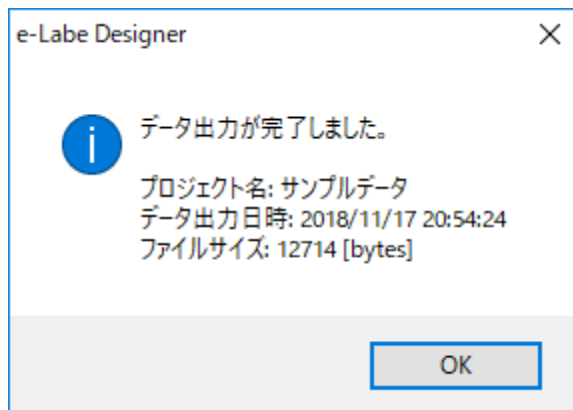


差分のみにチェックを入れた状態で OK ボタンを押すと、
前回の出力から変更があったデータのみを出力します。
データが大量にある場合に、出力時間の短縮が図れます。

- ③ アーカイブ出力画面で、保存先、ファイル名を指定して「保存」ボタンをクリックします。



- ④ 出力が完了すると、データ出力完了のメッセージが表示されますので、「OK」ボタンをクリックして、作業を終了します。



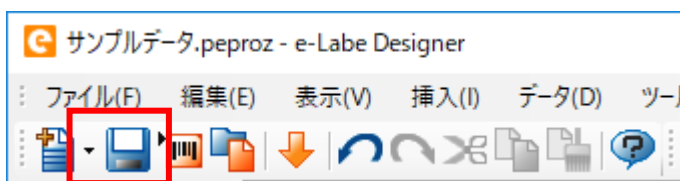
[出力したフォーマットファイル]



サンプルデータ.
pefmtz

18. プロジェクトを上書き保存します。

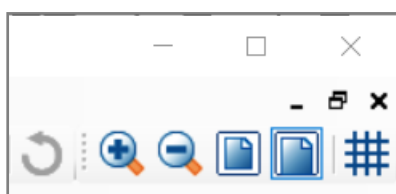
ツールバーの「プロジェクト上書き保存」ボタンをクリックし、プロジェクトを保存します。



メニューバーの「ファイル」>「プロジェクト上書き保存」でも同様の操作が行えます。

19. e-Labe Designer を終了します。

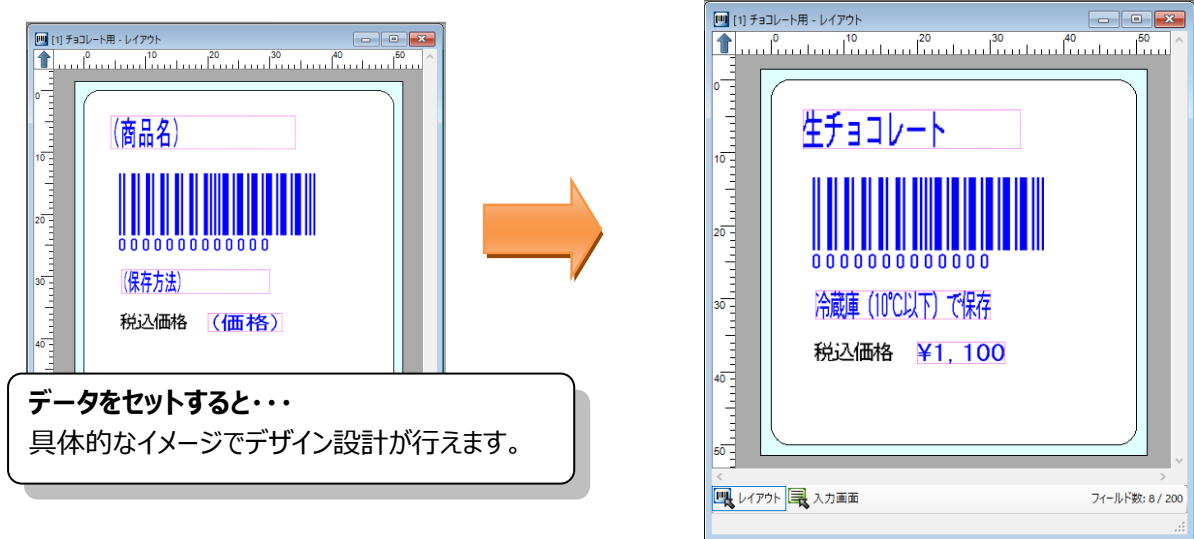
画面右上の「×」ボタンをクリックし、e-Labe Designer を終了します。



メニューバーの「ファイル」>「終了」でも同様の操作が行えます。

より分かりやすいイメージでデザインするには？

印刷する値をレイアウト上でセットすることで、実際の印字に近いイメージでのデザインが可能です。入力が発行時（データ）の項目については、データ部分に値を入力するとそのまま画面に反映されます。



また、データにセットされた値は、e-Labe Print で入力画面での初期値として表示することが可能です。

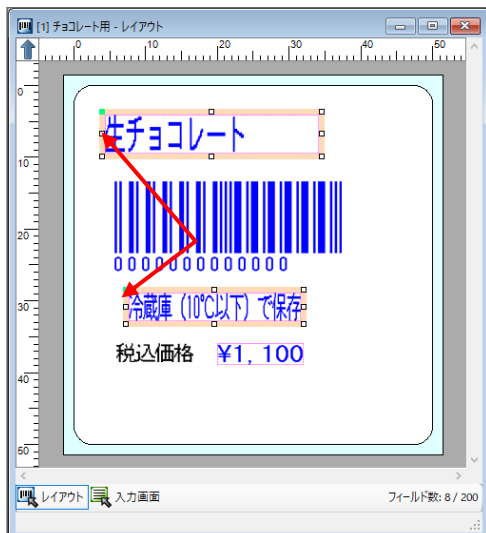
よく入力するデータを予めセットしておけば、e-Labe Print での入力操作を省くことができます。

印字位置を揃えるには？

複数のオブジェクトの位置を揃えたり、等間隔に配置したりすることが可能です。

複数のオブジェクトを選択し、ツールバーの位置合わせボタンをクリックすると、簡単に位置合わせが行えます。

キーボードの Shift (シフト) キーを押しながら、オブジェクトをクリックすると、複数のオブジェクト選択が可能です。

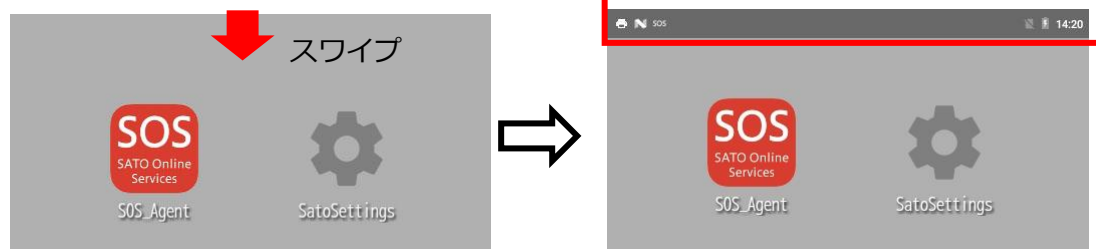


2.フォーマットファイルを USB ケーブル経由で FX3-LX にコピー

先に作成してデータ出力したフォーマットファイルを、USB ケーブル経由で FX3-LX にコピーする手順を説明します。

1. コンピュータと FX3-LX を USB インタフェースで接続します。
2. FX3-LX のホーム画面上部を下にスワイプします。

ステータスバーが表示されます。



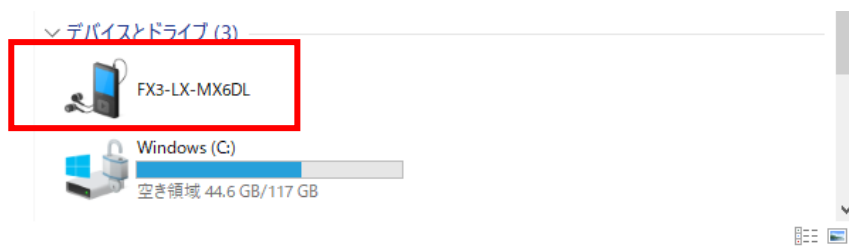
3. ホーム画面上部をもう一度下にスワイプします。

クイック設定パネルが表示されます。



4. 「USB をファイル転送に使用」が表示されていることを確認します。
5. コンピュータのエクスプローラから「PC」を開き、「デバイスとドライブ」>「FX3-LX-MX6DL」をダブルクリックします。

Windows 10 を例にしています。OS によってはメニュー名が異なる場合があります。



注意

- ・ 初めて FX3-LX をコンピュータと接続すると、自動的にドライバのインストールがおこなわれます。このため、アイコンが表示されるまで時間がかかる場合があります。

- ・ 「FX3-LX-MX6DL」 をダブルクリックしても中身が表示されない場合は、手順 2 からやり直してください。

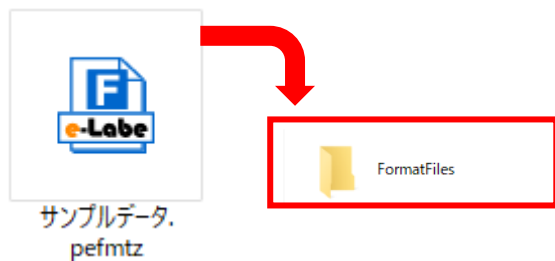
6. 「内部共有ストレージ」 > 「SATO」 > 「FormatFiles」 フォルダを選びます。



注意

「SATO」 > 「FormatFiles」 フォルダがない場合は、手動で作成してください。

7. フォーマットファイルを「FormatFiles」フォルダにコピーします。



以上で、FX3-LX への登録（プリセット）は完了です。

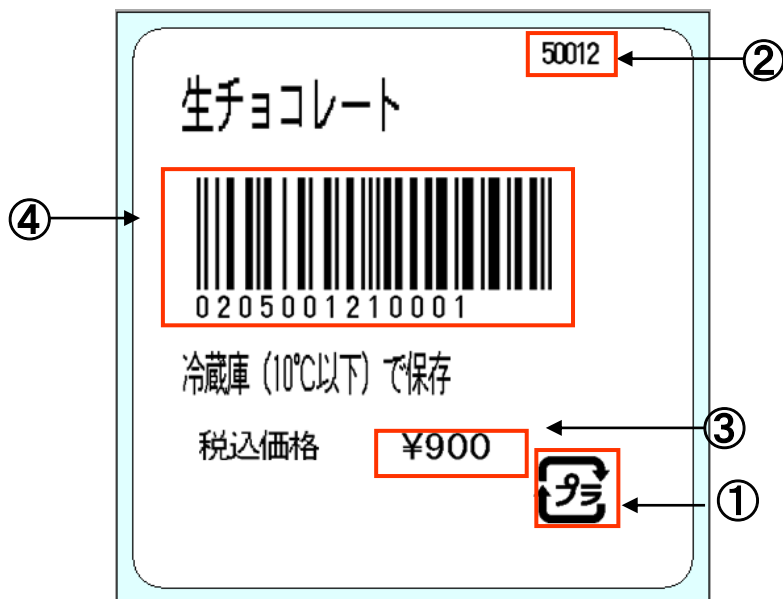
注意

必ずフォーマットファイルをコピーしてください。プロジェクトファイルは e-Labe Print で読み込むことができません。

フォーマットファイルは「F」マークのアイコンで拡張子「.pefmtz」のファイルです。

3.複雑なレイアウトの作成

先に作成したレイアウトを利用して、下図の項目を追加・変更する手順を説明します。



印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	固定グラフィック	グラフィック	
②	商品コード	e-Labe Print で入力	
③	価格 (税込価格)	本体価格からの自動計算	未印字で本体価格項目作成
④	バーコード	固定+参照	JAN13、チェックデジット自動付加、複数項目結合
バーコード構成 “02” (固定) + 商品コード 6 桁 (入力) + 価格 4 桁 C/D			

6. [1.基本的なレイアウトの作成]で作成したファイルを開きます。

e-Labe Designer のファイルは、ファイルのダブルクリックで開くことができます。

作成されたファイルの拡張子は、peproz※になります。

エクスプローラ用のアイコンは、右になります。



e-Labe
Designer

※プロジェクトをアーカイブせずに保存した場合の拡張子は、peproj になります。

e-Labe Designer 起動> 「参照」> ファイル選択でも同様の操作が行えます。

2. 前回作成したレイアウトファイルを指定します。

プロジェクトウィンドウで、レイアウトファイルを指定します。

+で表示されている箇所は、クリックで展開が可能です。

プロジェクト

- プロジェクト
- 呼び出しテーブル
- レイアウト
 - [1] チョコレート用
- テーブル
 - [1] 保存方法
 - [2] 漢字テーブル2
 - [3] 漢字テーブル3
 - [4] 漢字テーブル4
 - [5] 漢字テーブル5
 - [90-93] 店名テーブル

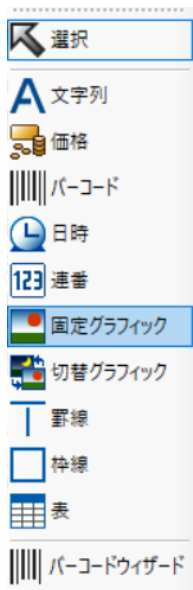
レイアウト数: 1 / 99

フィールド数: 8 / 200

プロジェクト保存 - 完了

3. グラフィックデータを貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「固定グラフィック」をクリックして「固定グラフィック」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



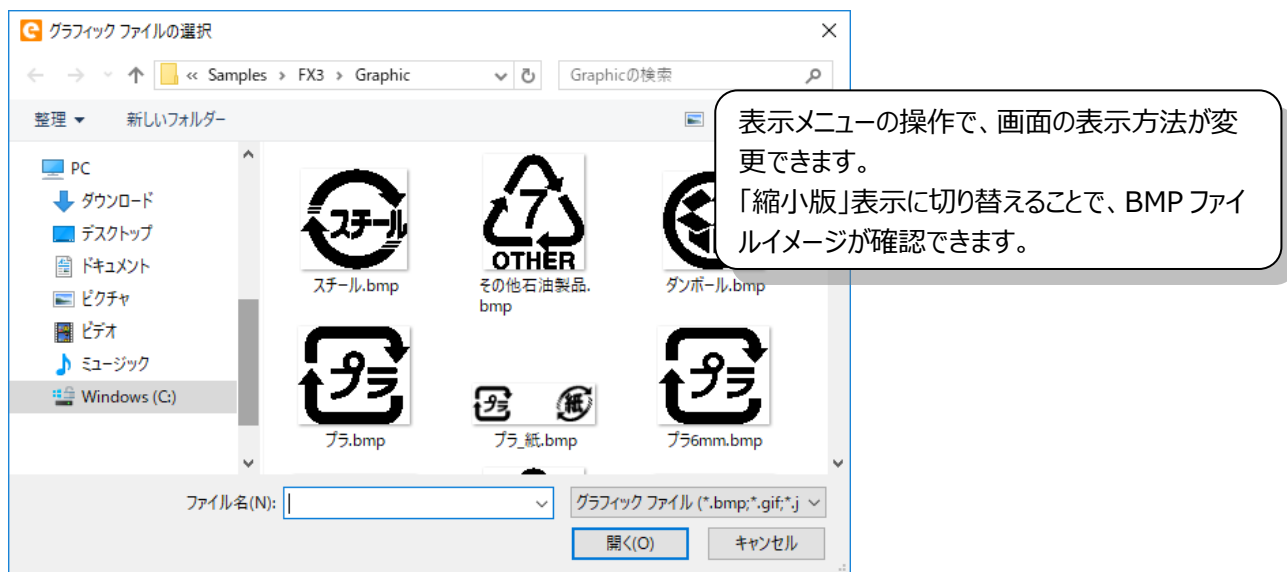
固定グラフィックオブジェクトは、マウスドラッグで位置の移動、サイズ（倍率）変更が可能です。初期画像で **SATO** マークが貼りつきます。

- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：プラマーク
入力方法：埋め込みグラフィック
サイズ：倍率指定 100%×100%

④ 「選択」ボタンを押して埋め込みグラフィックを取込みます。



初期状態で参照されるフォルダは、e-Labe Designer インストールパスの、各プリンタのサンプルグラフィックフォルダになります。

グラフィックデータを貼り付ける際の注意点・・・

グラフィックデータを 100%以外のサイズに設定すると、粗くなったり、つぶれたりしてしまいます。

グラフィックをよりよい状態で印字するためには、実際の印字サイズ (mm) ×プリンタのヘッド密度のピクセルデータを用意する必要があります。

4. JAN13の構成を変更します。

まず、バーコードを構成する項目を新規に作成します。

1) 本体価格項目の作成

① オブジェクトバーの「価格」をクリックして、「価格」を選択状態にします。



② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



今回は、印字位置情報等は影響しません。

③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：本体価格
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：4 桁
データ：
フォント情報は設定する必要ありません
印字しない：✓

2)商品コード項目の作成

- ① オブジェクトバーの「文字列」をクリックして、「文字列」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。



- ③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



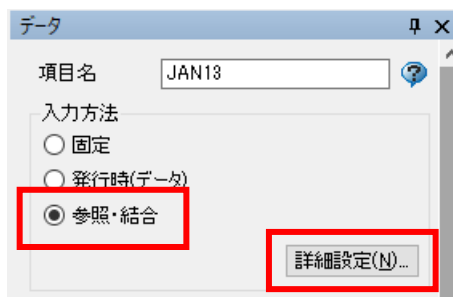
項目名：商品コード
入力方法：発行時（データ）
データ桁数：6桁
データ：
フォント名：プリンタ_X2（12X30）
縦サイズ：1倍、横サイズ：1倍
文字間：0pt

3) JAN13 の構成を変更します。

① デザイン画面上の JAN13 をクリックします。



② 入力方法を「参照・結合」に変更し、「詳細設定」ボタンをクリックします。



③ バーコードの構成を設定し、「OK」ボタンで画面を閉じます。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	固定	02		2	
2	参照	商品コード	1	6	右詰め0補填
3	参照	本体価格	1	4	右詰め0補填
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					

合計 12 桁

上へ(U) 下へ(D) 追加(A) 削除(D) 閉じる(C)

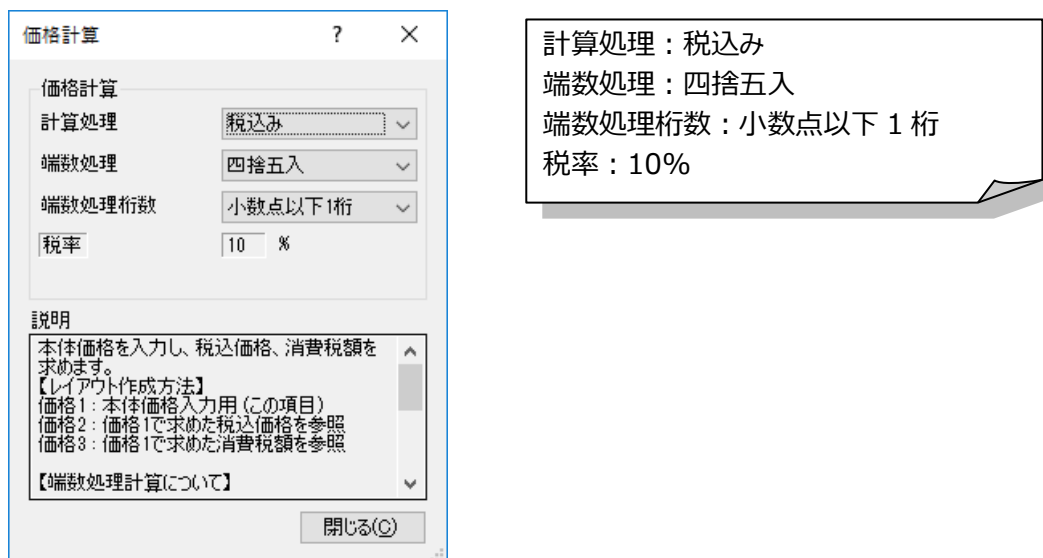
- 1.種類：固定
データ：02
- 2.種類：参照
データ：商品コード（リストから選択）
開始桁：1、桁数：6
右詰め0補填
- 3.種類：参照
データ：本体価格（リストから選択）
開始桁：1、桁数：4
右詰め0補填

5. 本体価格から税込み価格を計算させるように変更します。

- ① 4)-①で作成した本体価格項目の 「価格計算機能を使用」 にチェックを入れます。



- ② 「詳細設定」 ボタンをクリックし、価格計算設定画面を開いて以下を設定します。



※税率の変更は、レイアウト設定から行ってください

6. 税込み価格を本体価格から参照させるように変更します。

- ① レイアウト上の「価格」項目をクリックして、「価格」を選択状態にします。



- ② データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。



項目名：価格
入力方法：参照
 本体価格（税込価格）
フォント名：プリンタ_価格文字（24×36）
縦サイズ：1 倍、横サイズ：1 倍
文字間：Opt

価格計算機能 ON 時の参照では、計算後の値が参照できます。

「税込み」を選択した場合は、「税込価格」、「消費税額」が選択できるようになります。

● 参照	[税率: 10%]本体価格(税込価格) ▼
	本体価格
	[税率: 10%]本体価格(税込価格)
	[税率: 10%]本体価格(消費税額)

参照リストに表示される項目名は・・・

[税率: 10%]本体価格 (税込価格)
税率 ↗ 項目名 ↗ ← 計算後の値

5-②で「税込み (小数)」を選択した場合は「税込価格整数部」、「税込価格小数部」が選択できるようになります。

● 参照	[税率: 10%]本体価格(税込価格整数部) ▼
	本体価格
	[税率: 10%]本体価格(税込価格整数部)
	[税率: 10%]本体価格(税込価格小数部)

「税抜き」を選択した場合は、「税抜価格」、「消費税額」が選択できるようになります。

● 参照	[税率: 10%]本体価格(税抜価格) ▼
	本体価格
	[税率: 10%]本体価格(税抜価格)
	[税率: 10%]本体価格(消費税額)

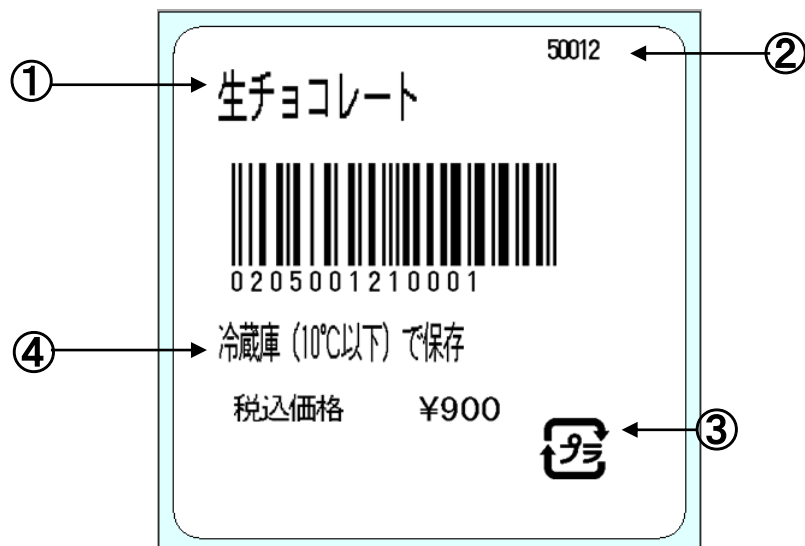
また、レイアウト設定画面で「値引率」を選択した場合は、5-②で「パーセント引き」を選択でき、参照できる値は「値引き後価格」、「値引き額」になります。

● 参照	[値引率: 10%]本体価格(値引き後価格) ▼
	本体価格
	[値引率: 10%]本体価格(値引き後価格)
	[値引率: 10%]本体価格(値引き額)

4. 呼出しテーブルの設定

レイアウトの中で、商品名や価格など品目によって値が変わるものは、「データセット」フィールドにすることで呼出しテーブルで値の設定が可能となります。

先に作成したレイアウトの四つの項目をデータセット項目に変更します。

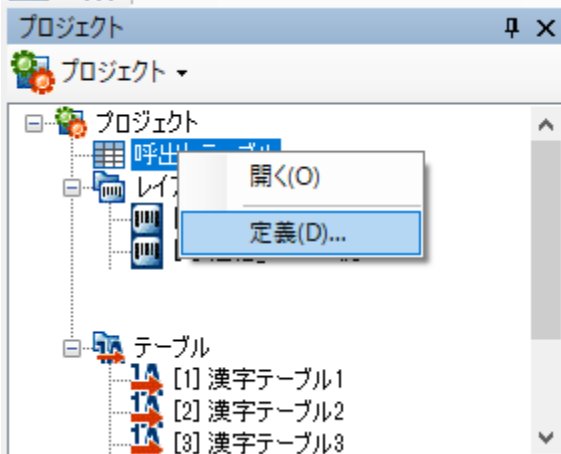


印字内容

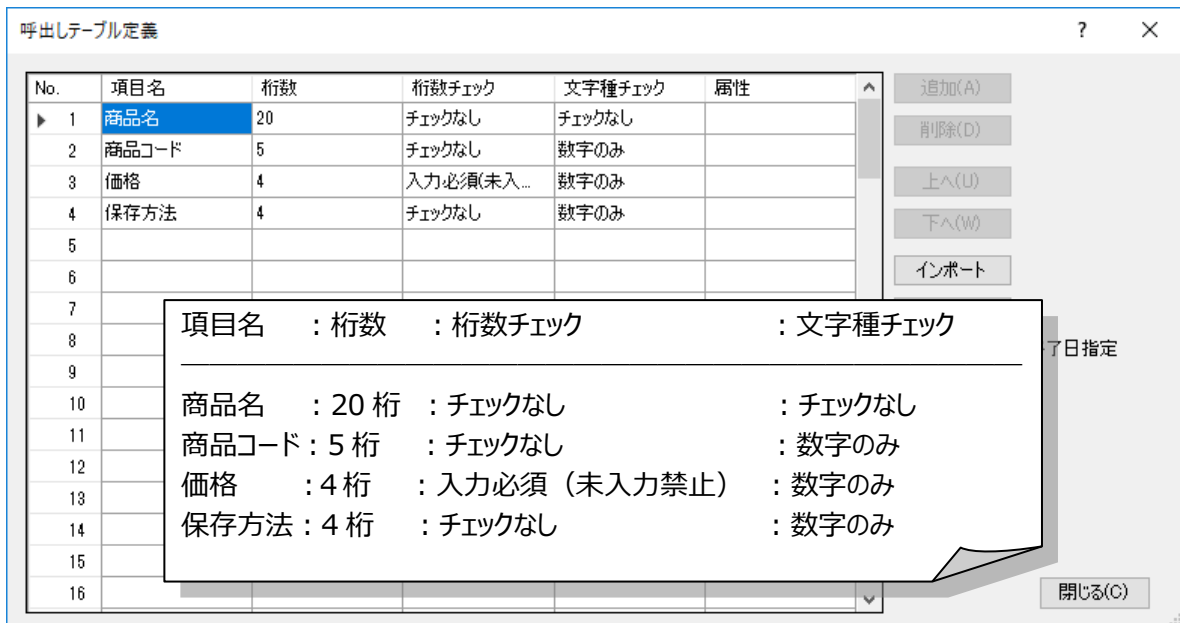
No.	データ	入力方法	備考
①	商品名	データセット	
②	商品コード	データセット	
③	価格	データセット (本体価格から参照)	
④	保存方法	テーブル	

1. 呼出しテーブル定義を設定します。

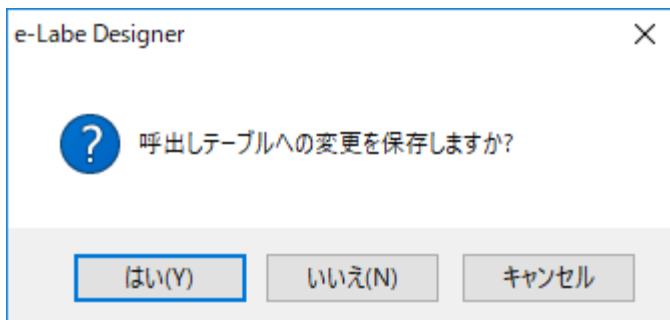
- ① プロジェクトの呼出しテーブルを右クリックして「定義」を選択します。



- ② 「商品名」「商品コード」「価格」「保存方法」の呼出しテーブルフィールドを作成します。



- ③ 「閉じる」ボタンをクリックして変更を保存して画面を閉じます。

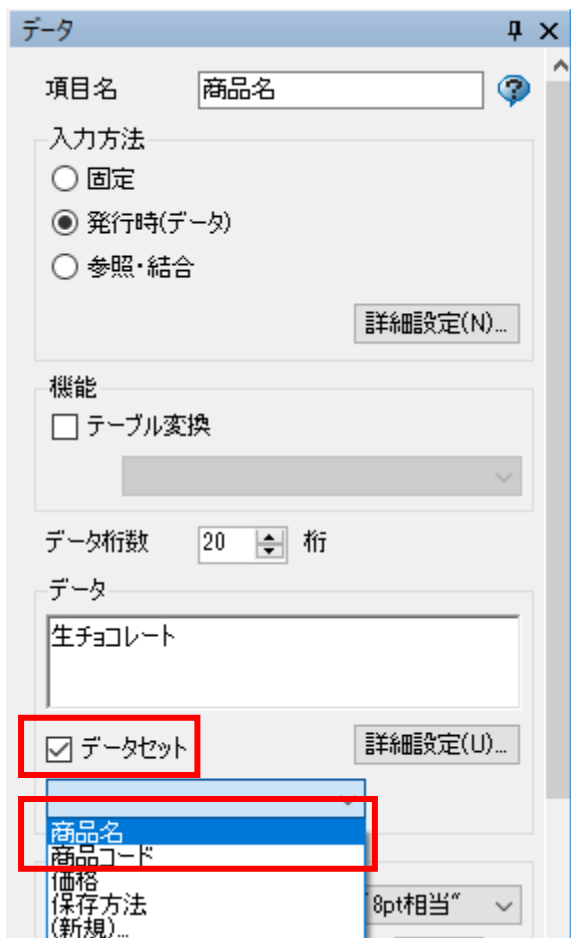


2. 項目をデータセット項目に変更します。

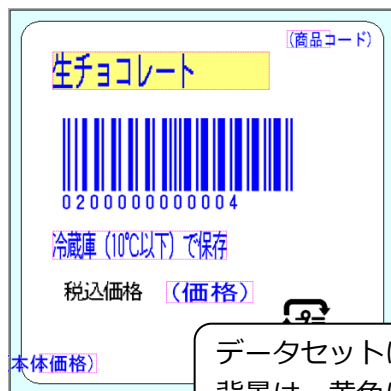
- ① 品名項目を選択します。



- ② データウィンドウで「データセット」項目に✓をいれ、リストボックスから「商品名」を選択します。



追加設定
データセット：✓
データセット項目：商品名

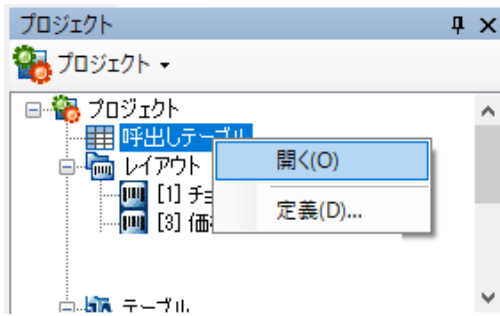


- ③ “本体価格”、“商品コード”、“保存方法”の項目も同様の操作を行います。
“価格”項目は、“本体価格”を参照しているため、参照元である“本体価格”項目にチェックする必要があります。

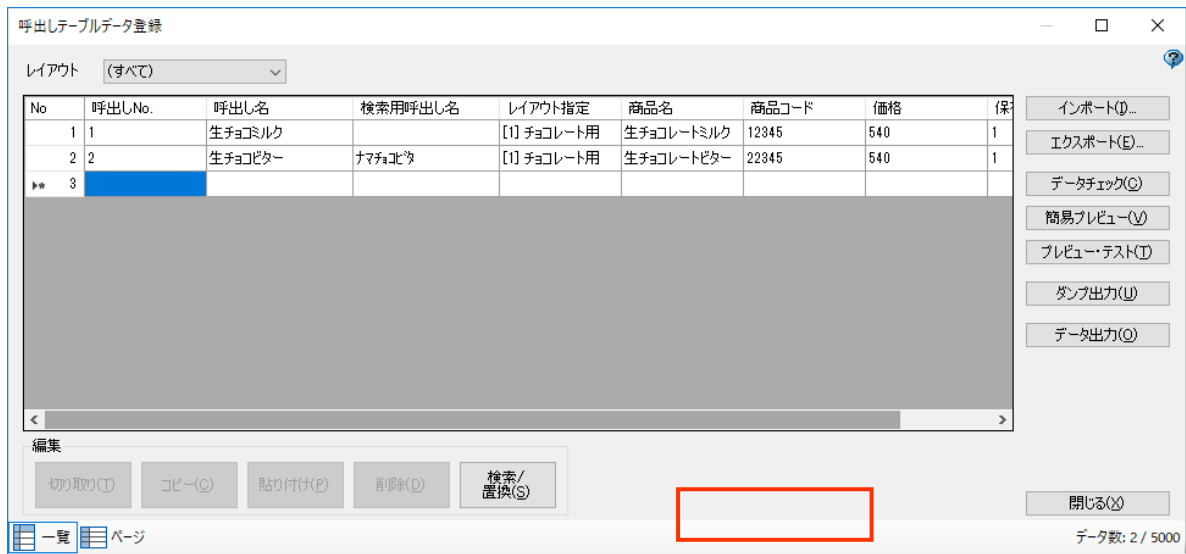
(商品コード)	
生チョコレート	
	
02000000000004	
冷蔵庫 (10°C以下) で保存	
税込価格	(価格)
	
[本体価格]	

3. 呼出しテーブルデータを登録します。

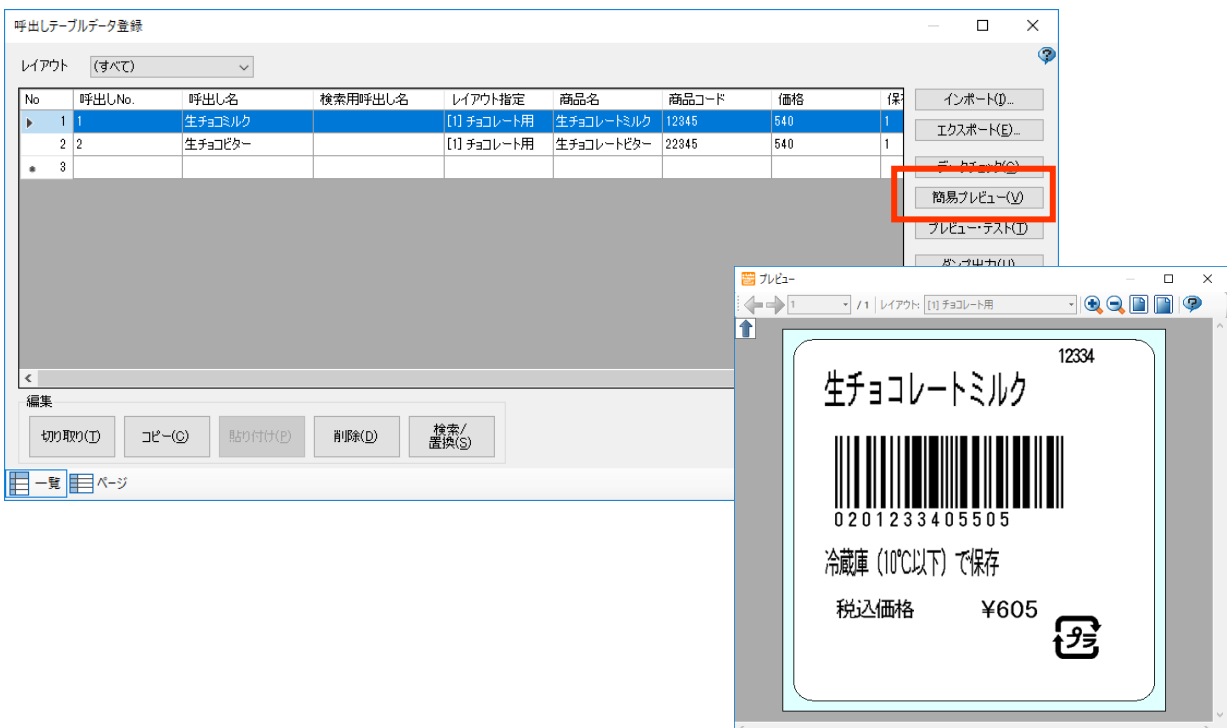
- ① プロジェクトの呼出しテーブルを右クリックし「開く」を選択します。



- ② 各項目に呼出しデータを登録します。



- ③ 簡易プレビューボタンを押すと、選択行のデータセット状態のプレビューを確認できます。



「データチェック」を押すと、登録したデータのエラーを確認できます。
エラーがあった項目は赤く表示されます。

呼び出しテーブルデータ登録

レイアウト (すべて)

No	呼び出しNo.	呼び出し名	検索用呼び出し名	レイアウト指定	商品名	商品コード	価格	保
1	1	生チョコミルク		[1] チョコレート用	生チョコレートミルク	12345	540	1
2	2	生チョコピター		[1] チョコレート用	生チョコレートピター	22345	540	1
3		生チョコ苺		[1] チョコレート用	生チョコレート苺	34345		
▶*	4							

インポート(I)...
エクスポート(E)...
データチェック(C)
簡易プレビュー(V)
プレビュー・テスト(T)
ダンプ出力(U)
データ出力(O)
開じる(O)

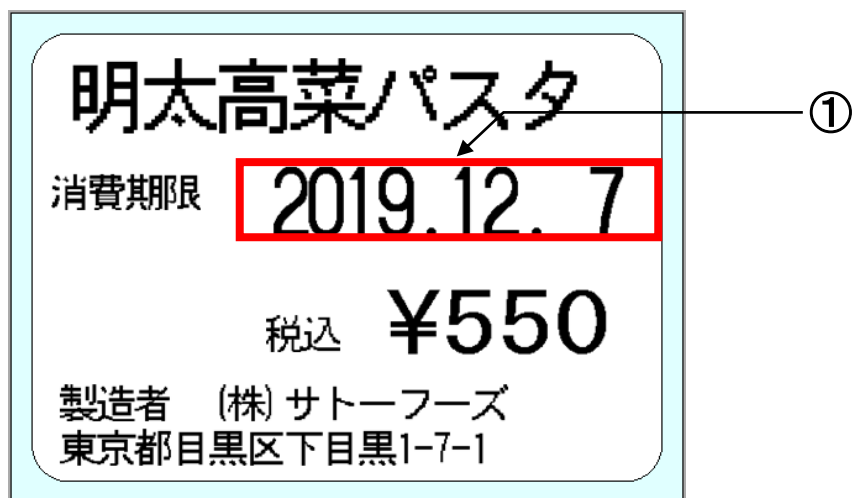
編集
切り取り(T) コピー(C) 貼り付け(P) 削除(D) 検索/置換(S)

一覧 ページ

データ数: 3 / 5000

5.日付入りのレイアウト作成手順

賞味期限などの日付入りのレイアウトを作成する手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

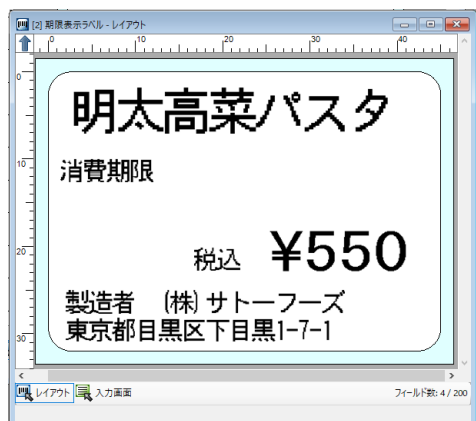
印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	消費期限	e-Labe Print で入力	現在の日付+1 日

用紙情報

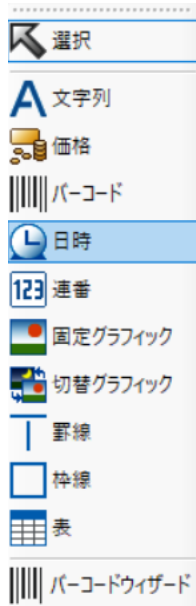
縦 32mm×横 45mm、バーラベフリーラベル

1. 消費期限以外の項目を貼り付けます。

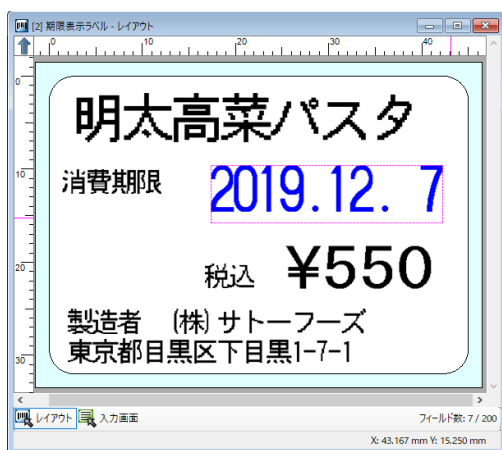


2. 消費期限項目を貼り付けます。

- ① オブジェクトバーの「日時」をクリックして、「日時」を選択状態にします。



- ② デザインウィンドウ内の用紙イメージをクリックして、オブジェクトを貼り付けます。
日時オブジェクトは、ドラッグで位置の移動が可能です。



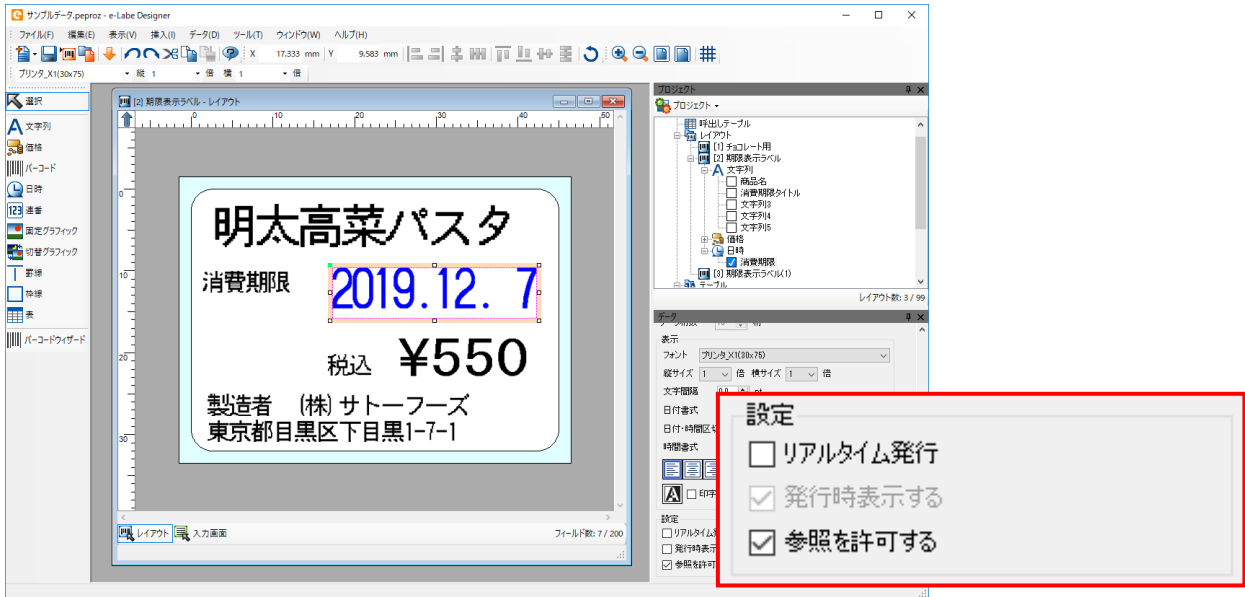
③ データウィンドウでオブジェクトの詳細設定を行います。

項目名：消費期限
入力方法：加算あり
加算： 1 日
フォント名：プリンタ_X3 (20x32)
縦サイズ：2 倍、横サイズ：1 倍
文字間：1.9pt
日付書式：2018. 4. 1
時間書式：(なし)

「加算あり」を設定した日時オブジェクトは、現在の日時に、加算した日付、時間を反映した値でデザイン画面に表示されます。

別のオブジェクトで日時の値を参照する方法について

バーコードや文字列などに、数字のみで構成された日時を表示する場合は、「設定」の「参照を許可する」にチェックを入れます。



文字列やバーコードオブジェクトの「参照・結合」の中の“参照”で、作成した日時オブジェクトの値の書式を指定しながら参照することができます。

参照された値は右詰 0 補填されます。

また、「加算あり」に指定した日時オブジェクトを参照した場合、加算後の日時が表示されます。



例えば、賞味期限項目の値を西暦 2 桁+月+日+時間（24 時間表記）でバーコードに反映させる場合、以下の様な設定で表示が可能です。

No.	種類	データ	開始桁	桁数	補項種別
1	参照	消費期限(年-2桁)	1	2	右詰め0補填
2	参照	消費期限(月)	1	2	右詰め0補填
3	参照	消費期限(日)	1	2	右詰め0補填
4	参照	消費期限(時間-24時...	1	2	右詰め0補填

6.バーコード検索機能の設定手順

接続されたスキャナを使用し、予め発行されたバーコードを読み込み、アイテムを検索できるバーコード発行機能のレイアウト作成手順を説明します。



レイアウトは、下記の項目で構成されています。

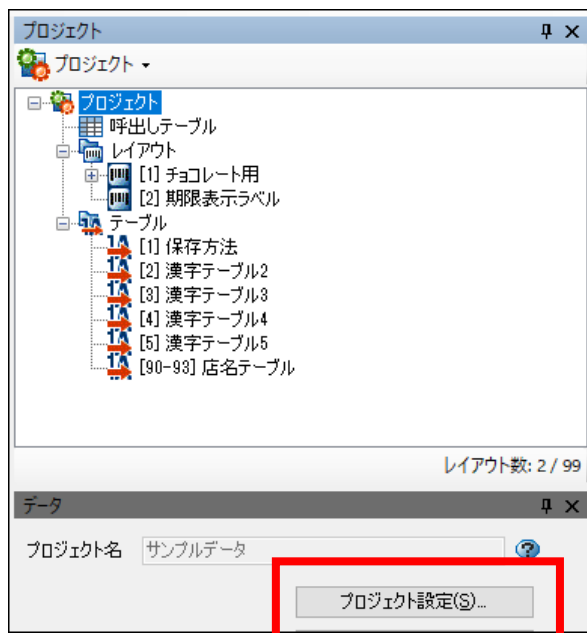
印字内容

No.	データ	入力方法	備考
①	商品コード	固定+データセット	

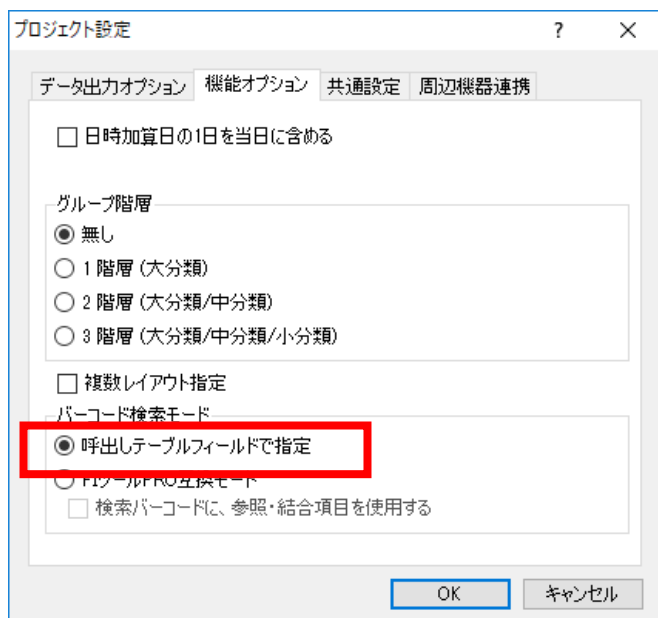
用紙情報

縦 50mm×横 50mm、バーラベフリーラベル

1. 実用編「4.呼出しテーブルの設定」で作成したプロジェクトファイルのプロジェクト設定を開きます。

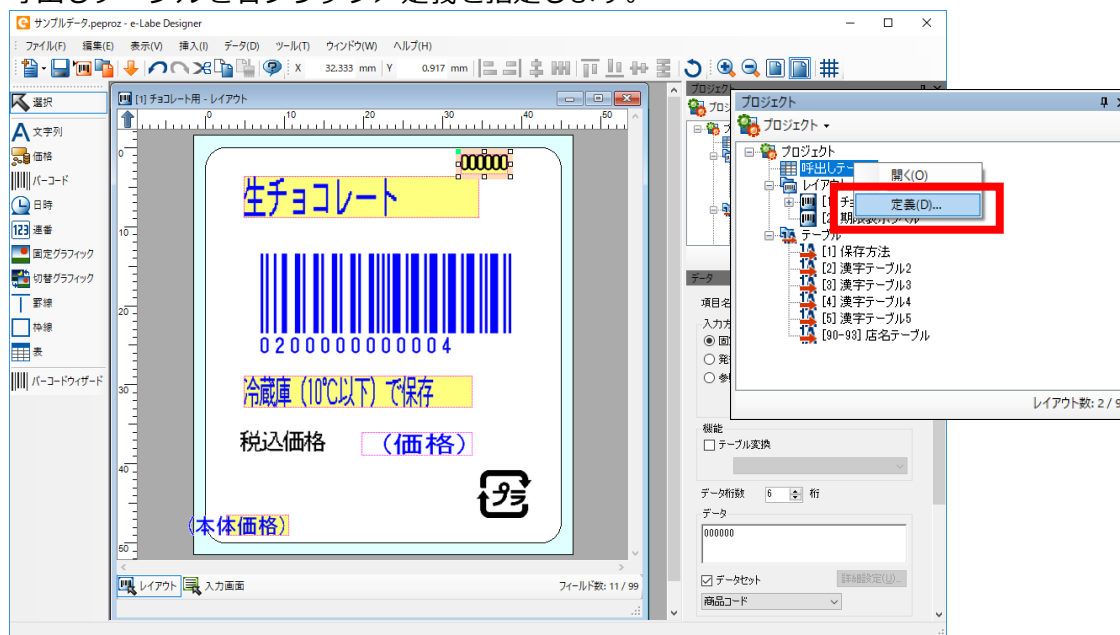


2. 「バーコード検索モード」が「呼出しテーブルフィールドで指定」になっていることを確認します。なっていない場合は、選択します。

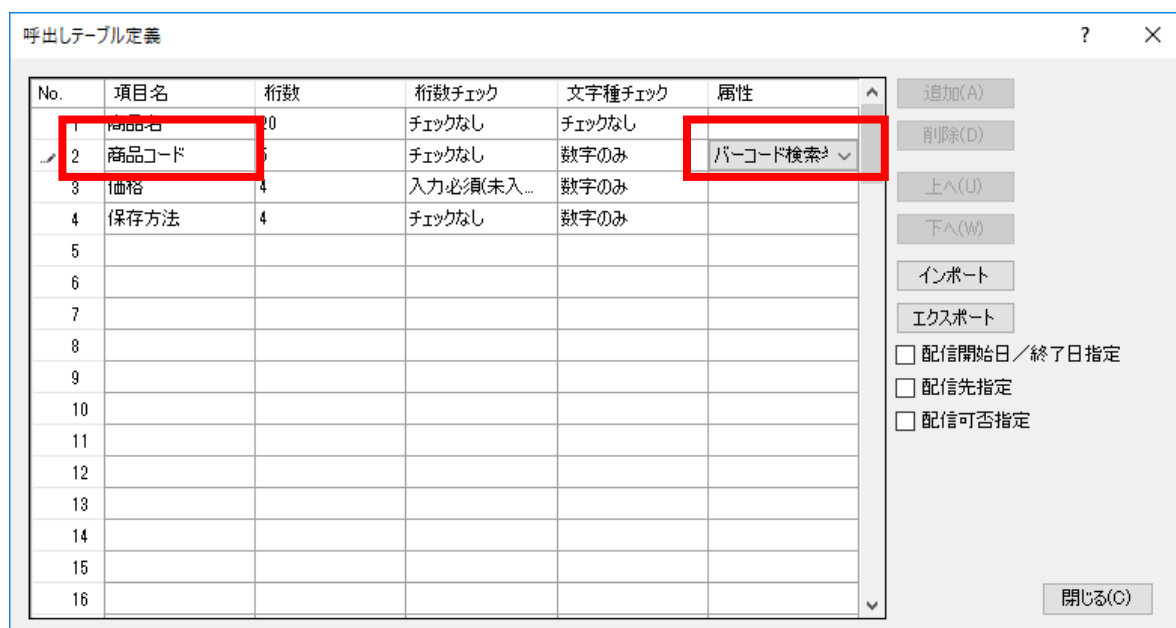


3. 呼出しテーブル定義を開きます。

呼出しテーブルを右クリック> 定義を指定します。

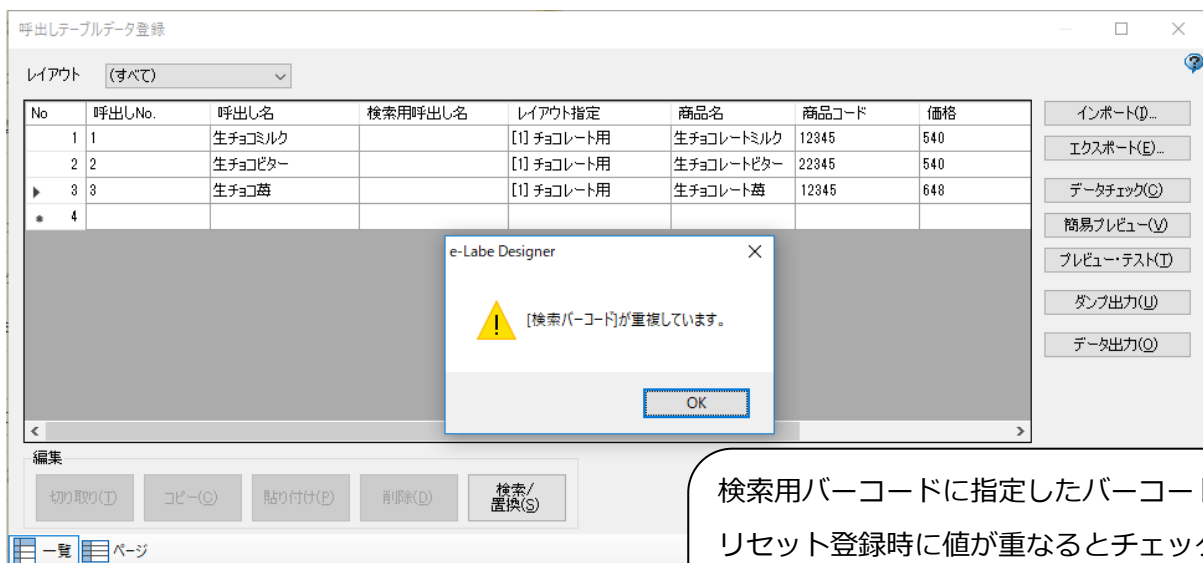
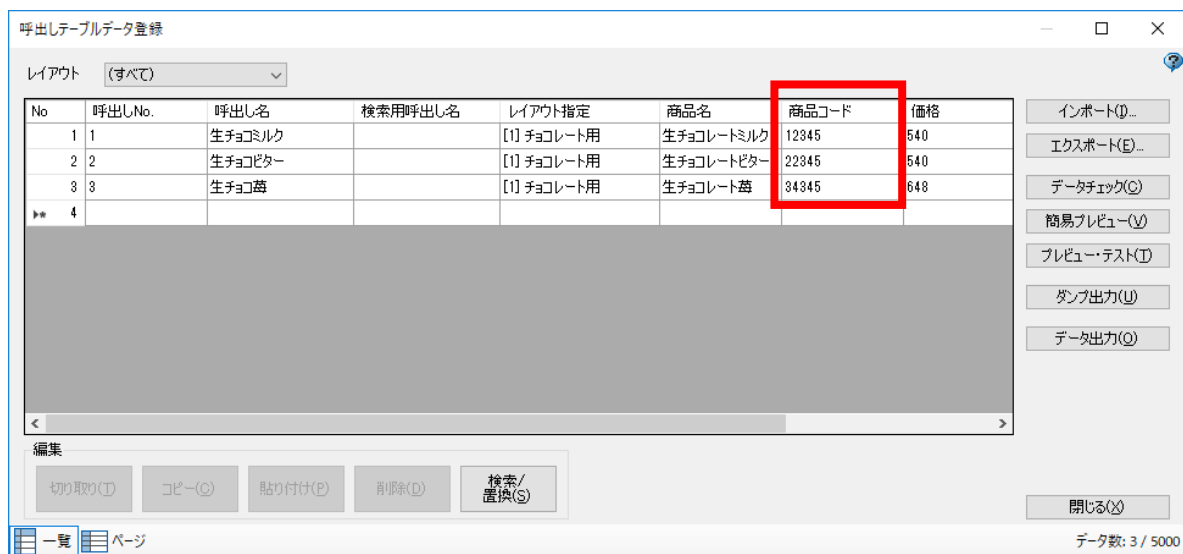


4. 呼出しテーブル定義画面で「商品コード」の「属性」項目に「バーコード検索キー」を指定します。



※「属性」項目が表示されていない場合は、「2」のプロジェクト設定が「FI ツール PRO 互換」になっている可能性があります。再度確認してください。

5. この基本レイアウトのプリセットデータ登録画面を開き、検索バーコードの項目に、値をセットします。



検索用バーコードに指定したバーコードは、プリセット登録時に値が重なるとチェックがかかります。

値は重複しないようにセットしてください。

2.エラーメッセージ

エラーメッセージ	対応方法
このプリンタフォントでは印字できない文字が含まれています。	フォント種を変更してください。 フォントの種類によって印字できる文字が異なります。 X1、2、3 フォントは半角英数カナ、POP フォント、価格フォント、X80～88、マークダウンフォントは半角数字¥, (カンマ)、漢字フォントは全半角の英数かなが印字可能です。
指定されたデータがテーブルに登録されていません。	参照されているテーブルに、入力された登録番号が登録されていません。
テーブルの最大桁数より小さい桁数が指定されています。	テーブルを参照している項目に設定された桁数が、対象のテーブルの「値」の桁数よりも小さく設定されています。テーブルの「値」を桁の範囲の文字数に変更するか、桁数を変更してください。
プリンタコマンド生成時にエラーが発生しました。	データ出力時にエラーが発生しました。 レイアウト内に、赤色（エラー）で表示されたオブジェクトが無いかを確認してください。
レイアウトアイテムのコマンド生成時にエラーが発生しました。	赤色で表示されたオブジェクトにカーソルを持っていくと、エラー内容が確認できます。
拡張コマンド生成時にエラーが発生しました。	
このファイルは新しいバージョンで作成されたものです。変更を保存すると、新しい機能に関する設定が失われます。	開こうとしている e-Labe Designer のバージョンが、プロジェクトを作成した際のバージョンより古い場合に表示されます。新しいバージョンのみで有効な機能の設定が失われる可能性があるため、作成時のバージョンと同じまたはそれ以上のバージョンに入れ替えて使用してください。
呼出しテーブル項目の桁数が○桁に設定されています。△桁以下に設定してください。	オブジェクトの桁数をそのオブジェクトに紐付けている「呼出しテーブル定義」項目で設定している桁数よりも小さい桁数に変更しようとした場合に表示されます。桁数の整合性を合わせるために、オブジェクトと同様に、「呼出しテーブル定義」の項目の桁数も変更してください。
【データ出力：SAS】 リモートサーバーに接続できません。	ネットワークの接続状況を確認してください。
【データ出力：SAS】 SAS アップロードに失敗しました。 原因：Dorbidden(403) 詳細：error:The account doesn't exit.	サーバーのアドレスや、ログイン情報に誤りが無いか確認してください。

上記の対応方法でも解決しない場合は、販売店までご連絡ください。